

ノ債權ニ先タツ不動産上ノ總テノ負擔及ヒ手續ノ費用ヲ辨濟シテ剩餘アル見込  
ナキ場合ニハ差押債權者カ右負擔及費用ヲ辨濟シテ剩餘アルヘキ價格ヲ定メ且  
其價格ニ應スル競賣人ナキ場合ニ於テハ自ラ其價額ヲ以テ買受クヘキ旨ヲ申立  
テ十分ナル保證ヲ立テサル限り競賣手續ヲ取消スヘキ旨ヲ定ム從テ事案ノ場合  
ニ於テ債權者ハ抵當不動産ニ付キ強制執行ノ手續ヲ爲スモ實際ニ於テ之ヲ遂行  
スルコトヲ得サルモノト謂フヘク斯ル場合ニモ現實執行ノ手續ヲ爲シ執行ヲ遂  
行シ得サル事實カ納高ニ依リテ明確トナラサル限り未タ無資力ト云フヲ得サル  
モノトナスハ妥當ニアラス吾人ハ決定ノ趣旨ニ賛同スルモノナリ

(六)

明治一七年太政官布達一九號 自今神佛敎導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ等級ヲ進退スルコトハ總テ各管長  
ニ委任シ更ニ左ノ條件ヲ定ム  
一 管長ハ各其立敎開宗ノ主義ニ由テ左項ノ條規ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ得可シ  
一 宗制 一 寺法 一 僧侶並ニ教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事 一 寺院ノ住職任免及教師ノ等級進退ノ事  
裁判所構成法ニ 通常裁判所ニ於テハ民事刑事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタ  
ルモノハ此ノ限ニ在ラス

曹洞宗ノ寺院住職任免等ニ關シ生シタル爭議ハ裁判所構成法第二條ニ規定セル  
民事ノ訴訟ニ非サレハ司法裁判所ニ於テ審理判決ヲ爲ス可キ權限ヲ有セサルモ  
ノトス

明治十七年八月十一日太政官布達第十九號神佛敎導職廢止寺院住職任免及教師等進

退各管長ニ委任條件第四條ニ依リ各宗派ノ管長ハ其宗制及寺院ノ住職任免等ニ關ス  
ル規定ヲ定ムル權限ヲ委任セラレアリテ乙第一號證ノ曹洞宗宗制第二編宗法第三號  
曹洞宗寺院住職任免法ハ右太政官布達ニ基キ曹洞宗管長ノ定メタルモノナルヲ以テ  
曹洞宗寺院ノ住職任免ニ關スル事項ハ此規定ニ依ル可キモノナリトス而シテ前示曹  
洞宗寺院住職任免法第八條ニ依レハ曹洞宗寺院ノ住職相續者ヲ選舉スルニ應ミ其關  
係者間ニ於テ宗法宗規ニ疑義ヲ生シタルトキ又ハ宗法宗規ノ規定以外ノ事項ヲ生シ  
處置ヲ爲シ難キトキハ其事實ヲ詳記シ關係者ヨリ管轄宗務所ニ伺出テ其指揮ヲ受ク  
可キコトヲ規定シ其第十條ニ寺院ノ住職相續者ヲ選舉スルニ應ミ其住職又ハ干與者  
間ニ於テ甲乙意見ヲ異ニシ爭議ヲ生シタルトキハ甲乙双方ヨリ事實ヲ具陳シ管長ノ  
敎裁ヲ申請ス可キコトヲ規定シアリテ是等ノ規定ハ國家カ宗敎ニ關スル行政上ノ取  
締ノ爲メ曹洞宗管長ニ委任シ設ケタル宗敎上ノ取締規定ニレテ私法上ノ權利義務ヲ  
規定セルモノニアラサルカ故ニ若シ曹洞宗ノ寺院住職任免等ニ關シ爭議ヲ生シタル  
トキ前示ノ宗規ニ基キ曹洞宗管長ノ裁決ス可キモノナルヲ以テ裁判所構成法第二條  
ニ規定セル民事訴訟ニアラサレハ司法裁判所ニ於テ審理判決ヲ爲ス可キ權限ヲ有セ  
サルモノトス而シテ原告ノ主張自體ニ依レハ原告等及被告佐藤勝三郎ハ曹洞宗萬福  
寺ノ檀徒惣代被告菊地眞龍ハ同寺ノ小本寺寶鏡寺ノ住職ニシテ萬福寺住職選舉ニ關  
スル爭議ヲ和解シ選舉ヲ執行シタル處訴外中村眞龍が當選シタルニ依リ同人ナシテ  
住職タラシムルコトノ任命ヲ爲スノ手續ヲ被告等ニ求ムルニ在リテ其法律關係ハ和  
解契約ニ基クモノナリト云フモ曹洞宗寺院ノ住職選舉ニ關スル爭議ハ私法上ノ爭議  
ニ非ラス其和解ハ私法上ノ効果ヲ生ス可キ行爲ニ非ラサレハ民法ノ和解契約ニ非ラ

ス斯ル爭議ハ曹洞宗寺院ノ住職相續者ノ選舉ニ關スルモノナレハ前示説明ノ如ク曹洞宗、宗制ノ規定ニ依リ曹洞宗管長ノ教裁ヲ請フ可キモノナルヲ以テ司法裁判所ニ於テ受理審判ヲ爲ス可キモノニアラス依テ當裁判所ハ管轄權ヲ有セサルモノトス(氣仙沼區裁判所大正三年(第一九八號)小林判事判決法律新聞第九八八號二三頁)

【關係事項】

住職任命手續請求事件○原告佐藤倉之進外四名訴訟代理人辯護士石森多利之丞被告菊地眞龍

七

明治三三年法律七二號一 本法施行前他人ノ土地ニ於テ工作物又ハ竹木ヲ所有スル爲其ノ土地ヲ使用スル者ハ地上權者ト推定ス  
同二第一項 第一條ノ地上權者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年內ニ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
明治四二年法律四〇號一 建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ其ノ土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトキハ地上權又ハ土地ノ賃借ハ其ノ登記ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得  
建物カ地上權又ハ土地ノ賃借ノ期間滿了前ニ滅失又ハ朽廢シタルトキハ地上權者又ハ土地ノ賃借人ハ其ノ後ノ期間ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

明確ナル地上權ノ存スル場合ニ於テモ尙當事者間ニ賃貸借契約ト題スル證書ヲ受授スルハ坊間其例ニ乏シカラサレハ是ヲ以テ其借地關係ヲ賃貸借ナリト斷スルコトヲ得ス

明治三三年法律第七二號ニ依リ推定セラレタル地上權ノ目的地上ニ存在シタル建物カ市區改正ノ結果取毀タレタルトキハ右取毀ノ時ニ於テ地上權カ建物ノ滅

失又ハ朽廢ニ因リ消滅シタルモノト謂フコトヲ得ス

原告カ明治四十五年四月十七日其ノ主張ノ如キ土地ヲ訴外高梨兵左衛門ヨリ買受ケ之ヲ所有セルコト被告カ右地上ニ原告主張ノ如キ建物ヲ所有セルコト並ニ右地所使用ノ對價カ一ヶ月金二十八圓二十錢ニ相當スルコトハ當事者間ニ争ヒナキトコロニシテ證人野村銀次郎ノ證言並ニ乙第二號證ニヨレハ被告ハ本件地所中表通ニ面スル部分ノ地上ニ存在シタル建物ヲ明治三十年四月十九日訴外野村銀次郎ヨリ買受ケ右建物ヲ所有スルカ爲メ爾來高梨兵左衛門所有ノ右地所ヲ使用シタルコトヲ認メ得ヘタ、證人久米川治三郎ノ證言並ニ乙第三號證ニ依レハ本件地所中前記表通ニ面スル部分ヲ除ク地所ノ上ニ存在スル建物ハ明治三十二年十月十六日以後訴外大瀧岳四郎ノ所有スルトコロニシテ同人ハ右建物所有ノ爲メ該地所ヲ使用シ居リタルモノ明治三十八年十二月一日ニ至リテ右建物ヲ被告ニ讓渡シ土地所有者高梨兵左衛門ハ建物ノ前所有者ニ對スルト同様被告ノ爲メ其土地使用權ヲ承認シタルコトヲ認ムルニ十分ナリ然レハ即チ被告ハ明治三十三年法律第七十二號施行前ヨリ他人ノ土地ニ於テ建物ヲ所有スル爲メ其土地ヲ使用スル者ニ該當シ同法ノ規定ニ則リ地上權者ナルコト今ヤ一點ノ疑ヲ容レズ然ルニ明治四十一年十二月十六日付ヲ以テ被告カ土地ノ所有者高梨兵左衛門ニ對シ期間ヲ五年定メ其他賃料ノ定メテ包含シタル本件土地ノ賃貸借契約證書ヲ差入レタルコトハ被告ノ認ムルトコロニシテ此點ヨリスレハ右土地ノ借地關係ハ一見賃貸借契約ヨリ生スルモノノ如キ觀ナキニ非スト雖モ明確ナル地上權關係ノ存スル場合ニ於テモ尙當事者間ニ賃貸借契約ト題スル證書ヲ受授スルハ坊間其例ニ乏シカラサルノミナラス證人野村銀次郎、久米川治三郎、安田卯三郎ノ證言

ニヨレハ被告ト高梨兵左衛門トノ間ニ於テハ地料ノ滞リナキ限リ期限ノ定メナク該地所ヲ被告ニ貸與シ置クヘキ契約ニシテ單ニ地料ノ据置期間ヲ定ムル爲メ前記證書ヲ高梨兵左衛門ニ差入レタルモノナルコトヲ認メ得ヘキヲ以テ甲第一號證書ニ證人村上得之ノ證言ニ依リテハ前記認定ヲ覆ヘシ難シ然ルニ右地上權ニ付キテハ期限ノ定メナキモノト解セサルヲ得ス而シテ右地上權存在シタル被告所有ノ前記建物カ明治四十二年中取毀シタルコトハ被告ノ自認スルコトナラモ證人野村銀次郎安田卯三郎ノ證言ニ依レハ右ハ市區改正ノ結果ニ依ルモノナルコト明白ナルヲ以テ右取毀ノ時ニ於テ本件土地ノ地上權カ建物ノ滅失又ハ朽廢ニ依リ消滅シタルモノナリト解スルハ正當ナラス(東京地方大正二年(ワ)一五五五號民四部名川裁判長渡邊日下各判事判決)

【關係事項】

建物收去宅地明渡並ニ損害金請求事件○原告株式會社川崎貯蓄銀行法律上代理人取締役川崎八右衛門訴訟代理人辯護士原嘉道同長島警太郎被告河出勝一郎訴訟代理人高木益太郎岡崎正也

八

漁業法四二 一定ノ地域内ニ住所ナ有スル漁業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得  
 漁業組合ノ地區ハ市町村内ノ漁業者ノ部落ノ區域ニ依リテ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此限ニ在ラス  
 市町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準スヘキモノヲ以テ前項ノ市町村ト看做ス  
 北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得  
 同四三 漁業組合ハ法人トス  
 漁業權若ハ入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ組合員ノ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス  
 漁業組合ハ自ら漁業ヲ營ムコトヲ得ス  
 組合員ハ漁業組合ノ取得シ若ハ貸付ヲ受ケタル專用漁業權又ハ入漁權ノ範圍内ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス

但シ組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得  
 漁業組合令二〇 本令中別ニ規定アルモノノ外左ニ掲ケル事項ハ組合員總會ノ決議ヲ經ヘシ(但書見)  
 九 規約ノ變更  
 前項第三號、第六號、第七號、第九號乃至第一二號ニ掲ケタル事項：…ノ決議ハ總組合員三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス但シ規約ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
 同二三第一項 第二〇第一項第二號、第六號、第九號及第一二號ニ掲ケタル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

漁業組合ノ組合員ハ規約ノ定ムル範圍及ヒ方法ニ於テノミ各自漁業ヲ爲シテ權利ヲ行使シ得ヘク規定變更ノ手續ニ依ラスシテ組合員ハ規約ニ反シテ各自權利行使ノ範圍及ヒ方法ヲ定ムルコトヲ得サルモノトス  
 本訴當事者ノ組合員タルコトニ争ヒナキ金田松輪昆沙門菊名漁業組合ハ舊漁業法施行當時設立セラレ金田外三大字ノ地先水面專用ノ免許ヲ受ケ卷網外數種ノ專用漁業權ヲ享有シ組合規約ヲ以テ各大字漁業者ノ漁場區域ヲ各其所屬大字ノ地先水面ト定メテ漁業ヲ爲サシメ爾後明治四十一年中磯建網漁業外十三種ノ專用漁業免許ヲ受ケタルコトハ甲第二、三號證ニ依リ之レヲ認ム可ク明治四十四年夏控訴人ノ屬スル松輪部落ノ漁民ト被控訴人ノ屬スル昆沙門部落ノ漁民トノ間ニ紛擾ヲ生シ縣官民ノ調停ニ依リ同四十五年五月十三日甲第一號證和解契約書ノ作成セラレタルコト世ニ組合ニ對スル專用漁業免許狀ニハ掲布漁業中ニアラメナル文字ノ記入ナキコトハ當事者間ニ争ヒナキトコロトス依テ審案スルニ明治四十三年法律第五十八號漁業法並ニ同年勅令第四百二十九號漁業組合令ニ依レハ漁業組合ハ漁業權又ハ入漁權ヲ取得シ若クハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ組合員ノ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ爲スノ目的ヲ以テ行政

官廳ノ許可ヲ得テ設置セラル、法人ニシテ組合ノ地區ハ特別ノ事情ナキ限り市町村ノ區域又ハ市町村内ノ漁業者ノ部落ニ依リ之ヲ定メ又地先水面ノ專用漁業權ハ獨リ漁業組合ニ對シテノミ之レヲ與ヘ且ツ組合自身ヲシテ漁業ヲ營ムコトヲ得セシメス組合員ヲシテ組合ノ取得シ若クハ貸付ケテ受ケタル專用漁業權又ハ入漁權ノ範圍内ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有セシメ之レカ權利ノ範圍及ヒ行使ノ方法ハ唯組合規約ヲ以テノミ制限スルコトヲ得ヘク規約ノ變更ハ組合員總會ノ決議ヲ經且ツ地方長官ノ認可ヲ得テ後始メテ其効力ヲ生スルモノトシ家督相續ニ依ル組合員ノ交代ノミヲ認メテ組合員各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ處分ノ目的ト爲スコトヲ許サ、ルト同時ニ組合ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ノ加入ニ對シテハ組合ハ正當ノ事由ナクシテ之レヲ拒絕スルヲ得サラシムルノ諸點ニ付キ鑑ミルニ法令ノ組合ヲ認メタル趣旨ハ專ラ一定地域ニ於ケル漁村ノ維持發達ヲ目的トスルニアルヲ以テ漁業權ノ主體ノ組合ナルト同時ニ組合員ハ規約ノ定ムル範圍及ヒ方法ニ於テノミ各自漁業ヲ爲シテ權利ヲ行使シ得ヘク規約變更ノ手續ニ依ラズシテ組合員ハ規約ニ反シテ各自權利行使ノ範圍及ヒ方法ヲ定ムルコトヲ得サルモノト謂ハサル可カラズ何トナレハ若シ之レヲ許スニ於テハ組合員間ニ各自行使ノ範圍ヲ來タシ組合ノ秩序ヲ害シ法令ノ目的ヲ達クルヲ得サルニ至ルヲ以テナリ今本件ニ付テ之レヲ觀ルニ甲第二號證金田松輪昆沙門菊名漁業組合規約第三十一條ニハ組合ノ享有スル漁業權ニ付キ漁業方法ヲ規定シ各組合員ハ各自住居ヲ占ムル大字地先水面ニ於テ漁業ヲ爲スヘク同一場所ニ於テ同時ニ爲ス能ハサル漁業ニ就テハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ムヘキモノトシ且ツ大字地先水面ノ區域ヲ確定シ松輪及昆沙門兩部落ノ境界ハ松輪ニ在リテハ昆沙門境横瀨島

【關係事項】

ヨリ午ノ方一分西へ見通シ千四百四十間昆沙門ニ在リテハ松輪境宇尾楚ヨリ横瀨島カケ午ノ方一分西ノ方へ九百八十間ト定メ尙ホ松輪漁民ノ金田區域内ニ於テ菊名漁民ノ松輪區域内ニ於テ及ヒ菊名漁民ノ金田區域内ニ於テ各漁業ヲ爲シ得ヘキ漁業區域及ヒ其種類ヲ明カニシテ而シテ組合ノ專用漁業權ノ種類ハ甲第三號證專用漁業免許狀ニ表示セル磯網漁業外十三種ナルコトヲ認ムヘキヲ以テ本訴當事者タル組合員ハ右規約ニ從ヒ松輪漁民タル控訴人ハ金田地先ノ一定區域ニ於テ特殊ノ漁業ヲ爲シ得ル外各々其屬スル部落地先水面ニ於テ十四種ノ專用漁業ヲ爲スノ權利ヲ有スルト同時ニ之レカ漁業區域及ヒ其種類ヲ變更スルコト能ハサルモノトス然ルニ甲第一號證ノ契約ニ依レハ松輪部落漁民ハ横瀨島ノ地籍カ昆沙門ニ屬スルコトヲ認ムルト同時ニ昆沙門部落漁民ハ松輪部落漁民ヲシテ同島ノ周圍五十間以内但シ尾楚ノ地先ニ接近セル方ハ二十間以内ニ於テカジメ肥料藻ヲ除ク外他ノ專用漁業ヲ爲スコトヲ認メタルモノナレハ假リニアラメ漁業カカジメ漁業中ニ包含セラレ、モノナリトスルモ右契約ハ前示規約ノ定ムル漁業區域及ヒ其漁獲種類ノ一部ヲ變更スルコトヲ目的トスルモノニシテ即チ前示法令ニ於テ獨リ規約ヲ以テノミ制限變更セシメントシタル事項ヲ一部組合員ノ合意ニ依リ同一ノ目的ヲ達セシメントスルモノニシテ法令ノ趣旨ニ反シ無効ノモノナリト謂ハサルヘカラス(東京控訴大正二年(ホ)二九六號同年十月九日民一部三宅裁判長三橋岩本各判事判決法律新聞九八七號二四頁)

漁獲差止請求事件○控訴人高梨徳太郎訴訟代理人辯護士横山寛平同高橋順平被控訴人木村仙太郎外三名訴訟代理人辯護士丸山長波

至當ノ判決ト信ス

(九)

四日市區  
裁判所  
判決

取引所法一〇第二項 取引所ノ仲買人トナラムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ  
 同二一 帝國臣民ニ非サレハ取引所ノ會員又ハ仲買人トナルコトヲ得ス(第二項略)  
 懲役若ハ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタ  
 ル日ヨリ五箇年ヲ經過セサル者ハ仲買人トナルコトヲ得ス(後略)  
 同二二 第三項 仲買人前條第一項又ハ第三項ニ該當スルニ至リタリトキハ免許ハ其効力ヲ失フ  
 同二四 第三項 何人ト雖定期取引ノ委託ノ代理、媒介又ハ取次ヲ營業ト爲スコトヲ得ス但シ仲買人農商務大臣  
 ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此限ニ在ラス  
 民法九〇 公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行為ハ無効トス  
 同九二 法令中ノ公ノ秩序ニ關セサル規定ニ異ナリタル慣習アル場合ニ於テ法律行為ノ當事者力之ニ依ル意思ヲ有  
 セルモノト認ムヘキトキハ其慣習ニ從フ  
 同九三 第三項ニ對シテ他人ニ代理權ヲ與ヘタル旨ヲ表示シタル者ハ其代理權ノ範圍内ニ於テ其他人ト第三項ト  
 ノ間ニ爲シタル行為ニ付キ其實ニ任ス

取引所仲買人ノ名板貸ナル商慣習ハ公ノ秩序ニ關スル規定ニ反スルモノナルヲ  
 以テ無効トス  
 名板貸ナル事實ヲ知ラスシテ名板貸主ノ營業ナリト信シ名板借主ニ建米ヲ委託  
 セル者アルトキハ名板ノ貸主ハ借主カ其委託ニ基キ爲シタル行為ニ付キ之カ履  
 行ノ責ニ任セサルヘカラス

名板貸ナル商慣習ノ有無及效力ニ付按スルニ證人河瀬文藏及味岡格太郎ノ供述ヲ乙  
 第一、二號證ニ照合スレハ名板貸ナル者ハ取引所仲買人(名板貸主)カ自己ニ其營業ヲ爲  
 サスシテ營業名義ヲ他人(名板借主)ニ貸與ヘ之ラシテ仲買業ヲ營マシムル者ニレテ仲

買人カ若營業名義ヲ貸與フルニ該リ名板借主ヲ自己ノ代理人トシテ取引所ニ届出ツ  
 ル結果取引市場ニハ名板ノ借主ハ貸主タル仲買人ノ代理人ト揭示セラレハ借主ハ  
 自己ノ計算ニテ獨立仲買業ヲ營ミ其ノ店舗ノ暖簾物價表其ノ他ニ於ケル營業廣告若  
 クハ取引委託者トノ間ニ授受スヘキ書面等ニハ總テ貸主カ取引所ニ届出タル商號ヲ  
 使用スルモ貸主ノ氏名ヲ使用スルコトナク右商號下ニ主任ナル肩書ヲ添ヘ借主自己  
 ノ氏名ヲ表示スルヲ例トシ而シテ其營業ニ關シ取引所ニ對シテハ貸主其責ニ任スル  
 モ取引委託者ニ對シテハ全然借主ノ權利關係ト爲スニアルモノナルコトヲ認ムヘク  
 尙右名板貸ナル商慣習カ從來本件ノ取引アリシ桑名米穀取引所其ノ他取引所々在地  
 ニ行ハレ一般ノ人ハ勿論取引所役員ニ於テモ之ヲ有效視シ居ルモノナルコトモ右兩名  
 ノ證言ニ依リ認メ得ルモ取引所法第十條第十一條ニ依レハ取引所仲買人タルニハ一  
 定ノ資格ヲ具備スル外政府ノ免許ヲ要スルモノニシテ右規定ハ公益上取引所仲買人  
 タルヘキ者ヲ制限シ信用ヲキモノヲシテ漫ニ之ヲ營マシメサル趣旨ニ出テシモノナ  
 レハ取引所仲買人ハ營業ノ讓渡若クハ營業名義ヲ貸與フルコトヲ得サルモノト解ス  
 ヘタ要スルニ名板貸ナル商慣習ハ公ノ秩序ニ關スル法律ノ規定ニ反スルモノナルニ  
 因リ之ヲ無効ナリト論斷セサルヲ得ス右ノ如ク名板貸ナル商慣習ヲ疑フト斷スヘキ  
 モノナル以上ハ名板貸ナル事實ヲ知ラスシテ名板貸主ノ營業ナリト信シ名板借主ニ建  
 米ヲ委託セル者アル場合ハ前ニ説明セル名板貸ナルモノ、性質ニ照シ名板借主カ右  
 委託ニ對シ名板借主ニ代理權ヲ付與シタルコトヲ表示セルモノト認ムルヲ相當トス  
 ルカ故ニ名板ノ貸主ハ借主カ其委託ニ基キ爲シタル行為ニ付キ之カ履行ノ責ニ任セサ  
 ルヘカラサルモノトス從テ本件ニ付被告ハ單ニ名板ヲ訴外松岡格太郎ニ貸與ヘタリ

トノ事由ノミニ依リテハ原告請求ヲ拒否スルヲ得サルモ松岡太郎ノ證言ヲ乙第二、三號證ニ照合スレハ被告カ取引所仲買人ノ免許ヲ受ケタル後名板貸ナル商慣習(該商慣習ノ無効タルハ前説明ノ如シ)ニ從ヒ其營業名義ヲ松太郎ニ貸與ヘ事實松太郎ニ於テ仲買業ヲ營ミ來リ原告モ該事實ヲ知リ松太郎ノ營業ナリト信シテ之ニ建米ヲ委託シ其證據金代用トシテ本訴株券ヲ差入レ手詰後ニ於テモ松太郎ニ對シ右株券ノ返還ヲ請求シ同人カ營業失敗ノ爲メ無資力ト爲リシ結果茲ニ始メテ被告ニ對シ本訴ノ請求ヲ爲スニ至リシモノナルコトヲ認ムヘク即チ本件建米ノ委託及證據金代用株券ノ授與ハ全ク原告ト松太郎トノ間ニ行ハレタルモノニシテ被告トノ間ニ取引ノ行ハレシコトヲ認メ難キハ勿論原告カ松太郎ヲ被告ノ代理人ナリト信シテ取引ヲ爲シタルコトヲ認ムルヲ得サルニ因リ被告ニ對シ本訴株券ノ返還ヲ請求スルノ權利ナキモノトス(四日市區大正三年十一月三十日壹岐判事判決法律新聞九八七號二二頁)

【關係事項】

定期米賣證據金返還請求事件○原告加藤彦次郎訴訟代理人辯護士伴政津被告中村茂七訴訟代理人辯護士佐藤靜同牧野鈔人

(一〇)

國稅徵收法一五

滯納處分ヲ執行スルニ當リ滯納者財産ノ差押ヲ免ルル爲メ故意ニ其ノ財産ヲ讓渡シ讓受人其ノ情

ヲ知リ讓受ケタル場合ニ於テ政府ハ其ノ行爲ノ取消ヲ求ムルコトヲ得

同二四 差押ヘタル動産、有價證券、不動産及第二三條ノ一ニ依リ收稅官吏カ第三債務者ヨリ給付ヲ受ケタル物件

ハ通貨ヲ除クノ外公賣ニ付ス公賣ノ手續ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ其ノ見積價格ヲ以テ政府ニ買上クルコトヲ得

債權及ヒ所有權以外ノ財産權ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス

同二五 見積價格僅少ニシテ其ノ公賣費用ヲ償フニ足ラサル物件ハ隨意契約ヲ以テ之ヲ賣却スルコトヲ得

納稅義務者ノ資力カ國稅及ヒ他ノ公課並ニ債務ノ全部ヲ辨濟スルニ足ラサルニ至リタルトキハ此時ニ於テ既ニ國稅徵收權ヲ危殆ナラシメタルモノトス」  
 納稅義務者カ滯納處分ニ因ル財産ノ差押ヲ免ルル意思ヲ以テ其財産ヲ讓渡シ讓受人其情ヲ知リテ讓受ケ國カ其讓渡ノ取消ヲ求ムル當時納稅義務者ニ其税金ヲ完納スルニ足ル財産ナキトキハ國ハ其讓渡ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス」  
 納稅義務者カ其財産ヲ他ニ讓渡シ殘存財産ノ價格カ公賣價格ヲ標準トスル計算ニ於テ税金額及ヒ公賣手續ノ費用ニ充タサルニ至ルトキハ時價ノ如何ヲ問ハス國ノ徵稅權ヲ侵害スルモノナレハ滯納處分ヲ受ケタル者ノ財産讓渡行爲ノ取消ヲ目的トスル訴ニ於テハ滯納者ノ財産ハ公賣ノ方法ニテ賣却シ得ル通常ノ價額ヲ標準トシテ計算セサルヘカラス」

被告ハ又國稅ハ他ノ債權ニ優先スルカ故ニ納稅義務者ノ債務ノ額ハ之ヲ計上シテ其債權財産ト差引スヘキモノニアラスト主張スレトモ他ニ債務アルトキハ國ノ知ラサル間ニ何時他ノ債權者ヨリ強制執行ヲ爲シテ納稅義務者ノ財産ヲ減少シ國稅ノ徵收ヲ不能ナラシムルヤモ知ルヘラス故ニ納稅義務者ノ資力カ國稅及ヒ他ノ公課並ニ債務ノ全部ヲ辨濟スルニ足ラサルニ至リタルトキハ此時ニ於テ既ニ國稅徵收權ヲ危殆ナラシメタルモノト謂フヘシ左レハ被告主張ノ前記第一乃至第十一ノ財産ニ被告主張ノ如キ價格アリ賣掛代金ノ債權額カ被告主張ノ額(第十二)ニ達シ且ツ同額ノ價格アリシト假定スルモ喜之進ノ財産ハ其價額合計金四萬五千八百八十二錢九厘ニシテ酒

遺税金額三萬四千五百十二圓六十八錢及ヒ被告ノ認ムル他ノ債務二萬三千三百三十圓ノ合計金五萬七千八百四十二圓六十八錢ニ對シ一萬二千圓弱ノ不足ヲ示シ既ニ著シク右國稅ノ徵收權ヲ危殆ナラシメタルコト明カニシテ斯ル場合ニ納稅義務者カ納稅處分ニ因ル財產ノ差押ヲ免ル、意思ヲ以テ其財產ヲ讓渡シ讓受人其情ヲ知リテ讓受ケ國カ其讓渡ノ取消ヲ求ムル當時納稅義務者ニ其税金ヲ完納スルニ足ル財產ナキトキハ國ハ其讓渡ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス假ニ又納稅義務者ノ他ノ債務ハ其積極財產ヨリ差引クヘキモノニアラストスルモ國カ滯納處分ヲ爲シテ金錢又ハ債權以外ノ物ニ付キ税金ヲ徵收スルニハ公賣ノ方法ニ依ルヘキナ原則トスルモノナルヲ以テ納稅義務者カ其財產ヲ他ニ讓渡シ殘存財產ノ價格カ公賣價格ヲ標準トスル計算ニ於テ税金額及ヒ公賣手續ノ費用ニ滿タサルニ至ルトキハ時價ノ如何ヲ問ハス此時ニ於テ既ニ國ノ徵稅權ヲ侵害スルモノト謂ハサルヘカラス隨テ本件ノ如ク滯納處分ヲ受ケタル者ノ財產讓渡行為ノ取消ヲ目的トスル訴ニ於テハ滯納者ノ財產ハ公賣ノ方法ニテ賣却シ得ル通常ノ價額ヲ標準トシテ計算セサルヘカラス(福岡地方大正二年(ワ)第一七一號田村裁判長、岡村、柳澤各判事判決)

【關係事項】

國稅徵收法ニ依ル詐害行為取消請求事件○原告國代表者福岡縣三藩郡大川町大川稅務署々長副司稅官原一敬指定代表者稅務署屬岡田直喜同下田熊雄被告松永謙吾訴訟代理人辯護士星野禮助

不動產登記法二七 判決又ハ相續ニ因ル登記ハ登記權利者ノミニテ之ヲ申請スルコトヲ得  
同三五 登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

不動産登記法第二七條ニ所謂判決トハ登記原因タルヘキ判決權利變動ヲ生スヘキ判決ヲ指スモノトス

不動産登記法第二七條ニ所謂判決ノ意義ニ付テハ甚ダ疑義ノ存スルモノアリ我國ノ學說判例ハ皆本條ニ所謂判決ハ一途ニ登記ヲ命スヘキ判決ノ義ナリト解ス然レトモ余輩ハ本條ノ判決ハ必スシモ登記ヲ命スルノ判決ナリト解スルノ必要ナク廣ク登記原因タルヘキ判決(權利變動ヲ生スヘキ判決)ヲ指示スルモノト解スルヲ至當ナリトス我國法上不動産登記ハ不動産上ノ權利變動ヲ生セシムルカ爲メニ必要ナル要件ニアラスシテ其權利變動ヲ以テ第三者ニ對抗セシムル要件ニ過キス其權利變動ハ物權行為ニ依リテ生スヘシ登記法上此權利變動ヲ生スヘキ物權行為(又ハ事實)ヲ登記原因ナリトナス而シテ不動産ニ關シ登記ヲ要スヘキ事項ニ付キ判決アリタルトキハ該判決

- 一 申請書 二 登記原因ヲ證スル書面 三 登記義務者ノ權利ニ關スル登記簿 四 登記原因ニ付キ第三者ノ許可同意又ハ承諾ヲ要スルトキハ之ヲ證スル書面 五 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其權限ヲ證スル書面
- 登記原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ前項第三號及ヒ第四號ニ掲ケタル書面ヲ提出スルコトヲ要セス
- 同二〇五 未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得
- 二 判決ニ依リテ自己ノ所有權ヲ證スル者
- 同二〇六 未登記ノ建物所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得
- 四 判決其他官廳又ハ公署ノ書面ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者
- 同二二八 未登記ノ不動産ノ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スルコトヲ得
- 同二三〇 未登記ノ不動産ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スルコトヲ得
- 同三三二 既登記ノ不動産ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得
- 同三三三 既登記ノ不動産ニ付キ未登記ノ所有權以外ノ權利ヲ目的トスル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

カ直チニ其不動産上ノ權利變動ヲ生シ從テ登記原因トナル不動産ニ關スル各種ノ訴  
ノ判決ハ其確定ト共ニ不動産ニ關シ權利變動ヲ生セシムルモノナリ而シテ不動産上  
ノ權利變動ヲ生セシムヘキ事實ヲ登記原因ナリトナスニ照シテ判決モ亦登記原因ナ  
リト斷定ス以下登記法第二七條ノ所謂判決ハ少クトモ登記原因タル權利變動ヲ生セ  
シムヘキ判決ヲ指スモノト解スヘキ所以ナリ明ニセシ  
(1) 登記法第三五條ヲ閱スルニ登記原因ヲ證スル書面カ執行力アル判決ナルトキハ云  
云ト規定シテ明ニ判決カ登記原因タルコトヲ認メタリ面シテ執行力アル判決トハ必  
スシモ之ヲ解シテ給付判決ナリトナスノ要ナク一般不動産ニ關スル訴ノ判決ヲ指ス  
モノト解スヘシ畢竟我民法カ物權設定移轉ノ債權契約ニ於テハ物權契約ノ獨立性ヲ  
没却シタルト訴テ以テ給付ノ訴ノミニ限ルカ如ク思料シタル結果本條ノ判決ハ登記  
ヲ命スヘキ判決ナリト解スルノ止ナキニ至リタルモノニシテ當時ノ解釋トシテハ或  
ハ不當ニアラサルヘシト雖モ訴ノ三分主義ヲ認メタル現今ノ解釋トシテハ總テ不動  
産ニ付キ權利變動ヲ生スヘキ判決ヲ意味スルモノト解セサルヘカラス從テ給付判決  
以外ノ判決ハ執行力ヲ生セサルモノナレハ第三五條規定ノ執行力アル判決云々モ亦  
登記スヘキ事項ニ關シテ首渡サレタル判決云々ト解スルコトヲ要ス  
(2) 第二七條ノ文理解釋ヨリ見ルモ法律ハ判決又ハ相續ニ因ル登記ト一列ニ書シ判決  
ナル文字ト相續ナル文字トハ同一價值ヲ有スヘキコトヲ明示スルノミナラス「因ル登  
記」ト規定シテ瞭ニ登記原因カ判決又ハ相續ナルコトヲ顯ハシタリ尙實際登記簿上ノ  
記載カ登記原因トシテ當事者ノ法律行為相續又ハ判決ヲ舉クルヨリ見ルモ判決ハ相  
續又ハ法律行為ト同様不動産ニ關シ權利變動ヲ生セシムヘキ底ノモノタルコトヲ要

【參照學說】

スルヤ明ナリ然ルニ論者ノ謂フカ如ク「判決」ハ一途ニ登記ヲ命スヘキ判決ナリト解セ  
ンカ一ハ(相續)登記原因タル事項ヲ顯ハスニ拘ラス他ハ(判決)少クトモ登記申請手續上  
ノ事項ヲ示スモノトナリ甚タ法典上ノ體裁ヲ失スレハナリ然カモ尙論者ノ如ク解ス  
ル必要アラハ法文ハ徒ラニ無用ノ略語ヲ使用スルヲ避ケ寧ロ直截ニ登記ヲ命スヘキ  
判決又ハ相續ニ因ル登記ト書スルニ如カス加之法典ハ單ニ判決ニ因ルヘキ場合(一〇  
五條二號、一〇六條四號)ト登記ヲ命スヘキ裁判ニ依ルヘキ場合(一二八條、一三二條等)ト  
ヲ截然區別シ明ニ其用語ヲ異ニシタリ  
以上述フル所ニ依リ余ハ登記法第二七條ノ判決ナル文字ハ少クトモ登記原因トナル  
ヘキ判決即チ不動産ニ付キ權利變動ヲ惹起セシムヘキ判決ヲ指シタルモノト解ス從  
テ登記スヘキ事項カ判決ヲ得タルモノナルトキハ直ニ登記權利者一方ノミニテ登記  
ノ申請ヲ爲スヲ得ヘシ(法學士吉崎與吉氏法律新聞第九九一號七頁以下要領)

一 判決又ハ相續ニ因ル登記ハ之ヲ命スル裁判ニヨリ又ハ事實ニヨリ法律上確定セルモノニシテ自ラ他ノ登記ヲ申請スル場合  
ト異ナレリ故ニ必スシモ相手方ト同行登記所ニ出頭スルヲ望ム特ニ相續ノ場合ノ如キハ相手方ナキコト多カルヘシ是レ本條  
(二七條)ニ於テ前條ニ例外ヲ設ケ登記權利者ノミニテ登記ヲ申請スルコトヲ得トナシタル所以ナリ(法學士坂垣不二男氏不動  
産登記法正義九八頁)

二 判決ニ因ル登記トハ登記義務者ニ對シテ登記手續ヲ爲スヘキコトヲ命シタル判決ニ基キテ申請スル登記ヲ云フ蓋シ民事訴訟  
法第三六條ニ據レハ債務者カ意思ノ陳述ヲ爲ス可キコトノ判決ヲ受ケタルトキハ其判決ノ確定ヲ以テ意思ノ陳述ヲ爲シタ  
ルモノト看做ストアルカ故ニ此場合ニ於テハ假令登記權利者ノミニテ申請スルモ双方ニテ申請シタルモノト看做ササルヘカラ  
ス從テ取テ本條ノ明文ヲ設クルノ要ナキカ如シ然レトモ登記ノ申請ハ要式行為ニシテ單ニ意思ノ陳述アルノミナリテ是レ未  
セス申請書ニ署名捺印又ハ出頭等ノ方式ヲ履マサルヘカラサルモノナルカ故ニ單ニ右民事訴訟法ノ規定ノミナリテ是レ未  
本法ノ規定ニ適合シタル申請アリタルモノト看做スニ足ラス是レ判決ニ因ル登記ニ關シ特ニ本條(二七條)ノ規定アル所以ナ  
リ(法學士三宅德義氏不動産登記法正解一六八頁)



三 不動産登記法第二七條ニ所謂判決トハ必ス判決主文ニ登記ヲ爲スヘキ旨ヲ命シタルトキニ非サレハ登記権利者ノミニテ登記申請ヲ許ササル精神ナルカ故本案ノ判決ノ如キハ其判決ニ因リ登記権利者ノミニテ申請スルコトヲ得ス(明治三十三年九月二十四日民刑局長回答法曹記事第一〇七號六〇頁)

吾人ハ登記ヲ命スル判決此判決ハ常ニ登記ヲ爲スヘキ事由ノ存在スルコトヲ理由トスヲ以テ不動産登記法上獨立ノ登記原因ト觀察シタルモノト解シ通説ト共ニ本論ニ反對スルモノナリ

明治四十二年法律第四〇號一 第一項建物ノ所有ヲ目的トスル地上權又ハ土地ノ賃借權ニ因リ地上權者又ハ土地ノ賃借人カ其ノ土地ノ上ニ登記シタル建物ヲ有スルトキハ地上權又ハ土地ノ賃借ハ其ノ登記ヲキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

明治四十二年法律第四〇號第一條第一項ニ所謂登記シタル建物トハ明治三十二年法律第二四號現行不動産登記法若クハ明治十九年法律第一號舊登記法ノ規定ニ準據シ不動産登記簿ニ登記シタル建物ノミヲ指稱シ明治八年布告第一四八號建物賣買讓渡規則ニ依リ單ニ公證ヲ經タルニ止マルモノヲ包含セシメサル法意ナリト解スヘキモノトス何トナレハ明治四十二年法律第四〇號第一條第一項ニハ登記シタル建物ト明

記シアリ而シテ地上權者タハ土地ノ賃借權ハ民法第一七七條又ハ第六〇五條ニ依リ不動産登記法ニ基キ登記ヲ爲スニアラサレハ第三者ニ對抗シ得サルモノナルニ拘ハラス同法條ニ因リ借地上ニ存スル建物ノ登記ヲ以テ之レニ代ヘ登記ナキ地上權者クハ土地ノ賃借權ヲ以テ第三者ニ對抗シ得ヘキ至大ノ效力ヲ付與シタル極メテ例外ノ法條ナレハ特別ノ明文ナキ限り登記ナル文字ノ意義ハ之ヲ嚴格ニ解セサル可カラサルノミナラス建物ノ登記ニ對シスル至大ノ效力ヲ付與スルニ至リタルハ借地上ニ存スル建物ノ登記ノ有無ハ登記簿ノ閱覽ニ依リ容易ニ之ヲ知り得ヘク從テ地上權者タハ土地ノ賃借權ノ存否ヲ推知スルコトヲ得テ第三者チ不測ノ損害ヲ蒙ムラシムルノ虞ナキニ出テタルモノナレハ如上法規ノ性質及ヒ趣旨ニ鑑ミ登記シタル建物トハ前示登記法ノ規定ニ準據シテ登記簿ニ登記シタル建物ノミヲ指稱スルモノト解セサル可カラサレハナリ本件ニ於テ上告人ノ所有ニ屬スル本訴建物ニ付キ前示登記法ニ基ク登記ノ存セサルコトハ其爭ナキ所ナレハ原院カ本訴建物ニ付キ明治四十二年法律第四〇號第一條第一項ノ規定ヲ適用ス可キモノニアラスト判示シタルハ相當ニシテ法則ニ違背シタル不法アルコトナシ上告人カ本論旨ニ採用セル當院ノ判例(明治三十八年(オ)第四四四號同年十一月一日第二民事部判決)ハ明治八年布告第一四八號建物賣買讓渡規則ニ依リ公證ヲ經タル建物ノ賣買讓渡ハ登記法ニ準據シテ登記ヲ爲ササルモ公證ノ效力ヲ失ハサルコトヲ判示シタルモノニシテ本件ニ適切ナラス(大審院大正三年(オ)第六五〇號同四年一月二十日民三橫田裁判長田土大倉入江三宅各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審大阪控訴院○地所明渡並損害賠償請求事件○上告人青野菊松訴訟代理人辯護士港祇吾被上告人橋本正一

(一三)

明治一〇年太政官布告第四三號 神社並寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルルトキ若クハ金穀ヲ借入ルル爲メ社寺附地所(除稅地ヲ除クノ外)建物什器(寶物古文書ヲ除クノ外)等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總代該社寺神官僧侶ノ私債ト爲シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキ者ト爲スヘシ此旨布告候事

明治一四年内務省達乙第三三號 各管内社寺總代人之儀氏子檀家中(氏子檀家ナキモノハ信徒)相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相選ミ戶長役場へ届出サセ今後該社寺ノ願屆等ハ渾テ連署ヲ以可爲差出(略)

但神宮官國幣社ハ非此限

總代人ハ滿三年毎ニ改選市町村役場若ハ戶長役場へ届出シムヘシ尤モ期限中ト雖モ犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改選セシムヘシ

但臨時改選ノ外ハ前總代人再三當選スルモ妨ケナシ

住職ヨリ檀徒總代ヲ言ヒ付ケラレタルニ止マリ檀徒ニヨリ適式ニ檀家總代ニ選舉セラレ住職ヨリ所轄役場ニ届出ヲ爲シタルニアラサル者ハ檀家總代ト謂フコトヲ得ス

住職カ檀徒總代ノ連署ナクシテ爲シタル契約ト雖モ後日檀徒總代ノ同意ニ依リ寺ニ對シテ其效力ヲ生セシムルコトヲ得ルモノトス

原審證人高村清作ノ證言ニヨリ眞正ニ成立シタリト認ムヘキ甲第一號證ニヨレハ明治三十二年五月十七日訴外山下有道ト當時ノ被控訴寺住職巖上天挂トノ間ニ控訴人

【關係事項】

主張ノ如キ契約カ成立シタルコトヲ認ムルニ足ル而シテ同號證ハ檀中總代トシテ酒井仲司齋藤才吉高村清作三名ノ連署アルモ乙第三號證ニヨレハ右住職ニ於テ所轄村役場ニ對シテ右三名カ檀家總代ナルコトノ届出ヲ爲シタルハ右契約後ノ同年十月二十三日ナルコトヲ認ムルコトヲ得テ甲第一號證作成當時ニ在テハ右三名カ檀家總代ニアラサルコトヲ認メ得ルノミナラス信認スヘキ原審證人齋藤才吉ハ自分ハ長安寺ノ檀中ニシテ明治二十九年秋頃住職ヨリ檀徒總代ヲ言ヒ付ケラレ酒井仲司高村清作ト共ニ明治三十四年迄引續キ總代ヲ爲シタリ檀徒總代トナリシニ付テハ選舉ヲ爲シタルニアラサル旨證言セルヲ以テ之レニ依リ右酒井仲司外二名ノ所謂檀中總代ナルモノハ嘗テ檀徒ニヨリ適式ニ檀家總代ニ選舉セラレタルコトナキモノト認ム甲第四號證並ニ原審證人高村清作齋藤才吉ノ證言ニヨリテハ酒井仲司外二名カ檀家總代ナルコトヲ認ムルニ足ラス然ラハ甲第一號證ノ契約ハ適法ナル檀家總代ノ連署ヲ缺クテ以テ明治十年太政官布告第四十三號ニ依リ該契約上ノ債務ハ住職巖上天挂ノ私債ト見做スヘク從テ被控訴寺ニ對シテハ該契約ハ效力ヲ生セサルモノトス而シテ該契約ハ後日檀徒總代ノ同意ニ依リ本件ノ債務ヲシテ被控訴寺ノ債務タルノ效力ヲ生セシムルコトヲ得ヘキモノナリト雖モ原審證人高村清作甲第二號證及ヒ甲第四號證ニヨリテハ斯カル同意アリタルコトヲ認ムルヲ得サルヲ以テ本件ノ債務ヲ被控訴寺ノ債務ト認メ難シ(東京控訴院大正三年(ネ)第三六四號同年十二月十二日民三部松岡裁判長成道小川各判事判決)

報關金請求事件○控訴人阿久津巳之吉訴訟代理人辯護士石田仁太郎同石川文之助被控訴人長安寺代表者住職巖上天挂訴訟代理人

人辯護士鯉沼平四郎  
【後段同趣旨判例】  
大審院判決本書第三卷諸法二一〇頁  
【後段反對判例】  
東京控訴院判決本書第二卷諸法一五頁

一四

特許法一 新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付本法ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得  
同四 本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノナリ  
一 特許出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用キラレタルモノ  
二 特許出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ  
同二〇 特許ニ關シ出願ノ請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者ニシテ法定又ハ指定ノ期間ヲ懈怠シタルトキハ其ノ出願、  
請求其ノ他ノ手續ハ之ヲ無効ト爲スコトヲ得  
法定又ハ指定ノ期間ヲ懈怠シタル場合ニ於テ特許局長又ハ審判長有想スヘキ障礙ニ因ルモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ミタル後十四日以内ニ限リ請求ニ因リ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得但シ期間満了後一年ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
同七六 請求人又ハ被請求人カ法定若ハ指定ノ期間内ニ手續ヲ爲サス又ハ期日ニ出頭セサルトキハ審判長ハ審判ヲ進行スルコトヲ得

(一) 考案ノ因テ生シタル各資料ハ公知ノ事項ニ屬スルモノ之ヲ綜合應用シテ新ニ工業上特殊有益ナル効果ヲ奏スルコトヲ得ル考案其モノハ從前公知ノ事項ニ屬セザリシ工業的創案ニ外ナラサレハ新規ナル發明ニ屬スルモノト謂ハサルヲ得ス  
(二) 審判長ノ指定シタル期間經過後ニ當事者ノ提出シタル書面ト雖モ審判上之ヲ

採用スルコトヲ妨ケス

(一) 原審決ノ理由ニハ漁網ノ帶色トシテ普通ナル褐色ニ比シ魚類ヲシテ漁網ノ位置ヲ覺知セシメサル目的ニ於テ優秀ナル帶綠褐色ヲ呈ストアリテ其旨趣ハ本件特許ノ方法ニ依リ染メタル漁網又ハ其網糸ノ帶綠褐色ト一般漁網ノ帶色トシテ普通ナル褐色トナ比較シ前者ハ魚類ヲシテ漁網ノ位地ヲ覺知セシメサル點ニ於テ後者ヨリモ優秀ナルコトヲ説明シタルモノナレハ其優秀ナル所以ノ理由ノ具備セルモノト謂フヘシ面シテ原審決ニ於テ認定シタル事實ニ依レハ本件特許ノ方法ハ「タンニン」醃銅ノ沈澱ヲ生スル方法同醃銅及ヒ銅鹽類ノ殺菌防介防腐ノ效力同醃銅ノ沈澱ノ固着ニ依リ呈スル特色等數個ノ公知事項ヲ綜合シテ「タンニン」醃銅ノ沈澱ヲ當業者ノ容易ニ案出シ得ヘカラサル漁網及ヒ其網糸ノ染色方法ニ創始應用シ以テ新ニ漁網及ヒ其網糸ニ防介防腐ノ性質ト魚類ヲシテ漁網ノ位地ヲ覺知セシメサルニ適當ナル帶色トナリ有セシムルカ如キ特殊有益ナル效果ヲ生スル事項ヲ考案シタルモノナルコト明白ナリ然レハ其考案ノ因テ生シタル各資料ハ公知ノ事項ニ屬スルモノ之ヲ綜合應用シテ新ニ前示ノ如キ工業上特殊有益ナル效果ヲ奏スルコトヲ得ル考案其モノハ從前公知ノ事項ニ屬セザリシ工業的創案ニ外ナラサレハ其考案タル本件特許ノ方法ハ新規ナル發明ニ屬スルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ原審決ハ正當ナリ  
(二) 審決ハ當事者カ指定ノ期間内ニ手續ヲ爲ササルモ之ヲ進行スルヲ得ルコトハ特許法第七六條ノ規定スル所ニシテ又指定ノ期間經過後ニ當事者ノ爲シタル手續ハ之ヲ無効ト爲スコトヲ得ルモ初メヨリ當然無効ナルモノニ非サルコトハ同第二〇條ノ規定ニ依リ明ナリ故ニ審判長ノ指定シタル期間經過後ニ當事者ノ提出シタル書面ト

【關係事項】

上告棄却○原審特許局○特許無效請求事件○上告人川村徳兵衛訴訟代理人辯護士米田實被上告人日高榮三郎  
至當ノ判決ナリ

(一五)

不動産登記法三三 假登記ハ次條ノ場合ヲ除ク外假登記權利者ノ申請ニ因リ其目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル  
區裁判所ヨリ遲滞ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添付シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス  
前項ノ假處分命令ハ假登記權利者カ假登記原因ヲ疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス  
申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス  
民事訴訟法七四六 本案ノ未タ繫屬セサルトキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經シテ相當ニ定  
ムル期間内ニ訴ヲ起スコトヲ債權者ニ命ス可シ  
此期間ヲ經過シタル後ハ債務者ノ申立ニ因リ終局判決ヲ以テ假差押ヲ取消ス可シ  
同七五六 假處分ノ命令其他ノ手續ニ付テハ假差押ノ命令及ヒ手續ニ關スル規定ヲ準用ス(但書略)

不動産登記法第三二條ニ依ル假處分命令アリタル場合ニ於テ裁判所ハ民事訴訟  
法第七四六條ノ規定ニ準據シ假登記義務者ノ申立ニ因リ相當ノ期間内ニ訴ヲ提  
起スヘキ旨ノ命令ヲ發スルコトヲ得サルモノニシテ若シ不動産所有者カ假登記  
原因ナシトスルトキハ訴ヲ以テ假登記名義人ニ對シ之カ抹消手續ヲ請求スヘキ  
モノトス

不動産登記法第三二條ニ假登記ヲ爲スニハ假登記義務者ノ承諾ナキトキハ假登記權  
利者ノ申請ニヨリ不動産所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ  
添付シテ登記所ニ假登記ヲ囑託スヘク此假處分命令ハ假登記者ニ於テ假登記原因ヲ  
疏明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要スル旨ノ規定アリ本件假處分命令カ  
同條ニ依リ假登記權利者ノ申請ニ依リ發シタルモノナルコトハ記録ニ依リ明ナリ而  
シテ同條ニ依ル假登記假處分手續ハ其性質非訟事件ニ屬シ民事訴訟法ノ規定ニ依ル  
假處分手續ノ如ク訴訟事件ニアラサルヲ以テ此假登記假處分命令ニ付テハ民事訴訟  
法ノ規定ヲ準用スルヲ得サレハ本件ノ場合ニ於テ民事訴訟法第七四六條ノ規定ニ  
準據シ假登記義務者ノ申立ニ因リ相當ノ期間内ニ訴ヲ提起スヘキ旨ノ命令ヲ發スル  
コトヲ得サルモノニシテ若シ不動産所有者ニシテ假登記原因ナシトスルトキハ訴ヲ  
以テ假登記名義人ニ對シ之カ抹消手續ヲ請求スヘキモノトス(大阪地方大正三年(ハ)第  
四〇九號古川裁判長梶原西原各判事決定法律新聞第一〇〇一號二三頁)

【關係事項】

提起命令申請事件○抗告人桑島好太郎代理人 護士土岐好文  
至當ノ決定ナリト信ス

(一六)

貯蓄銀行條例三 貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス  
但其責任ハ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス  
民法四五二 債務者カ保證人ニ債務ノ履行ヲ請求シタルトキハ保證人ハ先ツ主タル債務者ニ催告ヲ爲スヘキ旨ヲ請  
求スルコトヲ得但主タル債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其行方カ知レサルトキハ此限ニ在ラス  
同四五四 保證人カ主タル債務者ト連帶シテ債務ヲ負擔シタルトキハ前二條ニ定メタル權利ヲ有セス

貯蓄銀行取締役ノ連帯責任ハ銀行ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサル時期ノ到來ヲ俟タスシテ當初ヨリ銀行ノ債務ニ付キ負擔セル責任ナリトス」貯蓄銀行取締役ノ責任ハ一種ノ法定保證債務ナリト雖モ取締役ハ他ノ取締役トノ間ニ於テノミナラス銀行トノ間ニモ連帯シテ其債務ヲ負擔セルモノナレハ預金者ニ對シ先ツ銀行ニ催告スヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得ス」

控訴人等ハ貯蓄銀行條例第三條ニ依リ其後二箇年間同銀行ト連帯シテ右預金ノ元利金ヲ被控訴人ニ返還スヘキ責任アルモノトス此點ニ付キ控訴代理人ハ控訴人等ニ同條例ニ依ル連帯無限ノ責任アリトスルモ其責任ハ長洲貯蓄銀行ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキニ於テ始メテ發生スルモノナルカ故ニ同銀行ニ對シ債權ノ取立ヲ爲サスシテ直ニ控訴人等ニ對シテ爲シタル本訴請求ハ失當ナル旨抗辯スレトモ同銀行條例第三條ニハ單ニ貯蓄銀行ヲ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ業務ニ付連帯無限ノ責任ヲ負フモノトス」ト規定シ合名會社員ノ責任ニ關スル商法第六三條ノ如ク銀行ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサルトキニ於テハ同銀行條例第三條ノ立法趣旨ニ鑑ミ貯蓄銀行ノ取締役ノ連帯責任ハ銀行ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルト能ハサル時期ノ到來ヲ俟タスシテ當初ヨリ銀行ノ債務ニ付負擔セル責任ナルコト明ナルカ故ニ右控訴代理人ノ抗辯ハ採用シ難シ又同銀行條例第三條ニ依ル取締役ノ責任カ一種ノ法定保證債務ナルコトハ控訴代理人主張ノ如クナレトモ同條ニ依レハ取締役ハ他ノ取締役トノ間ニ於テノミナラス主タル債務者タル銀行トノ間ニモ連

帶シテ其債務ヲ負擔セルモノト認ムルヲ相當トスルニヨリ控訴人等ハ被控訴人ニ對シ先ツ銀行ニ對シ催告スヘキ旨ノ請求權ヲ有セサルコト明カナリトス從テ控訴代理人ノ右催告ノ抗辯モ亦失當ナリトス(長崎控訴大正三年(キ)第一九一號谷岡裁判長淺沼松田各判事判決)

【關係事項】

預金請求事件○控訴人衛藤又三郎外二名訴訟代理人辯護士小山吾郎一被控訴人和間村法律上代理人村長雄木藤太訴訟代理人辯護士堀之内松十郎

(一七)

明治六年太政官布告第二一號 妻妾ニ非サル婦女ニシテ分曉スル兒子ハ一切私生子ヲ以テ論シ其婦女ノ引取タルヘキ事

但男子ヨリ己レノ子ト見留メ候上ハ婦女住所ノ戸長ニ請テ免許ヲ得候者ハ其子其男子ヲ父トスルヲ可得事

民法施行法一 民法施行前ニ生シタル事項ニ付テハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外民法ノ規定ヲ適用セス

同九 左ノ法令ハ民法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

二 明治六年第二十一號布告

民法八九六 父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルトキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告ス

民法施行前ニ於テ妻妾(但舊刑法ノ施行後ハ單ニ妻ニ非サル婦女ノ分曉シタル子ヲ妻トノ間ニ生シタル嫡出子トシテ届出ツルモ其父子間ニ法律上ノ親子關係ヲ生セス)

先ツ原告カ栗山善之助ノ親族ナルヤ否ヤニ付審案スルニ甲第二號證ノ一、二ニ依レハ原告ハ竹内善次郎ノ妹タル加賀いねノ長男ニシテ善次郎ノ甥ニ該ルコト明ナリ而シテ原告カ法律上栗山善之助ト親族關係アリヤ否ヤハ善次郎ト善之助トノ間ニ法律上

親子關係アリヤ否ヤニ依リ決スルコトヲ得ルカ故ニ此ノ點ニ付審究スルコトヲ要ス  
 之ヲ證人脇坂梅太郎篠井政夫ノ證言ニ徴スルニ栗山善之助ハ善次郎トたまトノ間ニ  
 生レタル私生子ニシテ同人ノ出生シタルハ未タ民法ノ施行セラレサル明治三十一年  
 六月二日ナルコトハ乙第一號證ノ一ニ依リ明瞭ナルカ故ニ善次郎ト善之助トノ間ニ  
 法律上親子關係アリヤ否ヤハ舊法ニ依リテ之ヲ定メサルヘカラス明治六年第二十一  
 號布告ニ依ルニ妻ニアラサル婦女ノ分娩シタル私生ノ兒子ハ男子カ之ヲ自己ノ子ト  
 見留メ婦女ノ住所町村長ニ請フテ其免許ヲ得ルニアラサレハ法律上其男子トノ間ニ  
 父子ノ關係ヲ生スヘキモノニアラスシテ乙第一號證ノ一ニ依レハ善之助ハ善次郎ト  
 其妻竹内クメトノ間ニ生レタル嫡出子トシテ届出テテレタルコト明カナレハ善次郎  
 カ善之助ノ生母たまノ住所ノ町村長ノ免許ヲ得テ善之助ヲ自己ノ子ト爲シタルニア  
 ラサルコトハ之ヲ推認スルニ難カラサルヲ以テ善次郎ト善之助トノ間ニハ法律上親  
 子關係ナキモノト謂フヘク從テ原告ハ法律上未成年者タル善之助ノ親族ニアラサル  
 モノト爲ササルヘカラス(右明治六年ノ布告ニハ妻妾ニアラサル婦女ノ分娩シタル兒  
 子云々トアレトモ妾ナル法律上ノ身分ハ舊刑法ノ施行ト共ニ廢止セラレタルモノト  
 認ムヘク而シテ善之助ノ出生シタルハ舊刑法施行後ニ係ルカ善之助ノ生母カ善次郎  
 ノ妻ニアラサル以上ハ事實上善次郎ノ妾タリシト否トハ右ノ斷定ヲ爲スニ何等影響  
 ナ及ホスヘキモノニアラス)右說示ノ如ク原告ハ法律上未成年者善之助ノ親族ニアラ  
 スシテ親權喪失ノ宣告ヲ求ムルノ權利アルモノハ子ノ親族又ハ檢事ニ限ラルヘキモ  
 ノナルヲ以テ原告ハ本訴親權喪失ノ宣告ヲ求ムルノ權利ナキモノトス(東京地方大正  
 三年(タ)第一一〇號同年十一月十六日民一部鈴木裁判長松野連山各判事判決)

【關係事項】

親權喪失宣告請求事件○原告加賀榮太郎被告栗山鏡

競賣法三二第一項 不動産ノ競賣ハ留置權者、先取特權者、質權者、抵當權其他民法ノ規定ニ依リテ競賣ヲ爲サン  
 トスル者ノ申立ニ因リ不動産所在地ノ區裁判所之ヲ爲ス  
 同二四 競賣ノ申立ハ書面ヲ提出シテ之ヲ爲スコトヲ要ス  
 申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其代理人之ニ署名捺印スヘシ  
 一 債務者及ヒ所有者ノ氏名、住所 二 競賣ニ付スヘキ不動産ノ表示 三 競賣ノ原因タル事由  
 四 年月日 五 裁判所  
 申立書ニハ競賣ニ付スヘキ不動産ニ關スル登記簿ノ原本及ヒ代理人ニ依リテ申立ヲ爲ストキハ其委任狀ヲ添付スル  
 コトヲ要ス(第四項略)  
 同二五 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス  
 開始決定ニハ申立人ノ氏名、住所及ヒ前條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之  
 ニ署名捺印スヘシ(第三項略)  
 民事訴訟法六四四條第一項 競賣手續ノ開始決定ニハ同時ニ債權者ノ爲メ不動産ヲ差押フルコトヲ宣言ス可シ

- (一) 抵當權者カ抵當不動産ニ付キ抵當權ノ實行トシテ競賣ノ申立ヲ爲スニハ抵當  
 價權ノ存スルコト並ニ債務者ノ遲滞ニアルコトニ付キ疏明ヲ爲スヲ要ス
- (二) 競賣法ニ依ル競賣開始決定ハ其内容ニ於テ特ニ差押ノ宣告ヲ爲スコトヲ要セ  
 サルモノトス
- (三) 競賣開始決定ニ表示シタル債權ノ範圍カ實際ノ債權ノ範圍ニ比シテ僅少ノ差  
 異アルモ之カ爲メニ債權ノ同一性ヲ害セサル程度ノモノナルニ於テハ之ヲ理  
 由トシテ該決定ノ取消ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス

(一) 抵當権者カ抵當不動産ニ付キ抵當權ノ實行トシテ競賣ノ申立ヲ爲スニハ抵當債權ノ存在スルコト並ニ債務者ノ遲滞ニアルコトニ付キ疏明ヲ爲スヲ要ス

(二) 競賣法ニ依ル競賣ニ關シテハ競賣法中特ニ規定ナク且其性質ノ許ス場合ニ於テ始メテ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキモノナレハ競賣手續開始決定ノ内容ノ如ク既ニ競賣法第二五條ノ規定アル事項ニ付キテハ更ニ民事訴訟法第六四條ノ規定ノ準用ヲ許サス從ツテ競賣法ニヨル競賣手續開始決定ハ其效力トシテ抵當不動産差押ノ效力ヲ發生セシムルコト強制強賣手續開始決定ト異ナラサルモ其決定ノ内容ニ於テ特ニ差押ノ宣言ヲ爲スヲ要セサルモノト云フヘシ

(三) 本件消費貸借契約ハ大正三年三月二日ニ成立シタルコト雖ニ認定ルカ如クナルヲ以テ大正三年三月一日ニ於テ右契約ニ基ク利息又ハ損害金債權ノ發生スヘキ理ナク本件競賣開始決定ニ於ケル債務者カ元金及大正三年三月一日以後ニ於ケル利息損害金ヲ辨濟セサル云々ノ記載中三月一日ハ三月二日ノ誤記ナリト云フヘシ然レトモ元來競賣手續開始決定ニ抵當債權ヲ表示スル所以ノモノハ單ニ競賣ノ原因タル事由トシテ如何ナル債權ノ爲メ抵當權ヲ實行セラレルヤヲ指示スルニ外ナラサレハ該債權ヲ特定スル程度ニ之ヲ示スヲ以テ足ルト謂フヘク特ニ其額ノ多寡ノ如キハモト競賣手續開始ヲ妨ケサルモノナルカ故ニ本件ニ於ケルカ如ク競賣手續開始決定ニ於ケル債權ノ範圍ニ僅少ノ差異アルモ之カ爲メニ債權ノ同一性ヲ害セサル程度ノモノナルニ於テハ之ヲ論シテ該決定ノ取消ヲ求ムルコトヲ得ヘカラス(東京地方大正四年四月七號同年 月十九日民三部神谷裁判長淺野三宅各判事決定)

【關係事項】

一 競賣手續開始決定ニ對スル抗告事件○抗告人小野鉦次郎訴訟代理人辯護士笠原文太郎  
至當ノ見解贊同ヲ表ス

土地收用法三五第一項 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域 二 損失ノ補償 三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

同四三第一項 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

同八一 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ出訴スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ侵害セラレタル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル訴訟ハ裁決書原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

同八二第一項 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得(但書略)

被收用者カ收用審査會ノ裁決前ニ損失ノ種類數額ヲ申立テ意見書ヲ地方長官ニ提出スルモ苟クモ收用審査會ニ於テ補償スヘキモノニアラスト認メ從テ之カ補償金額ヲ決定セザリシ以上之ニ對スル不服ハ須ラフ行政訴訟ニ依ルヘク土地收用法第八二條ニ依リ通常裁判所ニ出訴スヘキモノニ非ス

控訴人ハ殘地上ニ存スル土藏ハ收用地ト接近シ震動ノ爲メ到底崩壞ヲ免カレサルヲ以テ其移動料六百圓並ニ殘地中軌道ノ兩側ニ橋樑ヲ設クル必要アルカ故ニソノ新設費三百圓ノ補償ヲ求メ度シト云フモ土藏移轉料及橋 新設費ニ關シテハ收用審査會ハ補償金額ヲ決定セザリシコトハ當事者間ニ爭ナキ所トス然ルニ土地收用法第八二條ニヨレハ收用審査會ノ裁決中補償金額ニ對シ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スル

コトヲ得ト規定スルニ止マルヲ以テ收用審査會ノ決定シタル補償金額ニ對シテハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモ裁判ナキ事項ニ對シテハ假令收用ノ起因スル損失アルモ不服ヲ唱ヘテ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得サルモノト云ハサルヘカラス控訴人ハ裁判前地方長官ニ意見書ヲ提出シ置キタレハ假令金額ノ決定ナキモ通常裁判所ニ出訴シ得ルモノナリト主張スレトモ乙第一號證ニヨレハ收用審査會ハ土藏ノ移轉柵ノ設備ヲ土地收用ノ爲メ控訴人カ通常受クヘキ損害ト認メサリシモノナルコト明カナリ前記土地收用法八二條ハ特ニ補償金額ノ決定ニ對シテノミ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ許容シタルモノナレハ假令被收用者カ裁決前ニ損失ノ種類數額ヲ申立テ意見書ヲ地方長官ニ提出スルモ苟クモ收用審査會ニ於テ補償スヘキモノニアラスト認メタル以上之ニ對スル不服ハ須ラク行政訴訟ニヨルヘク土地收用法第八二條ニ因リ通常裁判所ニ出訴スルハ失當ト云ハサルヘカラス從テ又通常裁判所ハ之ヲ受理シテ金額ヲ決定スヘキモノニアラス(東京控訴大正三年)ホ第一六二號同四年三月二十三日民二部須賀裁判長渡邊三橋各判事判決)

【關係事項】

土地收用補償金請求事件○控訴人志村兵吉訴訟代理人辯護士中野勇次郎外一名被控訴人京王電氣軌道株式會社法定代理人取締役川田鷹訴訟代理人辯護士原嘉道外一名

吾人ハ土地收用法第八二條ヲ廣義ニ解シ單ニ金額ノ多寡ノミナラス補償ノ有無ニ付テモ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモノト信ス本書第三卷諸法七八頁同一一六頁ヲ參照セラレンコトヲ望ム

- (一) 明治十年太政官布告第四三號ニ氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシトアルハ氏子總代又ハ檀家總代ト協議シ其二名以上ノ同意ヲ得レハ足ルノ法意ナリトス
  - (二) 明治十年太政官布告第四三號ニ總代二名以上ノ連署トアルハ總代二名以上ノ同意ノ意ニシテ寺僧ヲ以テ要式行爲ト爲シタルモノニアラス
  - (三) 僧侶ハ寺院ノ法定代理人タル地位ヲ有スルモノナレハ其代表權限ハ法規ニ依リ定マルモノトス
- 僧侶ノ代表權限ニ對シテハ之ヲ制限スルノ方法ナキカ故ニ之ニ加ヘラレタル制限アリヤ從テ又第三者カ其制限アルコトヲ知レリヤ否ヤノ問題ヲ生セス
- 一宗一派ノ宗規ノ如キハ法規ニアラサルカ故ニ固ヨリ僧侶ノ代表權限ヲ左右スルノ力ナシ

(一) 明治十年太政官布告第四三號ハ社寺ノ利益ヲ保護スル目的ヲ以テ神官僧侶カ專斷ニテ社寺ノ爲メ消費貸借又ハ抵當ノ差入ヲ爲スヲ禁シタルモノニシテ此目的ヲ達

明治一〇年太政官布告第四三號 神社并寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金額ヲ借入ルルトキ若クハ金額ヲ借入ルル爲メ社寺附地所(除稅地ヲ除クノ外)建物什器(寶物古文書類ヲ除クノ外)等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキ者ト爲スヘシ此旨布告候事



スルニ付テハ多數ノ氏子檀家ト一々協議シ其同意ヲ得ルカ如キハ煩ニ耐ヘス且格段ノ效用ヲモ有セサルヲ以テ同布告ニ「氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ」トアルハ氏子總代又ハ檀家總代ト協議シ其二名以上ノ同意ヲ得レハ足ルノ精神ナリト解セサルヘカラス然レハ同布告ヲ以テ汎ク氏子又ハ檀家トノ協議ヲ社寺ノ債務成立ノ一要件トスルモノナリト解釋シ此解釋ヲ以テ前提トスル論旨ハ理由ナシ

(二) 明治十年太政官布告第四三號ニ總代二名以上ノ連署トアルハ總代二名以上ノ同意ノ意味ヲ有スルニ過キス寺債ヲ以テ要式行爲ト爲シタルモノニアラス

(三) 僧侶ハ寺院ノ法定代理人タル地位ヲ有スルモノナレハ其代表權限ハ法規ニ依リ定マルモノナリ而シテ寺院ハ定款又ハ寄附行爲ニ依リ設定セララルモノニアラス又社員總會ノ如キ機關ヲ有セサルヲ以テ僧侶ノ代表權限ニ對シテハ之ヲ制限スルノ方法ナキカ故ニ僧侶ノ代表權限ニ付テハ之ニ加ヘラレタル制限アリヤ從テ又第三者カ其制限アルコトヲ知レリヤ否ヤノ問題ヲ生スルコトナシ一宗一派ノ宗規ノ如キハ法規ニアラサルカ故ニ固ヨリ僧侶ノ代表權限ヲ左右スルノ力ナシ唯自己ノ自由意思ニ依リ其一宗一派ニ加入シタル僧侶ヲシテ宗規違反ノ責ヲ負ハシムルコトヲ得ルニ過キサルノミ然レハ原判決ハ僧侶ノ代表權限ニ關スル法理ヲ誤解シタル違法ナシ(大審院大正三年(オ)第七五二號同四年二月十七日民三部横田裁判長田上大倉嘉山三宅各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審大阪控訴院○辨償金求償請求事件○上告人淨願寺訴訟代理人辯護士花岡敏夫被上告人岡田短道

【一點參照判例】

一 明治十年第四十三號布告ハ社寺カ金數ヲ借り入ルルニハ必ス氏子檀家ト協議ヲ爲スヘキコトヲ規定シタルモ是レ單ニ社寺氏子檀家トノ内部ノ關係ヲ規定シタルモノニ止マレハ寺院ノ代表者タル住職カ其寺院ヲ代表シテ檀家總代ノ連署ヲ以テ善意ノ第三者ヨリ金數ヲ借入レタルトキハ假令其寺院ト檀家トノ間ニ協議ナカリシトスルモ之カ爲メニ該貸借契約ヲ無効ナラシメテ善意ノ相手方ヲ害スルコトヲ得ヘキモノニ非ラス故ニ本件貸借契約ニ付テ上告人カ其檀家ト協議シタルヤ否ヤノ爭點ハ之ヲ何レニ決スルモ原判決ニ何等ノ影響ヲ及ボスモノニ非サレハ原審カ此爭點ヲ判斷セサルノ瑕疵ハ以テ原判決ヲ破棄スルノ理由ト爲スニ足ラス(大審院民事判決錄明治三十五年四卷一〇三頁)

二 明治十年太政官布告第十三號ニ所謂住職ニ於テ檀家ト協議スヘキ旨ノ規定ハ寺院ト檀家トノ内部ノ關係ヲ規定シタルニ過キサルモノナルカ故ニ寺院ノ代表者タル住職カ其寺院ヲ代表シテ檀家總代ノ連署ヲ以テ第三者ヨリ金數ヲ借入ルル場合ニ於テハ特ニ其第三者カ右内部ノ事情ヲ知悉セル場合ヲ除キ右布告後段ノ適用ヲ見ルヘキモノニアラス(東京地方裁判所判決本卷第三卷諸法七六頁)

【二點參照判例】

寺院ハ法人タル實質ヲ具有シ適法ノ代表機關ヲ以テスレハ特ニ法令ノ禁止セサル限り通常法人ノ爲シ得ヘキ法律行爲ハ總テ之ヲ爲ス能力ヲ有スヘキナリ(大審院判決本卷第二卷民法一一一頁)

(一一)

- 一 共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタルモノト看做ス
- 同一九 鑛業權及抵當權ノ設定變更移轉消滅並處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テモ亦同レ(但書略)
- 前項ノ登錄ハ登記ニ代ルモノトス
- 同二〇 前條第一項ニ掲ケタル事項ハ相續期限ノ到來ニ因ル鑛業權ノ消滅……ノ場合ヲ除クノ外登錄ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生ゼス
- 鑛業登錄令四七 假登錄ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スモノトス
  - 一 鑛業權ノ移轉又ハ抵當權ノ設定移轉變更若ハ消滅ノ登錄ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セサルトキ
  - 二 前條ノ事項ニ關シ請求權ヲ保全セントスルトキ
- 同四八 假登錄ハ次條ノ場合ヲ除クノ外假登錄權利者ノ申請ニ因リ其ノ目的タル鑛區ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添付シテ囑託スルコトヲ要ス

共同鑛業權者中ノ一人カ單獨ニテ探掘權ノ持分ニ付キ抵當權ヲ設定スルモ其設定行爲ハ唯當事者間ニ一種ノ債權的關係ヲ生スルコトアルニ止マリ之ニ因リテ物權的ニ抵當權ノ設定アリタルモノト謂フ可カラス從テ其設定行爲ノ相手方ハ抵當權ノ設定アリタルモノトシテ假登記ヲ申請スルヲ得ザルモノトス

鑛業法第七條ニハ共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタルモノト看做ストアリ故ニ二人以上共同シテ鑛業權ヲ有スルトキハ其鑛業權ハ組合財產ニ屬スルヲ以テ各共同鑛業權者ハ鑛業權ニ對スル自己ノ持分ヲ單獨ニテ處分スルコトヲ得ス若シ單獨ニテ之ヲ處分シタルトキハ其處分ハ之ヲ以テ組合及ヒ組合ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス是ヲ以テ共同鑛業權者中ノ一人カ單獨ニテ探掘權ノ持分ニ付抵當權ヲ設定スルモ其設定行爲ハ唯當事者間ニ一種ノ債權的關係ヲ生スルコトアルニ止マリ之ニ因リテ物權的ニ抵當權ノ設定アリタルモノト謂フ可カラス從テ其設定行爲ノ相手方ハ抵當權ノ設定アリタルモノトシテ假登記ヲ申請スルヲ得サルモノトス然レハ原裁判所カ本件共同探掘權者ノ一人タル齋藤虎太郎ノ單獨ニテ爲シタル抵當權設定ニ付假登記ヲ許スヘカラサル旨判定シタルハ結局正當ナリ(大審院大正四年)第四六號同年三月二日民一部田部裁判長榊原尾古岩田嘉山各判事決定)

【關係事項】

抗告案却○原審大阪地方裁判所○鑛業探掘權抵當權設定假登記假處分命令申請事件○抗告人久保紋太郎

探掘權ニ對スル抵當權ノ設定ハ不動産ニ對スル抵當權ノ設定ト異ナリ之カ登録ヲ爲スニアラサレハ其效力ヲ生セサルカ故ニ登録以前ニ於テハ單ニ債權的關係アルニ過キス故ニ決定ノ如ク本件ノ設定行爲カ債權關係ヲ生スルニ過キサルカ故ニ登録ヲ許サストノ見解ヲ採ルトキハ探掘權ニ對スル抵當權ノ設定ハ總テ之カ登録ヲ受クルコトヲ得サルヘシ鑛業登録令第四七條第二號ニ所謂請求權ハ抵當權設定ノ請求權債權的ヲ指スコト疑ヲ容レス故ニ此點ニ於テ決定ノ説明ハ失當ナリト謂ハサルヘカラス又共同鑛業權者カ單獨ニテ其持分ヲ處分シタルトキハ組合及ヒ之ト取引ヲ爲シタル第三者ニ對抗スルコトヲ得サルカ故ニ持分ニ對スル抵當權ノ設定ハ單ニ債權的關係ヲ生スルニ過キサルモノト爲スモ誤レリ探掘權ニ對スル抵當權ノ設定カ登録以前ニ於テ債權關係ニ止マルハ前述ノ理由ニ基クモノニシテ第三者ニ對抗スルヲ得サルカ爲メニアラス民法第六七六條ハ寧ロ持分ノ處分カ物權的效果ヲ生シタル後ニ於テ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得サル旨ヲ規定セルモノト解セサルヘカラス故ニ此點ニ於テモ亦決定ノ説明ハ失當ナリト謂ハサルヘカラス

鑛業法第四第二項 鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ掘採シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス(但書略)

前一九 鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス(以下略)

前項ノ登錄ハ登記ニ代ルモノトス

登錄ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

同二〇 前條第一項ニ掲ケタル事項ハ相續期限ノ到來ニ因リ鑛業權ノ消滅……ノ場合ヲ除クノ外登錄ヲ爲スニ非

サレハ其ノ效力ヲ生セス

同九四第二項 過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

同二〇四 鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルト

キハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

民法七〇九 故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責任ニ任ス

同七五第二項 或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者ハ被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害ヲ賠償

スル責任ニ任ス但使用者カ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルトキ又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ

損害カ生スヘカリシトキハ此限ニ在ラス

- (一) 苟モ鑛業權者ノ權利ニ基キ鑛業ノ經營ニ從事スル者ハ鑛業權者自身ノ選任又ハ許容ニ依ルト其鑛業代理人ノ選任又ハ許容ニ依ルトヲ問ハス又鑛業權者ノ計算ニ於テ之ニ從事スルト其者ノ計算ニ於テスルトニ論ナク總テ鑛業法第一〇四條ニ所謂鑛業權者ノ從業者カ其鑛業ニ從事中自己ノ利益ノ爲メ故意ニ鑛區外ニ侵掘シテ鑛物ヲ採取シタル場合ニ於テモ鑛業權者其責ニ任スヘキモノトス
- (二) 鑛業法上鑛業ハ必ス鑛業權者直接ニ之ヲ經營シ他人ニ損害ヲ惹起セサルコトニ注意スヘキ義務ヲ負フモノナレハ苟モ鑛業權者カ右法令ノ義務ニ違背シ直接ニ之ヲ經營セスシテ自己若クハ其鑛業代理人ニ於テ其權利ヲ第三者ニ授與

シ之レカ爲メ其經營ニ關シ不法ニ他人ノ權利ヲ侵害シ損害ヲ加ヘタル以上鑛業權者ハ民法第七〇九條ニ依リ之レカ賠償ノ責ニ任スヘキモノニシテ其第三者カ自己ノ使用スル者ニアラサルノ故ヲ以テ責任ヲ辭スルコトヲ得サルモノトス

(一) 諸法鑛業ノ經營ハ公安公益ニ重大ノ關係アルヲ以テ鑛業權者ハ全責任ヲ負擔シ自身ニ又ハ其鑛業代理人ヲ以テ之レカ管理ヲ爲スコトヲ必要トシ他人ニ其權利ヲ授與シ其者ノ責任ニ於テ之レカ管理經營ヲ爲サシメ因テ自己ノ責任ヲ免ルルヲ得サルコトハ鑛業法及同法施行細則ノ規定ニ照ラシテ歴々之ヲ認ムルコトヲ得ルカ故ニ苟モ鑛業權者ノ權利ニ基キ鑛業ノ經營ニ從事スル者ハ鑛業權者自身ノ選任又ハ許容ニ依ルト其鑛業代理人ノ選任又ハ許容ニ依ルトヲ問ハス又鑛業權者ノ計算ニ於テ之ニ從事スルト其者ノ計算ニ於テスルトニ論ナク總テ鑛業法第一〇四條ニ所謂鑛業權者ノ從業者ニ該當スルモノト解釋シ其鑛業ニ關スル行為ニ付テハ鑛業權者之レカ責任スヘキモノト爲スヲ相當トス又鑛業權者ノ從業者カ其鑛業ニ從事中自己ノ利益ノ爲メ故意ニ鑛區外ニ侵掘シテ鑛物ヲ採取シタル場合ニ於テモ鑛業權者其責ニ任スヘキコトハ當院判例ノ認ムル所ニシテ此見解ハ今尙ホ之ヲ維持スルヲ相當ト思料ス又鑛業權者ニ於テ内實他人ニ權利ヲ讓渡スモ鑛業原簿ニ登錄ヲ爲スニアラサレハ讓渡ノ效力ヲ生セサルヲ以テ鑛業權者ノ責任ニ影響ヲ及ホスモノニアラス故ニ上告論旨ハ之ヲ採用スルヲ得ス次ニ原判決ノ判示事實ヲ案スルニ被告ハ石炭鑛區ノ鑛業權ヲ有レ應取行藏ヲ其鑛業代理人ト爲シ同人ニ於テ甲斐喜作福田保千代相野長太郎ヲシ

テ該鐵區石炭ノ請負掘ヲ爲サシメ居ル該三名ハ孰レモ故意ヲ以テ右鐵區外ニ侵掘シ切込石炭ヲ探掘シ之ヲ他ニ賣却又ハ費消シタリト云フニ在リテ請負掘ノ何タルヲ示ササルノ觀ナキニアラスト雖モ原私訴判決ニ對照スルニ其所謂請負掘トハ俗ニ斤先掘ト稱シ請負者ニ於テ鐵業權者ニ斤先金ナルモノヲ支拂ヒ自己ノ計算ニ於テ探掘ヲ爲スノ行爲ヲ指稱セルコト明ニシテ該請負掘ノ契約ハ被告ト直接ニ締結シタルモノニアラスシテ被告ノ鐵業代理人ト請負者トノ間ニ締結セラレタル趣旨ナルコトハ原判決ノ行文上洵ニ明ナリ而シテ此趣旨ニ依ルモ被告ハ右斤先掘者ノ鐵業法違反行爲ニ對シ責任ヲ辭ズルヲ得サルコト前示説明ニヨリテ明瞭ナルヲ以テ原判決ハ擬律錯誤又ハ理由不備ノ不法アルコトナシ

(二) 鐵業法ハ鐵業ノ經營權者ニ專屬セシメ鐵業權者ヲシテ之レニ關スル全責任ヲ負擔セシメタルモノニシテ其權利ヲ第三者ニ授與シ之レヲシテ管理ノ任ニ當ラシムルカ如キハ同法ノ禁止スル所ナレハ斯ル事項ヲ目的トスル契約ハ違法ニシテ無効ナルハ勿論鐵業權者ハ之ニ因リテ自己ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス故ニ如斯契約ニ依リ鐵業ニ從事スル第三者カ鐵業ノ管理ニ關シ他人ノ權利ヲ侵害シ損害ヲ加ヘタルトキト雖モ鐵業法上鐵業ハ必ス鐵業權者直接ニ之ヲ經營シ他人ニ損害ヲ惹起セサルコトニ注意スヘキ義務ヲ有スルモノナレハ苟モ鐵業權者カ右法令ノ義務ニ違背シ直接ニ之ヲ經營セシメシテ自己若クハ其鐵業代理人ニ於テ其權利ヲ第三者ニ授與シ之レカ爲メ其經營ニ關シ不法ニ他人ノ權利ヲ侵害シ損害ヲ加ヘタル以上鐵業權者ニ不法行爲アルモノト云ハサルヲ得ス從テ民法第七〇九條ニ依リ鐵業權者ハ之レカ賠償ノ責ニ任スヘキモノニシテ其第三者カ自己ノ使用スル者ニアラサルノ故ヲ以テ責任ヲ辭スル

【關係事項】

コトヲ得ス此趣旨ハ當院判例ノ凡ニ認ムル所ニシテ今尙ホ之ヲ維持スルナ相當ト思料ス原判決ノ判示事實ニ依レハ甲斐喜作福田保千代及相野長太郎ハ鐵業權者タル上告人草野安吉ノ鐵業代理人鷹取行藏ト斤先請負掘ノ契約ヲ締結シ自己ノ計算ニ於テ探掘ニ從事中上告人ノ鐵區外ニ侵掘シ被上告人古河合名會社ニ損害ヲ加ヘタルモノナルヲ以テ上告人ハ前示ノ理由ニ依リ之レカ賠償ノ責ニ任セサルヲ得ス唯ダ原判決ハ措辭簡約ニ過キ説明周到ヲ缺クノ憾ミナキニアラスト雖モ結局當院判例ト同一ノ趣旨ニ依リ上告人ニ賠償ノ責任アルコトヲ判定シタルモノト認ムルコトヲ得ルヲ以テ不法ナシ(大審院大正三年(レ)第三一九五號同四年二月二十七日刑三部橋橋裁判長議)

【關係事項】

公私訴上告棄却○原審長崎控訴院○鐵業法違反被告事件並附帶私訴事件○公私訴上告人兼私訴被上告人草野安吉辯護人兼代理人川井豐吉同船越雄尾私訴上告人兼被上告人古河合名會社私訴被上告人鷹取行藏外一名

【二點參照判例】

鐵業權者カ斤先掘契約ノ下ニ或者ナシテ鐵業權實行ノ局ニ當ラシメ其鐵區内ニ於テ石炭ヲ探掘セシメタル場合ニ於テ其者ニ鐵業法違反ノ行爲アリタルトキハ其者ハ鐵業權者ノ從業者トシテ業務ニ從事シタルモノナレハ鐵業權者ハ其實ヲ免ルルコトヲ得ス(大審院判決本書第三卷諸法二五頁)

【二點同趣旨判例】

大審院民事判決錄大正二年一九二頁  
至當ノ判決ナリト信ス

重要物産同業組合法第一項 重要物産ノ生産製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置ヘルコトヲ得

同四 同業組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此限ニ在ラス

同九第一項 第四條第一三條ノ規定ニ違背シタル者ハ二圓以上百圓以下ノ科料ニ處ス

シタル組合ハ重要物産同業組合法施行ノ日ヨリ同法ニ依リ設立シタルモノト看做サ  
ルヲ以テ重要輸出同業組合法ニ依リ重要輸出品ノ生産製造又ハ販賣ニ關スル營業  
者ヲ以テ組織シタル組合カ重要物産同業組合法施行後ニ於テ同法所定ノ手續ニ遵據  
シ定款ヲ變更シテ密ニ輸出品ノミナラス汎ク重要物産ノ生産製造又ハ販賣ニ關スル  
營業者ヲモ包括スル組合ト爲シタルトキハ組合設置ノ地區内ニ於テ定款所定ノ業ヲ  
營ム者ハ前示第四條ノ規定ニ依リ當然其組合ニ加入スヘキ義務ヲ生スルニ至ルモノ  
ト云フヘキナリ本件ニ於テ廣島縣花庭同業組合ハ廣島縣下一圓ノ地區トシ明治三十  
年中重要輸出品同業組合法ノ規定ニ從ヒ設立シタルモノニシテ其定款ニ於テ海外輸  
出用花庭ノ製造人仲買人販賣人等ヲ以テ組合ヲ組織スル旨定メタルモ重要物産同業  
組合法施行後ナル大正元年七月三十一日ニ至リ法定ノ手續ヲ經テ定款ヲ變更シ一統  
花庭ノ製造仲買販賣等ニ關スル營業者ヲ以テ組織スル組合ト爲シタルモノニシテ且  
抗告人ハ廣島縣下ニ於テ花庭ノ販賣ヲ業トスルモノナルコト記録ニ徴シ明白ナレハ  
抗告人ハ組合ニ加入スヘキ義務アルモノトス然ルニ抗告人ハ該組合ヨリ加入スヘキ  
旨ノ通告ヲ受ケタルニ拘ハラズ之ニ加入セサルコト記録ニ徴シ明カナレハ重要物産  
同業組合法第四條ニ違背スルモノニシテ同法第一九條第一項ノ規定ニ從ヒ科料ニ處  
セラルヘキモノトス(大審院大正四年(夕)第九七號同年三月九日民一部田部裁判長輔原  
尾古岩田三宅各判事決定)

【關係事項】

抗告棄却○原審廣島控訴院○重要物産同業組合法違反事件○抗告人平柳與吉代理人辯護士森田卓爾  
至當ノ見解ナリト信ス

裁判所構成法第六第四項 若一人ノ檢事若ハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若ハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得

裁判所構成法第六條第四項ニ所謂事件ノ猶豫ス可カラサルモノナルヤ否ヤハ裁判所長又ハ監督權ヲ有スル當該區裁判所ノ判事ニ於テ專決スヘキ事項ナルヲ以テ右規定ニ依ル命令ノ當否ニ就キテハ上級裁判所ニ於テ之ヲ爭フコトヲ許サス」裁判所構成法第六條第四項ニ依リ判事カ檢事ノ事務ヲ取扱フハ檢事ノ代理資格ヲ以テ檢事ノ職務ヲ執行スルモノナレハ判事ノ除斥又ハ回避ノ規定ハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス」

裁判所構成法第六條第四項ニ若シ一人ノ檢事悉クハ數人ノ檢事悉ク差支アリテ或ル事件ヲ取扱フコトヲ得サルトキハ裁判所長又ハ區裁判所ニ於テ判事若クハ監督判事ハ其ノ事件猶豫スヘカラサルニ於テハ判事ニ檢事ノ代理ヲ命シ其ノ事件ヲ取扱ハシムルコトヲ得トアリテ其事件ノ猶豫ス可カラサルモノナルヤ否ヤハ裁判所長又ハ監督權ヲ有スル當該區裁判所ノ判事ニ於テ專決スヘキ事項ナルヲ以テ右命令ノ當否ニ就キテハ上級裁判所ニ於テ之ヲ爭フコトヲ許ササルモノトス本件記録ヲ調査スルニ清松判事ハ前記構成法ノ規定ニ依リ監督官ノ命令ヲ受ケテ檢事代理トシテ判決ニ立會ヒタルモノナルコト明カナルヲ以テ毫モ違法ニ非ス而テ同判事カ右法規ニ依リ檢事ノ事務ヲ取扱タルハ檢事ノ代理資格ヲ以テ檢事ノ職務ヲ執行シタルモノニシテ固ヨリ判

事ノ資格ヲ以テ取扱ヒタルモノニ非サルカ故ニ判事ノ職務執行ニ關スル刑事訴訟法第四〇條第四條除斥又ハ回避ノ規定ハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス(大審院大正四年(レ)第七三五號同年五月五日刑三部欄橋裁判長磯谷堀田柳川岡田各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審和歌山地方裁判所○公務執行妨害被告事件○被告人中岩廣吉外一名辯護人駒澤辰明

至當ノ見解ナリ

鑛業法三 未ダ掘採セサル鑛物(廢鑛及ヒ鑛滓ヲ含ム)ハ國ノ所有トス  
民法二三九 無主ノ動産ハ所有ノ意思ヲ以テ之ヲ占有スルニ因リテ其所有權ヲ取得ス

鑛業權者カ掘採シタル鑛物ノ所有權ヲ拋棄シタルトキハ鑛業法其他ノ法令ニ別段ノ規定ナキ限りハ民法ノ規定ニ從ヒ遺棄物トシテ何人モ先占ニ因リ其所有權ヲ取得スルコトヲ得ルモノトス」  
鑛業法第三條ニテ國ノ所有トスル鑛滓ハ鑛業權者ノ所有ニ屬セサル一切ノ鑛滓ヲ謂ヘルニ非スシテ鑛滓存在ノ狀態カ之ヲ取ルニ掘採ヲ必要トスル程度ニ在ルモノヲ指シタル法意ナリトス」

鑛業法第三條ニハ未ダ掘採セサル鑛物(廢鑛及ヒ鑛滓ヲ含ム)ハ國ノ所有トスアルカ故ニ既ニ掘採シタル鑛物ハ必スシモ國ノ所有ニ非スシテ通常之ヲ掘採シタル鑛業權者ノ所有ニ歸スル動産ニ屬シ鑛業權者カ其所有權ヲ拋棄シタルトキハ鑛業法其他ノ法令ニ別段ノ規定ナキ限りハ民法ノ規定ニ從ヒ遺棄物トシテ何人モ先占ニ因リ其所

有權ヲ取得スルコトヲ得ルモノト謂ハサルヲ得ス而シテ同法條ニテ國ノ所有トスル  
 鑛滓ハ之ヲ未採掘ノ鑛物中ニ包含セシメテ規定シタル所ニ由テ觀レハ鑛業權者ノ所  
 有ニ屬セサル一切ノ鑛滓ヲ謂ヘルニ非スシテ鑛滓存在ノ狀態カ之ヲ取ルニ採掘ヲ必  
 要トスル程度ニ在ルモノヲ指シタル法意ナリト解セサルヲ得ス蓋鑛滓ハ曾テ採掘セ  
 ラレタル鑛物ノ殘滓ニ外ナラザレハ元來未採掘ノ鑛物ニハ非スト雖モ其殘滓存在ノ  
 狀態カ之ヲ取ルニ更ニ採掘ヲ要スル程度ニ達シタル場合ニ於テハ鑛業法上特ニ之ヲ  
 未採掘ノ鑛物ト同視シ國ノ所有トシテ同法ノ規定ニ遵依セシメタルモノト見ルヲ相  
 當トスレハナリ故ニ鑛業權者カ鑛物ヲ採掘シ製鍊ノ後其殘滓ヲ遺棄シタルトキハ其  
 滓ハ如上未採掘ト同視スヘキ狀態ニ在ラサル限リハ國ノ所有ニ歸屬スルコトナク且  
 之ニ關スル所有權ノ歸屬ニ付テ別段ノ規定アルヲ見サルヲ以テ無主ノ動産トシテ他  
 人ノ之ヲ先占取得スルコトヲ妨ケサルモノトス本件ノ事實ハ原審ニ於テ確定シタル  
 所ニ依レハ保爭土灰ハ鑛業權者カ金銀製鍊ノ爲メ粉碎シタル鑛石ヲ沈澱池ニ入レ沈  
 澱セシムル際流出シ鑛業權者ノ遺棄シテ顧ミサリシモノニシテ訴外瀬戸山仁三太カ  
 之ヲ採取スル爲メニ其借地内ニ設置セル沈澱池ニ該土灰ノ流入スルニ從ヒ之ヲ先占  
 シタルモノナレハ其土灰ハ鑛業法上國ノ所有ニ屬スル鑛滓ニ非スシテ無主ノ動産ニ  
 外ナラサルヲ疑フ容レヌ從テ仁三太カ先占ニ因リテ其所有權ヲ取得シタリト認メタ  
 ル原判決ハ違法ニアラス又本件保爭土灰採取ノ當時行ハレタル砂鑛採取法第一條ニ  
 ハ此法律ニ於テ砂鑛トハ砂金砂錫及ヒ砂鐵ヲ謂フトアルノミニシテ現行砂鑛法ニ於  
 テハ第一條第一項ニ右ト同趣旨ノ規定ヲ爲シ同條第二項ニハ金鑛ノ廢鑛又ハ鑛滓ニ  
 シテ主務大臣ニ於テ其存在狀態砂金ト類似スト認メタルモノハ之ヲ砂金ト看做スト

ノ規定ヲ新ニ設ケタル所ニ由テ之ヲ觀レハ金鑛ノ鑛滓ハ常ニ必スシモ皆砂金ナリト  
 謂フコトヲ得サルノミナラス本件保爭ノ土灰カ多少ノ金銀分ヲ包含スルモ砂鑛採取  
 法ノ適用ヲ受クヘキ砂鑛ニ非サルコトハ原審ニ於テ確定シタル前示ノ本件事實ニ徴  
 シ自明ナリ要スルニ上告論旨ハ何レモ主トシテ本件保爭土灰ノ採取ヲ以テ鑛業法又  
 ハ砂鑛採取法ノ支配ヲ受クヘキモノトシ之ヲ前提トシテ原判決ヲ論難スルモノニシ  
 テ其理由アルヲ見ス(大審院大正三年(才)第三五五號同四年三月九日民一部田部裁判長  
 神原尾古鈴木岩田各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審長崎控訴院○損害賠償請求事件○上告人藤井伊兵衛訴訟代理人辯護士竹下延保被上告人坂元佐一郎外一名

【前段同趣旨學說】

凡ソ鑛業權者カ鑛物ヲ採掘シタルトキハ之ニ因テ完全ナル所有權ヲ取得スルヲ以テ所有權ヲ行使シ其結果之ヲ遺棄シタルトキ  
 ハ純然タル無主物ニシテ何人ト雖モ先占ニ因リ其所有權ヲ取得スヘク之ヲ固有ト爲スノ根據ヲ發見スルコト能ハス(法學士鹽  
 田環氏鑛業法通論一七頁)

【後段同趣旨學說判例】

一 立法ノ趣旨ニ鑛業法第三條ニ云フ廢鑛及ヒ鑛滓ハ其凡テノ種類ヲ悉ク包含スルモノト解セス換言スレハ鑛業法ニ廢  
 鑛及ヒ鑛滓ヲ固有ト爲シタル趣旨ヲ敷衍スルトキハ廢鑛及ヒ鑛滓ノ存在狀態ニシテ採取スルニハ鑛業法ニ依ラシムル必要アル  
 程度ニアル場合ニ限リ國ノ所有ニ屬スト云ハサルヘカラス從テ若シ毫モ鑛業法ニ依ラシテ之ヲ採取スルコト妨ナキ程度ニ於  
 テハ廢鑛及ヒ鑛滓ハ本條ニ包含セラルヘキモノニアラス無主物トシテ自由ニ其先占ヲ妨ケサルモノトス(法學士鹽田環氏鑛業  
 法通論一八頁)

二 大審院民事判決錄明治四三年一二頁

至當ノ見解ト信ス

衆議院議員選舉法八十七條第一項 選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ又八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者
- 二 選舉ニ關シ酒食、遊覽等其ノ他ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ應接待シ又ハ應接待ヲ受ケタル者又ハ選舉會場、開票所若ハ投票所ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ供給シ又ハ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ沐浴料ノ類ヲ代辨シ及其代辨ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者
- 三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ誘導シタル者及其ノ誘導ニ應シタル者

衆議院議員選舉法第八七條ハ廣ク選舉ニ關係シ利害關係ヲ利用シテ選舉人ヲ誘導シタル者ヲ處罰スヘキ者ヲ規定シタルモノニシテ特定ノ候補者ヲ選舉スヘキ旨ノ誘導ヲ爲スコトヲ必要トセス

〔上告趣意〕 衆議院議員選舉法第八七條第一項各號ニ「選舉ニ關シ」ト云ヘルハ其意義廣汎ニシテ明確ナラスト雖モ黨勢擴張ノ爲メニ地方ノ利害問題ヲ利用シテ遊説ヲ試ムルカ如キハ今日殆ト公然行ハルル所ニシテ之ニ對スル是非ノ議論ハ之レナキニアラサルモ未ダ之ニ對シテ選舉法罰則ノ適用セララルコトナキヲ以テ見レハ單ニ黨勢擴張ノ爲メニスルモノハ選舉ノ前後ヲ問ハス之レヲ以テ選舉ニ關スルモノト爲スヘカラス果シテ然ラハ同條ニ所謂「選舉ニ關シ」トハ或ル特定人ノ選舉ニ關スル場合ヲ指サスモノニシテ特定ノ候補者ヲ選舉シ又選舉セシメサルコトヲ目的トスル行爲ノミヲ所罰スルモノト云ハサルヘカラス而シテ本件ニ付キテ見ルニ原判決ニ於テモ認ムル

カ如ク未ダ衆議院議員候補者ナルモノナク獎勵招待モ誘導モ共ニ特定人ノ選舉ニ關スルモノニアラサルカ故ニ未ダ本條ニ所謂選舉ニ關係スルモノト云フヘカラス然ルニ原判決カ之レヲ選舉ニ關スルモノトシテ衆議院議員選舉法第八七條ヲ適用シタルハ違法ナリ

〔判決理由〕 原審判決ノ認ムル所ニ依レハ本件被告等ハ單ニ黨勢擴張ノ爲ニ地方ノ利害關係ヲ利用シテ遊説ヲ爲シタルニ止マラス此ノ如キ利害關係ヲ利用シテ國權黨議員候補者タルヘキモノヲ選舉セシムル爲メ選舉權者ヲ誘導シタル事實アリ而シテ所論選舉法規定ニ於テハ廣ク選舉ニ關係シ利害關係ヲ利用シテ選舉人ヲ誘導シタル者ヲ處罰スヘキモノトシテ特定ノ候補者ヲ選舉スヘキ旨ノ誘導ヲ爲スコトヲ必要トセサルカ故ニ原判決カ上叙ノ事實ニ付キ所論法條ヲ適用シタルハ違法ニアラス(大審院大正四年(レ)第一一四二號同年五月三十一日刑二部爲裁判長鶴見水本藤波泉二各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審熊本地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人益田新太郎二十二名辯護人原義龍

新聞紙法九 編輯人ノ責任ニ關スル本法ノ規定ハ左ニ掲グル者ニ之ヲ準用ス

新聞紙法第九條第二號ハ單ニ署名者ニ新聞紙法上編輯人ト同様ノ責任ヲ負擔セシムト謂フニ止マリ必スシモ署名者ヲシテ編輯人ノ地位ニ代ハラシメ編輯人ノ



全部ノ責任ヲ負擔セシムルノ法意ニアラス

新聞紙法第九條(第二號)ニ於テ新聞紙ニ掲載シタル事項ニ署名シタル者ニハ同法中編輯人ノ責任ニ關スル規定ヲ準用スト規定シタル法意ハ單ニ前示署名者ニ新聞紙法上編輯人ト同様ノ責任ヲ負擔セシムト云フニ止リ必スシモ署名者ナシテ編輯人ノ地位ニ代ハラシメ編輯人ノ全部ノ責任ヲ負擔セシムルモノナリト解ス可キ根據アルコトナシ蓋シ新聞紙法ニ所謂編輯トハ之ヲ掲載事項ノ著作ト同一視ス可キニ非スシテ他人ノ著作ニ係ル事項ヲ新聞紙ニ掲載スル行為モ亦之ヲ編輯ノ一作用ナリト云ハサルヲ得サルコト明白ナルヲ以テ掲載事項ノ著作ト認ム可キ署名者ニ於テ編輯人ト同一ノ責任ヲ負擔シタリトスルモ編輯人ハ仍ホ該事項ノ掲載ニ付キ獨立セル編輯責任ヲ有スルモノト云ハサルヲ得ス而シテ原判決ノ判示スルトコロニ依レハ被告ハ判示新聞紙ノ編輯人タリシコト明白ナルヲ以テ所論永井天湖ナル者ニ判示記事ノ署名者ナリシ事實アリトスルモ毫モ被告人ノ本件罪責ニ影響スルトコロナキノミナラス所論事實ハ全然原判決ノ認メサルトコロナルヲ以テ論旨ハ理由ナシ(大審院大正四年(九)第九四號同年三月十二日刑一部遠藤裁判長平野谷野柳川中西各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審和歌山地方裁判所○新聞紙法違反被告事件○被告人岡本正三辯護人近藤達兒  
至當ノ見解ナルコト法文上明白ナリ

著作權法一五第一項 著作權ノ相續讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

同審一五第三項 著作權ノ讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
著作權法改正(明治四三年六月法)以前ニ於テモ著作權ノ相續ハ其登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
著作權ヲ不法ニ侵害シタル者ハ其ノ相續ノ登錄ノ欠缺ヲ主張スルニ付テ正當ノ利益ヲ有スル第三者ニ該當セス

著作權法第一五條第一項ニ依レハ著作權ノ相續讓渡及質入ハ其登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サル旨規定セルニ拘ハラス改正前ノ同法同條ニ於テハ相續ノ場合ニ付テノ明文ナキカ故ニ或ハ原審ノ爲シタルカ如ク改正前ノ著作權法ニ於テハ著作權ノ相續ハ之ヲ登錄セサルモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルヲ得ヘシトノ解釋ヲ容ルヘキカ如シト雖モ元來著作權登錄ノ制ヲ設ケタル本旨ハ同一ノ著作權ニ關シテ正當ノ權利若クハ利益ヲ有スル第三者ヲシテ登錄ニ依リテ著作權ノ得喪變更ノ事ヲ知悉シ以テ不慮ノ損害ヲ免ルルコトヲ得セシメンカ爲メニシテ即チ其目的ハ第三者ノ保護ニ在リテ存スルモノトス而シテ第三者力保護セラルヘキ必要ハ著作權ノ讓渡又ハ質入アリタル場合ニ於ケルト之カ相續アリタル場合ニ於ケルト違フ異ナル所ナキヲ以テ改正前ノ著作權法ニ於テ相續ノ場合ニ付キ明文ナキニ拘ハラズ同法規定ノ旨趣ハ改正後ニ於ケル同法ノ規定ト同一ニ解釋スヘキモノト云ハサルヘカラス然ルニ此點ニ付キ叙上説明ト相反セル解釋ヲ與ヘタル原判決ハ上告論旨ニ云フカ如ク不當ナリト雖モ原判決ノ確定スル所ニ據レハ上告人ハ被上告人ニ對シテ本件著作權ヲ不法ニ侵害シタルモノニシテ被上告人ノ登錄ノ欠缺ヲ主張スルニ

正當ノ利益ヲ有スル第三者ニ該當スルモノト云フヲ得ス隨テ原判決ハ結局正當ナリ  
(大審院大正三年(十)第六二四號同四年三月八日民二部馬場裁判長田上大倉入江鈴木各  
判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審前橋地方裁判所○演劇脚本著作權侵害損害賠償請求事件○上告人近藤ふゆ訴訟代理人辯護士池田光之丞被上告  
人中西修二

吾人ハ解釋上前段ニ反對ス蓋シ舊規定ハ讓渡及質入ノ二者ニ限定セルノミナラ  
ス民法第一七七條ハ汎ク不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更ト規定セルヲ以テ  
相續ノ場合ヲ包含シ得ヘキヤ明ナリト雖モ本規定ハ斯カル餘地ヲ存セス(若シ舊  
規定ノ下ニ於テ相續ノ場合ヲ同一ニ論斷シ得ヘシトセハ特ニ其改正ヲ爲スノ要  
ナキナリ後段ハ正當ナリト信ス

(一九)

織物消費税法第三項 左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ヲ免除ス

一 製造者カ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物

二 織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ但シ第三條第一項第二號ニ該當スル織物ノミナ製造  
セントスル者ハ此ノ限ニ在ラス

同二七 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費税五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費税ヲ徴ス但シ消費税四圓未満ナル  
トキハ罰金額ハ二十圓トス

一 第一二條但書ニ該當スル場合ヲ除クノ外政府ニ申告セスシテ織物ヲ製造シタルトキ

他人ノ依頼ヲ受テ賃織ヲ爲スハ賃織ヲ得テ他人ノ爲メ織物ヲ製造シ之ヲ引渡ス  
コトヲ以テ其目的トスル一ノ請負ナルカ故ニ賃織業者ハ織物消費税法第一二條

ノ規定ニ從ヒ申告ノ手續ヲ爲スノ義務アルモノトス

雇傭契約ニ依リ職工トナリテ織物ヲ作製スルハ即チ報酬ヲ得テ他人ノ爲メ勞働スル  
モノニシテ其製造業務ニ從事スルニ外ナラサレハ職工自ラ製造業者トシテ織物消費  
税法第一二條ノ規定ニ從ヒ政府ニ申告スルノ義務ナシト雖モ他人ノ依頼ヲ受テ賃織  
ヲ爲スハ職工ノ行爲ト異ナリ賃織ヲ得テ他人ノ爲メ織物ヲ製造シ之ヲ引渡スコトヲ  
以テ其目的トスル一ノ請負ナルカ故ニ賃織業者ハ同條ノ規定ニ從ヒ申告ノ手續ヲ爲  
スノ義務アルモノトス何トナレハ同條ニハ廣ク「織物ヲ製造シ」セントスル者ハ政府  
ニ申告ス可シトアリテ製織ヲ爲シタル結果製品ニ對シ物權ヲ取得スル爲メ織物ヲ製  
造セントスル者ハ勿論單ニ賃織ヲ得ルヲ目的トシテ他人ノ爲メ織物ヲ製造セントス  
ルモノナモ包含スルノミナラス同條但書ニ自己又ハ其家族ノ用ニ供スル爲メ自ラ織  
物ヲ製造セントスル者ハ申告ノ手續ヲ爲スニ及ハサル旨ノ制限ノ例外ノ規定アルニ  
徴スルモ法律カ賃織ノ依頼ヲ受ケ他人ノ爲メ織物ヲ製造セントスルモノハ之ヲ除外  
セス同條ノ原則ニ從ヒ申告ノ手續ヲ爲サシムル主旨ナルコトヲ窺知スルニ足ルヲ以  
テナリ故ニ原判決カ政府ニ申告セスシテ賃織ノ依頼ヲ受ケ各依頼者ヨリ其原料ヲ受  
取リ以テ絹織物帶地等賃織ヲ爲シ之ヲ製造シタル被告ノ行爲ニ對シ織物消費税法第  
一二條第一七條ヲ適用處斷シタルハ不法ニアラス(大審院大正四年(九)第二四二)同年  
三月十五日刑二部鶴裁判長鶴見水本藤波高潮各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審山形地方裁判所○織物消費税法違犯被告事件○被告人武田とみ辯護人五十嵐季藏  
至當ノ見解贊同ヲ表ス



ナリトモ謂フヲ得ス何トナレハ淨瑠璃ノ音調曲節ヲ其文句ニ從ヒ記號ヲ以テ次第的ニ記載シタルニ於テ始メテ樂譜タルノ意義ニ合シ淨瑠璃ニ伴ハスシテ單ニ其音調曲節ヲ示スニ用ユル記號ヲ列記シ解説ヲ加ヘタルノミニテハ未ダ譜ヲ成サレハナリ然レハ本件著作物ハ脚本又ハ樂譜ノ實ヲ具ヘス從テ其著作權ハ興行權ヲ包含セサレハ原裁判所カ上告人ヲ以テ本件著作物ニ付キ興行權ヲ有セサルモノト爲シ本訴請求ヲ却下シタルハ正當ナリ(大審院大正三年(オ)第七〇一號同四年三月二十三日民一部田部裁判長田上禎原尾古岩田各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審福岡地方裁判所○損害賠償請求事件○上告人長谷井文吉訴訟代理人辯護士河西善太郎被上告人深田定吉外一名

【參照學說】

脚本ノ著作物トハ演劇上ノ事ヲ云フモノニシテ舞臺上ニ於テ多數ノ人カ分擔シテ種々ノ生活上ノ地位ヲ表示スル所ノ演奏ナリ即チ各種ノ人格及仕草ヲ表示スルモノナリ(ドクトルユリス 荒木虎太郎氏日本著作權法要論五四頁)  
樂譜トハ音ノ長短高低緩急ヲ指示スル記號ナリ而シテ著作權法上ノ樂譜トハ個々ノ音ノ記號ヲ云フニ非ラス各音カ一定ノ結合ヲナシテ樂曲トナリタル一體ヲ記號ニテ表示シタルモノナラサル可ラス即チ音樂タル法則ニ合致シタルモノヲ表示シタル記號ニシテ單ニ吾人ノ發聲シ歌フ所ノ無法則非音樂ノ記號ハ樂譜トハ云ヒ能ハサルナリ(同上六二頁)

至當ノ見解ナリ

(三二)

商標法三三 外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外

商標權又ハ之ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス  
商標ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定 從フ

大正二年條約第二號工業所有權保護同盟條約ハ獨リ日獨間ノ盟約タルニ止マラ

ス多數ノ第三國モ亦之ニ加盟セルヲ以テ單ニ日獨間ニ於ケル戰爭ノ開始ニ因リ全然消滅スヘキモノニアラスト雖モ交戰國タル日獨相互ノ關係ニ於テハ戰爭開始ノ時ヨリ平和克復ノ時ニ至ルマテ當然其效力ヲ停止スルモノトス」  
商標無效審判ヲ請求スルニハ其前提トシテ商標權又ハ之ニ關スル權利ヲ享有スル適格ヲ有スルコトヲ必要トシ而シテ此要件ハ審判當時ニ於テモ亦存續スルコトヲ必要トスルモノナレハ一旦適法ニ提出セラレタル審判請求ト雖モ前示ノ要件ヲ缺クニ至リタルトキハ其手續ノ續行ハ之ヲ許スヘキモノニアラス」

商標法第二二條第一項ニ依レハ外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外商標權又ハ之ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得サルモノナリヲ以テ外國人ハ自然人タルト法人タルトヲ問ハス我帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有スル者ハ格別之ヲ有セサル者ハ國際條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定ノ存スルニ非サレハ商標權又ハ之ニ關スル權利ヲ享有スル適格ヲ有セサルヤ毫モ疑ヲ容レス而シテ本件被上告人ハ獨逸帝國ハンノベル市ニ本店ヲ有スル株式會社ニシテ獨逸帝國ノ法人タルコトハ當事者間爭ノ存セサル所ナレハ被上告人ニシテ若シ我帝國内ニ營業所ヲ有スルニ於テハ我國法上商標權又ハ之ニ關スル權利ヲ享有スル適格ニ於テ毫モ間然スル所ナキモ若シ之ニ反シ我帝國内ニ營業所ヲ有セサルニ於テハ其果シテ商標權又ハ之ニ關スル權利ヲ享有スル適格ヲ有スルヤ否ハ實ニ外國人ノ工業所有權保護ノ基礎タル大正二年條約第二號工業所有權保護同盟條約

日獨間ニ於テ今日尙其效力ヲ存續スルヤ否ノ問題ニ繫屬スルモノト謂ハサルヲ得ス  
 是ニ於テ大正三年八月二十三日ニ於ケル日獨間ノ戰爭ノ開始ハ右工業所有權同盟條  
 約ニ如何ナル效果ヲ生スルモノナルヤナ案スルニ該條約ハ獨リ日獨間ノ盟約タルニ  
 止マラス多數ノ第三國モ亦之ニ加盟セルヲ以テ單ニ日獨間ニ於ケル戰爭ノ開始ニ因  
 リ全然消滅スヘキ謂ハレナキハ固ヨリ論ヲ俟タスト雖モ交戰國タル日獨相互ノ關係  
 ニ於テハ戰爭開始ノ時ヨリ平和克復ノ時ニ至ルマテ當然其效力ヲ停止スルモノト爲  
 スナ相當トス蓋シ該條約ハ其規定自體ニ徵シテ明白ナルカ如ク各締盟國民及之ニ準  
 スヘキ者ニ對シ商標特許實用新案其他工業的意匠等ニ付キ内國人ト全然同一ノ利益  
 及保護ヲ許與スルコトヲ目的トスルモノナルヲ以テ即締盟國以外ノ國民ニ對シ許與  
 セサル特殊ノ利益及保護ヲ特ニ締盟國民及之ニ準スヘキ者ニ對シ許與スル條約ナリ  
 ト謂フヘシ而シテ此ノ如キ條約ハ締盟國相互ノ間ニ平和交通ノ關係ノ存在ヲ前提ト  
 シテ締結セラルヘキモノナルコト毫モ疑ナク容レサルカ故ニ今締盟國中ノ數國間ニ戰  
 爭開始セラレ平和交通ノ關係ノ全ク斷絶スルニ至リタルトキハ交戰國相互ノ關係ニ  
 於テハ交戰國ハ相互ニ之ヲ遵守スルノ義務ナキニ至リタルモノト論辯セサルヘカ  
 ス若シ夫レ然ラスシテ此場合ニ於テモ尙且相互ニ之ヲ遵守スヘキモノトモハ數ヲ締  
 盟國以外ノ友邦ノ國民ニスラモ許與セサル特殊ノ利益及保護ヲ特ニ敵國民ニ許與ス  
 ルノ結果ヲ見ルニ至ルヘケレハナリ惟フニ敵國民ト雖モ謂ハレナク之ヲ待遇スヘキ  
 モノニ非スシテ我帝國政府ノ夙ニ聲明シタルカ如ク宜シク正義ト人道トニ從ヒ之ヲ  
 待遇保護スヘキモノナルコト勿論ナリト雖モ締盟國以外ノ國民ニ比シ更ニ厚ク之ヲ  
 保護シ優ニ之ヲ待遇セサル可カラサル理由ノ存セサルコトモ亦論ヲ俟タサル所ナ

トス從參加訴訟代理人ニ於テ前記工業所有權保護同盟條約ハ其性質上同盟國全體ノ  
 關係ニ於テ其效力ヲ發生スルモノナルカ故ニ同盟國中ノ數國間ニ開戦ノ事實アリト  
 スルモ之カ爲メ法理上何等ノ影響ヲ受クヘキモノニ非スト論スルモ該條約ハ其規定  
 ノ全體ヨリ認メ得ヘキカ如ク其内容ニ於テ各締盟國カ他ノ締盟國ニ對シテ個別的ニ  
 相互ニ權利義務ヲ有スル旨趣ノ規定ニ過キスシテ各締盟國カ他ノ締盟國全體ニ對シ  
 不可分のニ權利義務ヲ有スル旨趣ノ規定ニ非サルカ故ニ戰爭開始ノ爲メ各交戰國ト  
 他ノ締盟國トノ關係ニ於テハ何等ノ影響ヲ受クルコトナキニ拘ハラヌ交戰國相互ノ  
 關係ニ於テハ其效力ヲ停止スル效果ヲ生スルモノト解スルモ該條約ノ性質上毫モ妨  
 クル所ナキモノトス然リ而シテ被上告人ハ本件ニ於テ商標法第一八條第二項ノ規定  
 ニ從ヒ利害關係人トシテ上告人ノ登錄シタル商標ヲ無効トスル旨ニ審判ヲ請求スル  
 者ナルコトハ本件記録ニ徵シ明白ナルヲ以テ若シ我帝國內ニ營業所ヲ有セサルニ於  
 テハ前記工業所有權保護同盟條約カ日獨間ノ關係ニ於テ其效力ヲ停止シタル結果本  
 件審判請求ヲ爲スコトヲ得サルニ至リタルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ被上  
 告人カ本件商標無効審判ヲ請求スルニハ其前提トシテ商標權又ハ之ニ關スル權利ヲ  
 享有スル適格ヲ有スルコトヲ必要トシ而シテ此適格ハ該條約效力ノ停止ト同時ニ停  
 止シテ被上告人ハ一時之ヲ有セサルニ至リタルヲ以テナリ被上告訴訟代理人ハ假リ  
 ニ該條約カ戰爭ニ依リテ消滅若クハ中止スヘキモノトスルモ本件ノ如ク宣戰ノ布告  
 前適法ニ提出セラレ且進行セル訴訟ニ於ケル既得ノ審判請求權ハ喪失スヘキ謂ハレ  
 ナキ旨論スルモ本件ノ如キ登錄商標無効審判ノ請求ヲ爲スニ必要ナル前示要件ハ其  
 請求提出ノ當時ニ於テノミ必要ナルニ非スシテ審判當時ニ於テモ亦存續スルコトヲ

必要トスルモノナレハ一旦適法ニ提出セラレタル審判請求ト雖モ前示ノ要件ヲ缺クニ至リタルトキハ其手續ノ續行ハ之ヲ許スヘキモノニ非ス彼上説明スルカ如ク本件被上告人ノ審判請求ヲ許スヘキヤ否ハ被上告人カ我帝國内ニ營業所ヲ有スルヤ否ノ問題ニ繫屬シ被上告人カ我帝國内ニ營業所ヲ有スル事實ナキニ於テハ上告訴訟代理人所論ノ如ク本件被上告人ノ審判請求ハ許スヘカラサルモノトシテ却下スヘキ筋全ナリトス然ルニ原審決ハ此事實ノ有無ニ付キ何等確定スル所ナクシテ本件被上告人ノ請求ヲ認容シタルモノナルカ故ニ今日ニ於テハ理由不備ノ理由ヲ以テ破毀ヲ免カレス大審院大正三年(オ)第二二六號同四年四月十五日民二部馬場裁判長田上入江鈴木嘉山各判事判決)

【關係事項】

破毀差戻○原審特許局○商標登録無効請求事件○上告人合資會社ニ葉屋訴訟代理人辯護士平澤均治被上告人獨逸國コンチネンタル、カウチユック、ウント、グツタベルチャ、コンパニ一訴訟代理人辯護士吉住英三從參加人合名會社芝川商店訴訟代理人辯護士中松盛雄同八島佐太郎

【參照學說】

本書第三卷諸法一九三頁二五頁二三二頁

(三三)

不動産登記法三三 假登記ハ次條ノ場合ヲ除ク前假登記權利者ノ申請ニ因リ其目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ選擇ナク囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添付シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス  
前項ノ假處分命令ハ假登記權利ハカ假登記原因ヲ破明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス  
申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス  
非訟事件手續法一一 裁判所ハ職權ヲ以テ事實ノ探知及ヒ必要ト認ムル證據調ヲ爲スヘシ

假登記ニ對スル更正ノ申請ニ付テモ不動産登記法第三二條第二項ニ依リ申請者ニ其事由ヲ疏明スヘキモノニシテ裁判所カ職權ヲ以テ必要ナル證據調ヲ爲スヘキモノニアラス

假登記ニ對スル更正ノ申請ニ付テモ不動産登記法第三二條第二項ニ依リ申請者ハ其事由ヲ疏明スヘク此點ニ關シテハ非訟事件手續法ノ準用ニ依リ裁判所カ職權ヲ以テ必要ナル證據調ヲ爲スヘキモノニアラス去レハ原審カ宅地内ノ方位ヲ定ムルハ其中心ヨリ視ルニ以テ通常トスルモノナルニ抗告人ニ於テ的確ナル疏明ヲ爲ササルモノトシ本件地上權ノ目的タル地域カ實際宅地ノ西南部ナルヲ誤リテ東南部ト表示シタル事實ヲ認メサルハ相當ナリ(大審院大正四年(ク)第一四七號同年四月十日民三部横田裁判長大倉楠原嘉山三宅各判事決定)

【關係事項】

抗告棄却○原審浦和地方裁判所○假登記處分ノ更正申請却下決定ニ對スル抗告事件○抗告人河野榮治郎代理人辯護士田中千代松

(三四)

牛馬商取締規則第一項 牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其ノ周旋ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ住所所在地ノ地方長官ニ顯出テ牛馬商ノ免許ヲ受クヘシ

牛馬商取締規則ニ所謂牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其周旋ノ營業トハ牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其周旋ノ行爲ニ因リ自ラ利得スルノ意思ヲ以テ之等ノ行爲ヲ繼續的ニ爲スコトヲ謂フモノトス

牛馬商取締規則第一條ノ牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其周旋營業ヲ爲サントスルモノハ云云牛馬商ノ免許ヲ受クヘシトノ規定ニ徴スルトキハ同規則ニ所謂牛又ハ馬ノ賣買交換又ハ其周旋ノ營業トハ普通商人ノ營業ノ如ク馬ノ賣買交換又ハ其周旋ノ行爲ニ因リ自カラ利得スルノ意思ヲ以テ之等ノ行爲ヲ繼續的ニ爲スコトヲ云フモノト解セサルヘカラス故ニ右賣買等ニ因リ自ラ利得スルノ意思ナキニ於テハ之等ノ行爲ヲ爲ストモ之ヲ目シテ自己ノ營業ナリト云フヘカラス而シテ原判決ハ他人ノ計算ニ於テ馬四ノ交換ヲ爲シタリト判示シアリテ他人ノ計算ニ於テ交換ヲ爲スモノ必スシモ營業者ニ非スト云フコト能ハスト雖トモ原判全文ノ全趣旨ニ徴スルトキハ被告人ハ其馬四ノ交換ニヨリ自ラ利得スルノ意思ナクシテ之ヲ爲シタリト云フニ在ルヲ以テ被告人自カラ牛馬商ヲ營ミタルモノニアラサルハ勿論同規則中ニ如斯行爲ヲ處罰スヘキ規定ナシ故ニ上告論旨ハ理由ナシ(大審院大正四年(レ)第五七八號同年四月十二日刑二部鶴裁判長鶴見水本藤波高瀬各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審仙臺地方裁判所○牛馬商取締規則違反被告事件○被告人佐藤富治郎

至當ノ見解ト信ス

(三五)

酒精及酒精含有飲料税法一五 免許ヲ受ケシテ酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造シタル者ハ其造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍製造ニ係ル酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料及ヒ其ノ容器、器具、器械ヲ沒收ス但罰金ハ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス  
燒酎又ハ泡盛ヲ原料トシ之ニ水ヲ加ヘタル木精ヲ混和シタル飲料ヲ製造シタル

大審院判

決

トキハ酒精ヲ含有スル一種ノ飲料ヲ製造シタルニ外ナラス

原判決認定事實ハ燒酎又ハ泡盛ヲ原料トシ之ニ水ヲ加ヘタル木精ヲ混和シタル飲料ヲ製造シタリト云フニ在リ木精ハ純酒精ニアラスシテ燒酎又ハ泡盛ノ成分中ニ包含セサル他ノ物質ナルカ故ニ之ヲ燒酎又ハ泡盛ニ混和シ純酒精ヲ含有スル一種ノ飲料ヲ製造シタルニ外ナラサレハ酒精及酒精含有飲料税法ニ違反シタルモノナルコト論ヲ俟タス故ニ原判決カ其認定事實ニ對シ同法第一五條ヲ適用シタルハ相當ナリ(大審院大正四年(レ)第四八九號同年四月十四日刑三部棚橋裁判長磯谷堀田柳川岡田各判事)

【關係事項】

上告棄却○原審東京控訴院○酒精及酒精含有飲料税法違反被告事件○被告人高野淺吉辯護人猪股淇清

至當ノ見解ナリ

(三六)

新聞紙法一九 新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ内容其他檢事ノ差止メタル檢査又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公判ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得ス  
同三六 第一九條第二〇條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

(一)新聞紙法第一九條ニ所謂豫審ノ内容トハ豫審ニ繫屬セル被告事件ニ付キ豫審判事ノ爲ス一切ノ處分及ヒ證據蒐集ノ結果ハ勿論豫審ノ目的タル被告事件ノ事實ヲモ包含スルモノトス

(二)豫審ニ付セラレタル被告事件ニ關シ公訴事實トシテ或犯罪事實ヲ新聞紙ニ登載スル以上ハ其事實ノ内容カ公訴事實ニ符合スルト否トヲ問ハス又其記事ノ

大審院判

出所カ當該官憲ニ在ルト編輯人ノ憶測若クハ傳聞風説ニ在ルトヲ論セス新聞  
紙法第一九條ニ於テ掲載ヲ禁止セル豫審ノ内容ニ該當スルモノトス  
新聞紙法第一九條ニ所謂檢事ノ差止メタル豫審中ノ被告事件ニ關スル事項ト  
ハ所謂豫審ノ内容ニ屬スル事項ヲ除外シ其他ノ被告事件ニ牽聯セル事項ヲ汎  
稱スルモノトス

(一) 新聞紙法第一九條ニ所謂豫審ノ内容トハ豫審ノ察屬セル被告事件ニ付キ豫審判  
事ノ爲ス一切ノ處分及ヒ證據蒐集ノ結果ハ勿論豫審ノ目的タル被告事件ノ事實ヲモ  
包含スト解スヘキモノトス蓋シ同條ニ於テ此等ノ事項ヲ新聞紙ニ掲載スルコトヲ禁  
止スルハ豫審ノ秘密ヲ漏洩シ其處分ノ發展ヲ妨碍スルノ虞アルニ因ルモノナレハ揭  
載禁止ノ必要ハ音ニ豫審判事ノ爲ス處分及ヒ其結果ノミニ限ルヘキニ非ス審理ノ目  
的タル被告事件ノ事實ニ付キテモ亦同一ニ存スレハナリ原判決ニ於テ被告カ新聞紙  
ニ掲載シタル事項トシテ判示セルモノハ固ヨリ豫審處分及ヒ其結果ニ關スルモノニ  
非スト雖モ豫審ニ付セラレタル訴名及ヒ犯罪事實ナルヲ以テ新聞紙法第一九條ニ所  
謂豫審ノ内容ニ該當スト謂ハサルヘカラス故ニ原判決カ判示事實ヲ以テ同條ノ違反  
トシテ同法第三六條ニ依リ處斷シタルハ相當ナリ

(二) 上告趣旨 新聞紙法第一九條ノ豫審ノ内容トハ被告事件ヲ包含スルモノト假定ス  
ルモ其被告事件タル必スヤ具體的ニシテ實質ヲ備ヘ且確定ノモノダラサル可ラス然  
ルニ本件ハ一方ニ於テ佐野眞之介ナル者上記罪名ノ下ニ起訴セラレ其事件ハ櫻川堤  
防工事ニ干シ他ノ事件ノ如ク縣ヨリ補助金ヲ騙取シタルモノナラントテ漠然其外形

【關係事項】

輪廓ヲ模寫シタルニ止リ深ク其實質ヲ捕捉シ來リテ之ヲ記載シタルモノニ非ス他ノ  
一方ニ於テハ縣ヨリ補助金ヲ騙取シタルモノナラントノ想像ヲ記述シタルニ過キス  
シテ確然公訴事實ヲ記載シタルモノニ非レハ未ダ以テ豫審ノ内容ヲ暴露シタルモノ  
ト謂フ可カラス否ラサレハ同法條ニ於テ豫審ノ内容ハ當然記載スルヲ得サルモ其他  
ノ干係記事ハ檢事ノ差止メアルマテハ自由ニ記載スルコトヲ得ルモノトシ二者ヲ區  
分シタル趣旨ヲ没却シ新聞紙上ニハ一旦豫審ニ付セラレタル事件ハ秋毫モ記載スル  
コトヲ得サルニ至ラン故ニ原裁判所ニ於テ本件ヲ上記ノ如ク新聞紙法ニ問疑處斷セ  
ラレタルハ擬律ノ錯誤アルモノト信ス

〔判決理由〕 豫審ニ付セラレタル被告事件ニ關シ公訴事實トシテ論旨所掲ノ如キ犯罪  
事實ヲ新聞紙ニ記載スル以上ハ其事實ノ内容カ果シテ公訴事實ニ符合スルト否トヲ問  
ハス其記事ノ出所カ當該官憲ニ在ルト被告ノ臆測若クハ傳聞風説ニ在トヲ論セス等  
シク被告事件ノ内容ヲ推知セシムルニ足リ因テ以テ豫審處分ノ發展ヲ妨碍スル虞ア  
ルヲ以テ新聞紙法第一九條ニ於テ掲載ヲ禁止セル豫審ノ内容ニ該當スト謂ハサルヘ  
カラス而シテ同條ニ所謂檢事ノ差止メタル豫審中ノ被告事件ニ關スル事項トハ所謂  
豫審ノ内容ニ屬スル事項ヲ除外シ其他ノ被告事件ニ牽聯セル事項ヲ汎稱スルモノト  
解スヘキヲ以テ所論新聞紙ノ掲載記事カ豫審ノ内容ニ屬スル事項ナル以上ハ檢事ノ  
差止メ必要トスル掲載禁止ノ事項ニ該當セサルヤ勿論ナリ(大審院大正四年(レ)第四〇  
九號同年四月二日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)



上告棄却○原審水戸地方裁判所○新聞紙法違反被告事件○被告人北條辰彦辯護人大森富彌同高尾傳七

三七

不動産登記法三五第一項 登記申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス  
二 登記原因ヲ證スル書

證書カ公正證書トシテ強制執行ノ適法ナル債務名義タルヲ得サルノ事由ノミニ  
テハ未タ其證書カ抵當權設定ノ登記原因ヲ證スル書面ニアラスト謂フヲ得ス

原告人ハ右證書カ公正證書トシテ強制執行ノ適法ナル債務名義タルヲ得ルコトヲ理  
由トシテ右證書ニ基キ爲サレタル前記抵當權ノ登記ヲ否認セントスルモ單ニ公正證  
書カ強制執行ノ適法ナル債務名義タラサルコトノミヲ以テシテハ未タ直ニ右證書カ  
全然證據力ナキモノナリト論スヘカラサルヲ以テ原告人主張ノ事由ヲ以テハ未タ右  
證書カ登記原因ヲ證スル書面ニアラスト謂フヲ得ス從ツテ抵當權ノ登記ハ適法ニ成  
立シタリト見ルノ外ナシ(東京地方大正四年(ソ)第九六號同年四月二十一日民三部神谷  
裁判長淺野三宅各判事決定)

【關係事項】

建物競落許可決定ニ對スル抗告事件○原告人吉田善次郎訴訟代理人辯護士杉山賢三

三八

競賣法二七第三項 左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス

- 一 申立人 二 債務者及ヒ所有者 三 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者 四 不動産上ノ權利者トシテ  
其權利ヲ證明シタル者
- 同三第二項 競落ノ手續：…ニ關スル民事訴訟法：…第六七七條乃至第六八三條：…ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之

競賣不動産ニ付キ所有權取得ノ假登記ヲ爲シタルニ止マル者ハ競賣手續ノ利害  
關係人ニアラス

民事訴訟法六八〇第一項 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其判決ニ對  
シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

競賣法ニ依ル競落許可決定ニ對シ抗告ヲ爲シ得ヘキ者ハ競賣法第二七條第三項ニ掲  
ケラレタル競賣手續ノ利害關係人並ニ民事訴訟法第六八〇第二項ニ舉ケタル競落人  
及競買人ニ限ルモノナルコトハ競賣法第三二條第二項ニ依リ明ナリ然ルニ今競賣不  
動産ニ付所有權取得ノ假登記ヲ爲シタルニ止マル者ハ競賣法第二七條第三項第二號  
ノ所有者ニアラサルノミナラス其第三號ニ所謂登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利  
者其第四號ニ所謂不動産上ノ權利者トシ其權利ヲ證明シタル者ニモ當ラス蓋シ右ノ  
權利者ハ何レモ其權利ヲ第三者ニ對シ得ル者ナラザサルヘカラサルモノナルニ所  
有權取得ノ假登記ヲ爲シタルニ止マル者ハ其本登記ナキ限り其所有權取得ヲ第三者  
ニ對抗スルコトヲ得サレハナリ然ラハ假登記權利者ハ競賣手續ノ利害關係人ニアラ  
サルコト明白ナリト云フヘシ今本件ニ於テ原告人ハ本件競賣不動産ニ付所有權取得  
ノ假登記ヲ爲シタル權利者ナリトシテ競落許可決定ニ對シ抗告ヲ爲スモノナルヲ以  
テ原告人ハ適法ニ該抗告ヲ申立ツルコトヲ得ヘキモノニ屬セサルヤ明ニシテ其抗告  
ハ不適法トシテ棄却スヘキモノト謂ハサルヘカラス(東京地方大正四年(四)第一〇九號  
同年四月二十六日民三部神谷裁判長淺野三宅各判事決定)

【關係事項】

債務許可決定ニ對スル抗告事件〇抗告人岩本鶴之助  
至當ノ決定ナリト信ス

(三九)

鑛業法六九 先取特權質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ使用又ハ收用ニ因リテ債務者ノ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

民事訴訟法六九八 金錢ノ債權ヲ差押フ可キトキハ裁判所ハ第三債務者ニ對シテ債務者ニ支拂ヲ爲スコトヲ禁シ又債務者ニ對シテ債權ノ處分殊ニ其取立ヲ爲スコカラサルコトヲ命ス可シ

差押命令ハ職權ヲ以テ第三債務者及ヒ債務者ニ之ヲ送達シ又債權者ニハ其送達シタル旨ヲ通知ス可シ差押ハ第三債務者ニ對スル送達ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

同六〇〇 差押ヘタル金錢ノ債權ニ付テハ差押權者ノ選擇ニ從ヒ代位ノ手續ヲ要セスシテ之ヲ取立ツル爲メ又ハ支拂ニ換ヘ券面額ニテ差押債權者ニ之ヲ轉付スル爲メ命令アラントテ申請スルコトヲ得

右命令ノ送達ニ付テハ第五九八條第二項ノ規定ヲ準用ス

同六〇一 支拂ニ換ヘ券面額ニテ債權ヲ轉付スル命令アル場合ニ於テハ其債權ノ存スル限りハ第五九八條第二項ノ手續ヲ爲スニ因リ債務者ハ債權ノ辨濟ヲ爲シタルモノト看做ス

民法四八一 支拂ノ差止ヲ受ケタル第三債務者カ自己ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタルトキハ差押債務者ハ其受ケタル損害ノ限度ニ於テ更ニ辨濟スヘキ者ヲ第三債務者ニ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ第三債務者ヨリ其債權者ニ對スル求償權ノ行使ヲ妨ケス

劣等順位ノ物上擔保債權者又ハ物上擔保ヲ有セサル債權者カ鑛業法ニ於ケル補償金ノ差押ヲ爲シタル場合ト雖モ其補償金ハ優先權ノ目的トシテ保存セラルルモノナレハ優先權アル債權者ハ之ニ對シテ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘク自己カ先ンシテ之カ差押ヲ爲サザリシコトハ其優先權ヲ行使スルノ妨トナルコトナシ

順位ノ劣等ナル債權者又ハ普通債權者カ優先權ヲ有スル債權者ニ先テテ補償金ノ差押ヲ爲シ且優先權者ヲ無視シテ其轉付ヲ受ケタルトキハ其轉付命令ハ優先權者ニ對シテ其效力ヲ有セサルヲ以テ優先權者ハ尙ホ其補償金ニ對シテ優先權ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス但第三債務者カ優先權者ヨリ差押ヲ受ケタルノ前差押債權者ニ對シテ辨濟ヲ爲シタルトキハ其辨濟ハ有效ナルヲ以テ第三債務者ハ更ニ優先權ニ對シテ支拂ヲ爲スノ義務ナク優先權者ハ其權利ヲ害シテ支拂ヲ受ケタル差押債權者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得ルニ過キサルモノトス

鑛業法第六九條ノ規定ハ民法第三〇四條ニ規定スル物上代位ノ原則ノ適用ヲ示シタルモノニシテ物上擔保ヲ有スル債權者カ擔保物ヲ代表スル補償金ニ對シテ其權利ヲ行使スルニハ其拂渡前ニ之カ差押ヲ爲スコトヲ要スルハ民法第三〇四條ニ於ケルト同一ナリ蓋シ此場合ニ於ケル差押ハ被收用者タル債務者ニ對シテ補償金ノ處分ヲ禁シ收用者タル第三債務者カ辨濟其他ノ方法ニ因リ之カ請求權ヲ消滅セシメ債權者ヲシテ代表物タル補償金上ニ有スル優先權ヲ喪失セシムルノ結果ヲ豫防スルヲ以テ唯一目的トスルモノニシテ優先權ノ目的タル補償金ハ差押ノ處分ニ依リテ完全ニ保存セラレ優先權者ハ之ニ依リテ其權利ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシ何トナレハ補償金ニ對スル差押ハ一面其代物タル特定性ヲ保全スルト同時ニ他ノ一面ニ於テ其消滅ヲ防止シ以テ優先權者ヲシテ補償金上ニ其權利ヲ行使スルコトヲ得セシムルモノナレハナリ如上差押ノ性質ニシテ既ニ斯ノ如クナリトセハ優先權者カ自身ニ差押ヲ爲シタル場合ハ勿論劣等ノ順位ヲ有スル物上擔保債權者又ハ物上擔保ヲ有セサル債權者

カ補償金ノ差押ヲ爲シタル場合ト雖モ其補償金ハ優先權ノ目的トシテ保存セラレハキ筋合ニシテ優先權アル債權者ハ之ニ對シテ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘク自己カ先シテ之カ差押ヲ爲サリシコトハ其優先權ヲ行使スルノ妨ケトナルコトナシ換言スレハ順位ノ劣等ナル優先權者又ハ普通債權者ハ優先權ヲ有スル債權者ニ先ダテテ補償金ノ差押ヲ爲シタル理由トシテ其優先權ヲ否定シ優先權者ヲ無視シテ之カ取立ヲ爲シ又ハ取立ニ代ヘ券面額ニテ之ヲ自己ニ轉付セシメ優先權者ノ權利ヲ架空ナラシムルコトヲ得ス却テ此場合ニ於テモ優先權者ノ權利ヲ尊重シ之ヲシテ其優先權ノ順位ニ從ヒ満足ヲ得セシメ尙ホ剩餘アル場合ニアラサレハ其債權ノ取立ヲ爲シ又ハ之カ轉付ヲ爲サシムルコトヲ得サルモノトス故ニ順位ノ劣等ナル債權者又ハ普通債權者カ優先權ヲ有スル債權者ニ先立テテ補償金ノ差押ヲ爲シタル場合ト雖モ優先權者ヲ無視シテ補償金ノ轉付ヲ受クルノ所爲ハ優先權者ノ權利ヲ害スルモノニシテ其轉付命令ハ優先權者ニ對シテ效力ヲ有セサルヲ以テ優先權者ハ尙ホ其補償金ニ對シテ優先權ヲ主張スルコトヲ得ヘシ蓋シ此場合ニ於テモ優先權ノ目的タル補償金ハ尙ホ代表物タル特定性ヲ保有シ優先權ノ行使ヲ可能ナラシムルヲ以テナリ但第三債務者カ優先權者ヨリ差押ヲ受クルノ前差押債權者ニ對シテ辨濟ヲ爲シタルトキハ其辨濟ハ有效ナルヲ以テ優先權者ノ權利ノ目的物ハ茲ニ消滅ニ歸シ第三債務者ハ更ニ優先權者ニ對シテ支拂ヲ爲スノ義務ナク優先權者ハ其權利ヲ害シテ支拂ヲ受ケタル差押債權者ニ對シテ其返還ヲ請求スルノ權利ヲ有スルニ過キサルモノトス本件ニ於テ原院ノ確定セル所ニ依レハ上告銀行ハ明治四十二年五月十五日被上告人川野米太郎茂木斗喜太郎ニ對シ其所有ナラシ銀業用被收用地抵當權ヲ設定セシメテ金員ヲ貸與シ

【關係事項】

元利殘額一萬四千三十二圓七十八錢ノ債權ヲ有セシニ被上告人成清キハ明治四十二年七月四日右川野米太郎外一名ニ對スル強制執行上同人等カ收用者三井合名會社ニ對シテ有スル補償金六千七百二十一圓廿錢ノ請求權ヲ差押ヘ同日直ニ轉付命令ヲ得各命令カ同月六日債務者及ヒ第三債務者ニ送達セラレ又上告銀行ハ同年十二月十四日ニ至リ同シク補償金ノ請求權ニ對シテ差押命令ヲ得同月十八日該命令ハ債務者及ヒ第三債務者ニ送達セラレ而シテ第三債務者タル三井合名會社ハ是ヨリ先キ假リニ被收用地ノ所有者ヲ補償金ノ受領者ト指定シ之ヲ大牟田支金庫ニ供託シタル事實ナルヲ以テ被上告人成清キハ前示ノ理由ニ依リ上告銀行ノ抵當權ヲ無視シ轉付命令ニ基キ大牟田支金庫ヨリ補償金ノ轉渡ヲ請求スルコトヲ得被上告人等ハ上告銀行ニ於テ之カ轉渡ヲ請求スルコトヲ承認セサルヘカラサル筋合ナリ然ルニ原院カ被上告人成清キハ於テ轉付命令ニ依リ補償金ノ債權ヲ取得シ被上告人川野米太郎等カ之ヲ喪失シタル以上ハ上告銀行ハ最早補償金ニ對シ其抵當權ヲ實行シ能ハサル如ク判示シタルハ續業法六九條ヲ不當ニ適用シタル不法アル判決ナリ(大審院大正三年(オ)第九六號同四年三月六日民三部橫田裁判長田上大倉入江三宅各判事判決)

【參照學說判例】

破産自判○原審長崎控訴院○供託金受領承認請求事件○上告人株式會社草野銀行○訴訟代理人辯護士矢野吉岡尾越辰雄被上告人成清キハ二名訴訟代理人辯護士羽田智證

一 債務者カ第三債務者ニ對スル金品ノ請求權ヲ第三者ニ讓渡シタル場合ニ於テモ亦第三〇四條但書ノ規定ヲ適用シ先取特權者カ其權利ヲ保全スルニハ債務者カ第三債務者ニ對シテ讓渡ノ通知ヲ爲シ又ハ第三債務者カ其讓渡ヲ承認スルノ前ニ於テ差押

ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス(法學博士横田秀雄氏物權法六一〇頁)  
 二 質權ハ其物體ノ代位物ヲ請求スル債權ニモ及ブモノトス：此場合ニ於テハ其債權ニ付キテ質權ト同順位ノ權利質權ヲ法律ノ規定ニ因リテ成立スルモノトス：但シ此質權ノ成立スルニ一ノ條件アリ即チ其代位物ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要スルコト是ナリ故ニ此質權ハ成立セズ又既ニ拂渡又ハ引渡アルトキハ此質權ハ成立スルコト能ハス蓋シ此條件ナシトスレバ第三者ハ質權ノ存在ヲ知ルノ道ナキカ故ニ不測ノ損害ヲ受クル虞アルカ故ナリ(法學博士川名兼四郎氏物權法要論二二二頁)  
 三 抵當權者カ土地收用補償金請求權ノ差押ヲ爲ス以前ニ債務者カ之ヲ第三者ニ讓渡シ又ハ第三者カ之ニ付キ轉付命令ヲ受ケタルトキハ其抵當權ハ消滅スルモノトス(大坂控訴院判決本書第三卷民法七四七頁)

後順位ノ物上擔保權者又ハ普通債權者カ補償金ノ差押ヲ爲シタル場合ニ於テモ其補償金ハ先順位ノ擔保權ノ目的トシテ保存セラルルモノトナス本判決ノ見解ハ吾人其根據ヲ知ルニ苦ム所ナリ夫レ代位債權ニ對シテ擔保權ノ效力ヲ及ハシムルニ付キ差押ヲ必要トシタルハ差押後ニ於ケル債權ノ處分又ハ取立ハ差押債權者ニ對シテ其効ナキヲ以テ斯カル擔保權者ヲシテ其權利ヲ保全セシムルモノニ外ナラス而シテ差押ニヨリテ生スル利益ハ單ニ差押債權者ニ於テ之ヲ享受スヘキモノナレハ差押後ニ於テ爲シタル債權ノ處分取立ハ其以外ノ債權者ニ對シテハ其効力ヲ生スヘク從テ他人ノ爲シタル差押ニ依リ補償金カ先順位ノ擔保權ノ目的トシテ保存セラルルノ効ナキヤ明ナリト謂フヘシ  
 右ニ述ヘタル如ク差押ハ擔保權ノ保全條件ナレハ差押以前ニアリテハ優先權者ハ補償金ニ對シテ其權利ヲ行使スル能ハサルハ勿論第三者ニ對シテ其優先權ヲ主張スルコトヲ得ス故ニ其以前ニ於テ債務者カ其補償金債權ヲ他人ニ讓渡シ又

ハ之カ取立免除等ヲ爲ストキハ斯カル處分カ優先權ノ目的ヲ消滅セシムルノ結果ヲ生スヘキハ明瞭ナリ果シテ然ラハ特ニ第三者カ補償金ヲ差押轉付シタル場合ニ於テノミ其効力ヲ否認スヘキ理由ハ到底之ヲ發見スルコト能ハス固ヨリ差押ヘタル債權ニ對シテ更ニ差押ヲ爲スコトハ法ノ禁セサル所ナレハ後順位ノ擔保權者又ハ普通債權者カ補償金ノ差押ヲ爲シタル後ニ於テモ先順位ノ擔保權者ニ於テ更ニ之ヲ差押ヘ以テ其優先權ヲ保全スルコトハ妨ナシ(而シテ此後ニ於テハ第三者ハ轉付ヲ得ル能ハス本書第三卷民法三〇六頁大審院判決ト雖モ其保全以前ニ於テ補償金カ轉付セラレタルトキハ其轉付ハ完全ニ其効力ヲ生シ先順位ノ擔保權者ハ最早其權利ヲ保全スルニ由ナキナリ從テ其轉付ヲ受ケタル債權者カ第三債務者ヨリ辨濟ヲ受クルモ優先權者ノ權利ヲ害シタルモノト謂フコトヲ得ス優先權者ハ差押債權者ニ對シテ其返還ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノニアラサルナリ判決ノ見解ノ如クスルトキハ擔保權者ハ差押ナクシテ其權利ヲ行使シ得ルコトトナリ明文ノ趣旨ニ反スヘシ

四〇

衆議院議員選舉法第一頁 衆議院議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス  
 同一三第二項 政府ノ請負ヲ爲ス者又ハ主トシテ政府ノ請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ被選舉權ヲ有セス  
 同八〇 選舉ノ效力ニ關シ異議アル選舉人ハ選舉長ヲ被告トシ選舉ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ用訴スルコトヲ得  
 前項控訴院ノ判決ニ不服アル者ハ大審院ニ上告スルコトヲ得

同七〇第二項 前項の場合を除クノ外選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ結果ニ依リ必要ナルトキハ本條ノ例ニ依リ更ニ當選人ヲ定ム

同八二 當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシ第七五條ノ氏名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴ニ出訴スルコトヲ得(但書略)

民事訴訟法一三 内國ニ住所ヲ有セサル者ノ普通裁判權ハ本人ノ所在地ニ依リテ定マル若シ其現在地ノ知レサルカ又ハ外國ニ在ルトキハ其最後ニ有セシ内國ノ住所ニ依リテ定マル

然レトモ外國ニ住所ヲ有スル者ニ對シテハ内國ニ於テ生シタル權利關係ニ限り前項ノ裁判權ニ於テ訴ヲ起スコトヲ得

同一九〇 訴ノ提起ハ訴狀ヲ裁判所ニ差出シテ之ヲ爲ス此訴狀ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 當事者及ヒ裁判所ノ表示

二 起シタル請求ノ一定ノ目的物及ヒ其請求ノ一定ノ原因

三 一定ノ申立

此他訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒ之ヲ作り且裁判所ノ管轄カ訴訟物ノ價額ニ依リ定マル場合ニ於テ訴訟物カ一定ノ金額ニ非サルトキハ其價額ヲ掲クヘシ

同一九五 訴訟物ノ權利拘束ハ訴狀ノ送達ニ因リテ生ス權利拘束ハ左ノ效力ヲ有ス

第三 原告ハ訴ノ原因ヲ變更スル權利ナシ但變更シタル訴ニ對シ本案ノ口頭辯論前被告カ異議ヲ述ヘサルトキハ此限ニ在ラス

(一) 當選訴訟ニ於ケル訴ノ原因タル事實ノ提出ニ付テハ自由ニ新原因ヲ追加シ得ヘク從テ一旦法定期間ニ提起セラレタル訴ナル以上ハ新原因ノ追加當時既ニ法定期間ヲ經過セリトスルモ尙之ヲ適法ノモノトセサルヘカラス

當選訴訟ノ原告カ自己ヲ當選人トスル旨ノ判決ヲ求ムルハ不當ナリト雖モ是只此點ニ關スル原告ノ請求理由ナキニ止マリ之カ爲メニ其訴ヲ不適法ト爲スヘキ謂レナシ

(二) 選舉訴訟若クハ當選訴訟ハ選舉ノ行ハレタル地ヲ管轄スル控訴院ニ出訴スヘキモノトス

我領土内ト雖モ裁判所構成法及ヒ民事訴訟法ノ施行區域外ニ在ル裁判所ハ是等法律ニ所謂裁判所トシテ該法上認メラレタル管轄權ヲ有スヘキモノニアラサレハ其適用ノ上ニ於テハ是等法律施行區域外ノ地ハ之ヲ外國ト同一ニ看做ササルヘカラス

朝鮮ニ住所ヲ有スル者ハ民事訴訟法ノ適用ニ付テハ外國ニ住所ヲ有スルモノト看做ササルヘカラス

(三) 衆議院議員選舉法第一三條ニ所謂政府ノ請負ヲ爲ス者トハ民法上ノ請負ヲ爲ス者ハ勿論常ニ政府ト契約ヲ爲シ一定ノ報酬ヲ得テ政府ノ爲メニ其需用ヲ供給スルコトヲ業トスル者ハ總テ之ヲ包含スルモノトス

(一) 選舉法第八二條所定ノ當選訴訟ハ同第八〇條所定ノ選舉訴訟ト均シク其目的トスル所專ラ選舉若シクハ當選ノ真正ナランコトヲ期スルニアレハ是等訴訟ニ於テハ原告ハ其一切ノ原因事實ヲ主張シ得ヘク且ツ各個ノ原因事實ニ付キ各別ニ訴ヲ提起シ數個ノ判決ヲ受ケシメンヨリハ寧ロ一切ノ原因事實ヲ網羅シ單一ナル判決ヲ受ケシムルヲ希望スヘキ性質ノモノナルヲ以テ訴ノ原因タル事實ノ提出ニ付テハ何等制限スルコトナク自由ニ新原因ヲ追加シ得ヘク從テ一旦法定期間内ニ提起セラレタル訴ナル以上ハ新原因ノ追加當時既ニ法定期間ヲ經過セリトスルモ尙之ヲ適法ノモノトセサルヘカラス故ニ原告代理人カ法定期間内ニ本訴ヲ提起シ口頭辯論ニ於テ被

告得票中無效投票アル旨ノ新原因ヲ追加シタル當時ハ既ニ法定期間ヲ經過シ居リタルコト明白ナレトモ之レカ爲メニ訴テ不適法ト謂フコトヲ得サルニヨリ被告代理人ノ新訴却下ノ申立ハ之ヲ採用シ難シ又原告カ其訴狀ニ於テ原告ヲ當選人トスル旨ノ判決ヲ求メ居レルコトハ被告代理人抗辯ノ如クニシテ衆議院議員選舉法第七〇條第三項ニヨレハ當選訴訟ノ結果當選無効トナリタルトキハ同條ノ例ニヨリ當選者ヲ定ムヘク當選訴訟ノ判決ニ於テ其當選ヲ定ムヘキモノニアラサルコト明白ナリト雖モ是只此點ニ關スル原告ノ請求理由ナキニ止マリ之カ爲メニ其訴テ不適法ト爲スヘキ謂レナキカ故ニ之ヲ不適法トスル前提ノ下ニ本件訴ノ全體ニ亙リテ不適法ナリト論スル被告代理人ノ抗辯ハ其理由由ナシ況ンヤ此點ノ請求ハ當選無効ノ請求ト全ク別個ノ事項ニ屬スレハ價リニ其申立テ不適法トスルモ之カ爲メニ當選訴訟ヲモ共ニ不適法ナラシムル理ナク而カモ此申立ハ原告代理人カ口頭辯論ノ際之ヲ撤回シタルカ故ニ最早被告代理人ニ於テ其不適法ヲ攻撃スル能ハサルニ至リタルモノナルニ於テオヤ以上執レヨリ視ルモ被告代理人ノ訴不適法ノ抗辯ハ其理由ナキ所トス

(二) 衆議院議員選舉法第八〇條ニハ選舉ノ效力ニ關シ異議アル選舉人ハ選舉長ヲ被告トシ選舉ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得トアリ又同第八二條ニハ當選ヲ失ヒタル者當選ノ效力ノミニ關シ異議アルトキハ當選人ヲ被告トシテ第七五條告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得ト規定シアリテ共ニ其何レノ控訴院ニ出訴スヘキヤチ明言シ居ラサルモ此兩條ニ於ケル規定ニアリテ共ニ其何テ選舉ノ行ハレタル地ヲ管轄スル控訴院ヲ指示セルモノナルコトハ自ラ之ヲ言外ニ認メ得ルノミナラス選舉訴訟若シクハ當選訴訟ノ性質及ヒ審理ノ便否等ニ鑑ミルト

キハ之ヲ選舉ノ行ハレタル地ヲ管轄スル控訴院ニ出訴スヘキ法意ト解スルヲ以テ最モ正論ヲ得タルモノトセサルヘカラス假リニ衆議院議員選舉法第一〇八條ニ選舉人名簿ニ關スル訴訟選舉訴訟及ヒ當選訴訟ニ付テハ本法ニ規定シタルモノヲ除ク外總テ民事訴訟ノ例ニ依ルトアリテ前示同法第八〇條第八二條ハ本條ノ所謂特別規定トシテ事物ノ管轄ヲ規定シ其土地ノ管轄ニ付テハ之ヲ民事訴訟法ノ規定ニ依ラシムル法意ナリト解スヘキモノトスルモ被告ハ内地ニ住所ヲ有セスレテ朝鮮釜山ニ住居スルコトハ當事者間ニ爭ナキ事實ニシテ朝鮮ハ我領土ナリト雖モ現在ノ我制度ニ於テハ朝鮮ニ施行セラル、法令ハ其效力朝鮮ヲ限リトシ内地ニ於テハ遼由ノ效力ナク又内地ノ法令其效力ヲ當然朝鮮ニ及ホスモノニアラスレテ其間全ク連絡ヲ缺キ恰モ互ニ外國法ニ異ナラサル關係ニ在ルノミナラス翻テ我民事訴訟法ヲ觀ルニ其裁判所ノ管轄ニ關スル規定ハ裁判所構成法及ヒ民事訴訟法ノ行ハル、區域ヲ標準トシテ規定セラレアルコト管轄ニ關スル規定ノ全體ヨリ容易ニ之ヲ窺知シ得ル所ナルカ故ニ我領土内ナリト雖モ其施行區域外ニ在ル裁判所ハ是等法律ニ所謂裁判所トシテ該法上認マラレタル管轄權ヲ有スヘキモノニアラサルニヨリ其適用ノ上ニ於テハ是等法律施行區域外ノ地ハ之ヲ外國ト同一ニ看做ササルヘカラス去レハ民事訴訟法第一三條ニ所謂内國トハ右二法ノ施行セラル、區域ヲ謂ヒ所謂外國トハ其區域外ヲ謂フモノト解スヘキカ故ニ前認定ノ如ク被告カ内地ニ住所ヲ有セスレテ朝鮮ニ住所ヲ有スル以上ハ前示法令ノ關係上民事訴訟法ノ適用ニ於テハ被告ハ内國ニ住所ヲ有セスレテ外國ニ住所ヲ有スルモノト看做サ、ルヘカラス殊ニ衆議院議員選舉法ヲ施行セラレサル朝鮮ニ存在スル裁判所ハ同法ニ基ク公法上特種ノ爭訟ニ付テハ民事刑事ノ事件

ト異ナリ絶對ニ其裁判權ヲ有スヘカラサルモノナルヲ以テ同法上ノ争訟ニ民事訴訟法ヲ適用スルニ當リテハ一層以上ノ解釋ヲ是認スヘキ理由アルモノト謂フヘシ去レハ本件被告ニ對スル當選無効訴訟ハ民事訴訟法第一三條第二項ノ準用ニヨリ長崎縣對馬選舉區ニ行ハレタル選舉ヲ以テ同條ノ所謂内國ニ於テ生シタル權利關係ト同視シ内地ニ於ケル被告ノ最後ノ住所ニヨリテ其裁判權ヲ定ムヘキモノトス而シテ被告ノ本籍地カ長崎縣對馬國嚴原町ニ在ルコトハ被告ノ認ムル所ナルニヨリ被告ハ該本籍地ヨリ朝鮮ニ移住シタルモノト認ムルヲ以テ被告ノ本籍地ハ即チ内國ニ於ケル被告ノ最後ノ住所地ト認ムヘキト同時ニ此地ヲ管轄スル當院ハ當然本訴ノ管轄權ヲ有スルモノト謂ハサルヘカラス然ラハ被告代理人ノ管轄權ノ抗辨ハ其執レノ點ヨリ視ルモ理由ナキコト明白ナルカ故ニ之ヲ排斥スヘキモノトス

(三) 甲第二號證ノ一、二ハ其大池石炭部代理人藤崎孝平ナル表示ハ藤崎孝平カ被告ノ代理資格ニ於テ署名シタルコトヲ被告代理人ニ於テ認メタルカ故ニ同號證ニヨリ被告カ釜山監獄署ニ對シテ見積書或ハ之ト共ニ見本ヲ提出シ之ニ基ク監獄署ノ注文ニ對シ大正三年九月一回同年同月三回同年十一月十二月各一回同四年三月及ヒ五月各一回五千斤乃至三萬五千斤ノ範圍ニ於テ見積書及ヒ見本ニ適スル石炭ヲ供給シ來リ殊ニ大正四年三月供給ノ石炭ハ被告ニ於テ同月二十三日見積書ヲ提出シ即日ノ發議ニ對シ同月二十八日其供給ヲ爲シタルコトヲ認メ得ヘク又甲第一號證ノ一乃至五十四ニヨレハ被告ハ明治四十一年九月ヨリ大正四年三月三十一日ニ亙リテ第十三師團經理部長朝鮮駐劄陸軍倉庫長若シテハ同倉庫釜山支庫長等ト前後五十三回陸軍需用ノ米麥干草等ニ關シ購買契約ヲ爲シ之ヲ供給シ來リタル事實ヲ認メ得ル所ニシ

テ今其契約ノ内容ヲ視ルニ被告ハ豫メ一定ノ標本ヲ提出シ置キ供給品ノ數量供給ノ場所時期及ヒ細包ノ方法等ヲ詳細ニ定メ検査ノ上合格シタルモノニアラサレハ供給スルコトヲ得サル旨ヲ確約シ且ツ多クハ完全ナル履行ヲ確保スル爲メ被告ヨリ保證金ヲ提供シ其之ヲ提供セサルモノニ於テモ被告ニ於テ不履行ヨリ生スル損害ヲ賠償スヘキコトヲ特約シ又毎回供給ノ數量モ相當多量ニ上リ一回ニ供給スルモノト數回ニ供給スルモノトアリテ代金ハ供給ヲ終リタル後若シクハ概供給ノ物品ニ對スル代金ノ幾部ヲ支拂ハルヘキ旨ノ約款ヲ定メアルモノニシテ尙甲第一號證ノ五十四ニヨレハ大正四年三月六日契約ノ玄米ニ付テハ被告ハ同月九日二十九日及ヒ三十一日ノ三回ニ其供給ヲ爲シタル事實ヲ認メ得ル所トス抑モ衆議院議員選舉法第一三條第二項立法ノ理由ハ選舉當選後不正ノ利益ヲ營ミ又ハ議員トシテ其意ニアラサル行爲ヲ爲シ正當ニ職務ヲ盡サハルコトヲ慮リタルニ基因スルモノナレハ同條ニ所謂政府ノ請負ヲ爲ス者トアルハ民法ニ所謂請負ト其意義ヲ同フセス通俗ニ謂フ所ノ廣キ意味ニ於ケル請負ヲ謂フモノニシテ民法上ノ請負ヲ爲ス者ハ勿論民法上請負ニアラサルモ常ニ政府ト契約ヲ爲シ一定ノ報酬ヲ得テ政府ノ爲メニ其需用ヲ供給スルコトヲ業トスル者ハ總テ之ヲ包含スルモノト解スルヲ正解トスヘク彼ノ單ニ政府ト現金賣買等單一ノ取引ヲ爲シタルニ止マルモノハ之ヲ除キ其他荷モ營業トシテ政府ノ爲メニ其需用ヲ供給スルコトヲ目的トシ有價ノ契約ヲ爲ス以上ハ其供給力一定ノ時間繼續スルモノナルヲ將タ又政府需用ノ時々別個ノ契約ヲ以テ供給スルトヲ問ハス又其供給ノ目的物ノ如何ヲ論セス之ヲ同條ニ所謂請負ヲ爲ス者ト謂ハサルヲ得ス然リ而シテ前照認定ノ如ク被告ハ政府ニ對シ時間的ニ繼續セサルモ數ヶ月若シクハ數年ニ亙

政府需用ノ時々數回若シテハ數十回反覆シテ有價的ニ需用品ヲ供給シ來ザルニ  
 ミナラス之ヲ前掲各契約ノ内容ニ照ストキハ被告ハ世當ニ所謂御用達ト稱スルモノ  
 ニ外ナラシテ政府ノ爲メニ需用ヲ供給スルコトヲ營業トスルモノナルコト洵ニ明瞭  
 ニシテ而カモ大正四年三月二十五日選舉施行ノ當時ハ現ニ其契約關係存在シ居リ  
 ルコト前示認定ノ如クナルヲ以テ被告ハ衆議院議員選舉法第一三條第二項ニ所謂  
 府ノ請負ヲ爲ス者ニ該當スルモノト認ム被告代理人援用ノ甲號證ニヨリテハ以上ニ  
 反スル心證ヲ得ルニ足ラサルモノト被告代理人ハ被告カ政府ニ供給シタル物品ハ  
 被告取引品中ノ一少部分ニ過キサルト同時ニ政府需用品中一部ノ供給ニ過キサルカ  
 故ニ所謂政府ノ請負ヲ爲ス者ニアラスト論スレトモ衆議院議員選舉法第一三條第二  
 項中法人ニ付テハ主トシテトノ文調ヲ冠シアルモ自然人ニ付テハ廣ク政府ノ請負ヲ  
 爲ス者トノミアリテ毫モ新ル制限的文調ナキカ故ニ自然人ニアリテハ政府ノ請負ヲ  
 爲スコトヲ主タル目的ト爲ス者ハ勿論其營業ノ傍ヲ政府ノ需用ヲ供給スルコトヲ營  
 業ト爲ス者モ亦之ヲ包含スルモノト解スルヲ妥當トスヘク且尙タモ政府ノ需用ヲ供  
 給スル者ニシテ之ヲ請負ト認メ得ル以上ハ其供給ヲ一手ニ引受ケタルト將タ其一部  
 ナ引受ケタルトハ敢テ問フ所ニアラスト解スルカ故ニ右被告代理人抗辯ノ事實ヲ眞  
 相トスルニ叙上ノ説明ニ對シテ來ササルニヨリ右被告代理人ノ所論ハ其理由ナキト  
 同時ニ當院カ此事實ノ立證ノ爲メニ被告代理人ノ證據調ノ申請ヲ排斥シタル所  
 以テラトス既ニ然ラハ被告ハ衆議院議員選舉法第一三條第二項ニヨリ被選舉權ヲ有  
 セサルヲ以テ其當選ハ無効ナリトス依テ原告ノ本訴請求ハ既ニ此點ニ法テ其理由ア  
 ラト認メ訴訟費用ニ付キ民事訴訟法第七二條ニ則リ主文ノ如ク判決ス(長崎控訴院大

正四年(ウ)第二號同年七月十日谷岡裁判長淺沼松田各判事判決)

【關係事項】

衆議院議員當選無効訴訟事件○原告浦瀨濟之訴訟代理人辯護士本田恒之同重藤鶴太郎被告大池忠助訴訟代理人辯護士則元由緒  
 同白田正胤

【參照判例】

選舉訴訟ノ場合ニ於テハ訴ノ原因タル事實ノ提出ニ付テハ何等ノ制限ナク最初提出シタル原因ニ代フルニ他ノ原因ヲ以テスル  
 モ或ハ更ニ新ナル原因ヲ加フルモ自由ナルヘク從テ又一旦三十日ノ法定期間内ニ訴ヲ提起シタルトキハ其訴訟進行中ハ假令法  
 定期間經過後ト雖モ訴ノ原因ヲ變更シ又ハ新ナル原因ヲ附加スルコトヲ得ヘキモノトス(大審院判決本書第三卷諸法一四頁)

【同趣旨判例】

衆議院議員選舉法第一三條第二項ニ所謂請負ノ範圍ハ民法ノ請負ト同一ニ非ス通俗ニ謂フ所ノ廣汎ナル意義ニ於ケル請負ニシ  
 テ即チ同項ノ掲ケタル者ハ選舉ノ當時政府ノ爲メニ民法上ノ請負ヲ爲ス自然人又ハ法人ノ役員ハ勿論其他政府ト契約ヲ爲シ一  
 定ノ報酬ヲ得テ政府ノ爲メニ其需用ヲ供給スルコトヲ業トスル自然人又ハ法人ノ役員ヲモ包含ス(大審民事判決錄明治三七年  
 一六一〇頁)

選舉訴訟當選訴訟ハ普通ノ民事訴訟ト其性質ヲ異スルモノアルカ故ニ明文ノ規  
 定ナシト雖モ通常ノ訴訟手續ニ比シ區別スル所ナカルヘカラス此前提ニ立テ吾  
 人ハ第一點第一項及ヒ第二點第一項判旨ニ贊同スルモノナリ爾餘ノ判旨モ亦皆  
 正當ナリト信ス

只本判決ニ付キ一言スヘキハ被告カ其本籍地ヨリ朝鮮ニ移住シタルモノト認メ  
 ラレタル證據上ノ理由カ判文ニ掲記ナキコト是ナリ被告ハ本籍地ニ付キ爭ハサ  
 リシト雖モ本籍地ト住所トハ全然別個ニシテ且ツ本籍地ヲ住所ト推定スヘキ規



定ナキ以上所謂被告ノ最後ノ住所地ノ如何ナルヤハ適當ナル證據方法ニ依リ之ヲ認定スルコトヲ要シ判決ノ如ク漫然本籍地ヲ以テ被告ノ最後ノ住所地ト斷定シタルハ不備ナリト謂ハサルヘカラス然レトモ裁判所ノ管轄ニ付キ第二點第一項ノ見解ヲ採ル以上ハ此點ノ瑕疵ヲ論スル必要ナカラント信ス

四一

警察犯處罰令一 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未満ノ拘留ニ處ス  
二 密賣淫ヲ爲シ又ハ其謀合若ハ容止ヲ爲シタル者

密賣淫ノ容止ヲ爲ストハ密賣淫ノ場所ヲ供給シテ之ヲ幫助スルヲ云フ

密賣淫ヲ爲ス情ヲ知テ豫メ其者ニ居室ヲ給與スルコトニ同意シタル以上ハ後ニ密賣淫ノ行爲アリタルトキ茲ニ密賣淫容止ノ犯罪成立スルモノニシテ容止ヲ爲ス者カ個々ノ密賣淫行爲ニ付キ一々認容シタル事實アルコトヲ必要トセス

密賣淫ノ容止ヲ爲ストハ密賣淫ノ場所ヲ供給シテ之ヲ幫助スルヲ云フ故ニ密賣淫ヲ爲スノ情ヲ知ツテ其者ニ居室ヲ給與スル行爲ハ警察犯處罰令第一條第二號ニ該當ス從テ密賣淫ヲ爲ス情ヲ知テ豫メ其者ニ居室ヲ給與スルコトニ同意シタル以上ハ後ニ密賣淫ノ行爲アリタルトキ茲ニ密賣淫容止ノ犯罪成立スルモノトス容止ヲ爲ス者カ個々ノ密賣淫行爲ニ付キ一々認容シタル事實アルコトヲ必要トセス原判決ノ認ムル事實ニ依レハ被告ノ行爲カ警察犯處罰令第一條第二號ノ密賣淫容止ニ該當スルコト判文上明白ナリ(大審院大正四年(レ)第七二二號同年四月二十六日刑二部爲裁判長爲見水本藤波高瀬各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審秋田地方裁判所○警察犯處罰令違犯被告事件○被告人平澤とみ辯護人山田清藏

四二

郵便法五一 郵便事務ニ從事スル者郵便官署ノ取扱中ニ係ル郵便物ヲ竊取シタルトキハ刑法竊盜ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

普通通常郵便物タル信書中ニ封入シタル郵便切手ノ紛失ニ對シテハ郵便官署ニ於テ之カ賠償ヲ爲スコトナシト雖モ此レ唯法規上賠償ノ責任存セサルニ因ルモノニシテ官署ニ賠償責任ナキノ故ヲ以テ該物體ヲ郵便禁制品ト同視シ郵便物ニ非サルモノト論スルコトヲ得ス

郵便法第一八條第一項ハ通常郵便物ノ種類ヲ五箇ニ區別シ書狀ヲ以テ第一種トナシ郵便證書ヲ第二種毎月一回以上刊行ノ定期刊行物ヲ第三種書籍印刷物業務用書類其他商品見本等ヲ第四種農産物種子ヲ第五種ト爲シ各之ニ適應スル料金ノ率ヲ定メ尙同條第二項ニハ前項各種ニ該當セサル物件及該當スルモ封緘シタルモノハ第一種郵便物ト同一ノ取扱ヲ爲ス旨ヲ規定シ又同法第一六條ニハ郵便官署ハ郵便物ニ郵便禁制品ヲ封入シ又ハ成規ニ違反シテ差出シタル物件アリト認ムルトキハ差出人ニ其開示ヲ求ムル事ヲ得差出人其開示ヲ拒ミタルトキハ其取扱ヲ拒絕スル旨規定シアルヲ以テ郵便規則第一條ニ列記セル公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スヘキ文書圖書若クハ爆發性發火性其他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ又郵便物ニ損害ヲ與フヘキ物件等所謂郵便禁制品ニ非サル以上ハ其物件ノ何タルヲ問ハス其容積重量價格表記等ニ關スル郵便規

則第二條第三條等ノ成規ニ違反セザル限リハ第一種通常郵便物トシテ差出ス事ヲ妨ケサルモノトス但郵便物ノ紛失ニ對スル郵便官署ノ賠償責任ニ就キテハ郵便法第三條ニ特別ナル規定アルヲ以テ書留郵便物又ハ價格表記郵便物等該條文ニ特記セル物件ノ紛失シタル場合ニ限リ郵便官署ハ其損害ヲ賠償スルノ責任ヲ有スルモノニシテ本件事實ノ如ク普通通常郵便物タル信書中ニ封入シタル郵便切手ノ紛失ニ對シテハ之カ賠償ヲ爲ス事ナシト雖モ此レ唯法規上賠償ノ責任存セザルニ因ルモノニシテ官署ニ賠償責任ナキノ故ヲ以テ該物件ヲ郵便禁制品ト同視シ郵便物ニ非サルモノト論スル事能ハサルハ多言ヲ俟タスシテ明カナリ然レハ北條郵便局通信事務員タル被告カ同局取扱ニ係ル第一種普通通常郵便物ヲ擅ニ開披シテ在中ノ郵便切手ヲ奪取シタル所爲ニ對シ原判決カ郵便法第五一條ヲ適用シテ處斷シタルハ相當ナリ(大審院大正四年(レ)第五一九號同年四月十七日刑三部棚橋裁判長磯谷堀田柳川岡田各判事判決)

【關係事項】

原告兼申○原審廣島控訴院○郵便法違反送達業務債權被告事件○被告人村上駒一辯護人尾越辰雄  
至當ノ見解ナリ

(四三)

不動産登記法二六 登記ハ登記権利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス  
同六五 抹消シタル登記ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ際本ヲ添付スルコトヲ要ス

土地所有者カ抵當權ノ設定登記ヲ爲シタル後之ヲ抹消シ且ツ該登記ノ回復セラ  
ルヘキ場合ニ於テハ假令其後ニ於テ所有權ヲ他人ニ移轉スルモ尙登記抹消當時

ノ所有者トシテ回復登記ヲ爲スヘキ義務アルモノナレハ右ノ登記ノ回復手續ハ  
登記義務者タル抹消當時ニ於ケル所有者ニ對シテ之ヲ請求スヘキモノニシテ現  
在ノ土地所有者ハ不動産登記法第六五條ニ所謂利益關係ヲ有スル第三者タルニ  
過キス

被告助七カ債權ノ擔保トシテ原告ニ設定セル抵當權ノ目的物ハ被告和助ニ於テ之ヲ  
買受ケタル後右建物全部ヲ取毀テテ新ニ全ク別個ノ本件建物ヲ建設シタルコト明カ  
ナルヲ以テ右舊建物ニ對スル原告主張ノ抵當權ハ該建物ノ取毀ト共ニ消滅シ原告ハ  
有效ナル取消ノ意思表示ヲ爲セルニ拘ラス別異ノ建物ニ對シテモ毫モ抵當權ヲ有セ  
サルモノト謂ハサルヘカラス從テ原告ノ被告兩名ニ對スル本件抵當權存在ノ確認ノ  
請求ハ之ヲ許容シ難ク又被告助七ニ對スル抵當權回復登記ノ請求モ亦失當ナルヲ以  
テ之ヲ排斥スヘキモノトス而シテ原告ノ被告和助ニ對スル抵當權回復登記ノ請求ニ  
至リテハ原告カ本件建物ニ付キ抵當權ヲ有セサルコト前段認定ノ如クナルヲ以テ之  
ヲ認容シ得サルコト勿論ナルモ假令原告ニ右抵當權アリトスルモ同被告ニ對スル回  
復登記ノ請求ハ之ヲ許スヘカラサルモノトス何トナレハ土地所有者カ抵當權ノ設定  
登記ヲ爲シタル後之ヲ抹消シ且ツ該登記ノ回復セラレヘキ場合ニ於テハ假令其後ニ  
於テ所有權ヲ他人ニ移轉スルモ尙登記抹消當時ノ所有者トシテ回復登記ヲ爲スヘキ  
義務アルハ勿論ナルヲ以テ右ノ登記ノ回復手續ハ登記義務者タル抹消當時ニ於ケル  
所有者ニ對シテ之ヲ請求スヘキモノナルモ現在ノ土地所有者ハ抵當權ノ登記抹消ニ  
付キ何等干與スル所ナキヲ以テ抹消セラレタル登記ノ回復ニ付キ登記義務者ノ地位

ニ立ツヘキモノニアラスシテ唯不動産登記法第六五條ニ所謂利害關係ヲ有スル第三  
者タルニ過キス從テ同被告ニ對シテハ同條ニ依リ利害關係者トシテ抵當權登記ノ回  
復ニ付キ承諾又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ヲ求ムルハ格別之カ回復登記ヲ請  
求スルコトハ登記法上許容スヘカラサル所ナリ(東京地方大正三年(ワ)第三三一號同四  
年五月十日民四部田山裁判長沼五明各判事判決)

【關係事項】

債務確認登記回復請求事件○原告川瀬賢之助訴訟代理人辯護士田邊喜一被告内田助七同相澤和助訴訟代理人辯護士秋山朗同森  
深

四四

國有林野部分林規則三 造林者ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ權利ヲ處分スルコトヲ得ス  
國有林野法施行規則五三 造林者其權利ヲ處分セントスルトキハ當事者願書ニ連署連印シ契約書ヲ添付シテ之ヲ大  
林區署長ニ差出スヘシ

國有林野部分林規則第三條ノ規定ハ大林區署長ノ許可アルニ非サレハ處分行爲  
ヲ成立セシメサル趣旨ニ非スシテ其許可アルニ非サレハ處分ノ效力ヲ生セザラ  
シムル趣旨ナリトス

部分林ハ國ト造林者ノ共有ナルノミナラス其地盤カ國ノ所有ニ屬スルヲ以テ造林者  
ヲシテ擅ニ其權利ヲ處分スルヲ得セシメンカ或ハ國ノ利益ヲ害セラルムカ如キ虞ナ  
キ能ハス國有林野部分林規則第三條ニ於テ造林者ハ大林區署長ノ許可ヲ得ルニ非サ  
レハ其權利ヲ處分スルヲ得スト規定シタルハ之レカ爲メニシテ此規定ハ畢竟國ノ利  
益ヲ保護スルノ必要ニ出テタルモノナルモ大林區署長ノ許可アルニ非サレハ處分行

爲テ成立セシメサル趣旨ニ非スシテ其許可アルニ非サレハ處分ノ效力ヲ生セザラシ  
ムル趣旨ニ外ナラス故ニ造林者カ其權利ヲ他人ニ賣渡スモ大林區署長ノ許可ヲ得サ  
ル限リ權利移轉ノ效果發生セサルコト勿論ナルモ既ニ賣買契約ノ締結セラレタル風  
上ハ賣買行爲ハ茲ニ完成セルモノニシテ大林區署長ノ許可ハ恰モ停止條件ノ成就ハ  
如ク單ニ權利移轉ノ效果ヲ發生セシムル一要件ニ過キサルモノトス然リ而シテ大宇  
田小野ト被上告人先代補田一兄間ニ爲サレタル係争賣買ニ付大林區署長ノ許可ヲ得  
タルハ明治四十三年九月十五日ナルコト原院モ認ムル所ナレトモ原院ハ乙第一號證  
ノ一、二、三及ヒ乙第三號證ニ依リ其賣買契約ノ締結セラレタルハ明治三十年一月二十  
二日ナルコトヲ認メタルカ故ニ係争賣買行爲カ此時ニ於テ成立シタルモノト爲シタ  
ルハ正當ナリ(大審院大正三年(オ)第八四七號同四年四月二十二日民二部馬場裁判長岡  
上入江録本嘉山各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原告長崎控訴院○被告行爲取消請求事件○上告人近藤喜藏訴訟代理人辯護士中村徳重被告上告人補田郁太郎

【同趣旨判例】

國有林野部分林處分ノ效力ハ大林區署長ノ許可アルニアラサレハ發生セスト雖モ其處分行爲ハ既ニ許可出願前ニ成立シタ  
得ルモノトス(長崎控訴院判決本書第三卷民法六〇五頁)

吾人ハ既ニ前掲原審判決ニ對シ賛同シタル所ナリ

四五

沖繩縣諸處分法第一項 沖繩縣金銀、社、寺、神、及僧侶飯米ハ本法ニ依リ國債證券ヲ以テ一時ニ之ヲ給與ス  
同七 本法ニ依リ給與スヘキ國債證券ハ五分利付トシテ額面金額ニ依ル但シ國債證券ノ最少額面金額ニ滿タサル端

明治四十三年法律第五九號沖繩縣諸祿處分法列記ノ諸祿ハ國カ其公法上ノ關係ニ於テ之ヲ享有スル者ニ給與スルモノニシテ其給與スル財物ハ私權ノ目的ト爲ルコトヲ得ルモ之カ給與ヲ受クヘキ者ノ權利ハ其享有スル祿ヲ基本トスルモノニシテ公法タルコト疑ヲ容セス而シテ同法ニ於テ諸祿ヲ給與スルニ一時ニ國債證券ヲ以テスルコトヲ定メタルハ唯從前ノ給與方法ヲ定メタルニ過キスシテ其給與ヲ受クヘキ基本タル公權ヲ變シテ私權ト爲シタル法意ニアラス

明治四十三年法律第五九號沖繩縣諸祿處分法第一條第一項ニハ沖繩縣金祿社祿寺祿及僧侶飯米ハ本法ニ依リ國債證券ヲ以テ一時ニ給與ストアリ元來同法列記ノ諸祿ハ國カ其公法上ノ關係ニ於テ之ヲ享有スル者ニ給與スルモノニシテ其給與スル財物ハ私權ノ目的ト爲ルコトヲ得ルモ之カ給與ヲ受クヘキ者ノ權利ハ其享有スル祿ヲ基本トスルモノニシテ公權タルコト疑ヲ容セス而シテ同法ニ於テ諸祿ヲ給與スルニ一時ニ國債證券ヲ以テスルコトヲ定メタルハ唯從前ノ給與方法ヲ變更シタルニ過キスシテ其給與ヲ受クヘキ基本タル公權ヲ變シテ私權ト爲シタル法意ニアラスト解スルヲ當然トス故ニ同法ニ依リ國債證券ヲ以テ一時ニ給與ナル方法トシテ發行セラル、國債其モノハ處分ト謂ハサルヲ得ス蓋祿ヲ一時ニ給與スル方法トシテ發行セラル、國債其モノハ處分擔保和續遺贈等私法關係ノ目的ト爲ルコトヲ得ルモ之カ爲メニ其給與ヲ受クヘキ基本タル權利ハ公權タル性質ヲ失フヘキ理由アルヲ見サレハナリ然レハ結局同一ノ斷定ニ歸シタル原判決ノ理由ハ正當ニシテ既ニ之ヲ以テ其主文ヲ維持スルニ十分ナレ

數ニ付テハ現金ヲ給與ス

ハ爾餘ノ理由ノ當否如何ニ拘ラス上告諭旨ハ總テ原判決ヲ破毀スヘキ理由ト爲スニ足ラサルモノトス(大審院大正三年(オ)第七七九號同四年四月二十日民一部田部裁判長神原尾古岩田嘉山各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審東京控訴院○國債證券引渡請求事件○上告人山城高與訴訟代理人辯護士藤代被上告人國

(四六)

競賣法二七第三項 左ニ記載シタル者ヲ利害關係人トス  
一 申立人 二 債務者及ヒ所有者 三 登記簿ニ登記シタル不動上ノ權利者 四 不動產上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者  
同三第二項 競落ノ手續：：ニ關スル民事訴訟法：：第六七六條乃至第六八三條：：ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス  
民事訴訟法六八〇第一項 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テノ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得  
不動産登記法一〇六 未登記ノ建物所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得  
一 建物ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者トシテ登記簿ニ登記セラレタル者 二 土地臺帳原本ニ依リ自己又ハ被出續人カ土地臺帳ニ敷地ノ所有者トシテ登録セラレタルコトヲ證明スル者 三 既登記ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者ノ證明書ニ依リ自己ノ所有權ヲ證明スル者 四 判決其他官廳又ハ公署ノ書面ニ依リ自己ノ所有權ヲ證明スル者  
民法一七七 不動産ニ關スル物權ノ得喪及ヒ變更ハ登記法ノ定ムル所ニ從ヒ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

不動産ニ付キ既ニ一ノ保存登記ヲ爲シタルトキハ更ニ同一建物ニ付キ保存登記ヲ爲スコトヲ許ササルモノナレハ後ノ登記ハ之ヲ以テ物權ノ得喪變更ニ付キ第三者ニ對抗シ得ヘキ效力ヲ有スル登記ト稱スルヲ得ス

スルノ効力ヲ有セサルモノトス』  
不動産競賣手續ニ於ケル利害關係人トハ不動産上ノ權利ヲ以テ第三者ニ對抗シ得ヘキ者ヲ指稱ス』  
所謂不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタル者トハ登記ヲ要セスシテ第三者ニ對抗シ得ヘキ權利者ヲ指稱ス』

甲第一號證ハ抗告人ノ抵當權設定登記ノ存スル登記簿附本ニシテ同號證ニ依レハ其表示スル建物ノ保存登記ノ受附ハ大正三年五月二十七日ナレトモ本件競賣ノ目的物タル建物保存登記受附ハ大正二年十二月二十三日ナルコト本件競賣申立人須賀又雄ノ提出ニ係ル登記簿附本ニヨリ明瞭ナルヲ以テ抗告人主張ノ如ク甲第一號證表示ノ物件ト本件競賣ノ目的物タル物件ト同一建物ナリトセハ有建物ハ既ニ大正二年十二月二十三日其保存登記ヲ爲シタルモノナルニ拘ラス更ニ大正三年五月二十七日同一建物ニ付キ保存登記ヲ爲シタルコトナレハ一ノ不動産ニ付キ既ニ一ノ保存登記ヲ爲シタルトキハ更ニ同一建物ニ付キ保存登記ヲ爲スコトヲ許ササルモノナルカ故ニ縱令之ヲ爲シタリトテ後ノ登記ハ單ニ登記簿上斯クノ如キ記載アリトノ事實ノ存スルニ止マリ之ヲ以テ物權ノ得喪變更ニ付テ第三者ニ對抗シ得ヘキ効力ヲ有スル登記ト稱スルヲ得ス若シ然ラズトセハ同一建物ニ付キ數用紙ノ登記存スルコトナレハ抗告人主張ノ法ニ於ケル一筆一用紙ノ原則ヲ破壞スルコトナレハナリ果シテ然ラハ抗告人主張ノ如キトセハ本件抗告人ノ抵當權設定登記ノ存スル建物ノ保存登記ハ大正三年五月二

十七日ニシテ同建物ニ付テハ既ニ大正二年十二月二十三日其保存登記ヲ爲シタルモノナレハ大正三年五月二十七日附ノ保存登記ハ登記ノ本來ノ効力ヲ有セサルコト明カニシテ該登記ニ基ク抗告人ノ抵當權設定登記モ亦之ヲ以テ第三者ニ對抗スルノ効力ヲ有セサルモノト云ハサルヘカラス而シテ不動産競賣手續ニ於ケル利害關係人ハ不動産上ノ權利ヲ以テ第三者ニ對抗シ得ヘキ者ヲ指稱スルモノナレハ抗告人ハ登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者ニアラサルハ勿論不動産上ノ權利者トシテ其權利ヲ證明シタルモノトモ謂フヲ得ス蓋シ後者ハ登記ヲ要セスシテ第三者ニ對抗シ得ヘキ權利者ヲ指稱スルモノナルニ本件抗告人ノ有スル抵當權ハ其登記ナク且ツ登記ナクシテ第三者ニ對抗シ得サルモノナレハナリ又抗告人ハ競賣申立人若クハ債務者及ヒ所有者ニモアラサルヲ以テ本件抗告人ハ競賣法ニ所謂利害關係人ニアラス又若シ前記二個ノ建物カ同一ニアラストスレハ抗告人ハ競賣手續ニ於ケル利害關係人ニアラサルコト勿論ナルヲ以テ何レニシテモ競賣許可決定ニ對シ抗告ヲ爲シ得ル資格ヲ有セサルコト競賣法第三二條第二項民事訴訟法第六八〇條第一項ニ觀シ明カナリ(東京地方大正四年)第五六號同年五月二十一日民三部神谷裁判長淺野三宅各判事決定)

【關係事項】

競賣許可決定ニ對スル抗告事件○抗告人布川安藏訴訟代理人東海林俊明外一名相手方積本一

【二項參照判例】

一 一個ノ建物ニ付キ既ニ一登記用紙ニ所有權保存及ヒ移轉登記アルニ拘ハラス更ニ別個ノ登記用紙ニ其建物ニ關スル所有權保存ノ登記アリタルトキハ其後ニ爲サレタル保存登記ハ無効ナリトス(東京地方裁判所判決本書第三卷誌法一一九頁)  
二 同一不動産ニ付キ二重ノ保存登記ヲ爲シタル場合ニハ後ニ爲サレタル保存登記ハ無効ナレハ其後ニ爲サレタル保存登記ニ基ク所有權ノ移轉モ亦無効ナリ(大阪地方裁判所判決法律新聞第三五二號一七頁)

【三四項同趣旨判例】

裁判法第二七條第三項第三號第四號三所謂不動產上ノ權利者トハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ物權ヲ有スル者ヲ謂フ(大審院判決本書第三卷諸法一〇一頁)

第一項未登記建物ノ保存登記ハ其建物ノ取得ヲ第三者ニ對抗スルノ要件ニアラスシテ新築建物ハ登記ナクシテ所有權ノ取得ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルナリ後ニ爲サルヘキ登記ノ前提トシテ之ヲ爲スモノナレハ寧ロ參照判例ノ如ク後ノ保存登記ハ無効ナリト判示スルヲ可トス爾餘各項ハ總テ正當ナリト信ス

(四七)

醫師法八 醫師ハ醫師會ヲ設立スルコトヲ得

醫師會ニ關スル規程ハ內務大臣之ヲ定ム

醫師會規則一 醫師會ハ郡市區醫師會及道府縣醫師會トス本令ニ依リ設立シタル醫師會ニ非サレハ前項ノ名稱ヲ附スルコトヲ得ス

同八第一項 官立又ハ公立ノ病院ヲ除ク外自己又ハ他人ノ診療所治療所若ハ其ノ出張所ニ於テ醫業ニ従事スル醫師ハ總テ其ノ所在地ノ郡市區醫師會ノ會員トス

醫師會自體力權利義務ノ主體タルコトヲ得サルハ勿論ナリト雖モ斯ノ如キ特定ノ法規ニ準據シテ組織セラルル社團ニ在リテハ其會則ニ特ニ會長ヲ以テ醫師會ヲ代表セシムヘキ規定ノ存スル場合ニハ會長ハ其權限ニ基キ會長ノ名ヲ以テ醫師會ヲ代表シ裁判上裁判外ニ於テ會ノ事務ヲ執行シ得ヘク從テ之カ執行ニ必要ナル場合ニハ會長ノ名ヲ以テ訴訟委任ヲ爲シ得ルモノトス

醫師會ハ特種ノ目的ノ下ニ一定ノ地域内ニ於テ醫業ニ従事セル醫師ヲ以テ組織セラルル一ノ社團ニシテ之カ社團組織ノ基本法規タル醫師法及醫師會規則ニハ醫師會ヲ以テ法人ナリト認メタル規定存セサルヲ以テ醫師會自體力權利義務ノ主體タルコトヲ得サルハ勿論ナリト雖モ斯ノ如キ特定ノ法規ニ準據シテ組織セラルル社團ニ在リテハ其會則ニ特ニ會長ヲ以テ醫師會ヲ代表セシムヘキ規定ノ存スル場合ニハ會長ハ其權限ニ基キ會長ノ名ヲ以テ醫師會ヲ代表シ裁判上裁判外ニ於テ會ノ事務ヲ執行シ得ヘキモノト解スルヲ至當トス可ク從テ之カ執行ニ必要ナル場合ニハ會長ノ名ヲ以テ訴訟委任ヲ爲シ得ルモノト謂ハサルヘカラス何トナレハ醫師會ハ醫師法ニ認メラレ特種ノ目的ヲ有スル社團ニシテ醫師會規則ニ準據シテ設立セラレ其會員ノ資格ハ醫師タルコト及一定ノ地域内ニ於テ醫業ニ従事スルコトノ二個ノ事實ノミニ基クモノナレハ此等事實ノ變動ハ絶ヘス會員ニ異同ヲ來タスヲ以テ醫師會會員ノ全員カ訴訟ノ當事者ト爲ルニアラサレハ裁判上事務ヲ執行スルコト能ハサルモノトセンカスル事務ノ執行ハ實質上遂ニ不能ニ終ルヘク醫師會設立ノ目的ノ大半ヲ失フニ至ルヲ以テナリ是レ民事訴訟法ニ於テ法人ノ資格ニ於テ訴ヘラルルコトヲ得ル社團又ハ財團ノ存スヘキコトヲ認メタル所以ニシテ如上ノ法理ハ當院ノ判例トシテ夙ニ是認スル所ナリトス(明治二十八年第二六五號同年十月三日言渡)本件ニ於テ横濱醫師會カ醫師法及醫師會規則ニ基キ神奈川縣知事ノ認可ヲ經テ適法ニ組織セラレタルモノナルコト横濱醫師會規則ニハ會長ハ會ヲ代表シテ會務ヲ總理シ且代議員等ノ議決執行ノ責ニ任スヘキコト會ノ經費ハ會費ヲ以テ支辨シ會員ハ毎年會費トシテ金三圓ヲ納付スヘキ義務アルコト並ニ會長カ澁谷周平ナルコトハ原判決ノ確定スル所ナレハ會

長谷川周平ハ會長ノ名ニ於テ會員ニ對シ會ノ事務タル會費ヲ取立テ其必要ナル場合ニハ醫師會ヲ代表シ會長ノ名ヲ以テ訴訟代理人ニ委任シ裁判上之カ訴求ヲ爲シ得ル權限ヲ有スルモノナリト謂ハサルヘカラス原判決カ被上告人長谷川周平ハ周平個人ノ權利ニ基キ個人ノ資格ニ於テ上告人ニ對シ會費徵集權アリト解シ訴訟上ニ於テモ個人トシテ請求スル權限アリト認定シタルハ失當ナリト雖モ被上告人カ第一審ニ提出シタル訴狀及之ニ添付セル委任狀ヲ閱スルニ被上告人ハ橫濱醫師會會長トシテ開會ヲ代表シ會則ニ準據シテ上告人ニ對シ會費ヲ請求シ且會長ノ資格ニ於テ訴訟ノ委任ヲ爲シタルコト明ニシテ原判決ハ上告人カ被上告人ニ對シ橫濱醫師會會員トシテノ會費支拂ノ義務アルコトヲ認定シタルモノナレハ原判決ハ此點ニ於テ結局正當ナルニ歸シ前示不法ハ原判決ヲ破毀スルノ理由トナラス(大審院大正三年(一)第四二四號開四年五月二十六日民三第權田裁判長大倉鈴木嘉山三宅各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審橫濱地方裁判所○會費請求事件○上告人加藤時次郎訴訟代理人辯護士井上八重吉同三根谷實衛被上告人長谷川周平訴訟代理人辯護士安藤林八郎

特許法

新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付本法ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

同四

本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノヲ謂フ

一

特許出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用キラレタルモノ

二

特許出願前容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ

同五

發明力左ノ各號ノ一ニ該當スルモノト新規ナルモノト看做ス

一

發明力試驗ノ爲前條各號ノ一ニ該當スルモノニ至リタル時ヨリ二年以内ニ特許ヲ出願シタルトキ

二 同一發明ニ關スル特許出願中若ハ實用新案登録出願中又ハ其ノ特許權若ハ實用新案權ノ存續中其ノ發明力前條各號ノ一ニ該當スルモノニ至リタルトキ

同二八第四項 同一發明ニ關シテハ特許權ハ其ノ出願前ノ出願ニ係ル實用新案權ニ依リ制限ヲ受クルモノトス

同四九第一項 特許又ハ特許權ノ改訂若ハ分割ノ許可カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲ス

一 特許力第一條乃至第三條第六條第九條第一〇條第二項又ハ第二七條ノ規定ニ反シタルトキ

實用新案法一 物品ニ關シ其ノ形狀構造又ハ組合ハセニ係リ實用アル新規ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ本法ニ依リ實用新案ノ登録ヲ受クルコトヲ得

同八第三項 同一又ハ類似ノ考案ニ關シテハ實用新案權ハ其ノ出願前ノ出願ニ係ル特許權又ハ意匠權ニ依リ制限ヲ受クルモノトス

特許ヲ與フヘキ程度ノ發明ニシテ物ノ形狀構造又ハ組合セニ係リ實用アルモノナルニ於テハ之ニ附與スルニ特許權ト實用新案權トヲ以テスルヲ妨ケス

實用新案法ニ於ケル考案ト特許法ニ於ケル發明トハ其意義ニ於テ異ナル所ナク考案モ亦發明ナルコトハ特許法第二八條第四項ニ於テ發明ニモ實用新案權ノ存スルヲ豫想シ實用新案法第八條第三項ニ於テ考案ニモ特許權ノ存スルヲ豫想セルニ徴シテ明ナリ唯其進歩ノ程度著シキ發明ハ特許法ニ依リテ之ヲ保護シ其程度著シカラサル發明ハ之ヲ實用新案法ニ依リテ保護スルノ別アルニ過キス而シテ其程度ノ區別ハ各發明ニ從ヒ當該特許官ノ査定スヘキモノニシテ劃一ナル標準ノ存スルニ非ス然レトモ特許ヲ與フヘキ程度ノ發明ニシテ物ノ形狀構造又ハ組合セニ係リ實用アルモノナルニ於テハ之ニ附與スルニ特許權ト實用新案權トヲ以テスルヲ妨ケス何トナレハ實用新案法ト特許法トハ發明保護ノ範圍ヲ異ニシテ特許法ノ發明ヲ保護スルハ之ヲ實現スル形式ニ拘ル所ナキニ反シ實用新案法ノ發明ヲ保護スルハ之ヲ實現スル形式ニ於

ナスルカ故ニ實用新案權ト特許權トハ其内容ヲ異ニスル別種ノ權利ナレハナリ從テ  
 同一發明ニ對シ實用新案權ト特許權ヲ附與スルハ之ヲ同一發明ニ對シ二重ニ特許權  
 ナ附與スルト同視シテ不適法ナリト論スルヲ得ス之ヲ特許法及ヒ實用新案法ノ規定  
 ニ徴スルニ特許法第二八條第四項實用新案法第八條第三項ニ依レハ後ノ出願ニ係ル  
 特許權ハ前ノ出願ニ係ル實用新案權ニ依リ制限ヲ受ケ後ノ出願ニ係ル實用新案權カ  
 前ノ出願ニ係ル特許權ニ對スル關係モ同様ニシテ後ノ出願ニ係ル權利ハ前ノ出願ニ  
 係ル權利カ消滅スルカ其權利ヲ有スル者ノ許諾ヲ受クルニ非サレハ其行使ヲ停止セ  
 ラルルニ止マリ其成立ヲ妨ケラレヘキモノニ非ス亦以テ同一發明ニ關シ實用新案法  
 ト特許權ノ併存スルコトハ特許法及實用新案法ノ認ムル所ナルヲ知ル可シ特許法第  
 二八條第四項及ヒ實用新案法第八條第三項ハ特許權ト實用新案權トカ別人ニ屬スル  
 場合ノ規定ナリト雖モ既ニ二者ノ竝存ヲ認ムル以上ハ同一人カ二者ヲ併有スルコト  
 ナ是認セサル可ラス何トナレハ其間ニ區別ヲ立ツヘキ何等ノ理由存セサレハナリ然  
 レトモ同一發明ニ關シ既ニ實用新案權又ハ特許權ノ存スルニ於テハ發明カ特許法第  
 四條各號ノ一ニ該當スルニ至リ最早新規ト謂フヲ得サル場合ナキニ非ス此場合ニ於  
 テハ原則トシテハ更ニ特許權ヲ附與スルヲ得サルヘシ此ノ如キハ特許ニ關シ採用シ  
 タル最先發明主義ヲ貫徹スルヲ得サルニ至ル是レ特許法第五條第二號ノ例外規定ヲ  
 設ケタル所以ナリ上告人カ第一七二號實用新案ノ實用新案公報ニ登載セラレ其權  
 利ノ存續中本件特許ヲ出願シ其登録ヲ受ケタルコト及ヒ該實用新案ト本件特許發明  
 トカ同一ナルコト原審決ニ確定シタル如クニシテ本件特許發明ハ原審特許局ノ見解  
 ノ如ク特許法第四條第一號及ヒ第二號ニ該當スルモノトセハ特許法第五條第二號ニ

該當スル場合ナルヲ以テ其發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ササル可ラス從テ其特許  
 ハ之ヲ有效ト爲ササル可ラス然ルニ原審特許局カ同一發明ニ關シテハ實用新案權ト  
 特許權トヲ併セ附與セサルヲ原則トシ特許法第五條第二號ハ此原則ニ對シ何等ノ例  
 外ヲ設ケタルモノニ非サレハ本件特許發明ニハ之ヲ適用ス可キ限リニ在ラスト論斷  
 シ其局本件特許發明ヲ以テ特許法第四條第一號及ヒ第二號ニ該當シ同第一條ニ違背  
 スルモノトシテ同第四九條第一號ニ依リ之ヲ無効ナリト宣言シタルハ法則ヲ適用セ  
 ス及ヒ不當ニ法則ヲ適用シタルノ不法アルヲ免カレス(大審院大正三年(オ)第四四四號  
 同四年五月七日民一部田部裁判長田上神原尾古岩田各判事判決)

【關係事項】

破毀自判○原審特許局○特許無効請求事件○上告人河野豐次郎訴訟代理人辯護士伊藤秀雄同田島德三郎田邊好一被告人井上編  
 七訴訟代理人辯護士岩井章文

四九

明治三二年法律第一〇九號 北海道區町村會議員總代人及沖繩縣區會議員ノ選舉ニ關シテハ市町村會議員選舉ニ關  
 スル規則ヲ適用ス  
 北海道區制町村制及沖繩縣區制ニ依リ開設スル他ノ議會ノ議員ノ選舉ニ付テ亦前項ニ同シ

明治三二年法律第一〇九號ノ規定ハ北海道區町村會議員等ノ選舉ニ關シテ市町  
 村會議員ニ關スルト同一ノ刑事上ノ制裁ヲ付スルモノニ外ナラサレハ市町村會  
 議員選舉ニ關スル刑事上ノ制裁ヲ規定セル法律ニシテ變更若クハ廢止セラルル  
 トキハ北海道町村會議員等ノ選舉ニ關スル刑事上ノ制裁モ亦之ト同シク變更若  
 クハ廢止セラルルニ至ルモノトス



明治三十二年法律第一〇九號ニハ北海道區町村會議員等ノ選舉ニ關シテハ市町村會議員選舉ニ關スル罰則ヲ適用スルコトヲ規定シテ此規定ノ趣旨ハ北海道區町村會議員等ノ選舉ニ關シテ市町村會議員選舉ニ關スル同一ノ刑事上ノ制裁ヲ付スルモノニ外ナラス故ニ市町村會議員選舉ニ關スル刑事上ノ制裁ヲ規定セル法律ニシテ變更若シクハ廢止セララルトキハ北海道區町村會議員等ノ選舉ニ關スル刑事上ノ制裁モ亦之ト同シク變更若クハ廢止セララルニ至ルモノニシテ從テ市町村會議員選舉ニ關スル罰則トシテ明治二十三年法律第三九號ノ施行セララルル時期ニ在ツテハ北海道區町村會議員等ノ選舉ニ關シテ同法第三九號ノ施行セララルル時期ニ在ツテハ北海道區町村會議員等ノ選舉ニ關スル罰則ヲ適用スヘキモノトス蓋シ明治二十年法律第一號市町村制ハ明治四十四年法律第六八號市制及同年法律第六九號町村制ニ依リ改正セラレタルモ公法人トシテ市若クハ町村ノ有スル人格ハ其改正ノ前後ヲ通シテ同一ナルヲ以テ改正後ニ於ケル市町村會議員選舉ハ即チ明治三十二年法律第一〇九號ニ規定スル市町村會議員選舉ニ關スルコトハ論ナク又改正ニ依ル前掲市制第四〇條同市町村制第三七條ニ於ケル衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ適用スル規定ニモ亦衆議院議員選舉ニ關スル罰則ニ變更若クハ廢止アリタル場合ニハ市町村會議員選舉ニ關スル罰則ニモ同一ノ變更若クハ廢止ヲ來タスノ趣旨ヲ包含スルモノト解スルヲ至當トスヘキコトヲ前ニ明治三十二年法律第一〇九號ト市町村會議員選舉ニ關スル罰則トニ關シ説明スル所ニ異ナ

ラス故ニ明治三十二年法律第一〇九號ハ現ニ法律トシテ依然其效力ヲ有スルモノニシテ決シテ所論ノ如ク町村制ノ改正ニ依リテ廢止セラレタルモノニアラス又明治二十三年法律第三九號ノ廢止ニ因リテ之ト同シク廢止セラレタルモノニアラス又改正ニ依ル町村制第三七條ノ罰則カ北海道區町村會議員等ノ選舉ニ適用セララルハ同町村制カ北海道ニ施行セララルカ爲メニ然ルニアラスシテ前ニ述フルカ如ク明治三十二年法律第九號ノ規定ノ效力ニ因ルニ外ナラサルヲ以テ其適用ハ前掲町村制第一五七條ニ依リ制限ヲ受クヘキモノニアラス又其適用ハ北海道區町村會議員カ前掲町村制第三七條ニ所謂本法(同町村制)ニ基キテ發スル勅令ニ依ル議會ノ議員ニ該當セサルカ爲メニ何等ノ妨ヲ受クヘキ謂ハレナシ(大審院大正四年(九)第九三八號同年五月十三日刑二部鶴裁判長鶴見水本藤波泉二各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審札幌地方裁判所○北海道區町村會議員總代人選舉ニ關スル罰則違反被告事件○被告人篠田治七外一名辯護人中西六三郎同小川千里同河井常吉同小町谷純

五〇

森林法八四 森林窃盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年以下ノ重禁錮及贖額以上贖額二倍以下ノ罰金ニ處ス  
 二 贖物ヲ原料トシテ木炭樟腦榘茸松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ  
 同八五 前條第二號ニ依リ製シタル物品ハ之ヲ森林窃盜ノ贖物ト看做ス  
 同八七 森林窃盜ノ贖物ナルコトヲ知リテ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮及贖額以上贖額二倍以下ノ罰金ニ處ス

森林法第八七條第八五條ノ規定ニ依レハ同第八四條第二號ニ掲クル物品ヲ故買

シタル者ハ贖物タル其物品ノ價格ニ倍以下ノ罰金ヲ併料スヘキモノニシテ其物品カ加工ノ結果原料ノ價額ヲ増大セシメタルト否トニ論ナク其加工シタル贖物ノ價額ヲ標準トシテ罰金額ヲ算定スヘキ法意ナリトス

森林法第八七條第八五條ノ規定ニ依レハ同第八四條第二號ニ掲クル物品ヲ故買シタル者ハ贖物タル其物品ノ價格ニ倍以下ノ罰金ヲ併料スヘキモノニシテ其物品カ加工ノ結果原料ノ價額ヲ増大セシメタルト否トニ論ナク其加工シタル贖物ノ價額ヲ標準トシテ罰金額ヲ算定スヘキ法意ナルヲ以テ原院カ本件盜伐木ヲ原料トシテ製作シタル桶樽ノ價額ヲ標準トシテ罰金額ヲ算定シタルハ相當ナリ(大審院大正四年(レ)第七八三號同年五月五日刑三部磯谷裁判長谷野堀田柳川岡田各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審宮城控訴院○森林竊盜贖物故買被告事件○被告人大森大吉外二名辯護人小林龜郎

森林法第八七條ニ所謂贖物ハ同第八五條ニ依リ贖物ト看做サレタル製造品ヲモ包含スルコト明ニシテ此製造品ヲ故買スル場合ニ於ケル所謂贖額ハ同第八四條第二號ニ所謂贖物ノ價額ニアラスシテ其贖物ヲ原料トシテ製造セラレタル物ノ價額ナリトス故ニ本判決ハ正當ナリ

五一

實用新案法三

本法ニ於テ新規則稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノヲ謂フ  
一 登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

實用新案カ實用新案法第三條第一號ニ依リ新規ニアラスト爲ハニハ登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ其新案ト同一又ハ類似ノ考案ヲ施シタルモノカ公然知ラレタル事實アルコトヲ要スルモノトス

本件實用新案カ實用新案法第三條第一號ニ依リ新規ニアラスト爲スニハ單ニ登録出願前本件新案ト同一又ハ類似ノ考案カ公然用ヒラレ又ハ公然知ラレタルノミニテハ十分ナラス必ラス同一又ハ類似ノ物品ニ關シ本件新案ト同一又ハ類似ノ考案ヲ施シタルモノカ公然用キラレ又ハ公然知ラレタル事實アルコトヲ要スルモノトス故ニ原審カ甲第一號證ノ便器ノ蓋ハ本件實用新案ノ應取ト同一又ハ類似ノ物品ニアラス又甲第二號證ノ應取ハ本件ノ應取ト堅牢ノ度均シカラス且其考案モ類似ノモノト認メ難シト爲シ以テ本件實用新案ヲ新規ニアラスト謂フコトヲ得サル旨ヲ判示シタルモノナレハ原審決ニハ所論ノ如キ不法アルモノニアラス(大審院大正四年(オ)第一八二號同年四月二十九日民二部馬場裁判長田上入江鈴木嘉山各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審特許局○實用新案登録無效審判請求事件○上告人松吉長次郎訴訟代理人辯護士後藤徳太郎同宮原末太郎被上告人石橋拾次郎

五二

家賃分放法一

民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル實力ナキ債務者ニ對シテハ管轄裁判所ハ職權ニ因リ又ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ家賃分放者タルノ宣告ヲ爲スコトヲ得  
右ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セスシテ之ヲ爲スコトヲ得  
此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

債務者ニ對シ公證人ノ作りタル金員貸借證書ニ依リ強制執行ヲ爲シタルモ債務者ニ義務ヲ辨濟スルノ資力ナカリシトキハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ其執行處分ニ對シ手續若クハ請求ニ關スルノ異議ヲ申立テ之ヲ無効ナラシメサル限りハ債務者ハ家資分散法第一條ニ所謂民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ該當スルヲ以テ同條ニ依リ家資分散者タルノ宣告ヲ爲スヘキモノトス」

口頭辯論ヲ經タル家資分散ノ決定ハ之ヲ言渡スコトヲ要スルモノトス」

債務者山本兵九郎ニ對シ公證人ノ作りタル金員貸借證書ニ依リ強制執行ヲ爲シタルモ債務者ニ義務ヲ辨濟スルノ資力ナキコトハ甲第一號乃至第四號證ニ依リ明ナリ然レハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ其執行處分ニ對シ手續若クハ請求ニ關スルノ異議ヲ申立テ之ヲ無効ナラシメサル限りハ山本兵九郎ハ家資分散法第一條ニ所謂民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ該當スルヲ以テ同條ニ依リ家資分散者タルノ宣告ヲ爲スヘキモノトス原裁判所カ公正證書ニ記載ノ債務額カ眞實ニ吻合セサルコトヲ確定シ之ニ基キ爲シタル強制執行處分ハ不適法ナリトノ理由ヲ以テ同人ニ對スル家資分散宣告ノ申立ヲ却下シタルハ失當ナリ然レトモ小倉區裁判所ノ家資分散宣告ノ決定ハ口頭辯論ヲ經テ爲シタルニ其言渡ヲ爲ササルノ違法ナルヲ以テ原裁判所カ其決定ヲ廢棄シタルハ正當ナリ(大法院大正四年(夕)第二一一號同年五月二十一日民一部田部裁判長神原尾古岩田三宅各判事決定)

【關係事項】

破産目録○原審福岡地方裁判所○家資分散事件ノ決定ニ對スル抗告事件○抗告人千原興一代理人辯護士川井正造

(五三)

不動産登記法一 登記ハ左ニ掲ケタル不動産ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付キ之ヲ爲ス

一 所有權

同二 假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一 登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セザルトキ

二 前條ニ掲ケタル權利ノ設定移轉變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ

右ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同シ

同七第二項 假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ハ假登記ノ順位ニ依ル

同四六ノ二 債權者カ民法第四二三條ノ規定ニ依リ債務者ニ代位シテ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ債權者及ヒ債務者ノ氏名又ハ名稱住所又ハ事務所及ヒ代位原因ヲ記載シ且代位原因ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス

民法四二三 債權者ハ自己ノ債權ヲ保全スル爲メ其債務者ニ屬スル權利ヲ行フコトヲ得但債務者ノ一方ニ專屬スル權利ハ此限ニ在ラス

假登記ニ對スル假登記ハ數回重複シテ不動産上權利者ノ地位ヲ假定スルコトト爲リ斯ノ如キハ不動産登記法ノ許ササル所ナリトス」

甲ヨリ乙ニ對スル賣買ニ因ル所有權移轉ノ假登記ノ申請カ假登記ニ對スル假登記ニシテ許容スヘキモノニアラストスルモ丙ニ對スル申請ハ甲カ乙ニ代位シ乙丙間ノ賣買ニ因ル所有權移轉ノ請求權保全ヲ目的トシテ之ヲ爲スモノナルトキハ乙ニ對スル假登記ノ前提タリトモ其申請ノ許容セラレサル爲メ右丙ニ對スル申請ヲ却下スヘキモノニ非ス」

假登記ハ不動産ノ所有權移轉等ノ請求權ヲ保全セントスルトキ之ヲ爲スコトヲ許ス  
 モノナルモ假登記ニ對スル假登記ハ數回重複シテ不動産上權利者ノ地位ヲ假定スル  
 コトト爲リ斯ノ如キハ不動産登記法ノ許ササル所ナルヲ以テ本件ニ於テ抗告人ヨリ  
 宅間寧ニ對スル賣買ニ因ル所有權移轉ノ假登記ノ申請ハ假登記ニ對スル假登記ニシ  
 テ許容スヘキモノニ非スト雖モ中野與四郎ニ對スル申請ハ抗告人ハ寧ニ代位シ同人  
 ト與四郎間ノ賣買ニ因ル所有權移轉ノ請求權保全ヲ目的トシテ之ヲ爲スモノナレハ  
 寧ニ對スル假登記ヲ撤消タリトモ其申請ノ許容セラレサル爲メ右與四郎ニ對スル由  
 請ヲ却下スヘキモノニ非ヌ然ルニ原審並ニ鹿兒島區裁判所本件申請ヲ全部却下シ  
 タルハ失當ニシテ原決定並ニ鹿兒島區裁判所ノ決定ノ一部ヲ廢棄スヘキモノトス(大  
 審院大正四年(ク)第二四六號同年五月二十九日民三部橫田裁判長大倉禰原嘉山三宅春  
 判事決定)

【關係事項】

一部廢棄委任○原審鹿兒島地方裁判所○假登記假處分命令申請事件○抗告人後野貞次郎代理人辯護士春島東四郎

五四

出版法一九 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ出版シタルトキハ内務大臣ニ於テ其ノ  
 發賣頒布ヲ禁シ其ノ刻版及印本ヲ差押フルコトヲ得  
 同二〇 外國ニ於テ印刷シタル文書圖書ニシテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣  
 ハ其ノ文書圖書ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其ノ印本ヲ差押フルコトヲ得  
 同二八 第一六條第一七條第一八條第二一條ニ觸ルル文書圖書ヲ出版シタルトキハ著者發行者ヲ十一日以上一年  
 以下ノ輕禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第一九條第二〇條ニ依リ發賣頒布ヲ禁セラレタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル者前項ニ同シ其ノ未ダ發賣頒布セザ  
 ル文書圖書ハ之ヲ沒收ス

- (一) 發賣頒布ノ禁止處分カ一定ノ行政手續ニ依リ外部ニ發表セラレタル以上ハ出版者ニ對シテ特ニ其旨ノ通達ナキモ出版者ニ於テ事由ノ如何ヲ問ハス發賣頒布ノ禁止アリタル事實ヲ認識シテ禁止ニ係ル文書圖書ヲ發賣頒布シタルトキハ出版法第二八條第二項ノ罪ハ成立スヘク禁止ノ通達ナキニ籍口シテ罪責ヲ免カレルヲ得ス
  - (二) 受訴裁判所ニ於テ出版法第二八條第二項ノ罪ヲ處斷スルニ付テハ犯人カ内務大臣ノ禁止ニ違背シテ其安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認メタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル事實ヲ判定シ之ニ對スル證據ヲ舉示スルヲ以テ足り其文書圖書カ果シテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノナリヤ否ヤヲ判斷スルノ要ナキモノトス
  - (三) 出版法第二八條第二項ノ犯罪ハ意思ヲ繼續シテ多數ノ日時ニ亘リ數十回ニ發賣頒布ヲ禁止セラレタル多數ノ出版物ヲ販賣シタル場合ニ於テモ連續犯ヲ構成セズシテ單一ノ犯罪成立スヘキモノトス
- (一) 出版法第二八條第二項ニ於テ處罰スル罪即チ内務大臣カ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認メ發賣頒布ヲ禁止シタル内國及ヒ外國ニ於テ出版シタル文書圖書ヲ發賣頒布スル罪ノ成立スルニハ犯人カ其發賣頒布セル文書圖書カ發賣頒布ヲ禁止セラレタルモノナルコトノ認識ヲ必要トスルハ勿論ナリト雖モ右發賣頒布ノ禁止處分カ一定ノ行政手續ニ依リテ外部ニ發表セラレタル以上ハ出版者ニ對シテ特

其旨ノ通達ナキモ出版者ニ於テ事由ノ如何ヲ問ハス發賣頒布ノ禁止アリタル事實ヲ認識シテ禁止ニ係ル文書圖書ヲ發賣頒布シタルトキハ出版法第二八條第二項ノ罪ハ成立スヘク禁止ノ通達ナキニ藉口シテ罪責ヲ免カサルヲ得ス原判決ニハ被告ハ犯意ヲ繼續シテ發賣頒布ヲ禁止セラレタル風俗ヲ壞亂スヘキ文書ヲ販賣シタル旨判示シアルヲ以テ被告カ發賣頒布ヲ禁止セラレタル文書ナルコトヲ認識シテ之ヲ販賣シタルコト自ラ明白ナリ而シテ右事實ハ原判決援引ノ原審ニ於ケル被告ノ自由並ニ被告ノ第一回及ヒ第二回豫審調書ノ供述記載ニ徴シテ裕ニ之ヲ認メ得ヘキヲ以テ原判決ニ内務大臣ノ爲シタル禁止處分カ被告ニ通達セラレタル事實及ヒ其事實ヲ認ムヘキ證據ノ明示ヲ缺クモ事實及ヒ證據ノ理由ヲ缺ク違法アルモノニ非ス

(二) 出版法第二八條第二項ノ罪ノ成立スルニハ犯人カ内務大臣ノ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スヘキモノト認メ發賣頒布ノ禁止シタル文書圖書ヲ發賣頒布スルヲ以テ足り其發賣頒布シタル文書圖書カ司法裁判所ノ判斷ニ於テ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スヘキモノナルコトヲ必要トセス故ニ内務大臣カ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認メ發賣頒布ヲ禁止シタル以上ハ其禁止ニ係ル文書圖書ヲ發賣頒布セル行爲ハ當然出版法第二八條第二項ノ罪ヲ構成スヘキヲ以テ受訴裁判所ニ於テ同罪ヲ處斷スルニ付テハ犯人カ内務大臣ノ禁止ニ違背シテ其安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認メタル文書圖書ヲ發賣頒布シタル事實ヲ判定シ之ニ對スル證據ヲ舉示スルヲ以テ足り其文書圖書カ果シテ安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノナリヤ否ヤヲ判斷スルノ要ナシ原判決ノ總旨ハ被告ハ無上ノ快樂其他數種ノ風俗ヲ害スヘキモノトシテ發賣頒布ヲ禁止セラレタル出版物ヲ販賣シタル事

云フニ歸着スルヲ以テ上叙事實ヲ認ムヘキ證據ノ説示シアル以上ハ右出版物カ風俗ヲ壞亂スヘキモノナルコトヲ説示シ且ツ其理由ヲ明示セサルモ違法ニ非ス

(三) 出版法第二八條第二項ニ所謂發賣頒布ノ觀念中ニハ自ラ不定多量ニ對シ多數ノ文書圖書ヲ有償又ハ無償ニ於テ讓渡スル反覆行爲ノ意義ヲ包含スト解スヘク從テ同條項ノ犯罪ハ意思ヲ繼續シテ多數ノ日時ニ亘リ數十回ニ發賣頒布ヲ禁止セラレタル多數ノ出版物ヲ販賣シタル場合ニ於テモ連續犯ヲ構成セスシテ單一ノ犯罪成立スヘキモノトス然ルニ原判決ニ於テハ被告カ犯意ヲ繼續シテ一年餘ニ亘リ發賣頒布ヲ禁止セラレタル出版物數千部ヲ販賣シタル出版法第二八條第二項ノ犯罪事實ヲ認定シ之ヲ連續犯トシテ刑法第五五條ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノトス(大審院大正四年(レ)第八二〇號同年五月七日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)

關係事項

破毀自判○原審名古屋控訴院○出版法違反被告事件○被告人茂井幾太郎外一名辯護人篠宮龍太郎

各點皆正當ナリト信ス

五五

舊戸籍法一六七 身分登記ノ變更ヲ請求セント欲スル者ハ原登記ヲ爲シタル戸籍役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ其申請ヲ爲スコトヲ要ス

戸籍法一六四 戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルコト又ハ其記載ニ錯誤若クハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ利害關係人ハ其戸籍ノ存スル市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

舊戸籍法第一六七條ハ苟モ身分登記カ事實ニ吻合セサルニ於テハ單ニ其一部ノ訂正又ハ加入ヲ要スルカ如キ場合ト全部ノ抹消ヲ要スルカ如キ場合トヲ問ハス之ヲ更正スルヲ得セシムルノ法意ナリトス  
舊戸籍法施行當時身分ニ關スル届出ノ誤謬ニ因リ事實ニ吻合セサル事項カ戸籍簿ニ記載セラレタル場合ニ於テ新戸籍法施行後之カ更正ヲ爲スニハ戸籍法第一六四條ニ從ビ戸籍ノ訂正ヲ申請スヘキモノトス

〔抗告要旨〕抗告人ハ戸籍抄本ノ入用アリテ本籍地戸籍吏ニ之ヲ請求シタル處意外ニモ籍地人カ死亡ニ因リ除籍セラレアル旨ノ通知ヲ受ケタリ仍テ種々取調ヲ爲シタルニ抗告人ノ養父壽美與吉ノ遺妻ニシテ其實家齊藤家ヘ復籍シタルともナル者アリテ明治三十二年中ニ死亡シタル由ニテ本件ノ身分登記ハ同人ニ關スルモノニシテ抗告人ハ現ニ生存セルカ故ニ該身分登記ニ「大字松原第百三十七番屋敷居住戸主平民無職業方太郎養妹」トアルナ大字黒川二百十番屋敷戸主平民無職業甚吉妹ト「壽美」とみ慶應三年九月十一日生トアルナ「齊藤」とも嘉永六年九月十五日生ト變更スルコトノ許可ヲ裁區裁判所ニ申請シタリ然ルニ同區裁判所ハ抗告手續ニ依リ死亡登記ヲ抹消スルハ格別身分登記ノ變更ヲ爲スヘキモノニ非ストノ理由ニテ申請ヲ却下シタルモ是レ戸籍法第二〇三條及ヒ第一六七條ノ規定ニ違背シタル裁判ナルヲ以テ山口地方裁判所ニ抗告ヲ申立タルニ同裁判所モ亦裁區裁判所ノ判示ト同趣旨ノ理由ノ下ニ抗告ヲ棄却セラレタルニ付更ニ其裁判ニ對シ抗告ヲ爲スモノナリ抑戸籍法第二〇三條ハ身分登記又ハ戸籍ニ關スル事件ニ付キ戸籍吏ノ處分ヲ不當トスル者ニ於テ抗告ヲ爲スコ

トテ得ル規定ナレハ此規定ニ依リ抗告ヲ爲サシムルハ戸籍吏ノ處分ヲ不當トスル所ナカル可カラス然ルニ本件身分登記ハ其基本タル届出カ事實ト相違セシニ因リモノニシテ戸籍吏ノ處分ニハ何等不當ノ點アルニ非サルヲ以テ此場合ニ於テ抗告ヲ爲スハ其當ヲ得サルヘシ戸籍法第一六七條ノ規定ハ錯誤脱漏其他ノ事由ニ因リ事實ニ吻合セサル登記アル場合ニ之ヲ更正シテ事實ニ適合セシムルノ趣旨ニ出ツルモノナルコト疑ナクシテ同様ニ所謂變更ノ意義ニハ何等ノ制限ナキカ故ニ本件ノ如キ場合ニ之ニ包含スルモノト解セサル可カラス  
〔決定理由〕抗告人ハ本件身分登記ノ基本タル届出ヲ爲シタルモノニ非サルノミナラズ齊藤「とも」ノ死亡ニ關シテハ届出義務者ニモ非サルヲ以テ該登記ヲ變更シテ同人ノ死亡登記ト爲スコトヲ得スト雖モ同登記ノ本人ナルニ於テハ之カ抹消ヲ求ムルコトヲ得ルハ多言ヲ俟ダスシテ明カナリ而シテ舊戸籍法第一六七條ニハ「身分登記ノ變更ヲ請求セント欲スルモノハ云」トアリテ其變更ノ意義ニ何等制限ヲ加ヘサルヲ以テ苟モ身分登記カ事實ニ吻合セサルニ於テハ單ニ其一部ノ訂正又ハ加入ヲ要スルカ如キ場合ト全部ノ抹消ヲ要スルカ如キ場合トヲ問ハス之ヲ更正スルヲ得セシムルノ法意ナリト解スルヲ至當トス又同法第二〇三條ニ依ル抗告ハ戸籍吏ノ處分ヲ不當トスル場合ニ於ケルモノナルコト抗告人所論ノ如シ故ニ本件身分登記カ抗告人ノ主張スル如ク全ク届出ノ誤謬ニ因ルモノニシテ戸籍吏ノ處分ニ何等不當ノ點ナキニ於テハ抗告人ハ前掲第一六七條ノ規定ニ因リ登記抹消ノ爲メ區裁判所ノ許可ヲ申請スルコトヲ得ルモノト爲ササル可カラス然ルニ原審カ身分登記ノ變更ハ原登記ノ錯誤脱漏アリタルトキ之カ更正又ハ加入ヲ爲スヘキ場合ニ關スルモノニシテ本件ノ如キ場合

ニ於テハ戸籍吏ノ處分ニ對スル抗告ノ方法ニ依リ登記ノ取消ヲ求ムヘシト爲シタルハ其當テ得サルモノトス然レトモ本年一月一日ヨリ新戸籍法施行セラレ身分ニ關スル登記ハ全然廢止セラレタルヲ以テ抗告人ノ如キハ現行戸籍法第一六四條ニ從ヒ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得ヘキモ身分登記ノ變更ヲ請求スルコトヲ得サルニ至リタルモノナレハ本抗告ハ結局理由ナキニ歸ス(大審院大正四年(ク)第五九號同年四月二十九日民二部馬場裁判長田上禰原入江鈴木各判事判決)

【關係事項】

抗告棄却○原審山口地方裁判所○身分登記變更申請ニ對スル抗告事件○抗告人壽英とも外二名

【同趣旨判例】

千葉地方裁判所判決(本書第一卷商法九五頁)

(五六)

衆議院議員選舉法八七第一項 選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢物品手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申請シタル者又ハ供與若ハ申請ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並ニ供與ヲ受ケ若ハ申請ヲ承諾シタル者

衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ニ所謂選舉ニ關シ金錢ヲ選舉運動者ニ供與セムコトヲ申請シタル者又ハ其申請ヲ承諾シタル者トハ選舉ニ關シ選舉運動者ニ對シ該運動ノ爲メ直接ニ必要ナル金錢又ハ物ノ對價以外ノ金錢ヲ供與セムコトヲ申請シタル者又ハ其申請ヲ承諾シタル者ヲ指稱スル法意ナリトス

選舉運動者カ其運動ヲ爲ス日ニ於ケル適度ノ食事ノ如キハ固ヨリ運動ノ爲メ必要ナル事項ナリト認ムヘキヲ以テ其自宅ニ於テ爲シタル場合ニ於テモ之ヲ選舉運動ノ爲メ直接ニ必要ナル物ナリト云ハサルヲ得ス

一 原告 被告 訴訟ノ原判決ノ確定シタル事實ヲ要約スレハ被告鶴松ハ相被告人吉松ニ對シ名ヲ辨當料ニ藉リ衆議院議員選舉運動ニ對スル報酬トシテ一日金三十五錢ノ割合ヲ以テ金錢ヲ供與セムコトヲ申請シ相被告人吉松ハ其申請ヲ承諾シタルトノ趣意ニ歸スト雖モ其證據説明ノ部ヲ査閱スルニ前示ノ金錢カ報酬ナリヤ否ヤニ關スル證據ト認ム可キハ單ニ被告人吉松ニ對スル司法警察官聴取書中被告人鶴松ハ同人ニ對シ運動ヲ爲シタル日ニハ食事ハ自宅ニ於テ爲スト又ハ他所ニ於テ爲ストヲ區別セス一日金三十五錢ノ辨當料ヲ費ヒ遣ス可シト申請シタル旨ノ供述記載ニ過キヌ按スルニ衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ニ所謂選舉ニ關シ金錢ヲ選舉運動者ニ供與セムコトヲ申請シタル者又ハ其申請ヲ承諾シタル者トハ選舉ニ關シ選舉運動者ニ對シ該運動ノ爲メ直接ニ必要ナル金錢又ハ物ノ對價以外ノ金錢ヲ供與セムコトヲ申請シタル者又ハ其申請ヲ承諾シタル者ヲ指稱スル法意ナルコト明白ニシテ選舉運動者カ其運動ヲ爲ス日ニ於ケル適度ノ食事ノ如キハ固ヨリ運動ノ爲メ必要ナル事項ナリト認ム可キヲ以テソノ自宅ニ於テ爲シタル場合ニ於テモ之ヲ選舉運動ノ爲メ直接ニ必要ナル物ナリト云ハサルヲ得ス而シテ上叙聴取書中ノ供述ハ之ヲ要スルニ運動ヲ爲シタル日ニハ現實ニ辨當料即チ食料ヲ支拂ヒタルト否トナ問ハヌ自宅其他ノ場所ニ於テ爲ス可キ該一日ノ食料費トシテ金三十五錢ヲ給與ス可シトノ趣意ニ過キサルモノヲ以テ之ニ

依リテ証ニ判示ニ係ル報酬トシテ一日金三十五錢ニ相當スル金額ノ供與ヲ申込ニテ  
罪又ハ其申込ヲ承諾シタル罪ヲ構成スル事實ヲ認ムルニ足ラサルニ關ラズ原判決  
カ此證據ノミニ依リ前示ノ事實ヲ認定シタルハ事實及ヒ證據ノ各理由間ニ齟齬アリ  
(大審院大正四年(レ)第一〇一二號同年六月一日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各  
判事判決)

【關係事項】

破毀移送○原審奈良地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人中川鶴松外一名辯護人米田吉次郎

報酬又ハ謝禮ノ意味ヲ以テセスシテ單ニ一般社交上ノ禮儀ニ違ヒ常食ノ時刻ニ  
及ヒ常食ニ相當スル飲食物ヲ人ニ供給スルモ衆議院議員選舉法第八七條ノ罪ヲ  
構成セザルモノトス

一人分代金貳拾五錢ニ値スル食物ノ如キハ現時社會ノ一般狀態ニ照ラシ常食ノ  
程度ヲ超ヘサルモノト認ムルヲ相當トスヘク又運動員ニ之ヲ供スルハ單ニ選舉  
運動ノ爲メ必要ナル物タルニ止マリ毫モ報酬謝禮ノ性質ヲ有セザルモノナレハ  
供與ノ相手方力選舉運動ヲ依頼セラルルモノナリトスルモ是レ一般社交上ノ禮  
儀ニ違ヒ供與シタルニ過キサルモノニシテ其供與ニハ特ニ報酬ノ性質ヲ有スル  
モノト推斷スヘキ根據ナキモノトス

衆議院議員選舉法第八七條第一項本文ニ選舉ノ前後ヲ問ハズ左ノ各款ニ該當スル者  
爲テ罰金一千元以下ノ罰金又ハ一年以下ノ懲禁刑ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

ト規定シ其第二號ニハ選舉ニ關シ酒食遊覽等其方法及名義ノ何タルヲ問ハズ人ヲ要  
應接待シ又ハ要應接待ヲ受ケタルモノ云々ト規定セルハ選舉ニ關シテ(事前)タル事  
後タルヲ問ハズ(報酬)又ハ謝禮ノ意味ヲ以テ人ヲ要應接待スル等ノ行爲ヲ處罰スル趣  
旨ニ外ナラズ從テ選舉運動者ニ對シ車馬賃飲食宿泊料ノ如キ選舉運動ノ爲メ必要ナ  
ル事實ヲ供與スルハ同條第一號ニ該當セザルノミナラス同第二號ニモ該當セザ  
ルモノニシテ其行爲ヲ犯罪ヲ構成セザルコトハ既ニ本院判例ニ於テ說示スル所ノ如  
シ然リ而シテ同第二號ハ選舉ニ關シテ報酬又ハ謝禮ノ意味ヲ以テ人ヲ要應接待スル  
等ノ行爲ヲ處罰スル趣旨ナルカ故ニ報酬又ハ謝禮ノ意味ヲ以テセスシテ單ニ一般社  
交上ノ禮儀ニ違ヒ常食ノ時刻ニ及ヒ常食ニ相當スル飲食物ヲ人ニ供給シタル事實ア  
リトスルモ其行爲ハ毫モ同條第一項第一、二號ノ犯罪ヲ構成スルコトナク其供給ヲ受  
ケタル者力選舉運動ニ關スルモノタルト然ラサルトニヨリ異同アルコトナシ蓋シ同  
條同項第二條ニ於テ選舉ニ關シ人ヲ要應接待シ又ハ要應接待ヲ受ケタルモノヲ處罰ス  
ル所以ノ理由ハ他人ノ選舉ニ關スル行爲ニ對シ事前タルト事後タルトヲ問ハズ之ニ  
報酬謝禮ヲ與フルコトヲ申込ミ又ハ約束シ若クハ現ニ之ヲ供與シ又ハ之ヲ受ケルコ  
トヲ諾シ若シクハ現ニ之ヲ受ケル等ノコトヲ以テ選舉界ヲ腐敗セシメ因テ選舉ノ公  
正ヲ害シ若シクハ其公正ヲ害スル虞アリトスルニ出ツルモノニ外ナラス夫ノ一般社  
交上ノ禮儀ニ違ヒ常食ヲ人ニ供與スルノ如キ行爲ノ如キハ飲食物ヲ他人ニ供與シテ  
其歡心ヲ買ヒ依テ選舉ニ關シ利ヲ圖ラントスルモノト全ク其性質ヲ異ニスルノミナ  
ラス他人ニ對シテ一般社交上ノ禮儀ニ違ヒタル行爲ヲ爲スコトハ毫モ衆議院議員選  
舉法ノ罰則ノ禁止スル所ニアラス蓋シ衆議院議員選舉法第八七條第一項第一、二號ニ



於テ其列舉スル諸般ノ利益ヲ供與シ又ハ供與ヲ申込ミ若クハ之ヲ約スルコト其供與  
 ナ受ケ又ハ供與ノ申込ヲ諾シ若クハ之ヲ約束スル等ノコトヲ刑事上ノ制裁ヲ付シテ  
 禁スルコトト前記ノ如ク一般社交上ノ禮儀ニ違ヒタル行爲ヲ爲スコトハ竝ヒ容レテ  
 相妨ケス故ニ證據ニ依レハ一般社交上ノ禮儀ニ違ヒ常食ノ時刻ニ及ヒ常食ニ相當ス  
 ル飲食物ヲ人ニ供與シタル事實アリテ特ニ其供與ハ報酬謝禮ノ目的ヲ以テセサルコ  
 ト明白ナルニ拘ラス是等ノ證據ニ依リ報酬謝禮ノ目的ヲ以テ他人ニ利益ヲ供與シタ  
 ル事實ヲ斷定スルカ如キハ證據ニ依ラスシテ不法ノ事實ヲ確定シタルモノト云ハサ  
 ルヘカラス原判決ヲ查スルニ原審ハ證據ノ理由ニ被告久七正明近松由之助義夫ノ原  
 審公延ノ供述被告久七正明近松由之助義夫ニ對スル檢事ノ聽取書供述記載第一審公  
 判始末書中松下芳太郎ノ供述記載等ヲ列舉シ之ヲ綜合シテ判示犯罪事實ヲ認定シタ  
 ルモノナレトモ以上ノ證據ニ依レハ被告久七正明力選舉運動ヲ依頼スル爲メ招致シ  
 タル被告近松由之助義夫ニ對シ談話中畫食ノ時刻ニ及ヒ每一人代金二十五錢ニ相當  
 スル食物ヲ薦メタルモノニシテ每一人代金二十五錢ニ値スル食物ノ如キハ現時社會  
 ノ一般狀態ニ照シ常食ノ程度ヲ超ヘサルモノト認ムルヲ相當トスヘク原來運動者ニ  
 之ヲ供スルハ單ハ選舉運動ノ爲メ必要ナル物タルニ止マリ毫モ報酬謝禮ノ性質ヲ有  
 セサルモノナレハ供與ノ相手方力選舉運動ヲ依頼セラルルモノナリトスルモ是レ一  
 般社交上ノ禮儀ニ違ヒ供與シタルニ過キサルコト明白ニシテ其供與ニハ特ニ報酬ノ  
 性質ヲ有スルモノト推斷スヘキ何等ノ根據アルコトナシ(此場合ニ謝禮ノ性質ヲ有セ  
 サルハ説明ヲ俟タス)故ニ原判決事實ノ判示ニ被告久七正明力共謀シテ被告近松由之  
 助義夫ニ對シ一人前金二十五錢ニ相當スル膳部(食物)ヲ供シテ獎勵シ候補者兒玉亮太

【關係事項】

破綻移送○原審和歌山地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人吉村久七外四名辯護人駒澤辰明同高木益太郎  
 郎ノ爲メ選舉運動ノ依頼ヲ爲シ被告近松由之助義夫ノ三名ハ右獎勵ヲ受ケテ其選舉  
 運動者タルコトヲ承諾シタリトアルハ若シ右久七正明ト近松由之助義夫間ニ於テ獎勵  
 應ヲ報酬トシテ一方ハ前記ノ依頼ヲ爲シ他ノ一方ハ之ヲ承諾シタリトノ趣旨ナリト  
 セハ原判決判示ノ證據ニ依リテハ被告近松由之助義夫ノ三名カ兒玉亮太郎ノ選舉運  
 動者タルコトヲ承諾シタルハ被告久七正明ノ二名ヨリ獎勵ヲ受ケタル結果ナルコト  
 ナ明ニスルモノナシ故ニ原判決ハ此點ニ於テ證據ニ依ラスシテ事實ヲ認定シタル違  
 法アルモノナレトモ元來原判決ノ判示事實ハ其意義明瞭ヲ缺キ結局被告等ノ行爲ハ  
 選舉運動ヲ承諾スル報酬トシテ獎勵ヲ爲シ又ハ之ヲ受ケタルモノナルヤ否ヤ明確ナ  
 ラスシテ原判決ハ事實理由ノ不備アル違法ノ裁判ナリトス(大審院大正四年(九)第一〇  
 七六條同年六月七日刑二部鶴裁判長鶴見水本藤波泉二各判事判決)

衆議院議員選舉法ニ所謂金錢ノ供與トハ出金者ノ何人タルヲ問ハス事實上金錢  
 ヲ交付スル行爲ヲ指稱スルモノニシテ他ヨリ金錢ヲ受領シタル上之ヲ交付スル  
 モ金錢ヲ供與スルモノニ外ナラサルモノトス

衆議院議員選舉法ニ所謂金錢ノ供與トハ出金者ノ何人タルヲ問ハス事實上金錢ヲ交  
 付スル行爲ヲ指稱スルモノニシテ他ヨリ金錢ヲ受領シタル上之ヲ交付スルモノ即チ金  
 錢ヲ供與スルモノニ外ナラサルハ被告傳藏藤次郎カ被告岩吉ニ對シ辨當代トシテ一  
 日四十五錢位ハ實テ遺ルト言ヒタル旨ノ關係人ノ陳述ヲ右兩名カ岩吉ニ對シ一日金

【關係事項】

四十五錢位ヲ供與スベキコトヲ約束シタル旨ノ事實ヲ認定スルノ證據ニ供スルハ不  
法ニラス(大審院大正四年(レ)第一二七四號同年六月七日刑二部鶴裁判長鶴見水本  
波泉ニ各判事判決)

衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ニ所謂選舉運動者トハ選舉運動者トシ  
テ現ニ運動ニ從事スル者若クハ選舉運動者タルコトヲ承諾セル者ノミナラス選  
舉運動者タルコトノ承諾ヲ求メラレタル者ヲモ包含スト解スヘキモノトス

衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ニ所謂選舉運動者トハ選舉運動者トシテ現  
ニ運動ニ從事スル者若クハ選舉運動者タルコトヲ承諾セル者ノミナラス選舉運動者  
タルコトノ承諾ヲ求メラレタル者ヲモ包含スト解スヘキモノトス蓋シ所謂選舉運動  
者ハ選舉人ト異リ法定ノ資格ヲ必要トセス法令上特別ノ制限ナキ以上何人ト雖モ選  
舉運動ヲ爲シ得ヘキヲ以テ利益ノ供與若クハ其申込ニ因リテ他人ニ選舉運動者タル  
コトヲ承諾セシメ又ハ利益ノ供與若クハ其申込ニ因リテ選舉運動者タルコトヲ承諾ス  
ル場合ト既ニ選舉運動者ト爲レル者ニ對シ選舉ニ關シテ利益ヲ供與シ若クハ其申込  
ヲ爲シ又ハ選舉運動者ト爲レル者カ他人ヨリ選舉ニ關シテ利益ヲ供與シ若クハ其申込  
ヲ受ケタル場合トハ處罰ヲ必要トスル理由ニ於テ軒輊スルコトナケレハ上叙ノ如ク  
衆議院議員選舉法第八七條ニ所謂選舉運動者ハ廣汎ナル意義ヲ包含スト解スルヲ妥  
當トス故ニ原判決ニ於テ被告カ他人ニ對シテ一定ノ衆議院議員候補者ノ爲メニ選舉

【關係事項】

運動者爲スコトヲ承諾スルニ於テハ相當ノ金錢的報酬ヲ爲スヘク申込ミタル事實ヲ  
認定シ選舉運動者ニ對シテ選舉ニ關シ金錢ノ供與ヲ申込タル者ニ該當スト爲シ衆議  
院議員選舉法第八七條第一項ヲ適用處罰シタルハ相當ナリ(大審院大正四年(レ)第一  
九八號同年六月四日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)

【參照學說判例】

一 運動者ナリト認ムルニハ供與又ハ供與ノ申込ヲ受ケタル當時現ニ運動者トシツアル者タルヲ要スルカ判例ハ運動ノ實行  
前ト雖モ他人ノ依頼ニ應ジ運動ニ從事セント承諾シタル者ヲ包含スルモノト解シタリ然レトモ利益供與ヲ申込ミテ選舉運  
動ヲ依託シタルトキハ其被依託者ヲ以テ運動者ナリトシ利益供與ノ行爲ヲ本條第一號ニ該當スルモノトシテ處罰スルコト  
ヲ得ルヤ否ヤハ一疑問ニ屬セリ蓋文理解釋トシテハ之ヲ否定スルヲ適當ナリトスルモ取締上ノ精神ヨリ觀察スレハ斯カル場  
合ト既ニ運動者タルコトヲ承諾セル者ニ對シテ申込ヲ爲シタル場合ニ因リ機械的ノ區別ヲ認ムヘキ理由ナキニ似タリ(法學士泉  
二新廣氏法律評論第四卷第八號論說六二頁)  
二 衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ニ所謂選舉運動者トハ金品手形ノ利益若クハ公私ノ職務ノ供與又ハ其供與ノ申  
込當時現ニ運動者トシテ行フ者ノミニ限ラス未タ其實行前ト雖モ既ニ他人ノ依頼ニ應ジ運動ニ從事セント承諾シタル者ヲモ  
指稱スルモノトス(大審院刑事判決四十二年一二九頁)

(五七)

人事訴訟手續法二二 裁判所ハ婚姻事件ニ付キ當事者自身出頭ヲ命シ當事者又ハ檢事カ提出シタル事實ニ付キ訊問  
ヲ爲スコトヲ得

民事訴訟法三六〇 當事者ノ提出シタル事實ニ付キ證據ヲ開ケタル結果ニ因リ證據ニ付キ事實ノ眞否ニ付キ裁判所カ心  
算ヲ得ルニ足ラザルモノト認ムルハ申立ニ因リ又ハ證據ヲ以テ原告若クハ被告ノ本人ヲ訊問スルコトヲ得

親子關係事件ニ付キハ裁判所ハ何時ニテモ當事者ニ自身出頭ヲ命シ保釋事實ニ

付キ訊問ヲ爲スコトヲ得ヘク當事者ノ提出シタル許ス可キ證據ヲ調ヘタル結果ニ因ルコトヲ必要トスルモノニ非ス

親子關係事件ニ付テハ人事訴訟手續法第三九條第一二條ニ依リ裁判所ハ何時ニテモ當事者ニ自身出頭ヲ命シ係爭事實ニ付キ訊問ヲ爲スコトヲ得ヘク當事者ノ提出シタル許ス可キ證據ヲ調ヘタル結果ニ因ルコトヲ必要トスルモノニ非サルヲ以テ本件被上告人ノ本人訊問ニ關スル原院ノ措置ハ相當ナリ(大審院大正四年(イ)第一九四號同年六月二日民三部横田裁判長大倉尾古嘉山三宅各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審官城控訴院○私生子認知請求事件○上告人須郷留三訴訟代理人辯護士阿部喜藤治被上告人奈良鐵三郎至當ノ見解ナルコト冒頭條文ヲ對照スレハ明白ナリ

(五八)

商標法一

自己ノ生産、製造、加工、選擇、説明、取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲商標ヲ專用トセムトスル者ハ本法ニ依リ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得

登録ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形、記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス

商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受クルコトヲ得

商標ハ文字圖形記號又ハ其結合ヲ以テ其構成要素トシ之ト共ニ其施色ノ登録ヲモ受クルコトヲ得セシムルモノニシテ文字圖形等ノ外ニ色彩ノミ獨立シテ別箇ノ登録ヲ受クルコトヲ得ルモノニアラス

商標法第一條第二項ニ登録ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ文字圖形記號又ハ其結合ニ

シテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ストアリ又第三項ニ商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受クルコトヲ得トアルニ依リテ觀レハ商標ハ文字圖形記號又ハ其結合ヲ以テ其構成要素トシ之ト共ニ其施色ノ登録ヲモ受クルコトヲ得セシムルモノニシテ文字圖形等ノ外ニ色彩ノミ獨立シテ別箇ノ登録ヲ受クルコトヲ得ルモノニ非ス然レハ原審判決力係爭兩商標ヲ對比スルニ當リ其色彩ノ著明ナルモノヲ掲記シタルノミナラス色彩ト圖形等ト相待チテ二者ノ類似ヲ判定シタルハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ大審院大正三年(イ)第四八八號同四年五月五日民三部横田裁判長大倉尾古三宅各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審特許局○商標登録無効審判請求事件○上告人廣島油明株式會社訴訟代理人辯護士太田資時被上告人良燧合資會社訴訟代理人辯護士杉田金之助

當然ノ解釋疑問ノ餘地ナシ

(五九)

明治八年大政官布告第一〇六號ハ地券書替ヲ以テ地所ノ賣買ニ因ル所有權移轉ノ效力ヲ生スルニ必要ナル方式ト爲シタルモノトス從テ假令其賣買ニ付キ既ニ代金ノ支拂ヲ完了シ戸長ノ奥書割印ヲ受ケタリトスルモ地券書替ノ手續ヲ爲サザリシトキハ其實買ニ因リ所有權ヲ取得セシモノト爲スコトヲ得ス

明治八年大政官布告第一〇六號ハ地所ノ賣買アリタル場合ニ於テ代金ヲ授受シタル證書アルトキト雖モ規則ニ從ヒ地券書替ノ手續ヲ爲スニ非サレハ所有權移轉セサル

旨ヲ規定シタルモノニシテ其法意ハ地券書替ヲ以テ地所ノ賣買ニ因ル所有權移轉ノ效力ヲ生スルニ必要ナル方式ト爲シタルニ在ルコト疑ヲ容レズ是レ本院判例ノ是認スル所ナリ(明治三十年第三八七號同三十一年三月二十八日判決參看)故ニ同布告ノ行ハレタル本件係争地所賣買ノ當時ニ在リテハ假令上告人カ其賣買ニ付キ既ニ代金ノ支拂ヲ完了シ戸長ノ奥書割印ヲ受ケタリシトモ地券書替ノ手續ヲ爲サザリシコトハ原審ニ於テ確定シタル事實ナレハ其賣買ニ因リ所有權ヲ取得セシモノト爲スコトヲ得サルハ當然ナリ從テ其賣買ニ因リ當時所有權ヲ取得シタリトシ其所有權取得ヲ前提トスル本訴請求ノ到底維持ス可カラサルコト明白ナレハ原院カ同趣旨ニ基キ本訴請求ヲ排斥シ其他ニ論及セザリシハ正當ナリ(大審院大正三年(オ)第八九一號同四年五月四日民一部田部裁判長榊原尾古入江岩田各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審岐阜地方裁判所○土地所有權確認並所有權登記取消請求事件○上告人森毅被上告人福田鐵次郎

【同趣旨判例】

地券書換ハ地所ノ所有權ヲ移轉スルニ付キ當時必要ノ方式ニシテ第三者ニ對スル公示方法ニ非ス(大審院民事判決錄三三年三卷七九頁)

(六〇)

警察犯處罰令二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス  
七 新聞紙雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者

苟モ特定人ノ名義ヲ用キ一定ノ事項ヲ新聞紙等ニ掲載セシメ之ヲ他ノ特定人若

クハ公衆ニ告知スルモノナル以上ハ其内容ノ如何ヲ問ハス警察犯處罰令第二條第七號ノ廣告タルニ妨ケス

警察犯處罰令第二條第七號ニ所謂廣告ハ必スシモ有價的即チ其掲載ニ付キ代料ノ支拂ヲ要スルモノニ限ルト解スヘキ理由ナケレハ無價ノ廣告ヲ包含スルモノトス

警察犯處罰令第二條第七號ハ他人ニ對シテ其意思ニ反シ新聞紙雜誌其他ノ出版物ノ購讀又ハ新聞紙雜誌其他ノ出版物ニ掲載スヘキ廣告ニ付キ其申込ヲ強要スル所爲ヲ處罰スルモノニシテ其所謂廣告ノ種類ニ關シテ何等制限スル處ナキヲ以テ苟モ特定人ノ名義ヲ用キ一定ノ事項ヲ新聞紙等ニ掲載セシメ之ヲ他ノ特定人若クハ公衆ニ告知スルモノナル以上ハ其内容ノ如何ヲ問ハス同條ノ廣告タルニ妨ナシ故ニ原判決ニ於テ被告カ千葉葛城屋組合年番タル田野よねニ對シ新聞紙ニ同組合ノ廣告ヲ掲載セシムヘク其申込ヲ強要シタル事實ヲ判示シアルニ於テハ其廣告ノ内容等ヲ說示セザルモ同條第九號後段ノ罪ヲ論スルニ付キ理由不備ノ違法アルモノニ非ス又同條ニ所謂廣告ハ必スシモ有價的即チ其掲載ニ付キ代料ノ支拂ヲ要スルモノニ限ルト解スヘキ理由ナケレハ無價ノ廣告ヲ包含スト論シ得ヘキノミナラス原判全文ノ全體ニ徴スレハ營利的新聞紙業ニ從事スル被告他人ニ對シテ廣告掲載ヲ強要セル事實ハ固ヨリ利益ノ打算ニ出テタルモノト推斷スルニ足ルヲ以テ其廣告ノ有價的ナルコトヲ判示セサルモノナリト認ムルニ難カラス而シテ原判決ノ證據說明ニ依レハ益其趣旨ヲ確認スルニ足ルヲ以テ上告ハ理由ナシ(大審院大正四年(レ)第九四六號同年五月二十一

大審院判

【關係事項】

日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)
上告棄却○原審千葉地方裁判所○警察犯處罰令違反被告事件○被告人茂木繁

(六一)

貯蓄銀行條例一

複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲メニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス
銀行ニ於テ新ニ一口五圓未満ノ金額ヲ定期預リ若クハ當座預リトシテ引受クルトキハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム者ト爲シ
此條例ニ依ラシム

同三 貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス
但其責任ハ退任後二箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

貯蓄銀行力普通銀行ノ業ヲ併セ營ム場合ニ於テハ貯蓄銀行條例第三條ノ取締役ノ責任ニ關スル規定ハ貯蓄銀行固有ノ業務ノ範圍内ニ於テノミ之ヲ適用スヘキモノトス

貯蓄銀行條例第一條ニ規定スル複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲メニ預金(所謂貯蓄預金)ノ業ヲ營ム場合及ヒ銀行ニ於テ新ニ一口五圓未満ノ金額ヲ定期預リ若クハ當座預リトシテ引受クル場合ノ如キハ其預金ノ性質上零細ナル資金ヲ吸集シ長期ニ且リテ之ヲ保管利殖スルコトヲ要スルモノナルヲ以テ其安全ト確實トヲ期スル爲メ特ニ同條例ヲ設ケ之ニ依ラシムル立法ノ趣旨ニ外ナラサルモノト解スルヲ相當トス然レハ一方ニ於テハ普通銀行力前記ノ如キ貯蓄銀行ノ業ヲ併セ營ム場合ニ於テモ其業務ノ範圍内ニ於テハ貯蓄銀行條例ニ依ルコトヲ要スルモノナルト同時ニ他方ニ於テ貯蓄銀行力普通銀行ノ業ヲ併セ營ム場合ニ於テハ其範圍ニ於テハ銀行條例ノ規定ニ從フヘキ

長崎控訴院

【關係事項】

破毀自判○原審長崎控訴院○預金請求事件○上告人重松龜太郎外四名訴訟代理人辯護士高木益太郎同添田增男被上告人長野松太郎訴訟代理人辯護士横山寛平同伊藤松男

【反對判例】

貯蓄銀行ノ取締役ハ苟クモ其在任中ニ生シタル債務ナル以上ハ該債務ノ發生原因カ貯蓄預金ニ在ルト將タ定期預金若クハ當座預金又ハ其他ノ銀行事業ニ在ルトナ問ハス總テ之カ連帶責任ヲ負フモノトス(長崎控訴院本件第二審判決本書第三卷儲法二二三頁)

至當ノ判決ナリト信ス

(六一)

衆議院議員選舉法八七 選舉ノ前後ナ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又

八十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢物品手形其ノ他ノ利益若クハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込テ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與テ受ケテ若クハ申込テ承諾シタル者  
 二 選舉ニ關シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ選舉會場開票所若クハ投票所ニ往復スル爲メ船車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若クハ沐浴料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者  
 三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ誘導シタル者及其ノ誘導ニ應ジタル者  
 前項ノ場合ニ於テ其ノ收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ既ニ費用シタルモノハ其ノ價ヲ追徵ス  
 同八八 左ノ各號ニ該當スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
 一 選舉ニ關シ選舉人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若クハ之ヲ拐引シタル者  
 二 選舉人ニ對シ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ選舉權ノ行使ヲ妨害シ若クハ投票ヲ爲サシメタル者  
 三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ威逼シタル者  
 同九六 ……但シ新聞雜誌ニ在リテハ仍其ノ記名シタル編輯人ヲ處斷ス  
 同九七 當選ヲ妨クルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ニ關シ虛僞ノ事項ヲ公ニシタル者ハ六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス新聞紙、雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル  
 刑法八 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニシテ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス  
 同五四 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス  
 同六一 入テ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス  
 教唆ヲ教唆シタル者亦同シ  
 供與ヲ申込ミ若クハ之カ申込ヲ受ケタル金圓カ日當又ハ辨當料トシテ其金額一日金三十錢乃至五十錢ニ過キサルトキハ他ニ反證ナキ以上右金圓ハ選舉運動者

ニ對スル實費ノ供與ト認メサルヘカラス

選舉ノ際運動者ニ對シテ之カ實費ヲ供與スルカ如キハ法ノ禁スル所ニアラス  
 記録ヲ查スルニ原判決ニハ被告米吉ハ大正四年三月二十五日施行ノ衆議院議員總選舉ニ關シ千葉縣ニ於ケル候補者加瀬禧逸ノ爲メ運動ヲ爲スニ當リ同月初旬被告太郎兵衛勝司藩平泰助伊助惣治右衛門喜兵衛福太郎各其居宅ニ歴訪シ一日ニ付金三十錢乃至五十錢ノ報酬ヲ供與スルニヨリ同候補者ノ爲メ運動ヲ爲シ吳レ度旨申込ミ被告太郎兵衛勝司藩平泰助伊助惣治右衛門喜兵衛福太郎ハ各其申込ヲ承諾シタリトアリテ右判示ニ據レハ被告米吉ハ判示ノ選舉ニ關シ被告太郎兵衛外八名ニ對シ利益ノ供與ヲ申込ミ被告太郎兵衛外八名ハ之ヲ承諾シタル如ク認メアルモ之レカ證據説明ヲ查スルニ被告等カ供與ヲ申込ミ若クハ之レカ申込ヲ受ケタル金員ハ日當又ハ辨當料トアリテ其金額又一日金三十錢乃至五十錢ニ過キサレハ他ニ反證ナキ以上右金圓ハ運動者ニ對スル實費ノ供與ト認メサルヘカラス而シテ選舉ノ際運動者ニ對シテ之レカ實費ヲ供與スルカ如キハ法ノ禁スル所ニアラサルコトハ本院ノ判例トシテ夙ニ認ムル所ナリ左レハ原判決ノ認メタル事實ト其證據トノ間ニ矛盾アリテ其趣旨相吻合セサルヲ以テ原判決ハ破毀ヲ免カレス(大審院大正四年(レ)第一二〇八號同年六月七日刑二部鶴裁判長鶴見水本藤波泉二各判事判決)

【關係事項】

破毀移送○原審千葉地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告八宮内米吉外八名辯護人平松市藏同花井卓藏同高野金重同被松金章同池田清秋

裁判所カ被告ニ對シ衆議院議員選舉法第一號ヲ適用シタル場合ニ於テ判決ノ事

實理由ノ部ニ於テ被脅迫者カ衆議院議員ノ選舉人タル事實ヲ認定シタルモ其證據説明ノ部ニ於テハ全然同人カ前叙ノ選舉人タルコトヲ認ムルニ足ル可キ證據ヲ舉示スルコトナキトキハ證據ニ依ラスシテ罪素ノ一タル衆議院議員ノ選舉人タル事實ヲ認定シタル違法アルモノトス

衆議院議員選舉法第八八條第一號ノ罪ハ選舉ニ關シ選舉人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若クハ之ヲ拐引シタル行爲ニ關スルモノナルヲ以テ縱令選舉ニ關シ或者ニ脅迫ヲ加ヘタル事實アリトスルモ其者カ衆議院議員ノ選舉人ニ非サル限りハ少クトモ前掲法條ノ罪ヲ構成スルコトナキハ論ヲ俟タス原判決ヲ查閱スルニ其事實理由ノ部ニ於テ被脅迫者蓋谷佐一郎カ衆議院議員ノ選舉人タル事實ヲ認定シタルモ其證據説明ノ部ニ於テハ全然同人カ前叙ノ選舉人タルコトヲ認ムルニ足ル可キ證據ヲ舉示スルコトナキヲ以テ原判決ニハ證據ニ依ラスシテ本件罪素ノ一タル衆議院議員ノ選舉人タル事實ヲ認定シタル違法アリテ破毀ヲ免カレス(大審院大正四年九月第一二八八號同年六月十八日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)

【關係事項】

破毀移送○原審名古屋控訴院○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人中島宇三郎辯護人津田兼

一家ノ慣例上年々催スヘキ年始ノ祝宴ニテ人ヲ妻應接待シ又ハ妻應接待ヲ受クルニ當リ其席上選舉權ヲ有スル者ニ對シ或候補者ヲ選舉センコトヲ勸誘シタル事實アリトスルモ選舉ニ關シ人ヲ妻應接待シ又ハ妻應接待ヲ受ケタル罪アルモ

ノトシテ衆議院議員選舉法第八七條第一項第二號ニ問擬スヘキモノニアラス

衆議院議員選舉法違反ノ行爲ナラサルコトヲ裝ハン爲メ年始ノ祝宴ニ名ヲ藉リ選舉ニ關シテ人ヲ妻應接待シ又ハ妻應接待ヲ受ケタルカ如キハ同法第八七條第一項第一號ノ犯罪ナルコト固ヨリ論ナシト雖モ一家ノ慣例上年々催スヘキ年始ノ祝宴ニ於テ人ヲ妻應接待シ又ハ妻應接待ヲ受ケタルニ當リ其席上選舉權ヲ有スル者ニ對シ或候補者ヲ選舉センコトヲ勸誘シタル事實アリトスルモ選舉ニ關シ人ヲ妻應接待シ又ハ妻應接待ヲ受ケタル罪アルモノトシテ同條項ニ問擬スヘキ筋合ノモノニアラス何トナレハ一家ノ慣例上催セル祝宴ナル以上ハ其祝宴ハ社交上ノ禮儀トシテ催セルモノニ外ナラサルサレハ假令之ヲ好機トシテ其席上選舉勸誘ノ行爲行ハレタレハトテ是ヲ以テ選舉ニ關シ人ヲ妻應接待シ又ハ妻應接待ヲ受ケタルモノト爲スハ妥當ナラサルヲ以テナリ原判決ヲ查スルニ其認ムル所ハ要スルニ被告豐藏ハ大正四年三月二十五日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ付鳥取縣郡部選出議員候補者大谷誠夫ノ爲メ選舉運動ニ從事中自家坂口平兵衛方ニ於テハ舊曆一月五日中午作人一同ヲ年始トシテ妻應スル慣例アルヲ好機トシ同日ニ相當スル大正四年二月十八日右妻應ヲ催スニ際シ中作人中ノ選舉有權者ニ對シ選舉ニ關スル妻應ナルコトヲ知ラシメ以テ右誠夫ニ對スル投票ニ資セント企テ自家店員ナル被告光徳秀治ト共謀シ同日選舉有權者ナル被告藤吉等ヲ他ノ中作人ト共ニ米子町吉岡樓事吉岡竹藏方ニ招待シタルニ來會者ハ被告藤吉等以外ノ者ヲ合セ四十七名ニシテ被告豐藏ハ開宴ノ口頭ニ於テ右來會者ニ對シ例年ノ年始妻宴ナリトテ飲食ヲ勸メ且該宴會ノ歸路同日午後同町公會堂ニ開催セ

フルル議員候補者大谷誠夫ノ政見發表演說會ニ赴キ其演說ヲ聞キ吳レ度旨披露シ以テ選舉有權者タル被告等ニ對シ暗ニ其演說ヲ聽キ該演說ニ依リ表ハルル候補者選舉勸誘ニ關スル要應ナルコトヲ覺知セシメタル上一人前七十錢ニ相當スル飲食物及一升五十二錢ニ相當スル酒一斗二升ヲ來會者ニ供シ被告光徳秀治ハ同席ニ於テ選舉有權者ニ對シ該要應ニ付終始幹旋ヲ爲シ豐藏ノ意ヲ體シ演說會ニ至ルヘキコトヲ勸誘シ被告藤吉等ハ其情ヲ知テ右要應ヲ受ケタルモノナリト云フニ在リテ一面ニ於テ坂口家ノ慣例上催シタル年始ノ祝宴ニ於テ被告豐藏等カ選舉有權者タル被告藤吉等ニ對シ選舉勸誘ヲ爲シタル事實ニ過キサカカ如ク他ノ一面ニ於テハ被告豐藏等カ選舉勸誘ノ爲メ特ニ藤吉等ヲ要應シタルモノノ如ク原判決ハ意義分明ナラス即チ理由不備ノ判決ナリ(大審院大正四年(レ)第一四二四號同年六月二十一日刑二部鶴裁判長鶴見水本藤波泉二各判事判決)

【關係事項】

破毀移送○原審鳥取地方裁判所○衆議院議員選舉法違犯被告事件○被告人坂口豐藏外十二名辯護人ト部喜太郎

苟モ選舉ニ關シ選舉人又ハ其關係アル市町村等ニ對スル利害關係ヲ利用シ以テ選舉人ヲ誘導シ又ハ其誘導ニ應シタル事實アル以上ハ其利害關係ノ何タルヲ問ハス犯人ハ衆議院議員選舉法第八七條第一項第三號ノ罪責ヲ免ルルヲ得サルモノトス

衆議院議員選舉法第八七條第一項第三號ニハ單ニ選舉ニ關シ選舉人又ハ其關係アル社寺學校會社組合市町村等ニ對スル用水小作債權寄附其他利害ノ關係ヲ利用シ選舉

【關係事項】

人ヲ誘導シタル者及其誘導ニ應シタルモノト規定シアリテ其利害ノ關係ニ付何等ノ制限ナケレハ苟モ選舉ニ關シ選舉人又ハ其關係アル市町村等ニ對スル利害關係ヲ利用シ以テ選舉人ヲ誘導シ又ハ其誘導ニ應シタル事實アル以上ハ其利害關係ノ何タルヲ問ハス犯人ハ同條項ノ罪責ヲ免ルルヲ得サルモノトス原判決ニ依レハ德島縣宮河内谷川ハ時々洪水汎濫シ其沿岸町ナル同縣板野郡松島村松坂村板西町等ハ常ニ其水害ヲ被ムリ德島縣ニ於テモ其治水ノ急務ナルコトヲ諒トシ該工事費ハ之ヲ同縣ニ於テ支辨スルコトトナリ居リシモノニシテ宮河内谷川水害除去ノ爲メ其關係川ナル吉野川ニ水流調節ノ施設ヲ爲スコトハ被告玄一郎力年來有セシ所ノ意見ニ係リ且正當ナル福利ノ増進ヲ目的トスルモノニシテ不正ナル利益ヲ目的トスルモノニアラスト雖モ原判旨ノ如ク偶々大正四年三月二十五日施行セラレタル衆議院議員總選舉ニ際シ被告玄一郎ハ德島縣郡部選出代議士ノ候補者ニ立チ其運動中選舉有權者タル被告徳三郎及岡本徳三郎ニ對シテハ各其所有ニ係ル田畑ノ利害ニ關シ與谷惣吉外十二名ノ者ニ對シテハ各其居住セル町村ノ利害ニ關シ當選ノ上ハ宮河内谷川改修及吉野川第十堰撤廢ノ遂行ニ盡力スルニ付自己ニ投票セラレ度旨懇請若クハ演說シタルハ即チ選舉人及其關係アル町村ノ利害關係ヲ利用シ選舉人ヲ誘導シタルモノニシテ前示條項ノ罪責ヲ免ルルコト能ハサルハ勿論被告徳三郎ハ被告玄一郎ヨリ前示ノ如ク誘導セラレ其誘導ニ應シタルモノナレハ共ニ同條項ノ罪責ヲ免ルルヲ得サルヲ以テ原判決カ被告等ノ行爲ヲ同條項ニ問擬シタルハ擬律ノ錯誤ニアラス(大審院大正四年(レ)第一四九六號同年六月二十八日刑二部鶴裁判長鶴見水本藤波泉二各判事判決)



上告棄却○原審特島地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人小森玄一郎外一名辯護人末繁彌次郎渡邊澄也  
衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ハ選舉ニ關シ金錢其他ノ利益ヲ選舉人  
又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與センコトヲ申込ミタル者ハ其供與又ハ申込カ  
直接ナルト間接ナルトヲ問ハス之ヲ處罰スル旨ヲ規定セルモノナリトス」

被告カ衆議院議員候補者湖龜次郎七ノ選舉運動者トシテ松村新藏父榮次郎ヲ經テ新  
藏ニ對シ湖龜ヲ投票スル選舉人ニ對シテハ選舉終了後金一圓五十錢ノ謝禮ヲ爲スヘ  
キニ付キ投票ヲ勸誘センコトヲ依頼スル旨ヲ通シ因テ新藏ハ吉井寅藏ニ右ノ趣旨ヲ  
告ケテ運動方ヲ依頼シタルヨリ寅藏ハ更ニ山本龜太郎及ヒ武若彌吉ニ對シ同一運動  
方ヲ託シ龜太郎ヲシテ選舉人新谷傳外八名ニ對シ湖龜ニ投票セハ謝禮金ヲ供與スヘ  
キ旨ノ申込ヲ爲サシメ彌吉ヲシテ選舉人竹村龜吉ニ對シ右ト同一ノ申込ヲ爲サシメ  
タル事實ハ原判決ノ採用セル各證據ヲ綜合シテ之ヲ認ムルニ足ル而シテ衆議院議員  
選舉法第八七條第一項第一號ハ選舉ニ關シ金錢其他ノ利益ヲ選舉人又ハ選舉運動者  
ニ供與シ又ハ供與センコトヲ申込ミタル者ハ其供與又ハ申込カ直接ナルト間接ナル  
トヲ問ハス之ヲ所屬スル旨ヲ規定セルヲ以テ被告ハ右新藏父子ニ對スル直接ノ行爲  
ノミナラス寅藏及ヒ龜太郎彌吉ニ於テ選舉人ニ金錢供與ノ申込ヲ爲シタル行爲ニ付  
テモ亦同條違背ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルコト論テ俟タス(大審院大正四年(九)第一  
三三〇號同年六月十八日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審奈良地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人東富太郎辯護人米田吉次郎

(一) 衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ノ犯罪中選舉ニ關シ間接ニ金錢ヲ選  
舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與センコトヲ申込ミタル罪カ一行爲ナリ  
ヤ又ハ數行爲ナリヤヲ定ムルニ付テハ必スヤ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ間  
接ニ金錢ヲ供與シ又ハ供與センコトヲ申込ミタル犯人ノ動作ノ個數ニ着眼ス  
ヘク現實ニ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢ヲ供與シ又ハ供與センコトヲ申  
込ミタル者ノ員數又ハ其行爲ノ個數ヲ標準トスヘキ理由アルコトナシ而シテ  
前記ノ罪力之ヲ一個ノ行爲ナリト認ムヘキ關係ニ在ル場合ニ於テ若シ其行爲  
カ更ニ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ直接ニ金錢ヲ供與シ又ハ供與センコトヲ  
申込ミタル罪ト共ニ一個ノ行爲ヲ組成スルニ過キサルモノナルトキハ結局其  
事實全部ヲ以テ一個ノ行爲ナリト認ムヘキモノトス」  
(二) 苟モ選舉ニ關シ間接ニ選舉人又ハ選舉運動者ニ金錢ヲ供與シ又ハ供與セムコ  
トヲ申込ミタル者ナリトスレハ數人ノ介在シタル場合ニ於テモ仍ホ或者カ現  
實ニ金錢ヲ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル事實ニ付キ罪責ヲ有スヘキ  
ハ論ヲ俟タス」

(一) 衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ノ犯罪中選舉ニ關シ間接ニ金錢ヲ選舉  
人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與センコトヲ申込ミタル罪ハ結局或者カ選舉人又ハ  
選舉運動者ニ對シ金錢ヲ供與シ又ハ供與センコトヲ申込ミタル事實アルニ非ヤレハ

其成立ヲ認ムルコトヲ得サルハ勿論ナリト雖モ前叙ノ事實ハ之ヲ要スルニ犯人ノ動作ニヨリ生シタル結果ニ外ナラサルヲ以テ前記ノ罪カ一行爲ナリヤ又ハ數行爲ナリヤヲ定ムルニ付テハ必スヤ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ間接ニ金錢ヲ供與シ又ハ供與セシコトヲ申込ミタル犯人ノ動作ノ個數ニ着眼スヘク現實ニ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢ヲ供與シ又ハ供與セシコトヲ申込ミタル者ノ員數又ハ其行爲ノ個數ヲ標準トス可キ理由アルコトナシ而シテ前記ノ罪カ之レヲ一個ノ行爲ナリト認ムヘキ關係ニ在ル場合ニ於テ若シ其行爲力更ニ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ直接ニ金錢ヲ供與シ又ハ供與セシコトヲ申込ミタル罪ト共ニ一個ノ行爲ヲ組成スルニ過キサルモノナルトキハ結局其實全部ヲ以テ一個ノ行爲ナリト認ムヘキモノトス原判決ノ判示スルトコロニ依レハ被告人忠七ハ被告人源作ニ對シ一個ノ動作ニ依リ同人ノ投票分他者ノ買收費運動費並ニ報酬トシテ金百六十五圓ヲ交付シ又被告人嘉兵衛ニ對シ一個ノ動作ニ依リ同人ノ投票分他者ノ買收費及ヒ運動報酬トシテ合計金百十圓ヲ交付シタルモノニシテ被告人嘉兵衛ハ小林彦五郎及ヒ古谷覺太郎ニ對シ一個ノ動作ニ依リ同人等ノ投票分他者ノ買收費及ヒ運動報酬トシテ合計金五十一圓ヲ交付シタルモノナルヲ以テ原判決カ被告人忠七ノ所爲中源作ニ關スル諸點及ヒ嘉兵衛ニ關スル諸點ヲ各一個ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノトシ又被告人嘉兵衛ノ所爲中彦五郎及ヒ覺太郎ニ關スル諸點ヲ一個ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノトシタルハ洵ニ正當ナリ

(二) 衆議院議員選舉法第八七第一條第一號ノ規定ハ選舉ニ關シ間接ニ選舉人又ハ選舉運動者ニ金錢ヲ供與シ又ハ供與セシコトヲ申込ミタル行爲ヲモ處罰スル法意ナル

コト勿論ニシテ此種ノ罪ハ結局選舉人又ハ選舉運動者カ或者ヨリ現實ニ金錢ノ供與ヲ受ケ又ハ供與セシコトヲ申込マレタル事實アルニ因リテ成立スルモノナルヲ以テ荷モ選舉ニ關シ間接ニ選舉人又ハ選舉運動者ニ金錢ヲ供與シ又ハ供與セシコトヲ申込ミタル者ナリトスレハ數人ノ介在シタル場合ニ於テモ仍ホ或者カ現實ニ金錢ヲ供與シ又ハ供與セシコトヲ申込ミタル事實ニ付キ罪責ヲ有スヘキハ論ヲ俟タス(大審判太正四年(レ)第一三一二號同年六月二十二日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審水戸地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人飯村忠七外二名辯護人高木益太郎岡宮古啓三郎同朋生兵四郎

選舉運動者ニ選舉人買收費トシテ金圓ヲ寄託スル行爲ハ犯罪ヲ構成セス

原判決ヲ査スルニ其認定セル事實ハ辯護人ノ第一論旨(被告彌三郎豐吉岩次郎六一健二金之助ノ六名ハ各衆議院議員選舉有權者ナルコト被告彌三郎豐吉ノ兩名ハ候補者野尻岩次郎ヲ當選セシムルノ目的ヲ以テ船井郡一團ニ於ケル運動者ノ幹部トナリ事ヲ其運動ニ從事シタルコト被告岩次郎ハ兩名ノ依頼ニ基キ桐ノ庄村内ノ有權者ナル六一健二金之助ヲ相被告奥村新二ノ居宅ニ招キ協議ヲナシタル結果右依頼ニ應ジ候補者野尻岩次郎ノ爲メニ協力運動ヲ爲スコトニ一決シタルコト村内有權者ノ多數ヲ取經メントセハ之ニ金品ヲ供與スルノ必要アルヨリ先ツ幹部ヲ説キテ自己等ニ金圓ヲ交付ヲ受ケ其運動ヲ引受ケンコトヲ共謀シタルコト此趣旨ヲ健二金之助ノ兩名ヲシテ彌三郎ニ交渉セシメタルコト被告彌三郎ハ被告豐吉ニ圖リ兩名ハ共謀シ被告健

二等ノ申出ニ應シ金二百圓ヲ被告健二等ニ交付シ桐ノ庄村有権者多數ノ取纏方ヲ引  
 受ケシムルコトニ決シ即時川勝儀三郎方ナル選舉事務所ニ於テ被告彌三郎豐吉健二  
 及金之助例席ノ上金二百圓ヲ被告彌三郎ヨリ被告健二ノ手ニ交付シタリト云フ中ニ  
 掲ケルカ如クナルニ止マル故ニ若其意義ニシテ被告彌三郎及ヒ豐吉カ共謀シテ被告  
 健二及ヒ金之助ニ對シ金二百圓ヲ交付シタルハ選舉運動者タル岩次郎六一及ヒ右兩  
 名ニ選舉人買収費トシテ之ヲ寄託シタリトノ趣旨ナリトセンカ被告等ノ行爲ハ犯罪  
 ナル構成セシ蓋シ衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ニ所謂選舉運動者ニ對スル  
 金錢ノ供與トハ選舉運動ノ報酬謝禮トシテ選舉運動者ニ金錢ヲ供與スルヲ謂フモノ  
 ナルカ故ニ選舉運動者ニ投票買収費ヲ寄託スルカ如キハ選舉運動ノ報酬トシテ選舉  
 運動者ニ金錢ヲ供與シタルモノト謂フヘカラサルコトハ既ニ屢次當院ノ判示スル所  
 ニシテ寄託者ヨリ進テ之ヲ交付シタルト選舉運動者ヨリ寄託ヲ要求シタルトニ因リ  
 テ何等ノ區別ヲ立ツヘキ理由存セサルハナリ又若シ被告彌三郎及ヒ豐吉ニ於テ選舉  
 人タル六一健二金之助ニ金錢ヲ供與シ六一健二及ヒ金之助ハ選舉人トシテ之ヲ受ケタ  
 リトセハ執レモ前示法律第八七條第一號ニ該當スルハ勿論ナレトモ原判示事實ニ依  
 リテハ果シテ彌三郎及ヒ豐吉カ右ノ意思ニ基キ健二等ニ該金圓ヲ供與シ健二等ハ自己  
 モ亦選舉人トシテ之ヲ受ケタルコトヲ確定シタルモノト認ムルヲ得ス或ハ又原判示  
 ハ該金圓ハ被告彌三郎及ヒ豐吉ト被告岩次郎六一健二及ヒ金之助トノ間ニ於テ投票買  
 收請負ノ資金トシテ授受セラレタリトノ事實ヲ確定シタルモノナリトセハ斯カル請  
 負ハ其行爲自體ニ當然利益ヲ包含スルヲ以テ被告六名ノ行爲ハ共ニ前示法條ニ該當  
 スヘシト雖モ原判決ハ右投票請負ノ事實ヲ確定シタルモノトモ認メ難シ要スルニ原

【關係事項】

判決ハ衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ヲ適用スヘキ事實ノ確定不十分ナル  
 不法アリ原判決ハ破毀ヲ免カレス(大審院大正四年(レ)第一五一〇號同年七月二日刑一  
 部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)

【關係事項】

破毀移送○原案大阪控訴院○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人秋田彌三郎外五名辯護人轉澤總明同勝本勘三郎同鹽谷恒  
 太郎同川勝武夫

衆議院議員選舉法第九七條ノ罪ノ成立スルニハ當選妨害ノ目的ト議員候補者ニ  
 關シ公ニシタル事項カ虛偽ナルコトノ認識トノ存在ヲ必要トスルヲ以テ新聞紙  
 ニ依リテ議員候補者ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニシタル場合ニ於テ現實ニ右記事ノ  
 通信編輯又ハ掲載ノ任ニ膺リタル者ニ對シテ其罪ヲ論セントスルニハ如上要件  
 ノ存在ヲ證明セサルヘカラス

右ノ場合ニ於テ新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ當該記事ノ虛偽ナルコトヲ認識シ  
 タルト否ト又當選妨害ノ目的ヲ有シタルト否トヲ論セス其記事ヲ掲載シタル新  
 聞紙ノ署名編輯人タルノ理由ヲ以テ衆議院議員選舉法第九七條末段及ヒ同第九  
 六條但書ニ依リ第九七條ノ實行正犯ト同シク處斷セラルヘキモノトス

衆議院議員選舉法第九七條ノ罪ハ當選ヲ妨害スル目的ヲ以テ議員候補者ニ關スル虛  
 偽ノ事項ヲ公ニスルニ因リテ成立スルカ故ニ同罪ノ成立スルニハ當選妨害ノ目的ト  
 議員候補者ニ關シ公ニシタル事項カ虛偽ナルコトノ認識トノ存在ヲ必要トスルヲ論  
 ナ俟タス故ニ新聞紙ニ依リテ議員候補者ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニシタル場合ニ於テ

現實ニ右記事ノ通信編輯又ハ掲載ノ任ニ膺リタル者ニ對シテ其罪ニ論セントスルニハ如上要件ノ存在ヲ證明セサルヘカラス然レトモ新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ當該記事ノ虛偽ナルコトヲ認識シタルト否ト又當選妨害ノ目的ヲ有シタルト否トヲ論セス其記事ヲ掲載シタル新聞紙ノ署名編輯人タルノ理由ヲ以テ選舉法第九七條末段及ロ同第九六條但書ニ依リ第九七條ノ實行正犯ト同シク處斷セラルヘキモノトス故ニ原判決ニ於テ根室新聞ニ於テ議員候補者田口源太郎ノ當選ヲ妨害タル目的ヲ以テ同候補者ニ關スル虛偽事項ヲ公ニシタル事實ヲ判定シタルハ被告福太郎ヲ新聞紙ノ署名編輯人トシテ處斷スル前提ト爲シタルニ過キサレハ其實行正犯カ何人ナルヤヲ說示セサルモ被告福太郎ノ犯罪事實ヲ認定スルニ付キ理由不備ノ違法アルモノニ非ス(大審院大正四年(レ)第一四六八號同年七月二日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審根室地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人松田福太郎外三名辯護人牧野賤男同丸山良策同小川平吉同白川富磨

衆議院議員選舉法制定當時ニ施行セラレタル舊刑法ニ在リテハ教唆犯ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ルヤ否ヤノ疑問アリタルヲ以テ同法第八七條ハ此ノ如キ場合ニ付テモ皆之ヲ間接ノ犯罪トシテ處罰スヘキコトヲ明ニシタルモノトス  
人ヲ介シテ間接ニ衆議院議員選舉法第八七條第二號第三號ノ罪ヲ犯ス者ト雖モ直接ニ之ヲ實行スル者ト等シク同條ノ適用ヲ受クルモノトス

同時ニ數人ニ對シ衆議院議員選舉法第八七條第一項各號ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法第五四條ヲ適用スルヲ正當トス  
トキハ衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號刑法施行法第一九條第二條第二○條刑法第五五條ニ依テ之ヲ處斷スヘキモノトス

【上告趣意】 原判決ハ被告宇太郎ヲ衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號刑法第五五條刑法施行法第一九條第二條第二○條ニ問擬セラレタリ然レトモ其判案理由ニハ被告宇太郎ハ衆議院議員候補者金部爲秋ノ爲メニ選舉運動盡力中被告二四郎ニ對シ投票買収ノ旨ヲ依頼シ同被告ハ之ニ應シ更ニ被告次作ニ其旨ヲ傳ヘタルニ依リ次作ハ之ニ基キ有權者紅谷喜四郎外數名ニ投票報酬トシテ金員ヲ供與スヘキ申込ヲ爲シタリトノ事實認定シアリテ是ニ依テ觀レハ被告宇太郎ハ被告二四郎ニ對シ投票ヲ買収スヘキコトヲ教唆シ被告二四郎ハ更ニ被告次作ヲ教唆ス之レカ決意ヲ生セシメ因テ本件違犯行爲ヲ爲サシメタルコト明白ナルヲ以テ即チ被告宇太郎ハ被告二四郎ニ對シ教唆ナル一個ノ行爲ヲ爲シ因テ數個ノ罪名ニ觸ルル行爲ヲ爲サシメタルモノナレハ須ラク刑法第六一條同第五四條ヲ適用セサルヘカラサルモノトス然ルニ原判決カ之ヲ遺脱シ却テ之ヲ連續ノ正犯トシテ刑法第五五條ヲ適用處斷セラレタルハ即チ擬律錯誤ノ違法アルモノトス(大正四年(レ)第一一四八號事件刑事二部判決參照)  
【判決理由】 原判決ノ認定スル所ニ依レハ被告ハ大正四年三月二十五日施行ノ衆議院議員選舉ニ付富山縣高岡市部候補者金部爲秋ノ爲メ前共同被告能田二四郎及ヒ和泉

次作ト共ニ選舉運動ニ從事中同月初頃右二四郎ニ向ヒ選舉人中金錢ヲ與フルニ非レハ左右シ難キ者ニ對シテハ最後ノ手段トシテ一票五圓以下ノ範圍内ニ於テ買收スヘキニ付キ其旨ヲ含ミテ運動スヘキ旨ヲ告ケ二四郎ハ之ニ從ヒ更ニ右次作ニ其旨ヲ傳ヘタルヨリ次作ハ之ニ基キ同月上旬頃市内ノ選舉人數名ヲ歴訪シテ右候補者ニ投票センコトヲ囑請シ其報酬トシテ金員ヲ贈與スヘキ旨ノ申込ヲ爲シタルモノナレハ其所爲ハ衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ノ規定ニ依リ處斷スヘキモノニシテ更ニ刑法第六一條ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス蓋該規定ニ所謂間接ニ利益ヲ供與スルモノトハ利益ヲ直接ニ選舉人又ハ選舉運動者自身ニ供與スル場合ト異リ此等ノ者ノ妻子眷族等其監督權ノ許ニ在ル者ニ利益ヲ供與シテ經濟上ノ關係ニ於テ其利益ヲ間接ニ此等ノ者本人ニ歸セシムルヲ意味スルモノニシテ上叙ノ事實ニ於ケルカ如ク教唆關係ノ存在スル場合即チ或者カ他人ヲ教唆シ之ヲ介シテ利益ヲ供與スル場合ヲ指スモノト解スヘキモノニアラサルノ觀アリ何トナレハ同法ノ罪ニ付テモ刑法總則ノ適用アルヘキハ勿論ナルヲ以テ前掲事實ニ於ケルカ如ク選舉法ノ規定ト刑法第六一條ノ規定トヲ適用シテ處斷スルコトヲ得ル場合ニ關シ特ニ之ヲ間接ノ犯罪トシテ處斷スヘキ明文ヲ設ケルノ必要アラサルカ如キ觀アレハナリ加之法律ノ趣旨若シ教唆ノ場合ニ付テ斯ノ如ク明規スルニ在リトセハ前掲第一號ノ場合ノミニ限ラズシテ第二號第三號ノ場合ニ付テモ同シク間接ノ行爲ヲ罰スヘキコトヲ明規スル必要アルニ拘ラス法文ノ規定技ニ出テスシテ單ニ第一號ノ罪ニ付テノミ間接ノ場合ヲ明示スルニ由テ之ヲ觀レハ其意義ハ之ヲ上叙ノ如ク解スルコト必スシモ失當ナリト謂フヲ得サルニ似タリ然レトモ右選舉法制定當時ニ施行セラレタル舊刑法ニ在リテハ政

政事項カ數人ヲ介シテ實行セラルル場合ニ付キ教唆犯ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ルヤ否ヤノ疑問アリタルヲ以テ選舉法ニ於テハ此ノ如キ場合ニ付テモ皆之ヲ間接ノ犯罪トシテ處罰スヘキコトヲ明カニシタルモノト認ムルヲ適當ナリトス然リ而シテ同法第八七條第一項第二號第三號ニハ特ニ直接間接ノ辭句ヲ存セスト雖モ是只冒頭第一號ニ之ヲ明示シテ第二號及ヒ第三號ニ於テ之ヲ省略シタルモノニ外ナラサルカ故ニ人ヲ介シテ間接ニ第二號第三號ノ罪ヲ犯ス者ト雖モ直接ニ之ヲ實行スル者ト等シク同條ノ適用ヲ受クルモノト解セサルヘカラス又選舉人又ハ運動者ノ家族等ニ對シ利益ヲ供與スルトキハ場合ノ如何ニ依リ或ハ本人ニ對スル利益ノ供與ト認メ或ハ同條第三號ニ所謂利害關係ノ利用ニ依ル誘導トシテ處斷スルコトヲ得ヘシ要之此文ニ所謂間接トハ人ヲ介スルノ意ナリト解スルヲ相當ナリトス從テ本件被告ノ所爲ニ付キ刑法第六一條ヲ適用スヘキモノナリトスル論旨ハ採用スヘキニアラス次ニ被告ノ所爲ニ付キ刑法第五四條ヲ適用スヘキモノナリヤ否ヤヲ案スルニ若シ被告カ直接ニ又ハ人ヲ介シテ間接ニ一個ノ行爲ヲ以テ同時ニ數人ニ對シ右選舉法第八七條第一項各號ノ罪ヲ犯シタル場合ナリトセハ其所爲タルヤ其數人ノ各自ニ對スル各關係ニ於テ選舉ノ公正ヲ害スルモノナリトシテ刑法第五四條ヲ適用スルヲ正當ナリトスルモ本件被告ハ人ヲ介シテ順次ニ數名ノ選舉人ニ對シ利益供與ノ申込ヲ爲スニ至ラシメタルモノナレハ右選舉法第八七條第一項第一號刑法施行法第一九條第二條第二〇條刑法第五五條ニ依テ之ヲ處斷スヘキモノトス故ニ此點ニ付テモ論旨ハ之ヲ採用スルヲ得ス乃チ本論旨ハ全部理由ナシ(大審院大正四年(レ)第一四六六號同年七月八日刑一、二、三、聯合部裁判長鶴見末弘棚橋磯谷水本平野谷野堀田柳川藤波中西泉二各判事判

【關係事項】

決

上告棄却○原審名古屋控訴院○衆議院議員選舉法違犯被告事件○被告人古川宇太郎辯護人高木益太郎

- (一) 選舉運動承諾ノ報酬トシテ故ラニ酒食ヲ提供シタル以上ハ其酒食ノ價格如何ヲ問ハス衆議院議員選舉法第八七條第一項第二號ニ該當スルモノトス
- (二) 饗應ノ物品ノ數量又ハ其價格ヲ算定スルニ付テハ之カ爲メ提供シタル飲食物ノ數量又ハ價格ニ依ルヲ相當トシ之ヲ受ケタル者カ現實ニ飲食シタル數量又ハ之ニ對スル價格ニ依ルヘキモノニ非ス

(一) 上告趣意 本件被告等ノ行爲ハ五名ノ者カ酒肴合計金七十七錢五厘ニ相當スル飲食ヲ爲シタリト云フニ在リテ實ニ其一人前分漸ク十五錢當リニ過キサルモノトス抑モ衆議院議員選舉法第八七條第一項第二號ニ所謂饗應ナル文字ハ極メテ廣汎ナルモ其意義ニ於テハ自ラ程度ヲ認メサルヲ得サルモノニシテ即チ選舉人又ハ運動者ノ意思ヲ左右シ選舉ノ神聖ヲ害スヘキ俱アル程度ノ饗應ナラサルヘカラサルコトハ解釋上否ムヘカラサルモノト信ス仍チ本件ノ場合ヲ觀ルニ被告等カ選舉人ニ關スル話ヲ了ヘタル後チ五名ノ者カ平均各自漸ク金十五錢五厘ニ相當スル飲食ヲ爲シタルニ過キス殊ニ之ヲ正確ニ計算スルトキハ一升四十四錢ノ酒ヲ被告勇藏平吉ノ兩名ノミニテ三合丈ケ飲ミアルモノトスレハ被告勇藏ト平吉ハ酒食共各自金十三錢三厘他ノ被告ハ六錢七厘ニ相當スルニ過キサル極メテ些少ノ飲食ナルコト一件記録上明白ナル所トス斯カル輕微ナル程度ノ饗應ハ何等選舉人又ハ運動者ノ意思ヲ左右シ選舉ノ神

聖ヲ害スヘキ俱チキ事敢テ絮説ヲ要セサルヘシ故ニ如斯事實ハ同法ノ精神ニ違ハス罪トナルヘキモノニアラサルニモ拘ハラス原院カ衆議院議員選舉法第八七條第一項第二號ヲ適用シテ被告等ニ罪ノ言渡ヲ爲シタルハ不法ナリ

【判決理由】 原判旨ニ依レハ所論酒食ハ選舉運動ニ必用ノ爲メ若クハ普通交際上ノ儀禮ノ爲メ之ヲ提供シタルモノニ非スシテ選舉運動承諾ノ報酬トシテ故ラニ之ヲ提供シタルモノナルコト明カナレハ衆議院議員選舉法第八七條第二號ニ所謂選舉ニ關シ酒食ヲ以テ人ヲ饗應シタルモノニ該當シ其酒食ノ價額如何ヲ問ハス饗應者タル被告勇藏及ヒ之レヲ受ケタル他ノ被告四名ハ共ニ同條ノ違犯者タルヲ免レサルヲ以テ論旨ハ理由ナシ

(二) 饗應ノ物品ノ數量又ハ其價額ヲ算定スルニ付テハ之カ爲メ提供シタル飲食物ノ數量又ハ其價額ニ依ルヲ相當トシ之ヲ受ケタル者カ現實ニ飲食シタル數量又ハ之ニ對スル價額ニ依ルヘキモノニ非ス(大審院大正四年(レ)第一六〇九號同年七月九日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審大津地方裁判所○衆議院議員選舉法違犯被告事件○被告人山崎勇藏外四名辯護人中野勇次郎

- 衆議院議員選舉法第八七條第二項ノ規定ハ同條揭示ノ物件ヲ收受シタル者ノミニ對シ適用スヘキモノトス

【上告趣意】 原判決ハ「押收ノ十圓紙幣二枚ハ原審相被告佐々木吉三郎ノ收受シタル物件ト認ムルニ依リ衆議院議員選舉法第八十條第二項ニヨリ之ヲ沒收スト宣言シタリ然レトモ右衆議院議員選舉法第八七條第二項前段ニ從フ沒收ハ物件ノ收受者ニ對シ

テノミ之ヲ科スヘキモノナルコトハ其法意上明ナル所ナリトス然ルニ原判決カ前示ノ如ク其收受者ナラサル上告人ニ對シテ之ヲ言渡シタルハ違法ニシテ原判決ハ破毀セラルヘキモノトス

【判決理由】衆議院選舉法第八七條第二項ニハ前段ノ場合ニ於テ其收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ云云トアリテ該規定ハ右同條揭示ノ物件ヲ收受シタル者ノミニ對シ適用スヘキモノニシテ判示ノ如キ被告ノ行為ニ對シテ適用スヘキモノニ非サルコト洵ニ所謂ノ如シ左レハ論旨ハ理由アリ原判決ハ擬律錯誤ノ瑕疵アリテ破毀ヲ免カレス(大審院大正四年(レ)第一六四三號同年七月十二日刑二部鶴裁判長鶴見水本藤波泉二各判事判決)

【關係事項】

大審院判

破毀移送○原春岡山地方裁判所○衆議院議員選舉法違反事件○被告人山田直平辯護人高木益太郎

一個ノ行為ヲ以テ數人ノ選舉人ニ對シ衆議院議員選舉法第八八條第三號ニ掲クモノニシテ此場合ニ其罪名ト同一ナルモ罪名ニ觸ルル個數ハ單一ニアラス

原判決ノ認ムル事實ニ依レハ被告ノ行為ハ衆議院議員選舉法第八八條第三號刑法施行法第一九條第一項第二項第二條第二〇條ニ該當スルモノニシテ又衆議院議員選舉法第八八條第三號ノ犯罪ハ選舉ノ公正ヲ害スルト同時ニ選舉人ノ有スル選舉權ニ迫害ヲ加フルモノナルカ故ニ一個ノ行為ヲ以テ數人ノ選舉人ニ對シ同條同號ニ掲ケル破毀ヲ加フルニ於テハ被害者タル選舉人各自トノ關係上各一個ノ罪名ニ觸レ選舉人

大審院判

ノ員數ト罪名ノ個數トハ相一致スルモノニシテ此場合ニ其罪名ハ同一ナルモ罪名ニ觸ルル個數ハ單一ニアラス故ニ之ニ關シ原案ニ於テ刑法第五四條第一項ヲ適用シタルハ正當ナリ(大審院大正四年(レ)第一六五八號同年七月十二日刑二部鶴裁判長鶴見水本藤波泉二各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原春靜岡地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人平口櫻一郎辯護人高木益太郎岡崎伊勢藤岡崎一治

衆議院議員選舉法第八七條第一項第二號ニハ選舉ニ關スルコトニ對シテ何等ノ制限ナキヲ以テ右規定中ニハ議員選舉應援ノコトニ關シ應援ヲ受ケタル行為ヲモ包含スルモノトス

原判示ニ依レハ被告等ハ北海道札幌都部選出衆議院議員候補者五十嵐佐市ノ爲メ演說會ヲ開催シ閉會後旅館九石事石川健三方ニ於テ五十嵐派ノ選舉運動者ナル上名寄村有志者野坂清太郎外數名ヨリ右議員選舉應援ニ對スル慰勞名義ノ下ニ各金七十六錢ニ相當スル飲食物ノ應援ヲ受ケタルモノナリトス而シテ衆議院議員選舉法第八七條第一項第二號ニハ「選舉ニ關シ酒食遊覽等其方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ應援接待シ又ハ應援接待ヲ受ケタル者」ト規定シ選舉ニ關スルコトニ對シテ何等ノ制限ナキヲ以テ右規定中ニハ前示ノ如ク議員選舉應援ノ事ニ關シ應援ヲ受ケタル行為ヲモ包含スルモノト解セサルヘカラス故ニ原判決カ被告等ノ行為ヲ衆議院議員選舉法第八七條第一項第二號ニ關シタルハ違法ニアラス(大審院大正四年(レ)第一六七三號同年七月十二日刑二部鶴裁判長鶴見水本藤波泉二各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審札幌地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人中山恒三郎外一名辯護人大井靜雄  
衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ノ罪ノ事實ヲ認定スルニハ犯罪行為ノ  
勳的主體若クハ受働的主體カ選舉人又ハ選舉運動者タルコトヲ確定セサルヘカ  
ラスト雖モ其確定ノ方法ハ必スシモ明示ナルコトヲ要セス判示事實ニ依リテ直  
ニ犯罪行為ノ勳的主體若クハ受働的主體カ選舉人又ハ選舉運動者ナルコトヲ推  
定シ得ルヲ以テ足ルモノトス

衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ノ罪ハ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ若クハ  
選舉人又ハ選舉運動者カ選舉ニ關シテ同號所定ノ行為ヲ爲スニ因リテ成立スルヲ以  
テ本罪ノ事實ヲ認定スルニハ犯罪行為ノ勳的主體若クハ受働的主體カ選舉人又ハ選  
舉運動者タルコトヲ確定セサルヘカラス然レトモ其確定ノ方法ハ必スシモ明示ナル  
コトヲ要セス判示事實ニ依リテ直ニ犯罪行為ノ勳的主體若クハ受働的主體カ選舉人  
又ハ選舉運動者ナルコトヲ推定シ得ルヲ以テ足ルモノトス原判決ニハ「被告人武夫ハ  
(中略)吉岡清三郎ニ對シ選舉人ニ辨當料名義ヲ以テ若干ノ金員ヲ供スヘキニ依リ運動  
セラレ度旨依頼シ(中略)吉岡健次外數名ニ其旨ヲ申込ミ勸次郎(衆議院議員候補者相島  
勸次郎ヲ指ス)投票ノ承諾ヲ得セシメタルモノトス」トアリ選舉ニ關シ金錢供與ノ申込  
ヲ受ケシ吉岡健次外數名カ選舉人タルコトノ明示ヲ缺クモ判文ノ全體ヨリ觀察スレ  
ハ金錢供與ノ申込ハ選舉人ニ對シテ爲シタルコト及ヒ其中込ヲ受ケタル者カ之ニ對  
シテ投票ヲ承諾シタルコト明確ナルヲ以テ金錢供與ノ申込ヲ受ケ投票ヲ承諾シタル

【關係事項】

上告棄却○原審東京控訴院○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人中島武夫辯護人高木益太郎  
吉岡健次外數名カ選舉人タルコトヲ推定スルニ餘アリ故ニ原判決ハ理由不備ニアラ  
ス(大審院大正四年(レ)第一五四六號同年七月二十日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中  
西各判事判決)

一定ノ議員候補者ニ對スル投票ヲ勸誘スル目的ヲ以テ選舉人ヲ招請シ之ニ酒食  
ヲ供スルハ是レ選舉ニ關シテ他人ヲ變應スルモノニ外ナラス而シテ其供與シタ  
ル酒食ノ價額ノ如キハ其多少ニ因リテ變應ノ意義ニ變更ヲ來スコトナシ  
苟モ一定ノ議員候補者ニ對スル投票ヲ勸誘スル目的ヲ以テ特ニ酒食ヲ具シ選舉  
人ニ飲食セシムル以上ハ其時刻カ常食時ナルト否トヲ論セス一概ノ苦茗ヲ來客  
ニ供スル場合ト一般ニ慣習上接客上ノ儀禮ヲ以テ之ヲ視ルヘキニ非ス然ラハ原判示ノ如ク被告秀次三憲  
一定ノ議員候補者ニ對スル投票ヲ勸誘スル目的ヲ以テ選舉人ヲ招請シ之ニ酒食ヲ供  
スルハ是レ選舉ニ關シテ他人ヲ變應スルモノニ外ナラス而シテ其供與シタル酒食ノ  
價額ノ如キハ其多少ニ因リテ變應ノ意義ニ變更ヲ來スコトナシ蓋シ衆議院議員選舉  
法ハ人情ノ幾微ヲ洞察シ絲毫ノ利益ト雖モ人情ノ弱點ヲ捉フルニ足リ選舉ノ公正ヲ  
害スルコトアルヘキヲ顧慮シ價額ノ多少ヲ問ハス一切ノ變應ヲ禁シタルモノト解ス  
ルヲ相當トスレハナリ又苟モ前示ノ目的ヲ以テ特ニ酒食ヲ具シ選舉人ニ飲食セシム  
ル以上ハ其時刻カ常食時ナルト否トヲ論セス一概ノ苦茗ヲ來客ニ供スル場合ト一般  
ニ慣習上接客上ノ儀禮ヲ以テ之ヲ視ルヘキニ非ス然ラハ原判示ノ如ク被告秀次三憲



カ衆議院議員候補者中谷惣恭ノ爲ニ選舉人タル被告和太郎等六名ヲ招請シ各金三十  
 錢ニ相當スル酒食ヲ供シ之ヲ饗應シ以テ投票ヲ勸誘シ被告和太郎等六名ハ其勸誘ニ  
 應シテ酒食ノ饗應ヲ受ケタル事實ナルニ於テハ各被告ノ行爲ハ當然衆議院議員選舉  
 法第八十七條第一項第二號ニ該當スルヲ以テ原判決カ被告等ノ右行爲ヲ同法條ニ依リ  
 處斷シタルハ相當ナリ(大審院大正四年(レ)第一六六〇號同年七月二十三日刑一部末弘  
 裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)

〔關係事項〕

上告棄却○原審大阪地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人森秀次外七名辯護人八並武治

衆議院議員選舉法第九八條ノ罪ノ如キハ數人ノ共謀者カ其中一部ノ者ヲシテ之  
 カ實行ノ任ニ當ラシメタルトキハ其一部ノ者ハ自己ノ犯意ノミナラス共同者全體ノ犯  
 意ノ犯意ヲ遂行シ又其以外ノ者ハ右一部ノ者ニ依リテ各自自己ノ犯意ヲ遂行シタ  
 ルモノト謂ハサルヘカラス

衆議院議員選舉法第九八條ノ罪ノ如キハ數人ノ共謀者カ其中一部ノ者ヲシテ之レカ  
 實行ノ任ニ當ラシメタルトキハ其一部ノ者ハ自己ノ犯意ノミナラス共同者全體ノ犯  
 意ヲ遂行シ又其以外ノ者ハ右一部ノ者ニ依リテ各自自己ノ犯意ヲ遂行シタルモノト謂  
 ハサルヘカラスルヲ以テ同條後段ノ罪ニ付キ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者ハ一  
 人ナリトスルモ爾餘ノ共謀者モ亦刑法第六〇條ニ所謂二人以上共同シテ犯罪ヲ實行  
 シタルモノトシテ處斷スヘキハ當然ニシテ教唆又ハ從犯ヲ以テ論スヘキモノニアラ  
 ス(大審院大正四年(レ)第一四一四號同年七月二十三日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野

中西各判事判決)

〔關係事項〕

上告棄却○原審廣島地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人岡本辰五郎外二名辯護人花井卓藏同高野金重同横山  
 勝太郎同白砂直人

(一) 衆議院議員選舉法ニ於ケル沒收及ヒ追徴ハ犯人ヲシテ不法ノ利益ヲ享受セシ  
 メサルコトヲ以テ目的ト爲シ其物ノ存在ヲ否定セントスル趣旨ニ非サレハ金  
 錢其他代替性ヲ有スル物ニ付テハ其物自體ノ沒收ヲ必要トセス故ニ包括的ニ  
 給付ヲ受ケタル金員中ニ不法ノ性質ヲ有セサルヲ以テ沒收スルヲ得サル部分  
 アルトキハ其部分ヲ控除シ其殘額ニ相當スル不法收受ニ該當スル金額ヲ沒收  
 シ其他ハ之ヲ還付スルヲ適當ノ處分トス

(二) 一個ノ行爲ヲ以テ同時ニ兩名ニ對シ選舉ニ關シテ金圓ヲ供與シタルトキハ兩  
 名ニ對シ各別ニ選舉ノ公正ヲ害スヘキモノナルヲ以テ一個ノ行爲ニシテ二個  
 ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ刑法第五四條第一項前段ニ依リ一ノ重キ刑ニ從ヒ  
 一罪ヲ以テ論セサルヘカラス

(一) 原判決ニ依レハ被告三郎ノ選舉ニ關シテ收受シタル金額ハ七百五十圓(此中費  
 消シタル金額ハ四百五十二圓トス)ナレハ之ニ對シテ原審ハ領置金品中被告三郎ノ  
 家族ヨリ差出シタル十四紙幣二十六枚五圓紙幣七枚一圓紙幣三枚(此金額二百九十八  
 圓)ヲ以テ被告三郎ノ收受シタル金額ニシテ現存スルモノト認メ之ヲ沒收シ而シテ

其費消シタル金額四百五十二圓(沒收分ト合計シテ七百五十四圓)ヲ追徴シタルハ相當ニシテ何等ノ違法アルコトナシ然レトモ被告治右衛門及ヒ政吉カ選舉ニ關シ共同シテ收受シタル金額ハ八十三圓三十三錢三厘ナルコトハ原判決ノ確定セル所ナルヲ以テ之ニ對シ領置金品中被告政吉ノ差出シタル十圓紙幣三枚五圓紙幣二枚一圓紙幣三枚此金額四十三圓並ニ被告治右衛門ノ差出シタル五圓紙幣三十四枚此金額百七十四圓中ヨリ執レモ右收受金ノ各半額ニ相當スル部分ノミヲ沒收スヘキニ拘フス收受金額ヲ超過シテ領置金ノ金額ヲ沒收シタルハ違法ナリト謂ハサルヘカラス或ハ右領置金中ニハ單タ被告治右衛門及ヒ政吉カ選舉運動ニ關シ報酬トシテ收受シタル金額ノミナラス投票買収費及ヒ運動費等ヲ包含メテ包括的ニ交付ヲ受ケタルモノナルコトハ原判決ノ認定セル如クニシテ之ヲ分別スルコトヲ得サルヲ以テ其全部ニ付キ包括的ニ沒收處分ヲ爲シタルハ相當ナルノ觀ナキニ非スト雖モ原來衆議院議員選舉法ニ於ケル沒收及ヒ追徴ハ犯人ヲシテ不法ノ利益ヲ享受セシメサルコトヲ以テ目的ト爲シ其物ノ存在ヲ否定セントスル趣旨ニ非サレハ金錢其他代替性ヲ有スル物ニ付テハ其物自體ノ沒收ヲ必要トセス故ニ包括的ニ給付ヲ受ケタル金額中ニ不法ノ性質ヲ有セサルヲ以テ沒收スルヲ得サル部分アルトキハ其部分ヲ控除シ其殘額ニ相當スル不法收受ニ該當スル金額ヲ沒收シ其他ハ之ヲ還付スルヲ適當ノ處分トス故ニ原審カ上叙ノ措置ニ出テサリシハ違法アルヲ免カレス

(二)上告趣意 原判決第二事實ハ「被告忠治ハ被告奈良藏ト相謀リ云云皆花樓事中西孫次郎方ニ於テ被告治右衛門政吉ニ對シ湖龜候補者ノ爲メニ選舉運動ヲ爲シ吳レ度シト依頼シ云云同日及其後ノ二回ニ右金額ノ一部前拂トシテ金五百圓ヲ交付シ結局運

動報酬金八十三圓三十三錢三厘ニ相當ルモノヲ供與シ」ト判示シアルカ故ニ上告人ハ選舉運動者治右衛門同政吉ニ對シ同時ニ右ノ如ク報酬ヲ供與セルモノニシテ分割可能性ヲ有スル金錢ノ供與ナルカ故ニ此場合ニ於テハ上告人對治右衛門ト上告人對政吉トノ二個ノ供與カ競合スル事實關係ニ歸スルヲ以テ本行爲ニ對シテハ刑法第五四條第一項前段ヲ適用セサルヘカラス從テ事玆ニ出テサル原判決ハ擬律錯誤ノ失當アルモノト信ス

【判決理由】 所論判示事實ハ一個ノ行爲ヲ以テ同時ニ被告治右衛門及ヒ政吉ノ兩名ニ對シ選舉ニ關シテ金額ヲ供與シタルモノナレハ右供與ハ各別ニ非スシテ兩名ヲ共同體トシテ爲シタル一個ノ行爲ナルモ兩名ニ對シ各別ニ選舉ノ公正ヲ害スヘキモノナルヲ以テ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ刑法第五四條第一項前段ニ依リ一ノ重キ刑ニ從ヒ一罪ヲ以テ論セサルヘカラス然ルニ原判決ニ於テハ上叙ノ擬律ニ出テス包括的一罪ヲ以テ處斷シタルハ違法ニシテ論旨ハ理由アリ(大審院大正四年(レ)第一六七二號同年七月二十七日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)

【關係事項】

破毀自判○原審奈良地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人藤田禮三郎外九名辯護人横山鏡太郎原田鹿太郎  
米田實同高木益太郎同牧野充安

選舉運動者ニ對スル月手當トハ別段ノ事由ナキ限リハ選舉運動者ノ一月間ニ於ケル  
タル職務ニ對シ概括的ニ給與スル報酬ト認ムヘキモノトス

選舉運動者ニ對スル月手當トハ別段ノ事由ナキ限リハ選舉運動者ノ一月間ニ於ケル

役務ニ對シ概括的ニ給與スル報酬ト認ムヘキモノナルヲ以テ或ハ運動者ニ於テ右報  
酬ノ一部ヲ選舉運動ニ必要ナル飲食料車馬賃又ハ止宿料等ノ費額ニ充當スル場合ナ  
キニ非サル可シト雖モ之カ爲メ其全部ヲ選舉運動ニ對スル報酬ト認ムルノ妨トナル  
ヘキモノニアラス(大審院大正四年(レ)第一四二三號同年七月二十七日刑一部末弘裁判  
長遠藤平野谷野中西各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審大阪地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人澁谷史春外八名辯護人三隈正同四方田保

社交上ノ禮儀トシテニ非スシテ衆議院議員候補者ニ投票セシムル目的ニ出テ  
ル酒食ノ饗應ハ其價額ノ如何ニ關セス之ヲ衆議院議員選舉法第八七條第一項第  
二號ニ所謂饗應ト認ムヘキモノトス

響應ヲ受テタル場合ニ於テハ前示法條第二項ニ所謂物件ヲ收受シ之ヲ費消シタ  
ルモノト認メ得ヘキヲ以テ酒食ノ饗應ヲ受テタル各人ニ對シ該酒食ノ價ノ追徴  
ヲ言渡シ得ヘキモノトス

原判決ノ判示事實ハ被告人通彬ハ相被告人等ナシテ衆議院議員候補者關係之介ニ投  
票セシムル爲メ之ヲ饗應シ相被告人等ハ各其饗應ヲ受ケタリト云フニ在リテ本件酒  
食ノ饗應ハ社交上ノ禮儀トシテ之ヲ爲シタルモノニ非スシテ衆議院議員候補者ニ投  
票セシムル目的ニ出テタルモノナレハ其價額ノ如何ニ關セス之ヲ衆議院議員選舉法  
第八七條第一項第二號ニ所謂饗應ト認ム可キモノトス而シテ酒食ノ饗應ヲ受ケタル  
場合ニ於テハ前示法條第二項ニ所謂物件ヲ收受シ之ヲ費用シタルモノト認メ得ヘキ

ヲ以テ原判決カ酒食ノ饗應ヲ受ケタル各被告人ニ對シ該酒食ノ價ノ追徴ヲ言渡シタ  
ルハ洵ニ正當ナリ(大審院大正四年(レ)第一二〇一號同年七月六日刑一部末弘裁判長遠  
藤平野谷野中西各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審水戸地方裁判所○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人根本通彬外四名辯護人西垣正吉

(一)脅迫トハ人ヲ畏怖セシメテ其自由ヲ抑壓スル目的ヲ以テ之ニ對シ害惡ヲ到來  
セシム可キ旨ノ通告ヲ爲ス行爲ヲ云フモノトス

(二)脅迫罪ノ成立ニハ人ヲ畏怖セシムル目的アルコトヲ要スト雖モ必スシモ通告  
ノ結果トシテ被通告者カ畏怖シタル事實アルコトヲ要セス

(一)脅迫トハ人ヲ畏怖セシメテ其自由ヲ抑壓スル目的ヲ以テ之ニ對シ害惡ヲ到來セ  
シムヘキ旨ノ通告ヲ爲ス行爲ヲ云フモノニシテ原判決ノ摘示ニ係ル所掲岩崎吉太郎  
ノ豫審調査中ノ供述記載ハ裕ニ被告人カ右吉太郎ヲ畏怖セシメテ自己ノ選舉ニ關シ  
援助方ヲ強要スル目的ニ出テ同人ニ對シ生命ニ危害ヲ加フルコトアル可キ旨ノ通告  
ヲ爲シタル事實ヲ認ムル資料ト爲スコトヲ得ヘキヲ以テ原審カ之ニ依據シテ衆議院  
議員選舉法ニ所謂脅迫ノ行爲ヲ認メタルハ正當ナリ

(二)脅迫罪ノ成立ニハ人ヲ畏怖セシムル目的アルコトヲ要スト雖モ必スシモ通告ノ  
結果トシテ被通告者カ畏怖シタル事實アルコトヲ要セス(大審院大正四年(レ)第一四七  
一號同年七月二日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審廣島控訴院○衆議院議員選出法違反被告事件○被告人長谷部天夫辯護人黒須龍太郎同江間俊一同金子東一同原孫六

六三

狩獵法第一項 本法ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、網罟又ハ模ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ  
同八第一項 狩獵ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但欄、柵又ハ圍障アル宅地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス  
同二一 第八條第一項：ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ：タル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル器具ハ之ヲ沒收ス

狩獵法第一條ノ規定ハ銃器其他同條所定ノ手段ヲ用ヒテ鳥獸捕獲ノ方法ヲ行フヲ狩獵トシ敢テ鳥獸捕獲ヲ遂ケタル場合ト然ラサル場合トヲ區別セサルノ趣旨ナリトス

狩獵法第一條ノ規定ノ文句ヨリ觀察スルトキハ狩獵ハ既ニ鳥獸ヲ捕獲シタルコトヲ要スルノ觀アリト雖モ元來同法ノ規定タルヤ單ニ鳥獸ノ保護ノミヲ目的トスルモノニアラスシテ銃器使用ノ如キ危險ナル手段ノ取締等ニモ關スルモノナルヲ以テ單ニ鳥獸ヲ既ニ捕獲シ得タル場合ノミヲ狩獵ナリトスルハ同法ノ精神ニ適セサルコト明カナルカ故ニ同法第一條ノ規定ハ銃器其他同條所定ノ手段ヲ用ヒテ鳥獸捕獲ノ方法ヲ行フヲ狩獵トシ敢テ鳥獸捕獲ヲ遂ケタル場合ト然ラサル場合トヲ區別セサルノ趣旨ナリト解スルヲ正當ナリトス是ヲ以テ原判決ニ判示セルカ如ク免テ捕獲スル目的ヲ以テ銃器ヲ携帯シ山林ヲ搜索スルカ如キハ狩獵ヲ爲スモノニ外ナラス而シテ狩獵免許ヲ受ケスシテ斯ル行爲ヲ爲ストキハ同法第八條第一項ニ違反シ同法第二一條ニ

【關係事項】

該當スルモノト認ムルヲ當然ナリトス(大正四年(レ)第一四五四號同年六月二十四日刑二鶴裁判長鶴見水本藤波泉二各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審廣島控訴院○狩獵法違反被告事件○被告人横山俊九郎辯護人花井卓藏同鶴田恣

六四

不動産登記法二五第二項 囑託ニ因ル登記ノ手續ニ付テハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外申請ニ因ル登記ニ關スル規定ヲ準用ス  
同六五 抹消シタル登記ノ回復ヲ申請スル場合ニ於テ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ際本ヲ添付スルコトヲ要ス

不動産登記法第六五條ニ所謂登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナルヤ否ヤハ單ニ登記ノ形式ニ於テ利害ノ影響ヲ及ホスニ因リテ定マルモノニ非スシテ其者ノ所得シタル權利ニ對シ利害ノ關係ヲ生スル事實ニ因リテ定マルモノトス  
土地ニ對シ不動産假差押ノ記入ノ登記アリタル後該土地ノ所有權又ハ持分權ヲ取得シタル旨ヲ登記シタル者ハ其假差押登記ノ回復ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ニアラス

不動産登記法第二五條第二項第六五條ニ依レハ抹消シタル登記ノ回復ヲ囑託スル場合ニ於テモ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ囑託書ニ其承諾書又ハ之ニ對抗スルコトヲ得ヘキ裁判ノ際本ヲ添付スルコトヲ要スルハ勿論ナルモ其所謂登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ナルヤ否ヤハ單ニ登記ノ形式ニ於テ利害ノ影響ヲ及ホ

スニ因リテ定マルモノニ非スシテ其者ノ取得シタル權利ニ對シ利害ノ關係ヲ生スル事實ニ因リテ定マルモノトス本件ニ於テ原審ノ確定セル所ニ依レハ本件土地ニ對シ明治三十九年六月二十日受附田中しなノ爲メ假差押ノ記入ノ登記アリタル後抗告人等ニ於テ該土地ノ所有權又ハ持分權ヲ取得シタル旨ヲ登記シ而シテ其後大正元年九月三十日ニ至リ右假差押取消決定ニ依リ其登記ノ抹消ヲ登記シタルモ次テ大正三年七月二十五日假差押取消決定ノ廢棄決定ニ依リ更ニ抹消登記ノ回復登記ヲ爲シタルモノナルヲ以テ單ニ登記ノ形式ノミヲ以テ觀ルトキハ抗告人等カ所有權又ハ持分權ヲ取得シタル以後ナリトモ一旦假差押ノ登記抹消ノ登記アル以上ハ抗告人等ニ於テ其利益ヲ享受スヘク之カ回復ニ付テハ利害ノ關係ヲ有スル第三者ナルカ如シト雖モ抗告人等ハ所有權ヲ制限スル假差押ノ存スルコトヲ其記入登記ニ依リテ知ルモノト謂フ可ク而モ所有權又ハ持分權ヲ取得シタルモノナレハ其後ノ假差押ノ取消ニ依リテ抗告人等ノ權利ヲ擴大スヘキ何等正當ノ理由ヲ有セス隨テ其抹消登記ヲ回復シ前假差押ノ記入登記ヲ爲スハ抗告人等ノ權利取得當時ノ原狀ニ復スルモノニシテ之カ爲メ抗告人等ニ何等ノ利害ヲ及ホスモノニ非ス即チ抗告人等ハ本件回復登記ニ付キ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ非サルヲ以テ原審カ同一趣旨ヲ判示シ登記官吏ノ處分ヲ正當ナリトシ抗告人等ノ抗告ヲ棄却シタルハ相當ナリ(大審院大正四年(夕)第一七四號同年六月三十日民三部横田裁判長大倉岩田嘉山三宅各判事決定)

【關係事項】

抗告棄却○原審福井地方裁判所○登記官吏ノ不當處分ニ對スル抗告事件○抗告人萩尾行孝外五名代理人辯護士辻岡卓同辻岡

(六五)

土地收用法三五

收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メテ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

二 損失ノ補償

同四一 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

同五一 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サレハ從來用キタル地ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用キタル地ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

同八一 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
前二項ノ規定ニ依ル訴願訴訟ハ裁決書原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス  
同八二條第一項 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此限ニ在ラス

(一) 被收用者カ收用地上ノ物件ヲ移轉シテ之ヲ使用スヘキ場所ノ存セサル理由ニ依リ移轉料ノ申立ヲ爲サスシテ進ンテ地上物件ノ價額ヲ表示シ其收用ヲ申立テタル場合ニ於テ收用審査會カ地上物件ハ他ニ移轉スヘキモノナリトシテ其申立ヲ排斥シ移轉料ノミヲ許容シタルトキト雖モ被收用者ハ移轉料ノ請求ヲ拋棄シタルニアラスシテ其收用申立價額ノ範圍ニ於テ其申立中ニ當然包含セラルモノナレハ被收用者ハ其移轉料補償額ノ決定ニ對シ不服アルトキハ司法裁判所ニ移轉料増額ノ請求訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス

(二) 土地收用法第八二條ニ所謂補償金額ノ決定トハ獨リ補償金額ノ多寡ニ付キ爲シタル場合ノミナラス補償スヘキ損失ノ有無ニ付キ爲シタル決定ヲモ包含スルモノトス

(一) 收用スヘキ土地ニ在ル物件ニ對シテハ移轉料ヲ補償シテ之ヲ移轉セシムルヲ本則トスレトモ土地收用法第五一條第二項ニハ物件ヲ移轉スルニ因リテ從來用ヒタル目的ニ供スル能ハサルトキハ所有者ハ其收用ヲ請求シ得ヘキ旨ヲ規定スルヲ以テ被收用者カ收用地上ノ物件ヲ移轉シテ之ヲ使用スヘキ場所ノ存セサル理由ニ依リ移轉料ノ申立ヲ爲サスシテ進ンテ地上物件ノ價額ヲ表示シ其收用ヲ申立テタル場合ニ於テ收用審査會カ地上物件ハ他ニ移轉スヘキモノナリトシテ其申立ヲ排斥シ移轉料ノミヲ許容シタルトキト雖モ被收用者ハ移轉料ノ請求ヲ拋棄シタルニアラスシテ其收用申立價額ノ範圍ニ於テ其申立中ニ當然包含セルモノト解スヘキモノナルコト勿論ナレハ被收用者ハ其移轉料補償額ノ決定ニ對シ不服アルトキハ司法裁判所ニ移轉料増額ノ請求訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス本件ニ付キ原審ノ確定スル所ニ依レハ被上告人ハ收用地上ノ物件ニ付キ移轉地ナキノ故ヲ以テ原價千七百圓ニテ其收用ヲ申立テタルニ收用審査會ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セシムヘキモノトシ且ツ上告人ノ見積移轉料金五百二十圓六十七錢九厘ヲ以テ相當ナリト決定シタリト云フニ在レハ右移轉料補償額ハ被上告人ノ損失補償トシテ申立テタル價額以內ナルコト明カナルヲ以テ被上告人カ起業者タル上告人ニ對シ移轉料増額ノ請求ヲ司法裁判所ニ提起シ得ヘキモノトス然ラハ被上告人ノ本訴ヲ適法ナリト判示シタル原判決ハ相當ナリ

(二) 土地收用法第八二條ニハ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得トアリテ其所謂補償金額ノ決定トハ獨リ補償金額ノ多寡ニ付キ爲シタル場合ノミナラス補償スヘキ損失ノ有無ニ付キ爲シタル決定ヲモ包含スルモノト解スヘキモノトス何トナレハ損失補償ニ付キ審査會ノ爲ス決定ハ先ツ或事項カ補償セラルヘキ性質ヲ有スルヤ否ヤナ判定シ進ンテ補償セラルヘキ性質ヲ有スル場合ニ於テ其損失ノ有無及其多寡ヲ定ムヘキモノナレハ或事項カ補償セラルヘキ性質ヲ有セスト爲シタル決定ニ對シテハ同法第八一條ニ從テ其救済ヲ求ムヘキモノナリト雖モ補償セラルヘキ性質ヲ有スル事項ニ對シ其損失ノ有無及其多寡ニ關スル決定ハ即チ補償金額ノ決定ニ外ナラサレハ司法裁判所ニ其不服ヲ申立ツルコトヲ得ルヤ勿論ナレハナリ蓋シ損失ノ補償ハ被收用者カ收用處分ニ依リ蒙ルルヘキ損害ノ填補ヲ目的トスル一ノ損害賠償ニ外ナラスシテ之カ損失ノ有無及セ多寡ニ關スル不服ノ訴ハ即チ損害賠償ノ訴訟ニシテ行政裁判所ノ權限ニ屬セサルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テナリ本件ニ付テ原審ノ確定シタル事實ニ依レハ被上告人ハ收用審査會ニ對シ收用殘地ニ付キ一坪金十圓ノ價格ヲ減損スルモノトシ其補償ヲ求メタルニ審査會ハ收用殘地ノ價額ハ收用ノ爲メ減損ヲ生セサルモノトシテ其請求ヲ排斥シタルモノナレハ即チ收用審査會ハ補償セラルヘキ事項ニ對シ補償ヲ要スヘキ損失ナシト決定シタルモノナレハ右決定ニ對シ司法裁判所ニ補償額不服ノ訴ヲ提起シ得ヘキコト明ニシテ之ト同趣旨ニ出テタル原判決ハ相當ナリ(大審院大正三年(オ)第九五六號同四年五月五日民三部横田裁判長田上大倉嘉山三宅各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審大阪控訴院○土地收用補償金請求事件○上告人阪堺電氣軌道株式會社訴訟代理人辯護士古賀英被上告人田中比羅

【二點同趣旨判例】

土地收用法ハ土地所有者カ申立テタル範圍ヲ超エサル限り殘地ニ關シ生シタル損失及其他土地收用ニ因リテ土地所有者ノ通常受クヘキ損失ヲ補償セシムル趣旨ナルカ故ニ是等ノ損失ニ付キ土地所有者ヨリ收用審査會ニ對シ其損失補償ヲ求メタルニ拘ラズ審査會ハ單ニ收用土地ノ損失補償額並ニ同上物件ノ移轉料ノ額ニ付テノミ決定シ其他土地所有者ノ求ムル補償ニ付テハ收用ノ爲メ損失ヲ蒙ルモノニアラスト認メ排斤シタルトキハ土地所有者ハ土地收用法第八二條第一項ニ從ヒ其部分ニ付キ不服ノ訴訟ヲ司法裁判所ニ提起シ得ヘキモノトス(大阪地方裁判所判決本書第一卷諸法六〇頁)

【三點反對判例】

一 收用審査會カ土地ノ一部收用ニ因リ生シタル殘地ニ對シ補償金額ヲ決定セザリシトキハ殘地ニ損失ナキコトヲ認定シタルモノト解スヘク從テ之ニ對スル不服ハ補償金額ノ多少ニ關スルモノニ非スシテ補償ヲ要スヘキ損失ノ有無ニ關スルモノナルカ故ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得サルモノトス(大正三年三月二十四日東京控訴院判決本書第三卷諸法一一六頁)  
二 大正四年三月二日同院判決本卷諸法四二頁

(一) 理論上承服シ難シト雖モ實際上被收用者ノ地位ヲ保護スル爲メニハ判旨ノ如ク解釋スルヲ相當トスヘシ

(二) 吾人ハ前掲東京控訴院判決ニ對シ反覆駁撃ヲ加ヘタル處本判決ニ於テ大審院カ吾人ノ同一ノ見解ヲ採レルハ吾人ノ満足スル所ナリ

(六六)

土地收用法四八第一項 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ  
同五四 前數條ニ規定シタルモノノ外土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ

之ヲ補償スヘシ

同八二第一項 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得(但書略)

民法四二二第一項 債務ノ履行ニ付キ確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任ス

同四一五 債務者カ其債務ノ本旨ニ從ヒタル履行ヲ爲ササルトキハ其損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得債務者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ履行ヲ爲スコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

四一九第一項 金錢ヲ目的トスル債務ノ不履行ニ付テハ其損害賠償ノ額ハ法定利率ニ依リテ之ヲ定ム但約定利率カ法定利率ニ起ユルトキハ約定利率ニ依ル

土地ノ所有者カ收用審査會ノ裁決ニ服セスシテ通常裁判所ニ出訴シタル場合ハ其訴訟ニ於テ起業者ニ對シ收用土地ノ收用時期ニ於ケル相當價格ニ違スルマテノ増額ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マラス此増額ニ對スル收用ノ時期ヨリ増額拂渡ノ日ニ至ルマテノ法定利率(年五分)ニ相當スル金額ヲモ補償トシテ併セテ請求スルコトヲ得ルモノトス

土地所有者ハ收用審査會ノ裁決ニ對スル不服ノ訴訟ノ完結後ニ於テ起業者ニ滯ノ責任アリト爲シ損害ノ賠償トシテ増額ニ對スル法定利率ニ相當スル金額ヲ請求スル權利ヲ有セサルモノトス

土地收用法ニ依リ收用セラレタル土地ノ所有者カ起業者ニ對シ損失ノ補償ヲ請求スルニハ一ニ同法ノ規定スル所ニ從ハサル可カラサルハ固ヨリ論ヲ俟タス而シテ同法ノ規定スル所ニ依レハ土地收用ノ補償金額ニ付關係者間協議調ハサルトキハ先以テ收用審査會ノ裁決ヲ受ケ其裁決ニ對シ不服アルトキ初テ一定ノ期間内ニ通常裁判所ニ出訴シテ救済ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス而シテ收用セラレタル土地ノ所有者カ右裁決ニ服セスシテ通常裁判所ニ出訴シタル場合ハ其訴訟ニ於テ起業者ニ對シ收用

土地ノ收用時期ニ於ケル相當價格ニ達スルマテノ増額ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マ  
 ラス此増額ニ對スル收用ノ時期ヨリ増額拂渡ノ日ニ至ルマテノ法定利率(年五分)ニ相  
 當スル金額ヲモ補償トシテ併セテ請求スルコトヲ得ヘシ何トナレハ起業者ハ收用土  
 地ノ所有者ニ對シ其土地相當ノ價格ニ依リ損失ヲ補償スルコトヲ要スルノミナラス  
 其他土地收用ニ因リテ土地所有者カ通常受クヘキ損失ヲモ併セテ起業者ニ於テ補償  
 スルコトヲ要スヘキハ土地收用法第四八條及第五四條等ノ規定ニ照シテ毫モ疑ヲ容  
 レス而シテ起業者ハ收用ノ時期ニ於テ土地ノ所有權ヲ取得シテ之ヲ利用スルコトヲ  
 得ルト同時ニ土地所有者ハ其所有權ヲ喪失シテ最早之ヲ利用スルコトヲ得サルモ  
 ナレハ收用ノ時期即チ補償金ノ拂渡ヲ受クヘキ時ヨリ現ニ之カ拂渡ヲ受クル時ニ至  
 ルマテノ間ニ於ケル増額ニ對スル法定利率ニ相當スル金額ハ即チ土地所有者カ收用  
 ノ爲メ通常受クヘキ損害ニ外ナラサルモノト看做スコトヲ得ヘキモノナレハナリ然  
 レトモ土地所有者カ此ノ如キ金額ノ支拂ヲ受クルコトヲ得ルハ右説明ノ如ク土地收  
 用法第五四條ノ規定ニ從ヒ收用ニ依リテ被ル損失ノ補償トシテ之ヲ受クル權利ア  
 ルニ因ルモノニシテ民法第四一二條ノ規定ニ從ヒ起業者ニ遲滞ノ責任アリトシテ然  
 ルニ非サレハ土地收用法ニ從ヒ收用審査會ノ裁決ニ對スル不服ノ訴訟ニ於テ之カ支  
 拂ヲ求ムルハ格別該訴訟ノ完結後ニ於テ起業者ニ遲滞ノ責任アリト爲シ損害ノ賠償  
 トシテ之ヲ請求スル權利ナ有セサルモノトス然ルニ本件ハ收用審査會ノ裁決ニ對ス  
 ル不服ノ訴訟ノ形式ニ依ルニ非スシテ該訴訟ノ既ニ判決ニ因リ完結シタル後起業者  
 ハ民法ノ規定ニ依リ補償金ノ支拂ニ付キ遲滞責任ヲ負フモノト爲シ之ニ對シ損害賠  
 償ノ請求ヲ爲ス訴訟ナルコトハ原判決ノ事實摘示並ニ其引用シタル第一審判決ノ事

實摘示ニ依リ明白ナレハ其理由ナキモノトシテ棄却スヘキモノトス然ラハ則チ原判  
 決ハ叙上判示ト抵觸スル點ニ於テ妥當ヲ缺クト雖モ上告人ノ控訴ヲ理由ナシトシ  
 テ棄却シタルハ結局正當ナルヲ失ハス(大審院大正三年(オ)第一八六號同四年七月十二  
 日民二部馬場裁判長田上入江鈴木三宅各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審名古屋控訴院○損害賠償請求事件○上告人近藤爲吉外三十八名訴訟代理人辯護士宮村隆治同莊田要二郎被上告  
 人阪本彰之助訴訟代理人辯護士原嘉道

(六七)

辯護士法一四 辯護士ハ左ニ掲クル訴訟事件ニ付キ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス  
 第一 相手方ノ協議ヲ受ケテ之ヲ贊助シ又ハ委任ヲ受ケタル事件

辯護士法第一四條第一項第一號前段ノ規定ハ辯護士カ嘗テ或者ヨリ協議ヲ受ケ  
 之ニ同意シ助成シタル事件ニ付キ其者ヲ相手方トスル訴訟事件ニ關シ職務ヲ行  
 フコトヲ禁スルノ趣旨ニシテ其者ニ對スル告訴事件ニ付キ告訴人ヲ代理シテ其  
 者ト示談契約ヲ爲シタル場合ノ如キハ右條項ノ適用ヲ受クヘキ場合ニ該當セス」  
 辯護士法第一四條第一項第一號前段ノ規定ハ辯護士カ嘗テ或者ヨリ協議ヲ受ケ之レ  
 ニ同意シ助成シタル事件ニ付キ其者ヲ相手方トスル訴訟事件ニ關シ職務ヲ行フコト  
 ナ禁スルノ趣旨ニシテ其者ニ對スル告訴事件ニ付キ告訴人ヲ代理シテ其者ト示談契  
 約ヲ爲シタル場合ノ如キハ右條項ノ適用ヲ受クヘキ場合ニ該當セス蓋シ同條カ辯護  
 士ニ對シ相手方ノ協議ヲ受ケ之ヲ贊成シタル事件ニ付キ其職務ヲ行フコトヲ禁シタ  
 ル所以ハ較モスルハ之レニ因リテ知り得タル相手方ノ内情其他秘密ヲ利用スル等相



手方ノ不利益ト爲ルヘキ結果ニ到達スル弊アルノミナラス少ナクトモ相手方ナシテ辯護士ノ職務上ノ信用ニ疑惑ヲ懷カシムル虞アルニ由ルモノナルモ曩キニ告訴人ノ代理トシテ提起シタル告訴ニ關シ相手方ニ交渉示談ヲ爲シタル辯護士カ爾後其事件ニ付キ告訴人ノ爲メ訴訟代理人トシテ其職務ヲ執行スルカ如キハ終始告訴人ノ爲メ其利益ニ於テ行動シタルモノニ過キス辯護士トシテ寧ろ當然ニシテ毫モ前示ノ弊害アルコトナク又危懼ヲ惹起スルコトナキヲ以テナリ然ラハ本件私訴被上告人ノ代理トシテ被上告人及鈴木徳太郎同元吉等間ニ示談契約ヲ爲シタル辯護士四本一雄カ被上告人ノ訴訟代理人トシテ本件私訴ニ關シ訴訟代理ノ職務ヲ行ヒタル事實ヲ以テ辯護士法第一四條第一項第一號ニ違背スルモノトシ之ヲ前提トシテ其訴訟行爲ヲ無効ナリトスル論旨理由ナシ(大審院大正四年(九)第一二六六號同年六月十二日刑三部標裁判長磯谷堀田柳川中尾各判事判決)

【關係事項】

公私訴上告棄却○原審東京控訴院○詐欺公正證書原本不實記載行使並附帶私訴事件○公訴上告人鈴木徳太郎私訴上告人入山照男代理人辯護士梅村新五郎私訴被上告人大竹福太郎

六八

- 不動産登記法一 登記ハ左ニ掲ケタル不動産ニ關スル權利ノ設定、保存、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付キ之ヲ爲ス
- 一 所有權 二 地上權 七 抵當權
- 同二 假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス
- 一 登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セザルトキ
  - 二 前條ニ掲ケタル權利ノ設定、移轉、變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ
- 右ノ請求權カ始期附又ハ停止條件附ナルトキ其他將來ニ於テ確定スヘキモノナルトキ亦同シ

(一) 假登記ヲ爲シタル權利ハ物權的效力ヲ有シ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノトス

假登記ハ唯其登記ヲ經タル權利ヲ確保スル物權的效力アルニ止マリ本登記ヲ經ルニ非ツレハ其權利ヲ行使スルコトヲ得ス

登記義務者ハ登記名義人タルコトヲ要スルモノナレハ所有權取得ニ關スル假登記ヲ經タルモノカ其權利ノ本登記ヲ爲サントスルニ當リ其不動産ニ付キ第三者ノ所有權取得ノ登記アルトキハ假登記ノ權利者ハ第三者ニ對シ假登記ア

同七第二項 假登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ本登記ノ順位ハ假登記ノ順位ニ依ル

同二六 登記ハ登記權利者及ヒ登記義務者又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ申請スルコトヲ要ス

同三五 登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

三 登記義務者ノ權利ニ關スル登記證書

民事訴訟法五三 他人ノ間ニ權利拘束ト爲リタル訴訟ニ於テ其一方ノ勝訴ニ依リ權利上利害ノ關係ヲ有スル者ハ訴訟ノ如何ナル程度ニ在ルナ間ハ權利拘束ノ繼續スル間ハ其一方ヲ補助(從參加)スル爲メ之ニ附隨スルコトヲ得

同五四第一項 從參加人ハ其附隨スル時ニ於ケル訴訟ノ程度ヲ妨ケザル限リハ其主タル原告若クハ被告ノ爲メニ攻撃及ヒ防禦ノ方法ヲ施用シ且總テノ訴訟行爲ヲ有效ニ行ヒ殊ニ主タル原告若クハ被告ノ爲メニ存スル期間内ニ故障、支拂命令ニ對スル異議又ハ上訴ヲ爲ス權利ヲ有ス

同五七第四項 參加ヲ許ササル裁判確定セザル間ハ從參加人ハ本訴訟ニ立會ハシメ殊ニ總テノ期日ニ之ヲ呼出シ又本訴訟ニ關係アル裁判ヲ爲シタルトキハ從參加人ニ其裁判ヲ送達ス可シ

同五八 原告若クハ被告ノ死亡シタル場合ニ於テハ承繼人カ訴訟手續ヲ受繼クマテ之ヲ中斷ス

受繼テ遲滞シタルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ受繼及ヒ本案辨濟ノ爲メ其承繼人ヲ呼出ス

承繼人期日ニ出頭セザルトキハ申立ニ因リ相手方ノ主張シタル承繼ヲ自白シタルモノト看做シ且裁判所ハ開席判決ヲ以テ承繼人訴訟手續ヲ受繼キタリト言渡ス又本案ノ辯論ハ故障期間ノ滿了後始メテ之ヲ爲シ又其期間内ニ故障ヲ申立テタルトキハ其完結後始メテ之ヲ爲ス

同四五二 上告ノ理由ナシトスルトキハ之ヲ棄却ス可シ

リタル權利ヲ主張シテ所有權取得ノ登記ノ抹消ヲ求メ其手續ヲ經タル後ニ於テ原所有者ヲ登記義務者トシテ本登記ヲ爲スヘシ又地上權抵當權ニ關スル假登記ヲ經タル者カ其本登記ヲ爲サントスルニ當リ其不動產ニ付キ第三者ノ所有權取得ノ登記アルトキハ第三者ハ假登記アリタル地上權抵當權等ニ關スル權利ヲ對抗セラルル結果其本登記ヲ爲スヘキ義務ヲ承繼スルモノナレハ假登記ヲ經タル如上權利者ハ現在ノ登記名義人ナル第三者ニ對シテノ本登記ヲ爲スヘキコトヲ求ムル權利アルモノトス

(二) 第一審ニ於ケル從參加ハ第二審ニ於テモ當然其效力ヲ存續スヘキモノナレハ第一審ノ從參加人ニ對シテハ第二審裁判所ハ總テノ口頭辯論期日ニ之ヲ呼出シ辯論ニ立會ハシムルノ手續ヲ盡ササルヘカラス

從參加人カ死亡シタルトキハ其附隨シタル當事者ノ相手方ト從參加人トノ關係ニ於テハ民事訴訟法第一七八條以下ノ規定ニ從ヒ訴訟手續ノ中断ヲ生スヘキモノナレハ裁判所ハ同條以下ノ規定ニ從ヒ其承繼人ヲシテ訴訟手續ヲ受繼セシメサルヘカラス

控訴裁判所カ第一審ニ於テ從參加ヲ爲シタル從參加人ヲ口頭辯論期日ニ呼出サス而カモ同人ハ控訴審ニ於ケル訴訟進行中死亡シタルモノナルニ其承繼人ヲシテ訴訟手續ノ受繼ヲ爲サシメスシテ訴訟ヲ進行シ判決ヲ爲シタルハ訴訟

手續ニ違法アルモノナリト雖モ同人及ヒ其承繼人カ控訴審ノ口頭辯論ニ於テ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得サリシコトハ從參加人ノ補助シタル當事者ノ相手方ニ對シテ何等ノ不利益ヲ被ラシムルモノニ非サルヲ以テ相手方カ如上訴訟手續ノ違背ヲ爲スル上告論旨ハ理由アリト爲スヲ得ス

(一) 假登記ハ不動產登記法第二條ノ規定ニ依テ登記申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セザルトキ又ハ不動產ニ關スル權利ノ設定移轉變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ爲スヘキモノナレハ登記手續上ノ條件ヲ具備セシムヘカラザルコト若クハ請求權ノ不當ナルコト確定シ假登記其モノノ無効ニ歸スヘキ場合ハ格別然ラザレハ假登記モ亦登記ノ一種ナルヲ以テ假登記ヲ爲シタル權利ハ物權的效力ヲ有シ之ヲ第三者ニ對抗スルコトヲ得ルモノト云ハサルヘカラス不動產登記法第七條第二項ノ規定ハ假登記アリタル後本登記ヲ爲シ假登記ト本登記ト二個ノ登記併存スル場合ニ於テ本登記ノ順位ハ假登記ノ順位ニ依ルヘキコトヲ規定シタルニ止マリ假登記ノ效力ハ同條ノ規定ノミナリト解スヘキニ非ス然ラザレハ假登記ハ本登記ヲ爲スニ非サレハ何等ノ效力ナキニ歸シ法律カ假登記ノ制度ヲ認メ假登記ヲ經タル權利ヲ確保セントスルノ趣旨ヲ没却スルニ至ルヘケレハナリ故ニ所有權ニ關スル假登記アルトキハ其後ニ於テ所有權取得ノ登記ヲ經タル第三者ニ對シテモ假登記アリタル權利ヲ對抗スルコトヲ得ヘク之ト同シク地上權抵當權等ニ關スル假登記アル時ハ其後ニ於テ所有權取得ノ登記ヲ經タル第三者ニ對シテモ亦假登記アリタル權利ヲ對抗スルコトヲ得ヘシ然レトモ假登記ハ完全ノ登記ニ非サルヲ以テ唯其登記ヲ經タル權利ヲ確

保スル物權的效力アルニ止マリ本登記ヲ經ルニ非サレハ其權利ヲ行使スルコトヲ得  
 ス是レ本登記ト差異アル所以ナリ而シテ不動産登記法ノ規定ニ依レハ登記義務者ハ  
 登記名義人タルコトヲ要スルモノナレハ所有權取得ニ關スル假登記ヲ經タルモノカ  
 其權利ノ本登記ヲ爲サントスルニ當リ其不動産ニ付第三者ノ所有權取得ノ登記アル  
 時ハ假登記ノ權利者ハ第三者ニ對シ假登記アリタル權利ヲ主張シテ所有權取得ノ登  
 記ノ抹消ヲ求メ其手續ヲ經タル後ニ於テ原所有者ヲ登記義務者トシテ本登記ヲ爲ス  
 ヘク又地上權抵押當權等ニ關スル假登記ヲ經タル者カ其本登記ヲ爲サントスルニ當リ  
 其不動産ニ付第三者ノ所有權取得ノ登記アルトキハ第三者ハ假登記アリタル地上權  
 抵押當權等ニ關スル權利ヲ對抗セラルル結果其本登記ヲ爲スヘキ義務ヲ承繼スルモ  
 ノナレハ假登記ヲ經タル如上權利者ハ現在ノ登記名義人ナル第三者ニ對シテノ本  
 登記ヲ爲スヘキコトヲ求ムル權利アルモノトス本件ニ於テ原判決ノ確定スル所ニ依  
 レハ被告上告人先代ハ上告人先代ヨリ金二千圓ヲ借受ケ其擔保トシテ保爭不動産ニ抵  
 當權ヲ設定シ其假登記ヲ經タルモ被告上告人先代ハ不動産ヲ原田享藏ニ賣渡シ同人ハ  
 其所有權ノ十分一ノ持分ヲ白井祐二ニ移轉シ各其登記ヲ經タリト云フニ在レハ被告  
 上告人ニ對スル本件登記ノ請求ハ不當ト爲スヘキヲ以テ假登記ノ形式ニ付原判決ノ既  
 示スル所ニ論旨ノ如ク妥當ナラサル點アリトスルモ之ヲ以テ原判決ヲ破毀スルノ理  
 由ト爲スニ足ラサルモノトス

(二) 從參加人ハ附隨シタル當事者ノ爲メ攻撃及ヒ防禦ノ方法ヲ施用シ且總テノ訴訟  
 行爲ヲ爲スノ權利ヲ有スルモノニシテ第一審ニ於ケル從參加人ハ第二審ニ於テモ當然  
 其效力ヲ存續スヘキモノナレハ第一審ノ從參加人ニ對シテハ第二審裁判所ハ總テノ

口頭辯論期日ニ之ヲ呼出シ辯論ニ立會ハシムルノ手續ヲ盡ササルヘカラサルコトハ  
 民事訴訟法第五四條第五七條第四項ノ規定ニ徴シ明カナリ而シテ從參加人カ死亡シ  
 タルトキハ其附隨シタル當事者ノ相手方ト從參加人トノ關係ニ於テハ同法第一七八  
 條以下ノ規定ニ從ヒ訴訟手續ノ中断ヲ生スヘキモノナレハ裁判所ハ同條以下ノ規定  
 ニ從ヒ其承繼人ヲシテ訴訟手續ヲ受繼セシメサルヘカラス本件ニ於テ白井祐二ハ第  
 一審ニ於テ被告上告人ヲ補助スル爲メ從參加人ト爲シタルモノナルニ原裁判所ハ同人ヲ  
 口頭辯論期日ニ呼出サス而カモ同人ハ原審ニ於ケル訴訟進行中死亡シタルモノナル  
 ニ其承繼人ヲシテ訴訟手續ヲ受繼テ爲サシメスシテ訴訟ヲ進行シ判決ヲ爲シタルハ  
 論旨ノ如ク原裁判所ノ訴訟手續ニ違法アルモノナリト雖モ白井祐二ハ被告上告人ヲ補  
 助スル爲メ從參加人ト爲シタルモノナレハ同人及ヒ其承繼人カ原審口頭辯論ニ於テ訴  
 訟行爲ヲ爲スコトヲ得サリシハ上告人ニ對シテ何等ノ不利益ヲ被ラシムルモノニ非  
 サルヲ以テ如上訴訟手續ノ違背ヲ云爲スル上告論旨ハ理由アリト爲ヌヲ得ヌ(大審院  
 大正三年(オ)第二三六號同四年五月十四日民一部田部裁判長大倉神原尾古岩田各判事  
 判決)

【關係事項】

上告棄却○原審大阪控訴院○不動産抵押當權設定登記手續請求事件○上告人村田忠太郎訴訟代理人辯護士牧野充安被告上告人眞下  
 佐太郎從參加人原田享藏訴訟代理人辯護士添田増男

【二點一二項同趣旨學說】

登記權利者カ假登記ヲ爲シテ自己ノ權利ヲ保全シタル以上ハ何人ニ對シテモ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘク敢テ本登記ヲ爲ス  
 コトヲ必要トセス故ニ第三者ハ未ダ登記ナキナリ理由トシテ假登記ヲ爲シタル權利者ノ權利ヲ無視スルコトヲ得ヌ斯クストキ

【二點一項反對判例】

ハ假登記ト本登記トハ何等ノ差異ナク別ニ本登記ヲ爲スノ必要ナキモノノ如シ然レトモ余ノ信スル所ニ依レハ假登記ト本登記トノ間ニハ一ノ重要ナル差異アリ他ナシ本登記ヲ爲シタル權利者ハ登記簿上其權利ノ主體トシテ之ニ關スル登記行爲ヲ爲スコトヲ得ルモ假登記ヲ爲シタルニ過キサル者ハ未タ確定的ニ登記名義人トナリタルモノニアラサルヲ以テ登記行爲ヲ爲スコトヲ得サルコト是ナリ(法學博士橫田秀雄氏法學大家論文集民法六四四頁以下)

(六九)

不動産競落許可決定ニ對スル抗告事件ノ審理ニ付キ抗告裁判所カ證人訊問ヲ爲サントスルニ當テハ須ラク民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ口頭辯論手續ヲ開始シ當事者ノ申請ヲ俟テ之カ訊問ヲ爲スヘキモノニシテ非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒ審問手續ニ依リ職權ヲ以テ證人ヲ訊問スルコトヲ得サルモノトス

一 假登記ハ本登記ノ前提タルニ外ナラザレハ所有權取得ニ付キ假登記ヲ爲スモ其所有權ハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルヲ明ナリ(大正三年六月二十日大審院民一決定本書第三卷諸法一〇〇頁)  
二 假登記ハ單ニ順位保全ノ效力ヲ有スルニ止マリ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコト能ハサルヲ以テ假登記ヲ爲シタル一事ヲ以テハ未タ對抗力ヲ缺クモノト云フヘシ(東京地方民二決定本書第二卷諸法一三〇頁)

ニ依ルコトナク非訟事件手續法ノ審問手續ニ依リ職權ヲ以テ證人柳生留吉ヲ訊問シタルコトハ原審調書中「審問期日ヲ開キ公行セシ」裁判長ハ證人柳生留吉ニ對シ別紙調書ノ通り審問ヲ爲シタリト記載アルト記録中當事者カ該證人ノ訊問ヲ申請シタル事實及證人訊問ニ立會シタル事跡ノ徵スヘキナキトニ依リ明瞭ナリ然ラハ原裁判所ハ重要ナル訴訟手續ニ關スル規定ニ違背シ抗告ノ裁判ヲ爲シタル不法アリ(大審院大正四年(ク)第三五八號同年七月九日民一部田部裁判長田上精原尾古岩田各判事判決)

【關係事項】

廢棄委任○原審奈良地方裁判所○不動産競賣競落許可決定ニ對スル抗告事件○抗告人小出鐵馬

七〇

國稅徵收法ニ 國稅ノ徵收ハ總テノ他ノ公課及債權ニ先ツモノトス  
同三 納税人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ有スル者其質權又ハ抵當權ノ設定カ國稅ノ納期限ヨリ一箇年前ニ在ルコトヲ公正證書ヲ以テ證明シタルトキハ該物件ノ價額ヲ限リ其ノ債權ニ對シテ國稅ヲ先取セサルモノトス  
同六 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス  
一 滞納者及其ノ同居ノ家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、靴具、家具及廚具 二 滞納者及其ノ同居ノ家族ニ必要ナル一箇月間ノ食料及薪炭 三 賃印其ノ他職業ニ必要ナル印 四 祭祀禮拜ニ必要ト認ムル物及石碑、墓地 五 系譜其ノ他滞納者ノ家ニ必要ナル日記書付類 六 職務上必要ナル制服、祭服、法衣 七 勳章其ノ他名譽ノ章類 八 滞納者及其ノ同居家族ノ修學上必要ナル書籍器具 九 發明又ハ著作ニ係ル物ニシテ未ダ公ニセサルモノ  
同三第一項 滞納者又ハ滞納者ノ財産ヲ占有スル者其ノ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虛偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

(一) 國稅徵收法第三二條ニ所謂滞納者ノ財産トハ國稅徵收ノ擔保トシテ滞納處分ノ目的ト爲リ得ヘキ財産ヲ指稱スルモノナレハ民法第一六條ニ依リテ差押フヘカラサル物件ヲ包含セサルヤ勿論ナリト雖モ其以外ニ於テハ毫毛除外アル

コトナシ

(二) 國稅徵收法第三條ノ場合ヲ除キ國稅徵收ノ擔保ヲ減少スル結果ヲ認識シ國稅ノ納付ニ先チテ爲ス債權ノ辨濟ハ法ノ許容セサル所ナリトス

納税人ノ財産同法第一六條ノ物件ヲ除クハ國稅徵收ノ擔保ニ充當セラルヘキモノナルヲ以テ苟クモ其擔保ノ效力ヲ減殺スヘキ財産ニ對スル不法ノ處分行爲ハ假令納税人一個ノ財産上ニ於テハ増減ノ結果ヲ來ササル場合アリトスルモ國稅徵收ノ擔保タル意義ニ於ケル財産ハ減少シタリト謂ハサルヘカラス

(三) 國稅徵收法第三二條第一項ノ罪ハ國稅徵收ノ擔保ヲ減少スル結果ヲ認識シテ同條所定ノ行爲ヲ實行スルヲ以テ足り其行爲カ納税人ノ滯納者ト爲リタル後ニ在リタルコトヲ必要トセス單々其滯納者ト爲リタルコトヲ以テ處罰條件トシテ完成スルモノトス

苟モ國稅納付ノ目的ニ出テスシテ其徵收ヲ免カラルカ爲メニ有體動産ヲ賣却シ之ヲ金錢ニ換ヘタル以上ハ其行爲ハ國稅徵收法第三二條ノ所謂財産ノ脱漏ニ該當ス

國稅徵收法第三二條ニ所謂滯納者ノ財産トハ國稅徵收ノ擔保トシテ滯納處分ノ目的ト爲リ得ヘキ財産ヲ指稱スルモノナレハ同法第一六條ニ依リテ差押フヘカラサル物件ヲ包含セサルヤ勿論ナリト雖モ其以外ニ於テハ毫モ除外アルコトナシ故ニ滯納者

又ハ其財産ノ占有者カ國稅徵收ノ擔保ヲ減少スル結果ヲ認識シテ其財産ヲ賣却シ若クハ虚偽ノ契約ヲ爲シタルトキハ同法第三二條ノ犯罪ハ完成スルモノトス所謂同法第三條ハ公正證書ヲ以テ國稅ノ納期ヨリ一箇年前ニ於テ一定ノ債權ニ付キ納税人ノ財産上ニ質權又ハ抵當權ヲ設定シタル事實ヲ證明シタルトキハ債務者ナシテ該質權又ハ抵當權ノ設定アリタル物件ノ價額ヲ限度トシ國稅ニ先チ有效ニ辨濟ヲ爲サシメ得ヘキコトヲ規定シタル趣旨ニ外ナラス從テ該債權ノ辨濟方法トシテ右擔保物件ヲ處分スルコトハ法ノ許容スル所ナリト解スヘキモ之カ爲メニ其擔保物件ヲ以テ國稅ノ擔保タル財産ヨリ除外シタルニ非サルヤ疑ヲ容レズ故ニ國稅徵收法第三條ニ依リ國稅ニ對シテ優先ノ地位ヲ與ヘラレタル債權ヲ辨濟スルカ爲メニ非スシテ國稅ノ徵收ヲ免カラルカ爲メニ右債權ニ對スル擔保權ノ設定シタル物件ヲ他ニ賣渡スルキ行爲ハ當然同法第三二條ノ財産脱漏罪ニ該當スルヤ疑ヲ容レサルノミナラス原判決ニハ判示脱漏物件ニ付キ何等債權擔保權ノ設定アリタルコトヲ認定シアラサルヲ以テ所論事實ヲ判示スルノ要ナケレハ論旨ハ理由ナシ

(二) 國稅ハ他ノ公課及ヒ債權ニ先チ徵收スヘキコトハ國稅徵收法第二條ニ於テ原則トシテ規定スル所ニ係リ唯タ例外トシテ同法第三條所定ノ債權ニ對シテノミ其優先權ヲ行ハスト爲スニ過キサレハ右例外ノ場合ヲ除キ國稅徵收ノ擔保ヲ減少スル結果ヲ認識シ國稅ノ納付ニ先チテ爲ス債權ノ辨濟ハ法ノ許容セサル所ナリト謂ハサルヘカラス而シテ納税人ノ財産(同法第一六條ノ物件ヲ除ク)ハ國稅徵收ノ擔保ニ充當セラレヘキモノナルヲ以テ苟クモ其擔保ノ效力ヲ減殺スヘキ財産ニ對スル不法ノ處分行爲ハ假令納税人一個ノ財産上ニ於テハ増減ノ結果ヲ來ササル場合アリトスルモ國稅

徵收ノ擔保タル意義ニ於ケル財産ハ減少シタリト謂ハサルヘカラス故ニ國稅徵收ノ擔保ヲ減少スル結果ヲ認識シテ同條所定ノ行為ヲ實行スルヲ以テ足り其行為カ納稅人ノ擔納者ト爲リタル後ニ在リタルコトヲ必要トセス單タ其擔納者ト爲リタルコトヲ以テ處罰條件トシテ完成スルモノトス故ニ原判決ニ於テ被告ノ擔納者ト爲リタル事實ヲ前提トシ其前後ニ互リ行ヒタル財産脫漏ノ行為ヲ認定シ前示法條ニ問擬シタルハ相當ナリ

(四) 國稅徵收法第三條所定ノ債權者ニ對シ擔保物件ノ價額ヲ限度トシ債務ヲ辨濟シタル場合ノ外ハ適法ニ成立シタル債務ト雖モ之ヲ辨濟スルニ於テハ國稅徵收ノ擔保ヲ減少スヘキコトヲ認識シテ辨濟シタルトキハ單純ニ財産ヲ脫漏シタル場合ト其結果ヲ異ニスルコトナケレハ同法第三條ニ依リテ判示事實ヲ處罰シタル原判決ハ相當ナリ而シテ納稅人ハ適法ニ國稅徵收ノ擔保ヲ減少スヘキ一切ノ財産處分ヲ爲シ得サルコトハ國稅徵收法ノ規定ニ照ラシテ明カニシテ相當ノ對價ヲ以テ特定ノ財産ヲ處分シテ之ヲ金錢ニ換ヘタル場合ノ如キハ財産上増減ナク國稅徵收ノ擔保ニ付テモ異動ヲ來ササルカ如シト雖モ金錢ノ如キハ容易ニ費消藏匿シ得ヘキモノナレハ苟モ國稅納付ノ目的ニ出テスシテ其徵收ヲ免カレルカ爲メニ有體動産ヲ賣却シ之ヲ金錢ニ換ヘタル以上ハ其行為ハ國稅徵收法第三條ノ所謂財産ノ脫漏ニ該當スト謂ハサルヘカラス(大審院大正四年(レ)第一三四八號同年六月二十二日刑一部末弘裁判長違憲)

平野答野中西各判事判決

【關係事項】

上告棄却○原審長崎控訴院○國稅徵收法違犯被告事件○被告人酒匂矢兵衛辯護人本田桓虎同竹平治作

(七一)

舊戶籍法四七

屆書ニハ左ノ事項ヲ記載シ屆出人之署名捺印スルコトヲ要ス  
 一 屆出事件 二 屆出ノ年月日 三 屆出人ノ族稱、職業、出生ノ年月日及ヒ本籍地  
 同二一八 本法ノ規定ニ依リ屆出人其他ノ者ノ署名捺印ヲ要スル場合ニ於テ其者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

身分ニ關スル屆出カ舊戶籍法第四條第二一八條ニ違反スルトキハ屆出手續ニ瑕疵アルコト勿論ナルモ屆出手續ノ瑕疵ハ抗告ニ依リ其屆出ニ基キ戶籍吏ノ爲シタル登記ヲ攻撃スルノ理由トナルニ止マリ其登記ヲシテ當然無効ダラシムルコトナシ

身分ニ關スル屆出カ明治三十一年法律第一二號戶籍法第四四條第二一八條ニ違反スルトキハ屆出手續ニ瑕疵アルコト勿論ナルモ屆出手續ノ瑕疵ハ抗告ニ依リ其屆出ニ基キ戶籍吏ノ爲シタル登記ヲ攻撃スルノ理由トナルニ止マリ其登記ヲシテ當然無効ダラシムルコトナシ

數々ラシムルコトヲシ戶籍吏カ身分登記ヲ爲スハ公吏ノ職務トシテ之ヲ爲スモノナレハ法律上許サレタル手段ニ依リテ其行為ヲ除去スルニ非ルヨリハ特別ノ規定ヲキ限リ無効トナルノ理由アラサレハナリ故ニ戶籍吏カ明治三十一年法律第一二號戶籍法第四四條第二一八條ニ違反シタル屆書ニ基キ隱居ノ登記ヲ爲シタレハトテ隱居

届出ノ效力ナキモノト爲ス能ハサルヤ當然ニシテ此事タル既ニ明治三十七年(オ)第二七六號同年十月一日ノ判決ニ於テ當院ノ明示スル所ナリ左レハ原判決ハ正當ニシテ論旨ハ理由ナシ(大審院大正四年(オ)第二六〇號同年六月二十三日民三部横田裁判長大倉尾古嘉山三宅各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審東京控訴院○隱居無效確認請求事件○上告人久保寺保兵衛訴訟代理人辯護士原孫六被告上告人久保寺才次郎

【同趣旨判例】

本卷民法一四八頁東京控訴院判決

(七二)

明治三十六年内務省令第五號第一項 痘苗、血清其ノ他細菌學的預防治療品ヲ製造又ハ輸入若ハ移入シテ販賣セシトスル者ハ左ノ事項ヲ具シテ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ  
一 製造所ノ名稱及位置 二 製造品ノ種類、製造ノ方法、有効期限、販賣價格 三 製造所ノ建物者舎ノ構造、敷地ノ坪數及圖面 四 所長及主任技術者ノ氏名履歷  
同四 本則ニ違背シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金又ハ二十五日以下ノ重禁錮ニ處ス

大審院判

明治三十六年内務省令第五號第一條ニ所謂販賣ナル文字ハ汎ク代價ヲ得テ右第一條規定ノ製造品ヲ讓渡スルノ意義ニシテ必スシモ營利ノ目的ニ出ツルコトヲ要スヘキモノニ非ス

【上告趣意】 原判決ハ明治三十六年内務省令第五號第一條中ノ販賣ナル文字ノ意ヲ「反覆スル目的ヲ以テ爲ス有價名義ノ讓渡」ト解シ其結果被告ニ本件豫防液ノ製造販賣ニ付營利ノ目的ヲ有シタリヤ否又ハ専ラ研究ノ目的ニ出テシヤ否ニ付判示スル所ナク

被告カ他人ヨリ該液分與ニ對シ金錢ヲ收受シタル事實ノミヲ探テ以テ直チニ被告ナ前記内務省令違反ト斷罪シタリ然レトモ(一)同省令ハ粗製品又ハ危險品取締ノ爲メニ設ケラレタルモノニアラスシテ營業取締ノ爲メニ發セラレタル命令ニシテ(二)營業研究ノ發達ヲ妨クルカ如キ取締法ヲ制定スル理由ナク反テ其研究ノ獎勵スヘキ理由アリ(三)販賣トハ刑法ノ用例ニ從ヘハ不定多數ノ人ニ利益ヲ目的トシ對價ヲ得テ所有權ヲ移轉スル意義ニ使用セラレ(四)官公私立ノ各研究所ニ於テ前記内務省令規定ノ豫防液ニ一定ノ定價ヲ付シ新聞等ニ研究ノ爲メ其使用ヲ歡迎スル旨ヲ廣告スルハ現今普通一般ノ事ニシテ世人モ亦學術ノ爲メ之ヲ歡迎スルモ之ヲ非難スルモノナキ事實等ニ依レハ同省令中ノ「販賣」ノ目的ヲ以テ「意ナレハ原判決ハ法律ノ解釋ヲ誤リタル不法アリト信ス

【關係事項】

上告棄却○原審東京地方裁判所○痘苗及血清其他細菌學的預防治療品製造取締規則違反被告事件○被告八島山仲辯護人山崎今朝彌阿保淺次郎岡田坂貞雄同吉田三市郎同佐々木藤市郎同黒須龍太郎

齒科醫師法一

免許ヲ受ケスシテ齒科醫業ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

(七三)

(一) 醫師ノ免許ヲ有スル者カ無免許齒科醫業行爲ヲ爲ス者ニ對シテ自己ノ名義ヲ以テ齒科醫業ヲ爲スコトヲ許容シ且無免許齒科醫業者ノ爲メ患者ノ氏名ヲ自宅備付ノ診療簿ニ記入シ以テ無免許齒科醫業者ノ犯行ヲ幫助スルトキハ齒科醫師法第一一條違反ノ從犯タル性質ヲ具備スルモノトス

(二) 無免許齒科醫業行爲ヲ處罰スルハ其免許ヲ有セスシテ業務トシテ齒科ニ屬スル治療行爲ヲ爲スヲ禁止スルノ趣旨ニ出ツルモノニシテ患者ヨリ料金ヲ受クルト否トハ其成否ニ消長スル所ナキモノトス

(一) 原判決ニハ被告德一ハ醫師ノ免許ヲ有スル者ナル處原審共同被告福島彌壽治カ免許ヲ受ケスシテ大正三年一月頃ヨリ同年五月頃迄ノ間ニ數回ニ神達清次郎外數名ニ對シ義齒ノ施術ヲ爲シテ齒科醫業ヲ爲シ事實ヲ判示シタル上被告カ其情ヲ知リナカラ彌壽治ニ對シ自己ノ名義ヲ以テ齒科醫業ヲ爲スコトヲ許容シ且彌壽治ノ爲メニ右神達清次郎以外ノ患者ノ氏名ヲ自宅備付ノ診療簿ニ記入シ以テ彌壽治ノ犯行ヲ幫助シタルコトヲ判示シアリテ右彌壽治カ齒科醫業ヲ爲スニ際シ果シテ被告名義ヲ使用シタルヤ否ヤハ原判決事實理由之ヲ明示セスト雖モ前記ノ如ク醫師ノ免許ヲ有スル者カ無免許齒科醫業行爲ヲ爲ス者ニ對シテ自己ノ名義ヲ以テ齒科醫業ヲ爲スコトヲ許容シ且無免許齒科醫業者ノ爲メニ患者ノ氏名ヲ自宅備付ノ診療簿ニ記入シ以テ無免許齒科醫業者ノ犯行ヲ幫助スルニ於テハ其行爲ハ無免許醫業者カ犯罪發覺ヲ恐ルルノ念ヲ減シ意ヲ安ンシテ無免許齒科醫業行爲ニ從事スルノ便ヲ享ケシムル點ニ於テ犯罪行爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シタルモノナルヲ以テ即チ齒科醫師法第一一條違反ノ從犯タル性質ヲ具備スルモノト云ハサルハカラス

(二) 無免許齒科醫業行爲ヲ處罰スルハ其免許ヲ有セスシテ業務トシテ齒科ニ屬スル治療行爲ヲ爲スヲ禁止スルノ趣旨ニ出ツルモノニシテ患者ヨリ料金ヲ受クルト否トハ右犯罪ノ成否ニ消長スル所ナシ從テ原判決ノ判示事實中彌壽治カ料金ヲ得タル點ハ本件犯罪ノ構成要素タル事實ニ屬セサルヲ以テ之ニ關シテハ刑事訴訟法第二〇三條ニ依リ證據說明ヲ付スルノ要ナキモノトス(大審院大正四年(九)第一五五〇號同年七月一日刑二部鶴裁判長鶴見水本藤波泉二各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審廣島地方裁判所○齒科醫師法違反被告事件○被告人山本德一辯護人山崎今朝綱同阿保津次郎同田坂貞雄同佐々木藤市郎同吉田三市郎

【同趣旨判例】

大審院判決(本書第三卷請法二五六頁)

衆議院員選舉法八七第一項 選舉ノ前後中間ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込テ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者並供與テ受ケ若ハ申込テ承諾シタル者

二 選舉ニ關シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ要應接待シ又ハ要應接待ヲ受ケタル者又ハ選舉會場、開票所若ハ投票所ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ宿泊料ノ類ヲ代辨シ及其ノ代辨ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者

同 1011 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ裁判所ノ宣告ヲ以テ刑期後仍二年以上八年以下選舉人及



被選舉人タルコトヲ禁ス

選舉運動者カ選舉ニ關シ候補者ノ爲メ他人ヲ變應シタル費用ハ固ヨリ選舉運動ノ爲メ必要ナル費用ニアラスシテ候補者ニ對シ之カ辨濟ヲ求ムルヲ得サルモノナレハ候補者カ選舉運動者ニ對シ之カ辨濟ノ爲メ金錢ヲ供與スルハ即チ候補者カ選舉運動者ニ報酬トシテ供與スルモノナレハ衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ノ適用ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

〔上告趣意〕 原院判決事實理由ハ「被告典當ハ自己ノ運動員タル江崎幸太郎カ同人及ヒ江崎重貞ニ於テ右選舉ニ關シ典當ノ爲メ下川憲造外數名ヲ變應シタル費用金貳拾圓八拾貳錢ヲ支拂ヒタルコトヲ聞キ大正四年二月下旬頃福岡縣八女郡福島町高橋旅館ニ於テ右辨濟ノ爲メ金貳拾壹圓ヲ幸太郎ニ供與シタリ」ト云フニ在リテ之ニ對シ衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ヲ適用處斷シタリ然レトモ前掲法條ニ所謂選舉ニ關シ金錢ヲ選舉運動者ニ供與シタル者トハ選舉ニ關シ選舉運動者ニ對シ該運動ノ爲メ直接ニ必要ナル金錢又ハ物ノ對價以外ノ金錢ヲ供與シタルモノヲ指稱スル法意ニシテ選舉ニ關シ選舉運動者ニ對シ選舉運動ノ爲メ必要ナル實費ヲ供與スルカ如キ行爲ハ同號ノ所謂供與ナル觀念中ニ包含セラレストハ御院ノ既ニ判示セラルル所ナリトス而シテ本案ノ場合ニ於テ供與ヲ受ケタリト云フ江崎幸太郎ノ素行ヲ調査スルニ財產約十萬圓以上ヲ有シ(中略)一村ノ帥表トモ仰カルル徳望家ニシテ其平常ノ人格ト云ヒ素行ト云ヒ各人ノ尊敬スル所ニシテ決シテ前掲法條ノ所謂供與ヲ受ケル如キ人物ニアラサルコト明カニシテ且又其供與ヲ爲セシト云フ被告典當ノ其當時ノ心理

然應テ解割スルモ何等幸太郎ニ對シテ不法ノ利益ヲ供與スルノ意思ナク唯々幸太郎ハ之レ迄被告典當ノ爲メ少ナカラサル選舉運動費ヲ費消セルカ故ニ其實費ハ之ヲ辨償セサルヘカラスト思ヒ居タル折意外ニモ幸太郎ヨリ高橋旅館ニ於テ前記ノ金圓ノ請求ヲ受ケシ故其内容ノ如キ何等問ヒ質ス事ナク直チニ金貳拾壹圓ヲ幸太郎ニ渡シタルモノニシテ被告典當ノ右金圓ノ提供ハ全ク選舉運動ニ關スル實費ノ提供トシテ爲サレタルモノナリ以上ノ事實ハ原審判決ノ證據トシテ採用セル江崎幸太郎ノ豫審調書(中略)及ヒ被告典當原審公判始末書自分ハ重貞等カナシタル變應力選舉ノ爲メニシタルモノナルコトヲ知ラスナル供述等ニ照シテ明カナリ即チ被告典當ハ其重貞等ノ爲シタル變應力選舉ノ爲メニナサレタルモノナルコトヲサヘモ知ラザリシ程ナリ然ラハ何故ニ被告典當ハ前記ノ金員ヲ幸太郎ニ支拂ヒシヤト云フニ其レハ被告典當ハ自己ノ運動員タル幸太郎カ過去ニ於テ又現在ニ於テ自分ノ爲メ選舉ニ關シ種々多額ナル運動費ヲ費消シ居ル故切メテ其實費ノ一部ナリトモ負擔シ恩人ニ迷惑ヲ掛ケルコトナカラント欲シ前記ノ計算書ニ對シテ云フ意味テハナク唯々實費辨償ト云フ別個ノ考ヘニテ前記ノ金員ヲ幸太郎ニ渡シタルモノナリ即チ被告典當ノ其當時ニ於ケル心理狀態ニハ何等一點ノ不法アルコトナシ而シテ選舉運動ニ就テ多額ノ金員ヲ要スルコトハ何人モ疑ハサル事實ニシテ幸太郎カ之レ迄典當ノ選舉運動ノ爲メ費シ來レル實費ノ多額ナルニ比スレハ前記ノ金額二十一圓ハ實ニ其一部分ニ過キス以上ノ如クナルヲ以テ被告典當カ幸太郎ニ金二十一圓ヲ渡シタルハ全ク選舉ニ關シ選舉運動者ニ對シ選舉運動ノ爲メ必要ナル實費ヲ支出セルモノナレハ之ヲ以テ衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ノ所謂利益ノ供與ナル觀念ト同一ニ論ス可キモノニ

非ラサルモノナルコトハ明カナル所ナリ然ルニ原院判決ハ前記ノ行爲カ何故ニ前掲  
法條ノ所謂利益ノ供與トナルカト云フ點ニ就テハ毫モ其理由ヲ判示スルコトナク直  
チニ被告典當ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ其意義甚タ明瞭チ欠キ結局原院判決ハ事  
實理由ノ不備アル違法ノ裁判ナリト思料ス

【判決理由】 原院判決ハ被告典當ニ對スル第二ノ事實トシテ所論ノ如ク判示シ之ニ對シ  
衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ヲ適用シ處斷シタルコト洵ニ論旨ニ叙述ス  
ルカ如シ而シテ同法條ニ所謂選舉運動者ニ對スル金錢ノ供與トハ選舉運動ニ對スル  
報酬ノ意味ヲ以テ金錢ヲ供與シタルヲ云ヒ運動者カ選舉運動ノ爲メ必要ナル實費ノ  
供與ヲ包含セサルコトハ既ニ本院判例ニ於テ説示シタル所ナルモ被告典當力選舉運  
動者江崎幸太郎ニ供與シタル金員ハ江崎力選舉ニ關シ被告典當ノ爲メ他人ヲ獎勵シ  
タル費用ニシテ斯ル獎勵ハ選舉ノ公正ヲ害スル違法行爲ナルヲ以テ此行爲ニ基ク前  
示費用ハ固ヨリ選舉運動ノ爲メ必要ナル費用ニアラスシテ被告典當ニ對シ之カ辨償  
ヲ求ムルヲ得サルモノナレハ之カ辨償ノ爲メ金錢ヲ供與セルハ即チ同被告力選舉運  
動者ニ報酬トシテ供與シタルモノニ依リ前示法條ノ適用ヲ免ルルコトヲ得サルモノ  
トス論旨ハ理由ナシ(大審院大正四年(レ)第一八一八號同年八月十四日刑三部柳橋裁判  
長磯谷堀田柳川中尾各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審長崎控訴院○衆議院議員選舉法違犯被告事件○被告人宇野越夫外六名辯護人鶴田重阿小川常吉同澤田嘉  
衆議院議員選舉法第一〇二條ニ依リ選舉權及被選舉權ノ行使ノ禁止ヲ宣言スル  
ニハ選舉ニ關スル犯罪ニ依リ形ノ言渡ヲ爲シタル判決ノ確定ヲ條件トシテ豫メ

之ヲ爲スコトヲ得ヘク敢テ其判決ノ確定ヲ待チテ更ニ新ナル判決ヲ以テ該禁止  
ノ宣言ヲ爲サル可カラサルモノニ非ス

衆議院議員選舉法第一〇二條ニ依リ選舉權及被選舉權ノ行使ノ禁止ヲ宣言スルニハ  
選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ノ言渡ヲ爲シタル判決ノ確定ヲ條件トシテ豫メ之ヲ爲ス  
事ヲ得ヘク敢テ其判決ノ確定ヲ待チテ更ニ新ナル判決ヲ以テ該禁止ノ宣言ヲ爲サ  
ル可カラサルモノニ非ス而テ若シ右選舉ニ關スル犯罪ニ關シテ言渡シタル判決カ後  
日上級裁判所ノ取消其他ニ依リ確定力ヲ生セスシテ已ミタル場合ニ於テハ右禁止ノ  
宣言モ亦當然其效力ヲ失フニ過キサズモノニシテ此等條件の禁止ノ宣言ヲ爲シタ  
ルカタメ何等失當ノ結果ヲ生ズル事ナシ(大審院大正四年(レ)第一八七五號同年八月二  
十八日刑三部柳橋裁判長磯谷堀田柳川中尾各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審千葉地方裁判所○衆議院議員選舉法違犯被告事件○被告人五十嵐嘉三郎外一名辯護人川島仔司同入山祐次郎同  
別役増吉同紀志嘉實

選舉ノ目的ヲ達センカ爲メ特ニ招待シテ酒食ヲ供與スル如キハ賸差ノ豊菲供與  
時刻ノ如何ニ拘ハラズ選舉ニ關シ人ノ歡心ヲ博セントスルモノニシテ報酬謝禮  
ノ意ヲ以テスル歡待ニ外ナラサルヲ以テ衆議院議員選舉法第八七條第一項ニ所  
謂要應ナリトス

衆議院議員選舉法第八七條第一項ニ所謂要應トハ報酬謝禮ノ意ヲ以テ歡待厚遇スル  
關ナルコト所論ノ如シ而シテ選舉ノ目的ヲ達センカ爲メ特ニ招待シテ酒食ヲ供與ス

ル如キハ膳差ノ豊非供與時刻ノ如何ニ拘ハラズ選舉ニ關シ人ノ歡心ヲ博セントスルモノニシテ報酬謝禮ノ意ヲ以テスル款待ニ外ナラサルヲ以テ所謂獎勵ナルコト明白ナリ之ヲ目シテ社交上ノ禮儀ニ屬スル當食ノ供與ヲ以テス可カラサルコト論ヲ俟タス原判決ニ依レハ本件酒食ノ價ハ僅カニ金二十四錢ニ過キサレトモ之ヲ供與シタル被告政太郎ハ長崎縣郡部選出衆議院議員候補者本田恒之ノ運動者ニシテ恒之ノ選舉ヲシテ有利ノ結果ヲ得セシメンカ爲メ選舉前ノ日ニ於テ被告政太郎等ヲ白倉キス方ニ招待シ酒食ヲ供與シ被告實吉等ハ其情ヲ知ツテ之レカ供與ヲ受ケタル事實ナレハ被告政太郎ハ選舉ニ關シ特ニ被告實吉等ヲ招待シ以テ同人等ヲ款待シ同人等モ亦之ヲ受ケタルモノニシテ選舉ニ關シ集會ヲ爲シ偶食事時刻ニ至リタルカ故ニ社交上ノ禮儀トシテ當食ヲ供與シタルカ如キ場合ニアラサルヲ以テ所謂選舉ニ關シ人ヲ獎勵シ又ハ之ヲ受ケタルモノナリトス從ツテ被告等ノ行爲ニ對シ同條項ヲ擬律シタルハ相當ナリ(大審院大正四年(レ)第一八九九號同年八月二十五日刑三部柳橋裁判長磯谷堀田柳川中尾各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審長崎控訴院○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人松島政太郎外二十一名辯護人今村力三郎  
苟モ選舉ニ關シ選舉運動者ニ公私ノ職務ヲ供與センコトヲ申込ミタル以上ハ其職務ノ特定スルト否トヲ區別セスシテ衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ノ違反罪ヲ構成ス可キモノトス

原判決ハ被告人儀一郎ハ被告人信一長藏集榮ニ對シテハ利益供與ノ申込ヲ爲シタリ

ト認定シタルモノニシテ職務供與ノ申込ヲ爲シタリト判示シタルモノニ非サルノ事ナラス儀一郎カ被告人久市郎ニ對シ相當ノ就職先ヲ周旋シ遣ハス可キ旨ノ通告ヲ爲シ毫モ供與ス可キ職務ヲ特定セスト雖モ苟モ選舉ニ關シ選舉運動者ニ公私ノ職務ヲ供與セムコトヲ申込ミタル以上ハ其職務ノ特定スルト否トヲ區別セスシテ衆議院議員選舉法第八七條第一項第一號ノ違反罪ヲ構成ス可キハ論ヲ俟タス(大審院大正四年(レ)第一六三九號同年八月二十七日刑一部末弘裁判長遠藤平野谷野中西各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審大阪控訴院○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人野田儀一郎外六名辯護人花井卓藏同伊藤秀雄同大塚茂馬  
選舉運動者ニ於テ選舉ニ關シ自己ノ推薦スル議員候補者ヲ援助スル意思アル者ニ對シ一層其意思ヲ鞏固ナラシムル爲メ候補者ヲ紹介シテ每一人金四圓八十錢餘ノ酒食ヲ以テ獎勵シ相手方ニ於テ情ヲ知テ之ヲ受ケタルトキハ其獎勵ハ選舉運動ノ報酬タル性質ヲ有スルヲ以テ受應者ノ行爲ハ衆議院議員選舉法第八七條第一項第二號ノ犯罪ヲ構成スルモノニシテ又受應者ハ即チ同法ノ選舉運動者ニ該當スルモノトス

選舉運動者ニ於テ選舉ニ關シ自己ノ推薦スル議員候補者ヲ援助スル意思アル者ニ對シ一層其意思ヲ鞏固ナラシムル爲メ候補者ヲ紹介シテ每一人金四圓八十錢餘ノ酒食ヲ以テ獎勵シ相手方ニ於テ情ヲ知テ之ヲ受ケタルトキハ其獎勵ハ選舉運動ノ報酬タル性質ヲ有スルヲ以テ受應者ノ行爲ハ衆議院議員選舉法第八七條第一項第二號ノ犯罪ヲ構成スルモノニシテ又受應者ハ即チ同法ノ選舉運動者ニ該當スルモノトス(原判決)

認ムル事實ニ依レハ被告孫太郎ハ下關市立憲革親會ノ會員ニシテ他ニ同會員ト共ニ  
衆議院議員總選舉ニ付キ議員候補者トナリタル雜賀信三郎ヲ援助スルコトナリ第  
一審ノ共同被告佐々木宗臣カ信三郎ノ選舉運動者ニシテ宗臣ノ實兄タル第一審共同  
被告富村順一ノ依頼ヲ受ケ信三郎ヲ同會員ニ紹介シ懇親ヲ結ハシメ選舉ノ應援ニ付  
キ結束ヲ確實ナラシメンカ爲メ同會幹事タリシ第一審共同被告大畑太郎同會員タリ  
シ同被告杉浦芳太郎三隅福四郎及被告孫太郎等ヲ順一ノ計算ニ於テ應應シタル際被  
告孫太郎ハ其情ヲ知リナカラ四圍八拾參錢六圓ニ相當スル酒食ノ應應ヲ受ケタルモ  
ノナリ故ニ被告孫太郎ハ選舉運動者カ候補者ヲ應援スル意思ヲ一層鞏固ナラシムル  
メ供シタル酒食應應ニ付キ情ヲ知テ受ケタルモノニシテ其行爲ハ衆議院議員選舉爲舉  
法第八七條第一項第二號ノ犯罪構成スルモノト云フヘク且被告孫太郎ノ選舉運動者  
タルコトモ亦自ラ明ナリ故ニ論旨ハ理由ナシ(大審院大正四年九月第二一九號同年九  
月二十日刑二部總裁判長鶴見水本藤波泉二各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審廣島控訴院○衆議院議員選舉法違反被告事件○被告人鈴木孫太郎

(七五)

貯蓄銀行條例三

貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ業務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス

貯蓄銀行條例第三條ハ貯蓄銀行ノ取締役ヲシテ銀行ノ義務ニ付キ其債權者ニ對シ銀行ト連帶シテ無限ノ責任ヲ負ハシメタルモノト解スヘキモノトス

貯蓄銀行條例第三條ニ貯蓄銀行ノ取締役ハ在任中ニ生シタル銀行ノ義務ニ付連帶無

限ノ責任ヲ負フヘキコトヲ規定セルハ貯蓄預金ハ國民ノ零碎ナル資金多キ事情ト國民ノ貯蓄思想ヲ獎勵センカ爲メ銀行ノ義務履行ヲ確保シ以テ銀行ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルノ趣旨ニ出テタルモノナレハ貯蓄銀行ノ取締役ヲシテ銀行ノ義務ニ付キ其債權者ニ對シ銀行ト連帶シテ無限ノ責任ヲ負ハシメタルモノト解スヘキハ法文上一點ノ懸ヲ容ルヘキ餘地ナシ然ラハ之レト同趣旨ニ出テタル原判決ハ正當ナリ(大審院大正四年(オ)第三〇六號同年六月二十五日民一部田部裁判長神原尾古入江岩田各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審長崎控訴院○預金請求事件○上告人衛藤又三郎外二名訴訟代理人辯護士添田増男被上告人和間村

【參照判例】

貯蓄銀行取締役ノ連帶義務ハ性質上銀行ノ債務ニ對スル法定ノ保證債務ニシテ其範圍モ亦民法ノ規定ニ從ヒ主タル債務ニ關スル利息違約金及損害賠償其他總テ之ニ從タル負擔ヲ包含スルモノトス(長崎控訴院判決本書第三卷儲法二二四頁)

貯蓄銀行ノ取締役ハ銀行ノ債務ニ付キ法律ノ規定ニ依リテ連帶保證人タルモノトス判決ハ取締役ノ連帶責任ハ連帶債務ノ性質ヲ有スルヤ連帶保證ノ性質ヲ有スルヤヲ明ニセスト雖モ貯蓄銀行ノ債務ハ預金契約ニ因リテ生スルモノニシテ此契約ニ付テハ取締役ハ其當事者トナルモノニアラサレハ主タル債務者ニアラサルハ勿論ナリト謂ハサルヘカラス

續業法圖

本法ニ於テ續業權ト稱スルハ試辦權及採辦權ヲ謂フ

(七六)

鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ採掘シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス(書略)

同一五 鑛業權ハ物權トシ不動産ニ關スル規定ヲ準用ス(但書略)

同一七 鑛業權ハ相續、讓渡、滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ズ但シ採掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

民法二〇六 所有者ハ法令ノ制限内ニ於テ自由ニ其所有物ノ使用、收益及ヒ處分ヲ爲ス權利ヲ有ス

同三六九第一項 抵當權者ハ債務者又ハ第三者カ占爲ナ移サスシテ債務ノ擔保ニ供シタル不動産ニ付キ他ノ債權者ニ先テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

鑛業權ヲ目的トシテ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テモ抵當權者ハ抵當權實行ノ方法ニ依リ他ノ債權者ニ優先シテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有スルニ過キスシテ其目的物ニ對シテハ所有權者ノ如ク使用收益其他ノ支配權ヲ有スルモノニ非サルカ故ニ鑛業權者ニシテ普通鑛業家ノ執ルヘキ方法ニ從ヒテ鑛物ヲ採掘スルニ於テハ即チ正當ナル權利ノ行使ニシテ抵當權ノ侵害ニ非サルト同シク鑛業權ヲ有セサル第三者ニ於テ之カ採掘ヲ爲ス場合ニ在リテモ其採掘力普通鑛業家ノ執ルヘキ方法ニ從ヒテ鑛物ヲ採掘スルニ於テハ即チ正當ナル權利ノ行使ニシテ何等ノ侵害行為ヲ加フルモノニ非サルヲ以テ抵當權者ハ之ヲ防止シ得ヘキモノニ非ス

鑛業法第一五條ニ依レハ鑛業權ハ物權トシテ不動産ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノニシテ鑛業權ヲ目的トシテ抵當權ヲ設定シタル場合ニ於テモ抵當權者ハ抵當權實行ノ方法ニ依リ他ノ債權者ニ優先シテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有スルニ過キスシテ其目的物ニ對シテハ所有權者ノ如ク使用收益其他ノ支配權ヲ有スルモノニ非タルカ故ニ鑛業權者ニシテ普通鑛業家ノ執ルヘキ方法ニ從ヒテ鑛物ヲ採掘スルニ於

テハ即チ正當ナル權利ノ行使ニシテ抵當權ノ侵害ニ非サルト同シク鑛業權ヲ有セサル第三者ニ於テ之カ採掘ヲ爲ス場合ニ在リテモ其採掘力普通鑛業家ノ執ルヘキ方法ニ過スル以上ハ抵當權者ニ對シテ何等ノ侵害行為ヲ加フルモノニ非サルヲ以テ抵當權者ハ之ヲ防止シ得ヘキモノニ非ス然レハ原院カ訴外時津久次郎外二名ト被上告人間ニ於ケル本件鑛業權ノ讓渡カ假裝ニシテ被上告人ニ鑛業權ヲシトスルモ被上告人ノ實行セル採掘ハ鑛業家ノ通常執ルヘキ方法ニ過セルモノト認メ其採掘ハ上告人ノ抵當權ヲ侵害スヘキ行為ニ非スト判示シタルハ相當ナリ(大審院大正四年(才)第一七〇號同年六月十六日民三部横田裁判長田上大倉嘉山三宅各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審長崎控訴院○石炭採掘差止請求事件○上告人松川駒次郎訴訟代理人辯護士木村篤太郎被上告人時津竹次郎至當ノ判決ナリ

(七七)

明治十七年十一月二十八日布告ノ兵庫縣令内國人ヨリ外國人ヘ地家貸渡規則ナルモノハ内外人間ノ地家貸渡ニ關スル法律行為ノ效力ヲ定メタルモノニアラス專ラ地方行政上取締ノ爲メニ設ケタルモノニ過キスシテ之ニ違背シタレハトテ之ヲ以テ直チニ法律行為ヲ無効ト爲ス法意ニアラス

明治十七年十一月二十八日布告ノ兵庫縣令内國人ヨリ外國人ヘ地家貸渡規則ナルモノハ内外人間ノ地家貸渡ニ關スル法律行為ノ效力ヲ定メタルモノニアラス專ラ地方

行政上取締ノ爲メニ設ケタルモノニ過キスレテ之ニ違背シタルハトテ之ヲ以テ直チニ法律行爲ヲ無効ト爲ス法意ニアラサルコトハ該縣令ノ規定ニ徴シ明カナリト認ム(明治三十三年(オ)第五一三號明治三十四年五月八日官渡判決參照)然レハ右縣令カ上告人主張ノ如ク假ニ内外人ニ對スル命令ヲ包含スルモノトスルモ又乙第四號證ノ一ノ契約書中ニ前記縣令ヲ包含スルモノトスルモ本件地上權設定契約ノ效力ニ何等ノ影響ナキモノト謂ハサルヲ得ス(大審院大正四年(オ)第一一二號同年六月二十八日民二部馬場裁判長田上大倉鈴木喜山各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審大阪控訴院○土地明渡並ニ損害賠償請求事件○上告人森久兵衛訴訟代理人辯護士武内作平同奥野弘之被上告人ジョージデークラーク

徵兵令第三一條ノ規定ハ苟モ兵役ヲ免ルルノ目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シタル者ハ身體検査ノ結果兵役ヲ免レタルト否トヲ問ハス之ヲ處罰スル趣旨ナリトス

【上告趣意】 原判決ハ其事實理由ニ被告ハ大正四年度徵兵適齡者ニシテ同年四月中所轄村役場ヨリ同年五月十一日石川縣鹿島郡役所内ニ開設ノ高岡縣隊區徵兵署ニ出頭シ身體検査ヲ受ケヘキ旨通知ヲ受ケタル處兵役ヲ免ルルノ目的ヲ以テ同年五月三日頭鹿島郡中島村字山戸田附近ニ於テ長サ二寸幅二三分ノ割木ノ製片ヲ以テ右眼角膜瞳孔領ノ直下ニニケ所ノ突傷ヲ作りタル上右徵兵署ニ出頭シ身體ノ検査ヲ受ケタリ

徵兵令三一

兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三個月以上三十日以下ノ罰金ヲ附加ス

ト判示シ之ヲ徵兵令違反罪ニ問擬シタリ然レトモ單ニ右判示ノミニテハ被告ハ右眼ニニケ突傷ヲ作りタル爲メ被告目的ノ如ク果シテ身體検査ニ不合格ト爲リタルモノナルヤ又ニケノ突傷アルニ拘ハラシ合格シタルモノナリヤ知ルニ由ナク若シ(一)被告カ身體検査ニ合格シタルモノナリセハ被告ノ本件行爲ハ全然不能ニ了リ所謂不能犯ニシテ犯罪ノ成立スヘキモノニ非ス(二)又若シ被告ニシテ身體検査ノ結果不合格トナリタリトセハ被告ノ本件行爲ノ爲メ不合格ニ爲リタルモノナルヤ換言スレハ被告カ身體完全ニシテ本件行爲ナカリセハ身體検査ニ合格スヘキモノナルニ被告ノ本件行爲ノアリシ爲メ違ニ不合格トナリタルコトヲ其事實及證據理由ニ於テ明示セサルヘカラサルモノナリトス然ルニ原判決ハ右(一)(二)點ニ付何等判示スル所ナク則チ理由不備ノ違法アルモノトス

【判決理由】 徵兵令第三條ニハ兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ云云ト規定シアリテ其規定ハ苟モ兵役ヲ免ルルノ目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シタル者ハ身體検査ノ結果兵役ヲ免レタルト否トヲ問ハス之ヲ處罰スル趣旨ナリト解釋スルヲ相當トス蓋シ同法條ノ處罰規定ハ逃亡、潛匿、身體毀傷、疾病作爲其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒタル者カ兵役ヲ免ルルコトヲ目的トシタルコトヲ必要トスルモノナレトモ兵役ヲ免ルル目的ヲ達シタルコトヲ必要トスルモノニアサレハナリ(明治三十八年(レ)第一一〇八號事件本院判決參照)故ニ兵役ヲ免ルルコトヲ目的トシテ身體ヲ毀傷シタル者カ身體検査上果シテ其毀傷ニ基因シテ不合格トナリタルヤ否ヤ又ハ他ノ原因ニ依リ不合格トナリタルヤ否ヤハ右犯罪成立ニ影響ヲ及ホスヘキ事項ニアラス又原判決ノ判示

事實ハ洵ニ論旨ノ起頭ニ表出スル所ノ如シ其判示事實ニ依レハ被告ノ身體毀傷行爲ハ徵兵令第三一條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス從テ原審カ所論(一)及(二)ノ點ニ付キ特ニ判示スル所ナキハ毫モ理由不備ノ違法アルモノニアラス(大審院大正四年(レ)第一八六五號同年九月十三日刑二部總裁判長鶴見水本藤波泉二名判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審金澤地方裁判所○徵兵令違反被告事件○被告人袋壽四郎辯護人山野井龜五郎同久田博人

至當ノ判決ナリト信ス

(七九)

競賣法三三第二項 競落ノ手續：ニ關スル民事訴訟法第六七一條乃至第六七四條第六五六條乃至第六八三條：ノ規定ハ本章ノ競賣ニ之ヲ準用ス

民事訴訟法六八〇第一項 利害關係人ハ競落ノ許否ニ付テハ決定ニ因リ損失ヲ被ムル可キ場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

同四六六 即時抗告ノ場合ニ於テハ左ノ特別ノ規定ニ從テ抗告ハ七日ノ不變期間内ニ之ヲ爲ス可シ其期間ハ裁判ノ送達ヨリ始マリ第二五三條第六八〇條及ヒ第七六九條第三項ノ場合ニ於テハ裁判ノ言渡ヨリ始マル(後略)

(第三項及ヒ第四項略)

競賣法ニ依ル不動産競落許可決定ニ對スル即時抗告ニ付テハ民事訴訟法第四六六條第二項ノ規定ニ從ヒ裁判ノ言渡ヨリ七日ノ不變期間内ニ限り提起スルコトヲ得ルモノニシテ該決定ニ對スル抗告ニ付キ抗告裁判所ノ與ヘタル裁判ニ對スル再抗告ニ付キテモ亦即時抗告ノ規定ニ從ヒ裁判ノ言渡アリタルトキハ其言渡ヨリ不變期間ヲ計算スヘキモノトス

競落許可決定確定シタルトキハ之カ前提裁判タル競賣開始決定ニ對シテモ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルニ至リタルモノトス

競賣法ニ依ル競賣事件ニ付テハ同法中反對ノ規定ナキトキハ性質ノ許ス限リ民事訴訟法ノ規定ヲ準用スヘキモノナルコトハ當院裁判例トスル所ナリ故ニ競賣法ニ依ル不動産競落許可決定ニ對スル即時抗告ニ付テハ民事訴訟法第四六六條第二項ノ規定ニ從ヒ裁判ノ言渡ヨリ七日ノ不變期間内ニ限り提起スルコトヲ得ルモノニシテ該決定ニ對スル抗告ニ付キ抗告裁判所ノ與ヘタル裁判ニ對スル再抗告ニ付テモ亦即時抗告ノ規定ニ從ヒ裁判ノ言渡アリタルトキハ其言渡ヨリ不變期間ヲ計算スヘキモノトス蓋シ競落許可ノ決定ニ對スル抗告ニ付キ抗告裁判所ノ與ヘタル裁判モ民事訴訟法第六八〇條第一項ニ所謂競落許可ノ裁判ニ外ナラサルノミナラス裁判所カ言渡ヲ爲シタル決定ハ職權ヲ以テ當事者ニ送達スヘキモノニアラザレハ若シ不變期間ヲ決定シテ送達ヨリ起算スヘキモノトセンカ當事者カ決定ノ送達ヲ申請セザルトキハ競落許可ノ決定ハ永ク不確定ノ狀態ニ在リテ法律カ競落許可ノ決定ヲ速カニ確定セシメントスル法律ノ精神ニ反スルモノナレハナリ本件ニ於テ大分區裁判所ノ與ヘタル競落許可決定ニ對スル抗告ニ付キ原裁判所ハ口頭辯論ヲ經テ大正四年六月三日抗告ヲ棄却スル旨ノ裁判ヲ言渡シタルコトハ記録上明白ナレハ右抗告裁判所ノ裁判ニ對スル抗告期間ハ同年六月四日ヨリ起算スヘキモノトス然ルニ抗告人ノ住所地ト原裁判所所在地トノ距離ハ三里餘ナルニ拘ハラズ抗告人カ原裁判所ニ抗告狀ヲ差出シタルハ同年八月九日ナルコト記録上明カナラシテ本件競落許可決定ニ關スル再抗告ハ不

變期間經過後ノモノニ係リ之ヲ不適法トシテ棄却スヘキモノトス右ノ如ク大分區裁判所カ本件ニ付キ與ヘタル競落許可決定ハ原裁判所ノ抗告棄却ノ裁判確定スルト同時ニ確定シタルモノナレハ抗告人ハ之カ前提裁判タル競賣開始決定ニ對シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得サルニ至リタルモノナルヲ以テ本件競賣開始決定ニ對スル異議ニ關スル抗告ニ付原裁判所カ與ヘタル決定ニ對シ抗告人ノ申立タル再抗告モ亦不適法ニ歸スルモノトス(大審院大正四年(夕)第五三四號同年九月二十一日民一部田部裁判長大會讀原尾古岩田各判事決定)

【關係事項】

抗告棄却○原審大分地方裁判所○不動產競賣事件ノ異議並ニ競落許可決定ニ對スル抗告事件○抗告人秦鶴松

八〇

不動產登記法一

登記ハ左ニ掲ケタル不動產ニ關スル權利ノ設定保存移轉變更處分ノ制限又ハ消滅ニ付キ之ヲ爲ス

一 所有權

七 抵當權

同二 假登記ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲ス

一 登記ノ申請ニ必要ナル手續上ノ條件カ具備セザルトキ

二 前條ニ掲ケタル權利ノ設定移轉變更又ハ消滅ノ請求權ヲ保全セントスルトキ

同三 假登記ハ次條ノ場合ニ於テ除外假登記權利ノ申請ニ因リ其目的タル不動產ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ヨリ選定アル囑託書ニ假處分命令ノ正本ヲ添付シテ之ヲ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

同四 前項ノ假處分命令ハ假登記權利者カ假登記原因ヲ説明シタルトキハ區裁判所之ヲ發スルコトヲ要ス

同五 申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

同六 前項ノ即時抗告ニ付テハ非訟事件手續法ノ規定ヲ準用ス

同七 假登記ハ假登記義務者ノ承諾アリタルトキハ申請書ニ其承諾書ヲ添付シテ假登記權利者ヨリ之ヲ登記所ニ申請スルコトヲ得

未登記ノ不動產ニ付キ抵當權設定ノ假登記假處分命令ノ申請アリタルトキハ之ヲ許可シ不動產登記法第三二條ニ依リ登記ヲ囑託スヘキモノトス

未登記ノ不動產ニ付キ抵當權設定ノ假登記假處分命令ノ申請アリタルトキハ之ヲ許可シ不動產登記法第三二條ニ依リ登記囑託ヲ爲スヘキモノナルヤ否ヤニ付テ假登記ナルモノハ既登記ノ不動產ニ限ルモノナレハ其不動產カ未登記ナルトキハ假登記權利者ニ於テ先以テ債權者トシテ債務者タル所有者ニ代位シ保存登記ヲ爲シタル後ニアラサレハ假登記假處分命令ヲ申請スヘキモノニアラスト爲ス説アリ此説ハ同法第三三條ニ依リ假登記義務者ノ承諾ヲ得テ假登記權利者ヨリ假登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ正當ナリトスルモ裁判所ノ假處分命令ヲ得ヘキ場合ハ決シテ然ラス抑モ裁判所カ命令ヲ爲スニハ所有者ノ何人ナルヤハ同法第一〇五條第一〇六條ノ各條中ニ

同二〇五 未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

一 土地臺帳原本ニ依リ自己又ハ被相続人カ土地臺帳ニ所有者トシテ登錄セラレタルコトヲ證スル者

二 判決ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

同二〇六 未登記ノ建物所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

一 建物ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者トシテ登記簿ニ登記セラタル者

二 土地臺帳原本ニ依リ自己又ハ被相続人カ土地臺帳ニ敷地ノ所有者トシテ登錄セラレタルコトヲ證スル者

三 登記ノ敷地ノ所有者又ハ地上權者ノ證明書ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

同二〇八 未登記ノ不動產ノ所有權以外ノ權利ニ關スル登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

同二〇九 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲ストキハ番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ不動產ノ表示ヲ爲シ且

甲區事項欄ニ所有者ノ氏名住所及ヒ何權利ノ登記ヲ命スル裁判ニ因リテ所有權ノ登記ヲ爲ス者ヲ記載スルコトヲ要ス



列記セル土地臺帳謄本其他ノ書類ニ依リ之ヲ確認シ且假登記ヲ命スヘキ理由アルトキニ限リ命令ヲ發スルモノナレハ登記所ハ同法第一二八條第一二九條及ヒ第二五條第二項ニ依リ直ニ所有權ノ登記ヲ爲シ同時ニ抵當權ノ假登記ヲ爲スヘキモノトス(大正三年十二月十五日法曹會決議法曹記事第二五卷第七號五二頁以下要領)

吾人亦本決議ノ見解ヲ以テ正當ナリト信ス

(八二)

不動産登記法一〇五 未登記ノ土地所有權ノ登記ハ左ニ掲ケタル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得  
二 判決ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者

國有土地森林原野下戻法ニ基キ行政裁判所ニ於テ下戻ヲ爲スヘキ旨ノ判決アリタルトキハ該判決ニ依リ直ニ所有權保存登記ヲ申請スルコトヲ得ルモノトス

不動産登記法第一〇五條第二號ニ所謂判決ハ通常裁判所ノ判決タルト行政裁判所ノ判決タルトヲ區別セサル法意ト解スルヲ妥當トスルカ故ニ國有土地森林原野下戻法ニ基キ行政裁判所ニ於テ下戻ヲ爲スヘキ旨ノ判決アリタルトキハ該判決ニ依リ直ニ所有權保存登記ヲ申請スルコトヲ得ルモノトス(大正三年十二月十五日法曹會決議法曹記事第二五卷第七號五一頁以下要領)

至當ノ見解ナリト信ス

(八二)

商標法第一項 自己ノ生産製造加工選擇證明取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲メ商標ヲ專用  
七五トスル者ハ本法ニ依リ商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得

既ニ登録ヲ受ケタル一箇ノ商標ハ單ニ之ヲ構成スル所ノ全部力不可分の一體ヲ成スモノトシテ登録ノ效ヲ有スルニ止マリ其構成ノ各部分ニ付キ登録ノ效ヲ有スルコトナシ

商標ノ登録無効審判ノ請求ニ於テハ其一商標全部ノ登録ヲ無効トスル審決ヲ求ムルコトヲ要シ單ニ其一部ノミノ登録ヲ無効トスル審決ヲ求ムルコトヲ許サス

登録ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ文字圖形記號又ハ其結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要シ之カ登録ノ可否ハ之ヲ構成スル文字圖形記號又ハ其結合ノ全體ヲ觀察シテ決スヘキモノナレハ既ニ登録ヲ受ケタル一箇ノ商標ハ單ニ之ヲ構成スル所ノ全部力不可分の一體ヲ成スモノトシテ登録ノ效ヲ有スルニ止マリ其構成ノ各部分ニ付キ登録ノ效ヲ有スルコトナシ是レ商標法規定ノ旨趣ニ徴シ寸毫ノ疑ナ容レザル所ナリ故ニ同法ハ商標ノ登録無効審判ノ請求ニ於テハ其一商標全部ノ登録ヲ無効トスル審決ヲ求ムルコトヲ要シ單ニ其一部ノミノ登録ヲ無効トスル審決ヲ求ムルコトヲ許ササル法意ナリト解スルヲ當然トス然レハ同一ノ旨趣ニ出テタル原審決ノ理由ハ正當ナリ(大審院大正四年(オ)第三〇九號同年七月九日民一部四部裁判長磯原尾古岩田三宅各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審特許局の商標登録無効審判請求事件○上告人古結とく訴訟代理人辯護士太田資時被告上告人染谷要作

(八三)

水難救護法二四 漂流物ヲ拾得シタル者ハ運滞ナク之ヲ市町村長ニ引渡スヘシ但シ其ノ物件ノ所有者分明ナル場合ニ於テ拾得ノ日ヨリ七日以内ニ限リ直ニ其ノ所有者ニ引渡スコトヲ得  
前項但書ノ場合ニ於テハ拾得者ハ所有者ヨリ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額以内ノ報酬ヲ受クルコトヲ得

水難救護法ハ遭難船舶及ヒ積荷ハ假令乗組員ノ占有ヲ離レ其處分權外ニ在ルトキト雖モ之ヲ漂流物中ニ包含セシムル法意ニアラサレハ一私人カ義務ナクシテ之ヲ救助シタル場合ニモ亦漂流物拾得ヲ以テ論スルコトヲ得ス

水難救護法ニハ其第一章ニ遭難船舶及ヒ積荷救護ニ關スル事項ヲ規定シ第二項ニ漂流物及ヒ沈没品ノ拾得ニ關スル規定ヲ設ケ此兩者ヲ區別シテ規定セルニ依リ之ヲ觀レハ遭難船舶及ヒ積荷ハ假令乗組員ノ占有ヲ離レ其處分權外ニ在ルトキト雖モ之ヲ漂流物中ニ包含セシムル法意ニアラサルコト明ナレハ一私人カ義務ナクシテ之ヲ救助シタル場合ニモ亦漂流物拾得ヲ以テ論スルコトヲ得サルヤ勿論ナリトス然ラハ原審カ本件ニ於テ上告人所有ノ石油發動汽船新生丸カ明治四十三年五月十二日對馬島沖ニ於テ海難ニ遭シ船員ハ他ニ救助セラレ新生丸ハ乗組員ノ占有ヲ離レテ同月二十六日山口縣角島燈臺附近ヲ漂流中彼上告人所有ノ吉辰丸ノ爲メニ好意上救助セラレタル事實ヲ認定シ吉辰丸ノ行爲ヲ以テ義務ナクシテ海難船舶及ヒ積荷ヲ救助シタル事務管理行爲ニレテ水難救護法第二章ニ所謂漂流物ノ拾得ニアラスト判示シタル

海法海商編第五章ノ規定ノ存セサル當時ニ行ハレタル法規ノ解釋トシテ海ニ相當ニシテ法規ノ適用ヲ限ル不法アルコトナシ(大審院大正三年(オ)第九二四號同四年六月二十六日民三部横田裁判長大倉鈴木嘉山三宅各判事判決)

【關係事項】

上告棄却○原審大阪控訴院○船舶救助費用請求事件○上告人中部幾太郎訴訟代理人辯護士牧野充安被告上告人隱岐汽船株式會社訴訟代理人辯護士牧野廣男

(八四)

新聞紙法四一 安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙第四一條ニ所謂安寧秩序ヲ紊ス事項トハ人ノ身體財產ニ對シ危害ヲ加フヘキコトヲ以テ公衆ヲ煽動又ハ威嚇シ其他公共ノ平和ヲ害シ社會ノ組織ヲ擾亂スルノ虞アル記事ヲ指スモノニ外ナラス

新聞紙法第四一條ニ所謂安寧秩序ヲ紊ス事項トハ人ノ身體財產ニ對シ危害ヲ加フヘキコトヲ以テ公衆ヲ煽動又ハ威嚇シ其他公共ノ平和ヲ害シ社會ノ組織ヲ擾亂スルノ虞アル記事ヲ指スモノニ外ナラス然ルニ原判決ニ認定シタル豊國新聞所載事項ノ如キハ一國首相タル人ノ言行政策ニ對シ批評攻撃ヲ加ヘタルモノニシテ叙事過激ニ亘ルモノアリト雖モ敢テ如上ノ危險ヲ生スヘキ性質ノモノアラサルヲ以テ同條ノ罪ヲ構成スヘキモノニアラス(大審院大正四年(九)第一九一三號同年九月二十三日刑二部裁判長鶴見水本藤波泉二各判事判決)

【關係事項】

破毀自判○原審福岡地方裁判所○新開紙法違反被告事件○被告人畑野源一郎辯護人岩崎勲岡田唯雄

(八五)

競賣法二七第三項 左ニ記載シタル者ヲ競賣手續ニ於ケル利害關係人トス  
一 申立人 二 債務者及ヒ所有者 三 登記簿ニ登記シタル不動産上ノ權利者 四 不動産上ノ權利者トシテ  
其權利ヲ證明シタル者

民事訴訟法第六八一條第二項ニ所謂利害關係人ノ範圍ハ競賣法上ノ競賣事件ニ  
關シテハ競賣法第二七條第三項ノ規定ニ依ラサル可ラス  
競賣ノ目的タル不動産ノ上ニ地上權ヲ有スル旨ヲ證明シタル者ハ假令登記ヲ缺  
クモ競賣手續ニ於ケル利害關係人ナリトス

競賣法上ノ競落決定ニ對スル抗告ニ付テハ民事訴訟法第六八〇條及ヒ第六八一條第  
二項ヲ準用スヘク(競賣法三二條)從テ利害關係人カ競落許可ノ決定ニ依テ損失ヲ蒙ル  
ヘキ場合ニハ其決定ニ對シテ即時抗告ヲナスコトヲ得ルヤ論ヲ俟タヌ又所謂利害關  
係人ノ範圍ハ競賣法上ノ競賣事件ニ關シテハ同法第二七條第三項ノ規定ニ依ラサル  
可ラス而シテ同項ノ規定ニ依レハ不動産登記簿ニ登記ナシタル地上權者又ハ競賣  
ノ目的タル不動産ノ上ニ地上權ヲ有スル旨ヲ證明シタル者ハ利害關係人タルカ故ニ  
抗告人等ノ地上權カ登記セラレタル場合ハ勿論假令登記ヲ缺クモ抗告人等ニ於  
テ其地上權ヲ證明シタル場合ニハ競落許可ノ決定ニ對シテ抗告ヲ爲シ得サル可ラス  
(法學博士權本朗造氏京都法學會雜誌第一〇卷第一〇號一〇八頁以下要領)

吾人ハ競賣法第二七條第三號第四號ニ所謂不動産上ノ權利者トハ登記ナクシテ  
第三者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利者ノミヲ指スモノト解ス若シ博士所論ノ如  
ク地上權其他民法第一七七條ノ適用ヲ受クヘキ物權ニ付テモ單ニ其權利ヲ證明  
スルヲ以テ足り登記ヲ要セストセハ別ニ第三號ノ規定ヲ設クルノ必要ナキナリ  
序ニ一言ス本論ハ大正二年十一月十二日大審院判決(本書第二卷諸法一一七頁所  
載)ニ對スル批評ニシテ前提トシテ同判決事案ヲ土地競落許可決定ニ對スル抗告  
ナリト解セラレタルモノナリ而シテ博士ハ判決事案カ土地競落決定ニ對スル不  
服申立ナリヤ建物競落決定ニ對スル不服申立ナリヤ頗ル明瞭ヲ缺クコトヲ難セ  
ラル然レトモ吾人ハ事案カ建物競落許可決定ニ對スル抗告ナルコトハ一見明白  
ナリト信ス判文ニ「競賣ノ目的タル建物ノ存スル土地トアル以上之ヲ平易ニ讀下  
シテ「競賣ノ目的タル建物」ノ存スル土地ト解スヘキハ當然ニシテ之ヲ競賣ノ目的  
タル「建物」ノ存スル土地ト解スルカ如キハ變則ノ讀方タルヲ免レス要スルニ事案  
ハ建物ノ競落許可決定ニ對シ其建物ノ存スル土地ノ地上權者カ抗告ヲ申立テタ  
ルコト明瞭ニシテ判決ハ斯ル事實關係ニ付キ抗告人カ利害關係人タラサルコト  
ヲ判示シタルモノニ外ナラス判決ノ字句ニ同情セスシテ之ヲ攻撃スルハ吾人ノ  
採ラサル所ナリ

(八六)

舊北海道國有未開地處分法第三條ニ依ル伐採樹木ノ代價辨償ノ義務ハ貸付地豫定存置ノ指令ヲ無効トセラレ貸付地ノ返還ヲ命セラレタル時ニ發生スルモノトス」

右代價辨償ノ義務ハ納入告知書ノ發セラレタル日ノ屬スル會計年度ノ經過後五ヶ年ヲ經過シタルトキハ期滿免除完成スルモノトス」

控訴人カ被控訴人主張ノ如ク北海道國有未開地ノ貸付地豫定存置ノ許可ヲ受ケタルモ豫定ノ如ク小作人ヲ移住セシメザリシヲ以テ明治三十七年一月十三日豫定存置ノ指令ヲ無効トシ伐採樹木ノ代價ノ辨償ヲ命セラレ同年三月二十二日ヲ以テ納入期日

ヲ同年四月五日ト定メタル納入告知書ヲ受ケタルコトハ控訴人ノ爭ハサルトコロナリ而シテ控訴人ハ會計法第一九條ノ規定ニヨリ右伐採樹木ノ代價辨償ノ義務ヲ免カレタルモノナルヤ否ヤニ付キ審按スルニ明治三十年法律第二六號北海道國有未開地處分法第一〇條第一三條第一號ノ規定ニヨレハ右伐採樹木ノ代價辨償ノ義務ハ貸付地豫定存置ノ指令ヲ無効トセラレ貸付地ノ返還ヲ命セラレタルトキニ發生スルモノニシテ其辨償額及納入期ハ納入告知書ニヨリ定マルモノナルヲ以テ其收入年度ノ所屬ハ會計規則第一條第二號ノ規定ニヨリ納入告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度ナルコト明カナリ隨テ會計法第一九條ニ所謂其納ムヘキ年度トハ右辨償ノ場合ニ於テハ納入告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度ヲ稱スルモノナルコト亦明ナリ而シテ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ルコトハ會計法第一條ノ規定スル所ナルヲ以テ本件ニ於テ伐採樹木ノ代價辨償ニ付被控訴人カ納入告知書ヲ發シタルハ明治三十七年三月二十二日ナルカ故ニ其所屬年度ハ明治三十六年度ナリ然ラハ控訴人ノ本件辨償ノ義務ハ會計法第一九條ノ規定ニヨリ明治三十六年度經過後明治三十七年度ヨリ期滿免除ノ進行ヲ始メ滿五ヶ年ヲ經過シタル明治四十二年三月三十一日ニ至リテ期滿免除ノ完成シタルモノニシテ其間別ニ上納ノ告知ヲ爲ササルコトハ被控訴人ノ爭ハサル所ナルヲ以テ控訴人ハ其抗辯ノ如ク既ニ本件辨償ノ義務ヲ免レタルモノト認ムヘシ尙ホ會計法第一九條但書ニ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各其定ムル所ニ依ル旨規定シアルモ民法第一六七條ノ十年ノ時效ニ據ルモノトスルハ永ク權利關係ヲ不確定ノ狀況ニ置クモノニシテ右會計法ノ規定ノ精神ニ反スルモノナルカ故ニ本件ノ場合ニ其適用ナキハ勿論其他ニ本件ノ場合ニ適